中間貯蔵施設環境安全委員会（第 18 回）

令和２年８月 31 日（月）15：00～17：00
於　ホテルハマツ　　３階「橘」

議　事　次　第

１．開会

２．議題
（１）中間貯蔵施設環境安全委員会の運営について
（２）中間貯蔵施設に係る事業の実施状況について
（３）福島県が実施した令和元年度中間貯蔵施設に係るモニタリング調査の結果について
（４）中間貯蔵施設事業において発生した事例と対応等について
（５）その他

３．閉会

配布資料一覧

中間貯蔵施設環境安全委員会　委員名簿
中間貯蔵施設環境安全委員会（第 18 回）座席表
環境省出席者名簿
資料１　中間貯蔵施設事業の状況について
資料１別添　モニタリング等の状況の詳細について
資料２　令和元年度中間貯蔵施設事業に係るモニタリング調査の結果について
資料２別添　令和元年度中間貯蔵施設事業に係るモニタリング調査地点
資料３　中間貯蔵施設事業において発生した事例と対応等について（2020 年３月環境安全委員会報告以降）
資料３別添　中間貯蔵施設事業において発生した事例と対応等の詳細（2020 年３月環境安全委員会報告以降）
参考資料　中間貯蔵施設環境安全委員会設置要綱

資料１

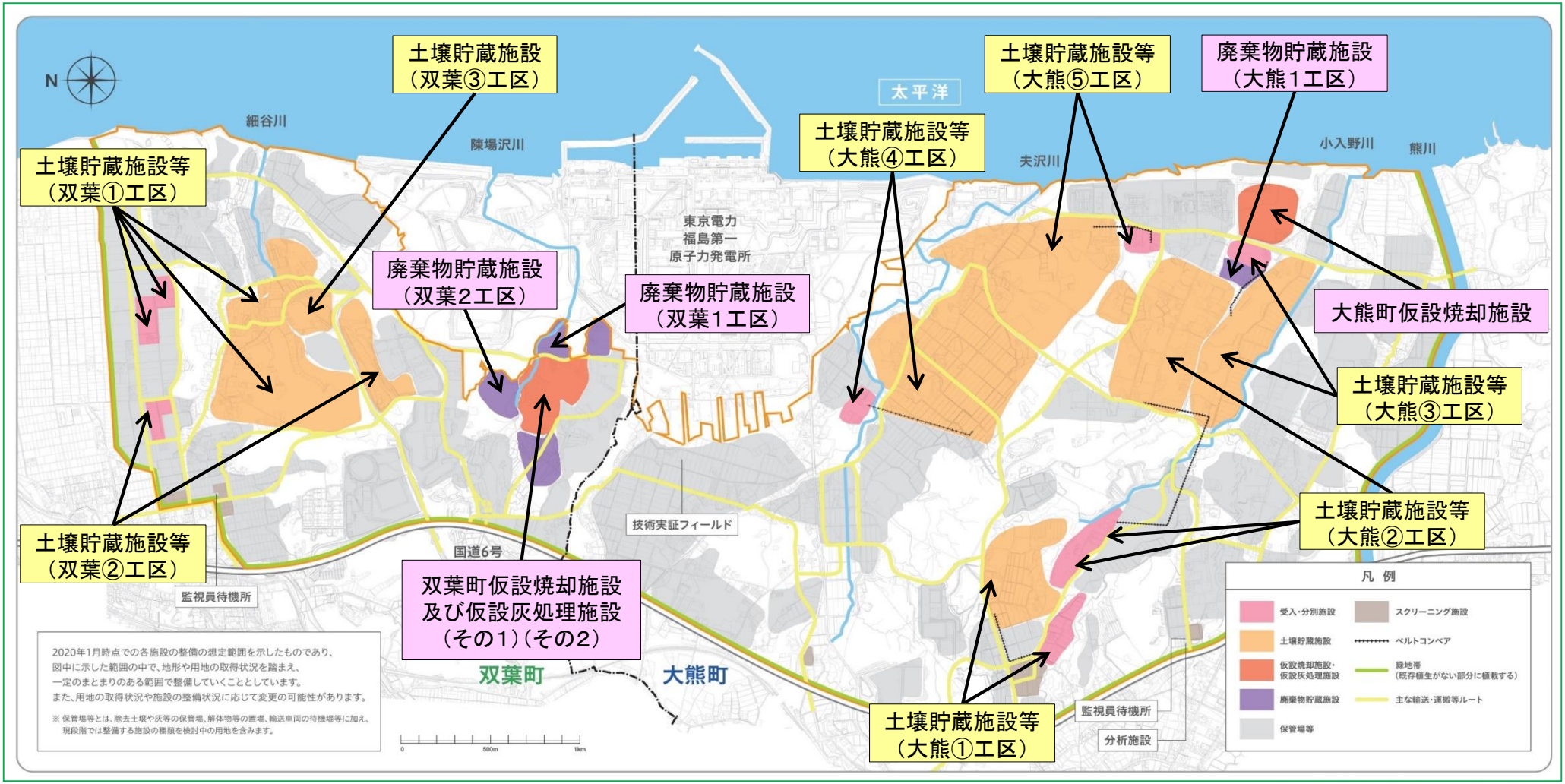
中間貯蔵施設事業の状況について

2020年８月

環境省

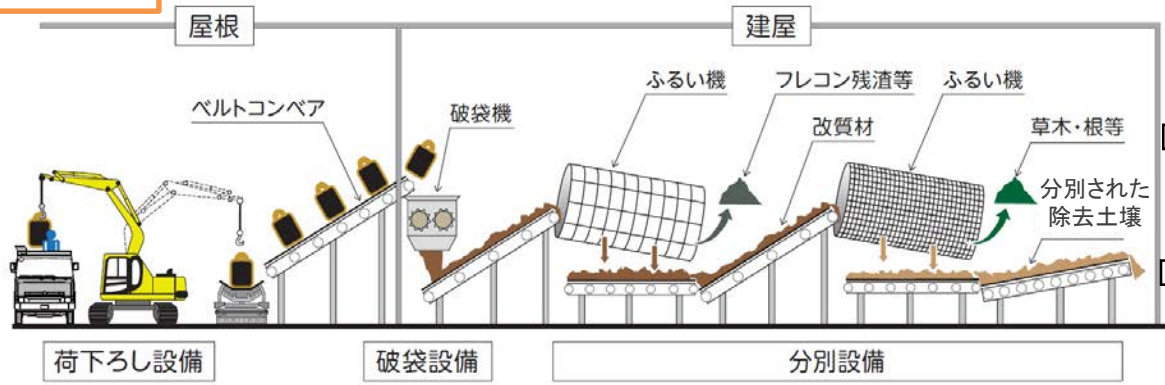
施設の整備

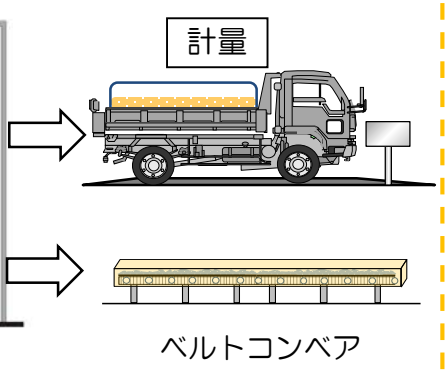
主な施設の配置


土壌貯蔵施設
（双葉③工区）
土壌貯蔵施設等
（大熊⑤工区）
廃棄物貯蔵施設
（大熊１工区）
土壌貯蔵施設等
（双葉①工区）
土壌貯蔵施設等
（大熊④工区）
廃棄物貯蔵施設
（双葉２工区）
廃棄物貯蔵施設
（双葉１工区）
大熊町仮設焼却施設
土壌貯蔵施設等
（大熊③工区）
土壌貯蔵施設等
（双葉②工区）
土壌貯蔵施設等
（大熊②工区）
双葉町仮設焼却施設
及び仮設灰処理施設
（その１）（その２）
土壌貯蔵施設等
（大熊①工区）
N
太平洋
細谷川
陳場沢川
夫沢川
小入野川
熊川
東京電力
福島第一
原子力発電所
技術実証フィールド
国道6号
監視員待機所
分析施設
双葉町
大熊町
2020年1月時点での各施設の整備の想定範囲を示したものであり、
図中に示した範囲の中で、地形や用地の取得状況を踏まえ、
一定のまとまりのある範囲で整備していくこととしています。
また、用地の取得状況や施設の整備状況に応じて変更の可能性があります。
※保管場等とは、除去土壌や灰等の保管場、解体物等の置場、輸送車両の待機場等に加え、
現段階では整備する施設の種類を検討中の用地を含みます。
0
500m
1km
凡 例
受入・分別施設
スクリーニング施設
土壌貯蔵施設
ベルトコンベア
仮設焼却施設・
仮設灰処理施設
緑地帯
（既存植生がない部分に植栽する）
廃棄物貯蔵施設
主な輸送・運搬等ルート
保管場等

除去土壌の分別処理と貯蔵のイメージ

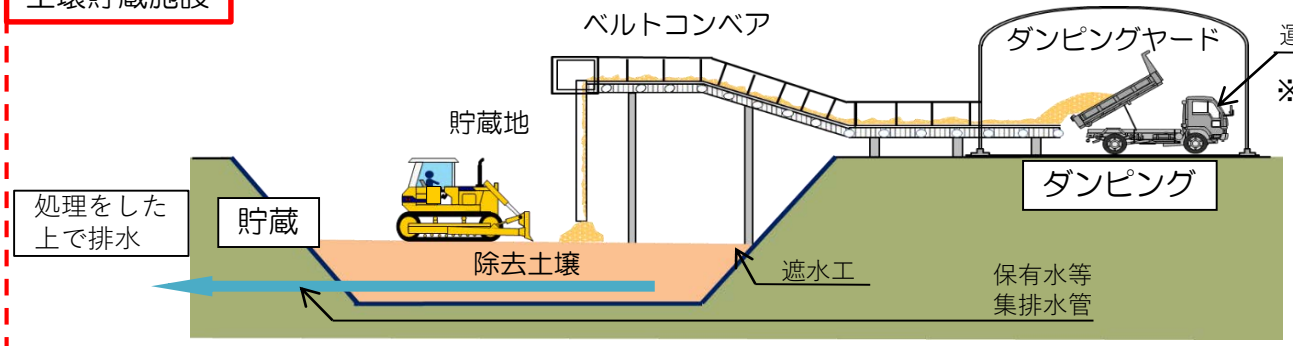
受入・分別施設





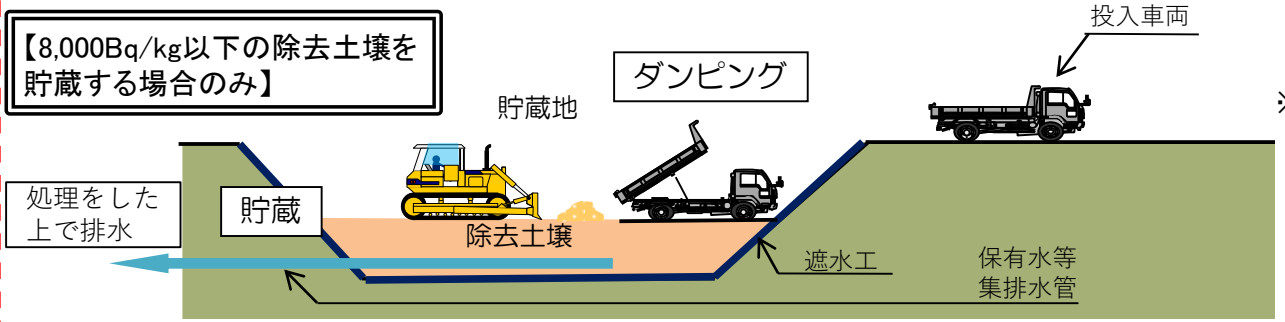
ベルトコンベア
又はダンプで運搬

土壌貯蔵施設



※ダンピングヤードにおいてダンピングする運搬車両が退出する際は、周辺への汚染防止のため、荷台後部の清掃を実施する。

【8,000Bq/kg以下の除去土壌を貯蔵する場合のみ】



※貯蔵地を走行する投入車両が公道に退出する際は、汚染検査又はタイヤ洗浄を実施する。

受入・分別施設及び土壌貯蔵施設の概要

工区	大熊①工区	大熊②工区	大熊③工区	大熊④工区	大熊⑤工区	双葉①工区	双葉②工区	双葉③工区
受入・分別施設数※1	1	2	1	1	1	2	1	―
貯蔵容量※2	約100万㎥	約330万㎥	約210万㎥	約140万㎥	約200万㎥	約140万㎥	約90万㎥	約80万㎥
着工	2017年9月着工	2016年11月着工	2017年11月着工	2018年10月着工	2018年10月着工	2016年11月着工	2018年1月着工	2018年9月着工
受入・分別施設スケジュール	2018年7月運転開始	2017年8月 2018年7月 運転開始	2018年7月運転開始	2019年8月運転開始	2019年8月運転開始	2017年6月 2018年9月 運転開始	2019年2月運転開始	（なし）
土壌貯蔵施設スケジュール	2018年7月運転開始	2017年10月運転開始	2018年10月運転開始	2020年3月運転開始	2019年4月運転開始	2017年12月運転開始	2019年5月運転開始	2019年12月運転開始
受注者	鹿島JV	清水JV	大林JV	清水JV	大林JV	前田JV	大成JV	安藤・間JV

※1　発注時の１施設当たりの処理能力は140t／時。双葉③工区は、受入・分別施設を整備していない。

※2　貯蔵容量は、仮置場等からの輸送量ベース（１袋＝１㎥で換算）。用地確保状況等により変更となる可能性がある。

土壌貯蔵施設等（大熊①工区）の状況

- 2017年9月に施設の工事に着手。
- 2018年7月に受入・分別施設の運転及び除去土壌の貯蔵を開始。

受入・分別施設

土壌貯蔵施設

施設の位置

★：受入・分別施設
☆：土壌貯蔵施設

●貯蔵量　約 64．5万㎥

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積（輸送量ベース）

（2020年7月31日時点）

土壌貯蔵施設等（大熊②工区）の状況

- 2016年11月に施設の工事に着手。
- 2017年８月及び2018年７月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2017年10月に除去土壌の貯蔵を開始。

受入・分別施設（第2期）

土壌貯蔵施設

施設の位置

★：受入・分別施設
☆：土壌貯蔵施設

●貯蔵量　約 156．9万㎥

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積（輸送量ベース）

（ 2020年7月31日時点）

土壌貯蔵施設等（大熊③工区）の状況

- 2017年11月に施設の工事に着手。
- 2018年７月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2018年10月に除去土壌の貯蔵を開始。

受入・分別施設

土壌貯蔵施設

施設の位置

★：受入・分別施設
☆：土壌貯蔵施設

●貯蔵量　約67．8万㎥

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積（輸送量ベース）
（ 2020年7月31日時点）

土壌貯蔵施設等（大熊④工区）の状況

- 2018年10月に施設の工事に着手。
- 2019年８月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2020年３月に除去土壌の貯蔵を開始。

受入・分別施設

土壌貯蔵施設

施設の位置

★：受入・分別施設
☆：土壌貯蔵施設

●貯蔵量　約15．7万㎥

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積（輸送量ベース）
（ 2020年7月31日時点）

土壌貯蔵施設等（大熊⑤工区）の状況

- 2018年10月に施設の工事に着手。
- 2019年８月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2019年４月に除去土壌の貯蔵を開始。

受入・分別施設

土壌貯蔵施設

施設の位置

★：受入・分別施設
☆：土壌貯蔵施設

●貯蔵量　約 72．2万㎥

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積（輸送量ベース）
（ 2020年7月31日時点）

土壌貯蔵施設等（双葉①工区）の状況

- 2016年11月に施設の工事に着手。
- 2017年6月及び2018年9月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2017年12月に除去土壌の貯蔵を開始。

受入・分別施設（第2期）

土壌貯蔵施設

施設の位置

★：受入・分別施設
☆：土壌貯蔵施設

●貯蔵量　約 44．3万㎥

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積（輸送量ベース）
（ 2020年7月31日時点）

土壌貯蔵施設等（双葉②工区）の状況

- 2018年１月に施設の工事に着手。
- 2019年２月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2019年５月に除去土壌の貯蔵を開始。

受入・分別施設

土壌貯蔵施設

施設の位置

★：受入・分別施設
☆：土壌貯蔵施設

●貯蔵量　約 38．8万㎥

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積（輸送量ベース）

（ 2020年7月31日時点）

土壌貯蔵施設（双葉③工区）の状況

- 2018年９月に施設の工事に着手。
- 2019年12月に除去土壌の貯蔵を開始。

土壌貯蔵施設（西側）

施設の位置

☆：土壌貯蔵施設

●貯蔵量　約 10．3万㎥

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積（輸送量ベース）

（ 2020年7月31日時点）

仮設焼却施設及び仮設灰処理施設の概要

工区	大熊町	双葉町（その１）	双葉町（その2）
規模	・仮設焼却施設： 200ｔ／日 × １炉 （ストーカ炉）	・仮設焼却施設： 150ｔ／日 × １炉 （シャフト炉） ・仮設灰処理施設： 75ｔ／日 × ２炉 （表面溶融炉）	・仮設焼却施設： 200ｔ／日 × １炉 （ストーカ炉） ・仮設灰処理施設： 75ｔ／日 × ２炉 （コークスベット式灰溶融炉）
業務用地面積	約5.0ha	約5.7ha	約5.7ha
処理開始	2018年2月	2020年3月	2020年3月
処理対象物	・大熊町で発生した除染廃棄物・災害廃棄物等 ・中間貯蔵施設内で発生した廃棄物及び搬入した除染廃棄物	・双葉町で発生した除染廃棄物・災害廃棄物等 ・中間貯蔵施設内で発生した廃棄物及び搬入した除染廃棄物 ・中間貯蔵施設内で発生する焼却残さ及び中間貯蔵施設内に搬入した焼却残さ	同左
受注者	三菱・鹿島JV	新日鉄・クボタ・大林・TPTＪＶ	ＪＦＥ・前田ＪＶ

仮設焼却施設及び仮設灰処理施設の処理量等

工区	大熊町	双葉町（その１）	双葉町（その2）
処理量(2020年7月まで)	可燃物：131,289トン	可燃物：19,703トン 焼却残渣：11,555トン	可燃物：4,450トン 焼却残渣：3,905トン
焼却灰等の放射性物質濃度	焼却灰：5,800～96,000Bq/kg ばいじん：12,000～170,000Bq/kg	ばいじん：12,000～380,000Bq/kg スラグ：9～4,800Bq/kg	ばいじん：1,600～85,000Bq/kg スラグ：22～6,400Bq/kg
外観			

廃棄物貯蔵施設の概要

【貯蔵対象物】
・主に双葉町仮設灰処理施設で発生したばいじん（鋼製角形容器に封入し、積み上げて貯蔵）

工区	大熊１工区	双葉１工区	双葉２工区
建築構造	鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造＋鉄骨造（２棟）	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造＋鉄骨造＋鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造（１棟）	鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造＋鉄骨造（１棟）
貯蔵容量	29,280個	14,678個	約30,000個
敷地面積	約2.4ha	約2.2ha	約3.7ha
着工	2018年7月　造成開始 2018年12月　建築開始	2018年６月　造成開始 2018年11月　建築開始	2019年12月　造成開始 2019年12月　建築開始
貯蔵スケジュール	2020年4月 貯蔵開始	2020年３月 貯蔵開始	未定
受注者	鹿島建設	大林組	鹿島建設

廃棄物貯蔵施設（大熊１工区）の状況

- 2018年７月に施設の工事に着手。
- 2020年４月に鋼製角形容器に封入した廃棄物の貯蔵を開始。

廃棄物貯蔵施設の外観

廃棄物貯蔵施設内の貯蔵状況

施設の位置

★：廃棄物貯蔵施設

●貯蔵量　354個

※ばいじんを封入した鋼製角形容器の個数

（ 2020年7月31日時点）

廃棄物貯蔵施設工事（双葉１工区）の状況

- 2018年６月に施設の工事に着手。
- 2020年３月に鋼製角形容器に封入した廃棄物の貯蔵を開始。

廃棄物貯蔵施設の外観

廃棄物貯蔵施設内の貯蔵状況

施設の位置

★：廃棄物貯蔵施設

●貯蔵量　846個

※ばいじんを封入した鋼製角形容器の個数

（ 2020年7月31日時点）

廃棄物貯蔵施設工事（双葉２工区）の状況

双葉２工区

2019年12月から建築工事（基礎工）開始
現在、廃棄物貯蔵施設棟の1階、2階及び屋上躯体工事中

西側法面上部より全景写真

施設の位置

★：廃棄物貯蔵施設

保管場等への保管量

保管場

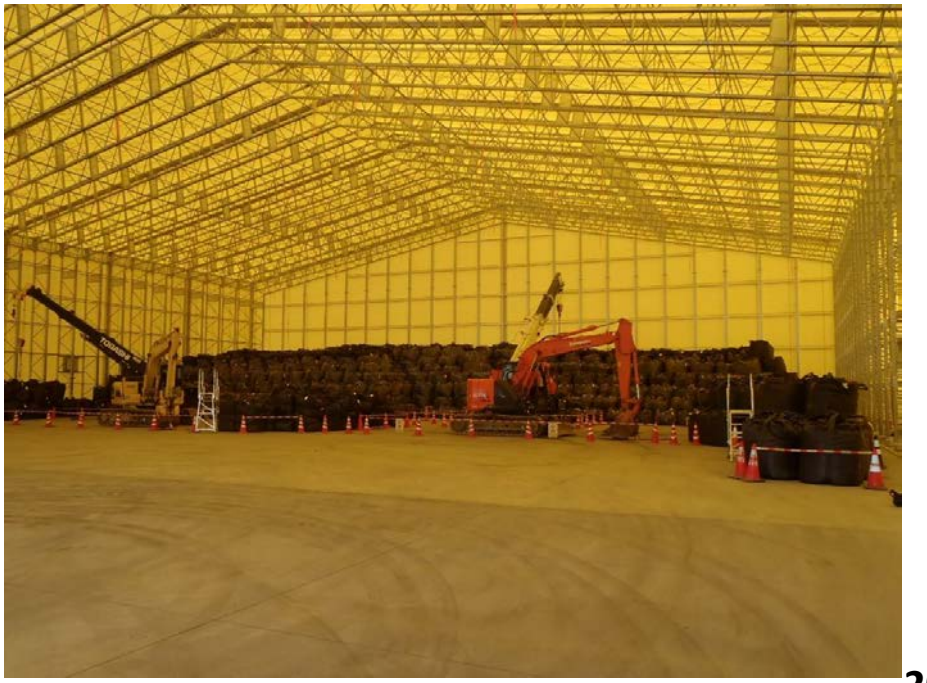
（2020年7月28日時点）

	面積（ha）	保管量（㎥）
大熊工区	61.4	2,239,191
双葉工区	29.0	885,547
合計	90.4	3,124,738

灰保管施設

（2020年7月28日時点）

	面積（ha）	保管量（㎥）
大熊工区	2.5	30,505
双葉工区	4.7	98,048
合計	7.2	128,553



輸送・道路交通対策

2020年度の輸送の予定

市町村名	搬出可能量〔㎥〕	学校等（現場保管）からの輸送予定量〔㎥〕
福島市	370,000	―
郡山市	272,000	―
いわき市	50,000	11,000
白河市	90,000	―
須賀川市	53,000	―
相馬市	14,000	―
二本松市	121,000	―
田村市	35,000	―
南相馬市	274,000	8,000
伊達市	65,000	2,000
本宮市	72,000	―
桑折町	21,000	―
国見町	28,000	―

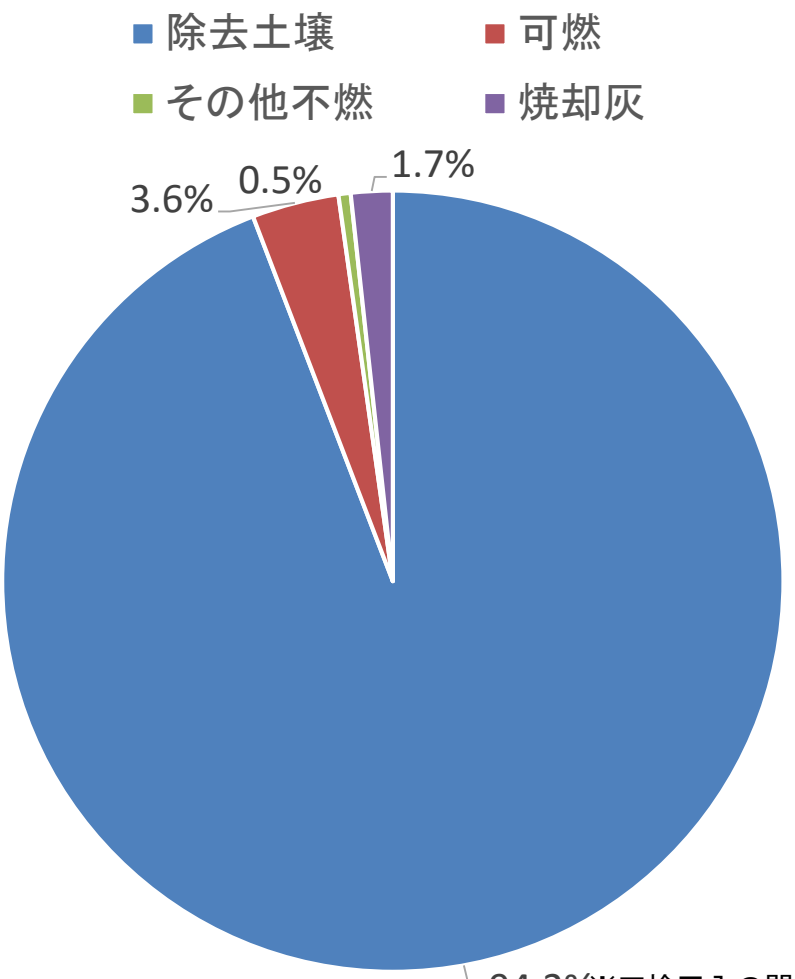
市町村名	搬出可能量〔㎥〕	学校等（現場保管）からの輸送予定量〔㎥〕
川俣町	202,000	―
天栄村	2,000	―
西郷村	265,000	―
三春町	24,000	―
楢葉町	123,000	―
富岡町	406,000	―
川内村	66,000	―
大熊町	342,000	―
双葉町	312,000	―
浪江町	144,000	―
葛尾村	158,000	―
飯舘村	395,000	―

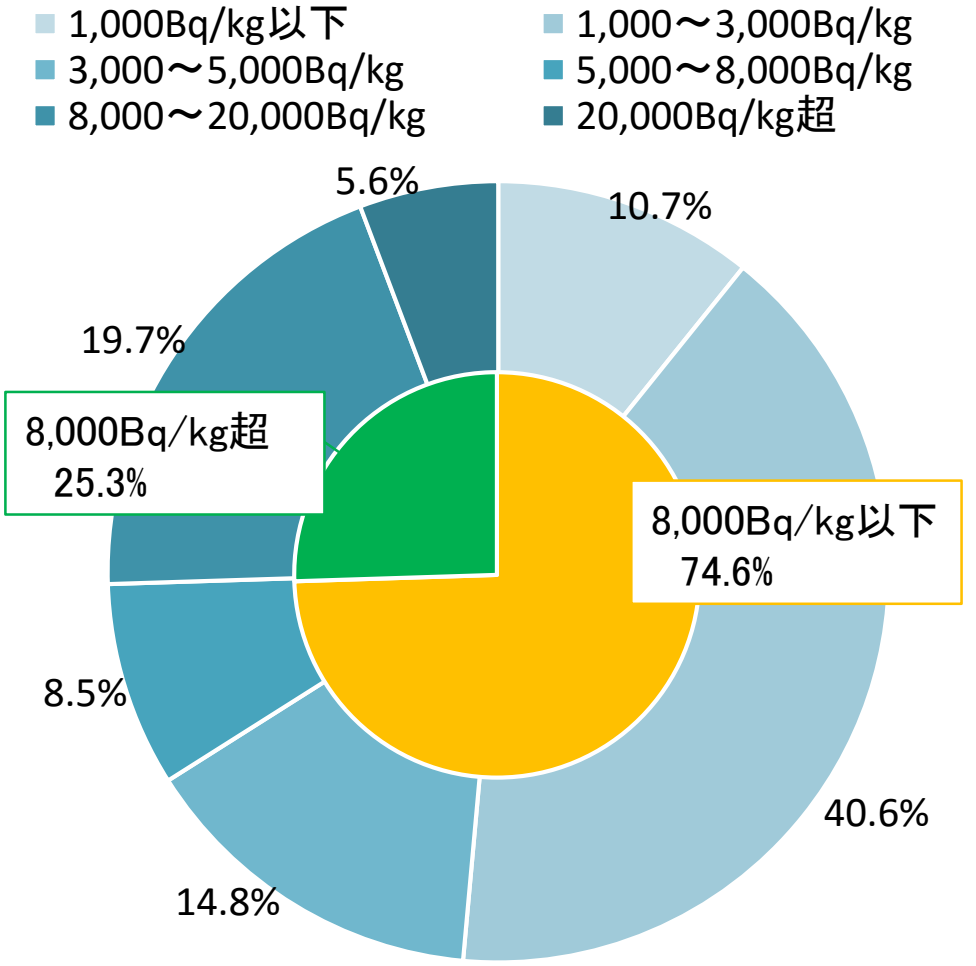
※搬出可能量及び学校等（現場保管）からの輸送予定量は概数。実際の搬出量は、保管実態や掘り起こし等地域の状況に応じて変更の可能性がある。
※集約時期や掘り起こし時期等によっては中間貯蔵施設への搬入が翌年度となる可能性がある。
※学校等（現場保管）からの累計輸送実績（R2.7.31時点）は332,046㎥。
※輸送車両は、年間平均2,400往復／日程度の走行を予定。

2020年度の輸送実績（7月31日時点）
- **輸送量　計 1,557,766㎥（累計：8,240,899㎥）**
- 総輸送車両数　計230,639台（累積：1,217,444台）

中間貯蔵施設に搬入した除去土壌等の種類と濃度の分布

- 2020年6月末までに搬入した除去土壌等のうち、土壌が94.2%であり、可燃物は3.6%、焼却灰1.7%である。
- 除去土壌について、搬出時に仮置場等で測定した表面線量率及び重量によって換算した放射能濃度の分布を見ると、8,000Bq/kg以下が74.6%を占めている。





※四捨五入の関係で、合計は必ずしも100%とはならない。

輸送ルートと道路交通対策（大熊町）

〇既に実施済みの箇所は黒字のとおり。
〇今後の輸送に向けて、現在実施中及び今後実施予定の道路交通対策は赤字のとおり。

⑩工事用道路の整備（完了）：県道252号立体交差

⑥工事用道路の整備（完了）
国道6号橋梁（名称：中央台こ道橋）

④工事用道路の整備（工事中）

輸送ルートと道路交通対策（双葉町）

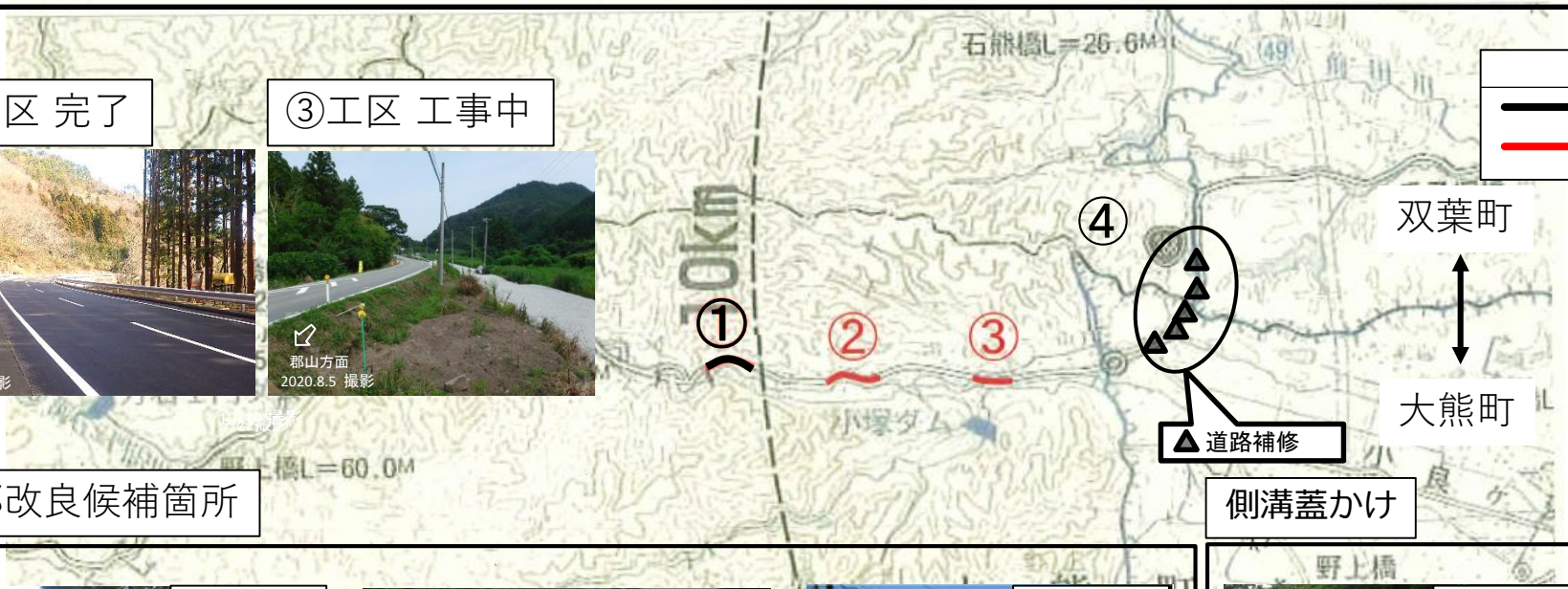
〇既に実施済みの箇所は黒字のとおり。
〇今後の輸送に向けて、現在実施中及び今後実施予定の道路交通対策は赤字のとおり。

国道２８８号道路交通対策

○環境省が①工区の見通し改善、線形改良、拡幅を実施済み。
○②工区は、福島県が用地取得済み。現在、環境省が局部改良工事の準備中。
○③工区は、福島県が用地取得済み。2019年11月から環境省が局部改良工事に着手（2020年秋頃完了予定）。
○④工区（大熊町・双葉町の町境付近）は、福島県が側溝の蓋かけ（L=350m）及び枝払いを実施済み。
　環境省が道路補修（5箇所）を実施済み。

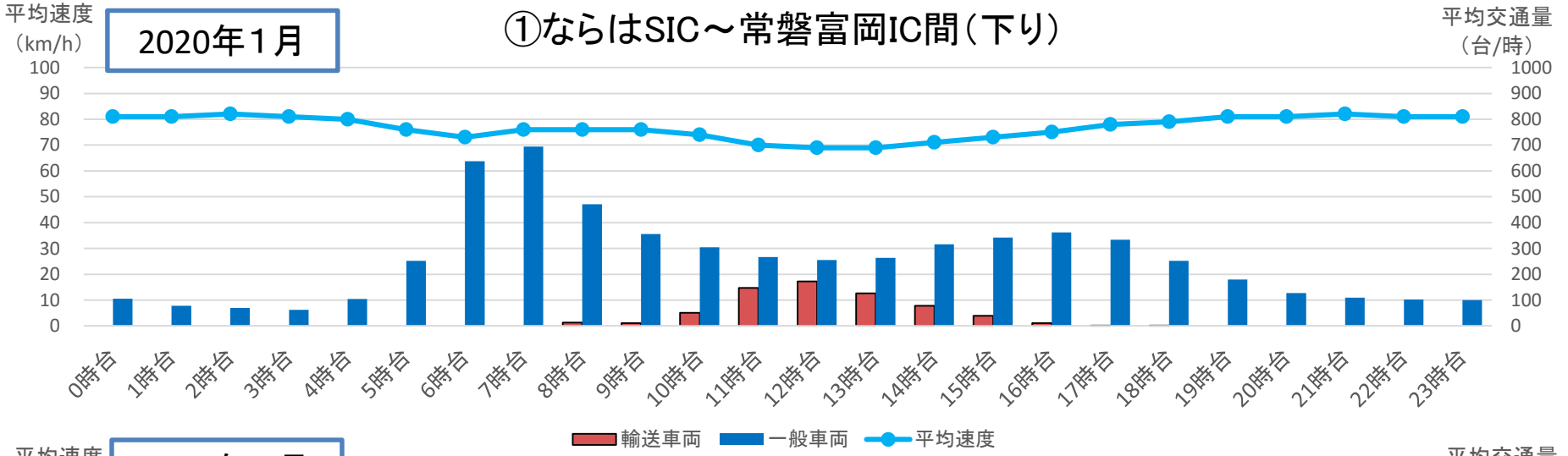
①工区 完了

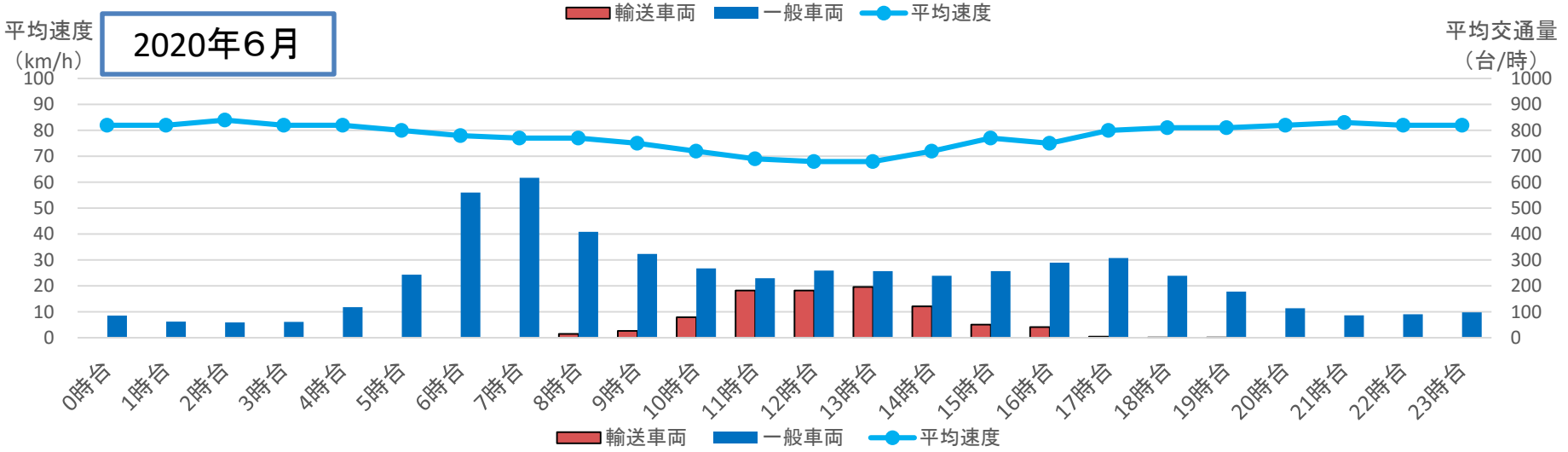
③工区 工事中



輸送ルート常磐道の交通状況　その１

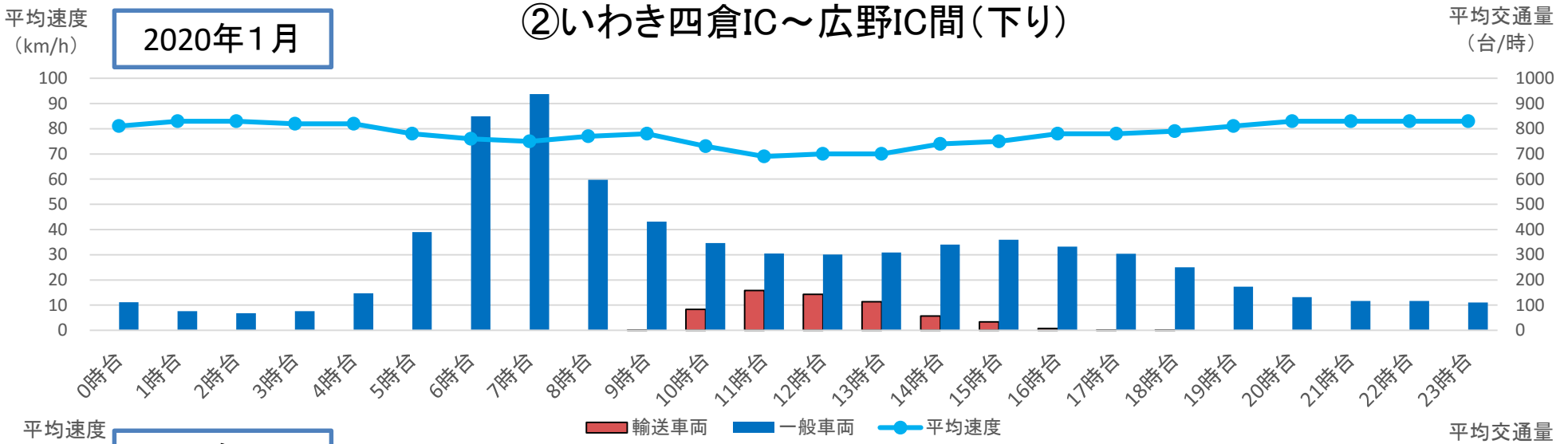
〇輸送車両が走行するルートの交通量は、6時台～7時台がピークとなっており、その時間帯を避けて輸送している。
〇現在いずれの時間帯も著しい速度低下は見られないが、下りで11時台～13時台、上りで9時台にそれぞれ規制速度の70km/h前後であり、これは規制速度を遵守している輸送車両の割合が高いためと考えられる。
〇2020年１月と2020年６月の状況を比較すると、いずれの区間でも輸送時間帯における平均速度の著しい変化は見られない。
〇引き続き、関係機関と連携の上、当該エリアを含む輸送ルートの交通状況を注視していく。

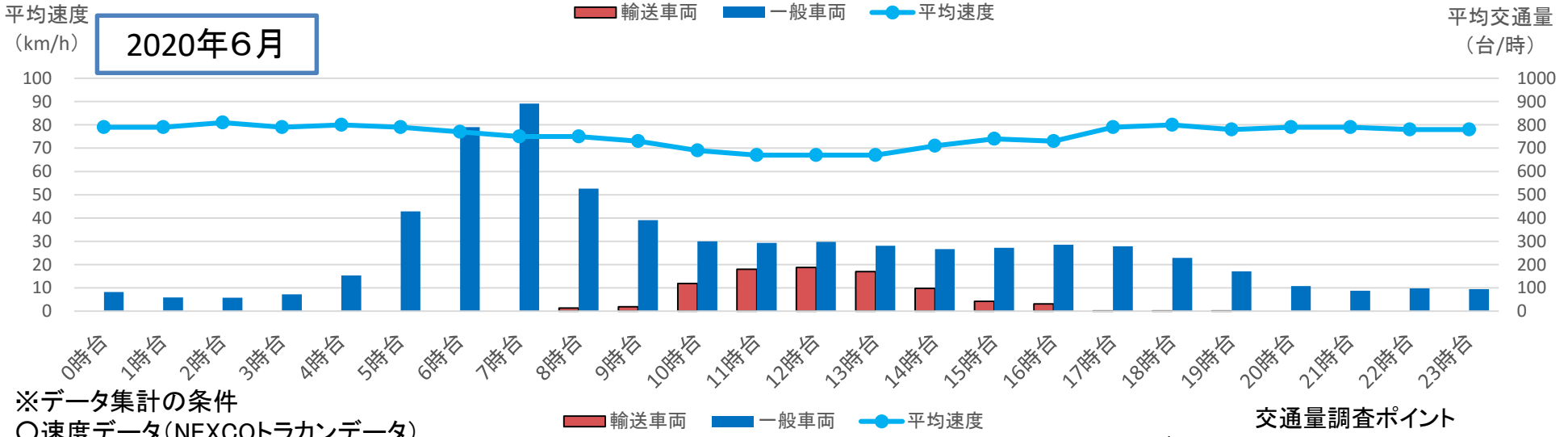




輸送ルート常磐道の交通状況　その２

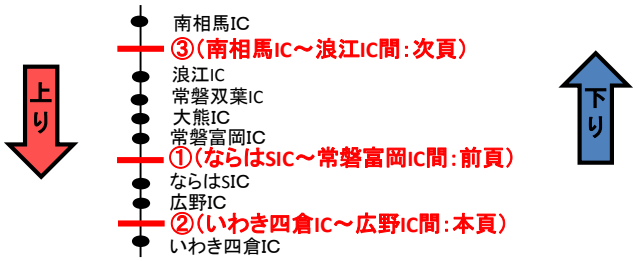
②いわき四倉IC～広野IC間（下り）





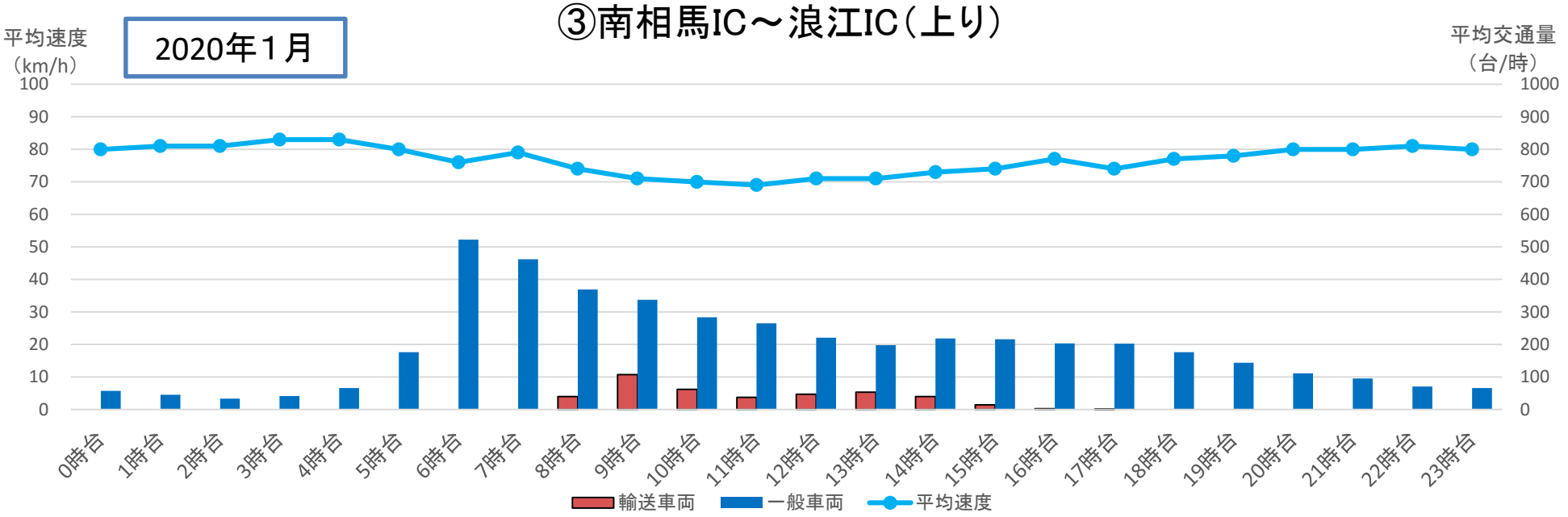
※データ集計の条件
〇速度データ（NEXCOトラカンデータ）
・輸送を実施していない日曜、祝日を控除
〇一般車両（NEXCOトラカンデータ）
・輸送を実施していない日曜、祝日を控除。
・1日当たりの平均輸送車両台数を控除。
〇輸送車両（輸送課実走行データ）
・1日当たりの平均輸送車両台数

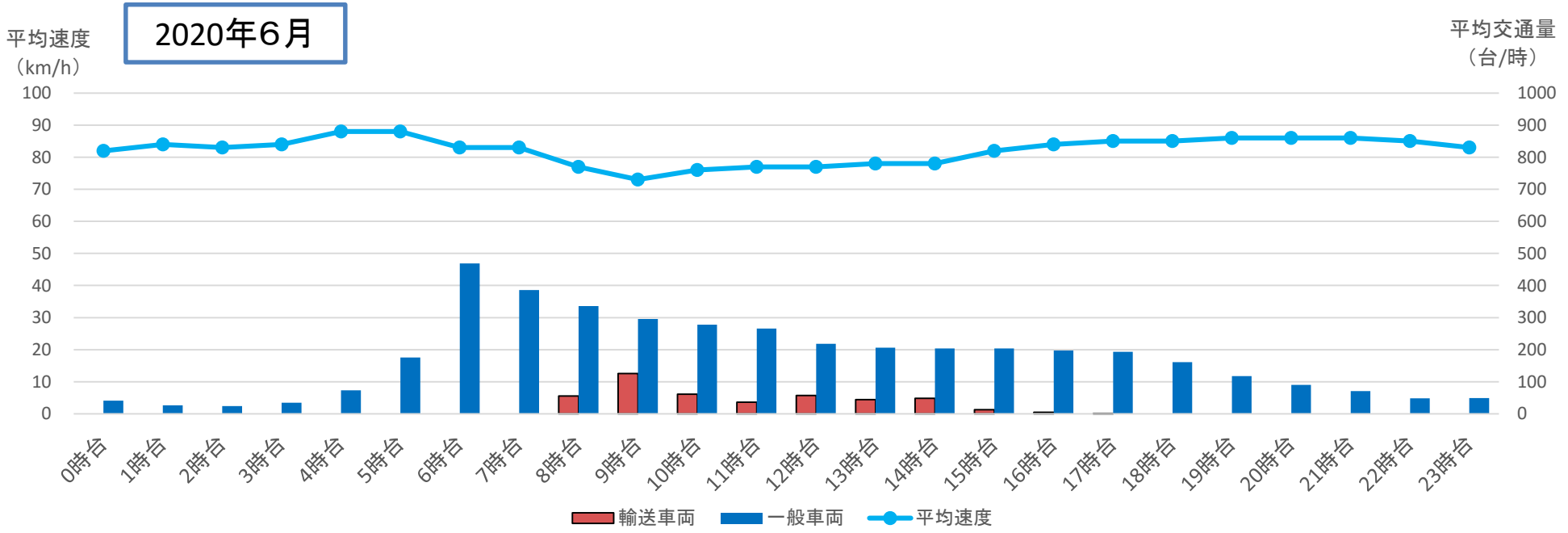
交通量調査ポイント



輸送ルート常磐道の交通状況　その３

③南相馬IC～浪江IC（上り）





モニタリング等

モニタリング結果概要（受入･分別施設　その１）

主な測定項目		測定時期	概要	詳細
◆地下水（井戸）中の放射能濃度	大熊①工区	2020年4月15日 ～ 6月17日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.4
	大熊②工区、第1期	2020年4月2日 ～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.6
	大熊②工区、第2期	2020年4月2日 ～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.8
	大熊③工区	2020年4月2日 ～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.10
	大熊④工区	2020年4月2日 ～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.12
	大熊⑤工区	2020年4月2日 ～ 6月10日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.14
	双葉①工区、第1期	2020年4月2日 ～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.16
	双葉①工区、第2期	2020年4月1日 ～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.18
	双葉②工区	2020年4月10日 ～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.20
●排気中の放射能濃度	大熊①工区	2020年4月16日 ～ 6月16日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.4
	大熊②工区、第1期	2020年4月2日 ～ 6月5日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.6
	大熊②工区、第2期	2020年4月3日 ～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.8
	大熊③工区	2020年4月1日 ～ 6月17日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.10
	大熊④工区	2020年4月1日 ～ 6月3日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.12
	大熊⑤工区	2020年4月16日 ～ 6月10日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.14
	双葉①工区、第1期	2020年4月6日 ～ 6月8日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.16
	双葉①工区、第2期	2020年4月15日 ～ 6月15日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.18
	双葉②工区	2020年4月10日 ～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.20

モニタリング結果概要（受入･分別施設　その２）

主な測定項目		測定時期	概要	詳細
★粉じん濃度	大熊①工区	2020年4月15日 ～ 6月15日（月1回）	最大値は2.1mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.4
	大熊②工区、第1期	2020年4月3日 ～ 6月5日（月1回）	最大値は4.8mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.6
	大熊②工区、第2期	2020年4月3日 ～ 6月5日（月1回）	最大値は3.7mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.8
	大熊③工区	2020年4月1日 ～ 6月4日（月1回）	最大値は1.5mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.10
	大熊④工区	2020年4月1日 ～ 6月3日（月1回）	最大値は4.7mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.12
	大熊⑤工区	2020年4月16日 ～ 6月10日（月1回）	最大値は4.2mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.14
	双葉①工区、第1期	2020年4月14日 ～ 6月16日（月1回）	最大値は6.8mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.16
	双葉①工区、第2期	2020年4月9日 ～ 6月16日（月1回）	最大値は4.3mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.18
	双葉②工区	2020年4月10日 ～ 6月4日（月1回）	最大値は2.7mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.20
★空間線量率（作業環境）	大熊①工区	2020年4月8日 ～ 6月2日（月1回）	0.09 ～ 0.16μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.4
	大熊②工区、第1期	2020年4月15日 ～ 6月12日（月1回）	0.13 ～ 0.33μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.6
	大熊②工区、第2期	2020年4月15日 ～ 6月12日（月1回）	0.10 ～ 0.25μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.8
	大熊③工区	2020年4月1日 ～ 6月4日（月1回）	0.16 ～ 0.24μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.10
	大熊④工区	2020年4月15日 ～ 6月12日（月1回）	0.21 ～ 0.50μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.12
	大熊⑤工区	2020年4月16日 ～ 6月10日（月1回）	0.26 ～ 0.64μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.14
	双葉①工区、第1期	2020年4月14日 ～ 6月16日（月1回）	0.14 ～ 0.38μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.16
	双葉①工区、第2期	2020年4月9日 ～ 6月16日（月1回）	0.08 ～ 0.14μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.18
	双葉②工区	2020年4月10日 ～ 6月4日（月1回）	0.11 ～ 0.18μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.20

モニタリング結果概要（受入･分別施設　その３）

主な測定項目		測定時期	概要	詳細
★空気中の放射能濃度	大熊①工区	2020年4月8日 ～ 6月2日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.4
	大熊②工区、第1期	2020年4月15日 ～ 6月12日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.6
	大熊②工区、第2期	2020年4月15日 ～ 6月12日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.8
	大熊③工区	2020年4月1日 ～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.10
	大熊④工区	2020年4月15日 ～ 6月12日（月1回）	Cs134は全て検出下限値未満、Cs137は検出下限値未満～1.1 $\times 10^{-7}$Bq/cm^{3}の範囲であり、基準（Cs134の濃度/2×10^{-3}＋Cs137の濃度/3×10^{-3}≦1）を下回った。	資料1別添 P.12
	大熊⑤工区	2020年4月16日 ～ 6月10日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.14
	双葉①工区、第1期	2020年4月14日 ～ 6月16日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.16
	双葉①工区、第2期	2020年4月9日 ～ 6月16日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.18
	双葉②工区	2020年4月10日 ～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.20
表面汚染密度（★床★壁★設備）	大熊①工区	2020年4月9日 ～ 6月9日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.4
	大熊②工区、第1期	2020年4月15日 ～ 6月12日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.6
	大熊②工区、第2期	2020年4月15日 ～ 6月12日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.8
	大熊③工区	2020年4月1日 ～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.10
	大熊④工区	2020年4月15日 ～ 6月12日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.12
	大熊⑤工区	2020年4月16日 ～ 6月10日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.14
	双葉①工区、第1期	2020年4月7日 ～ 6月8日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.16
	双葉①工区、第2期	2020年4月28日 ～ 6月27日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.18
	双葉②工区	2020年4月10日 ～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.20

モニタリング結果概要（土壌貯蔵施設　その１）

主な測定項目		測定時期	概要	詳細
◆地下水（井戸）中の放射能濃度	大熊①工区	2020年4月1日 ～ 6月24日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.23
	大熊②工区	2020年4月2日 ～ 6月25日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.26
	大熊③工区	2020年4月2日 ～ 6月25日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.28
	大熊④工区	2020年4月2日 ～ 6月25日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.30
	大熊⑤工区	2020年4月2日 ～ 6月25日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.32
	双葉①工区東側	2020年4月2日 ～ 6月4日（週1回）※	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 ※貯蔵作業が終了したため、2020年4月から月1回の測定としている。	資料1別添 P.34
	双葉①工区西側	2020年4月1日 ～ 6月25日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.36
	双葉②工区	2020年4月2日 ～ 6月25日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.39
	双葉③工区	2020年4月6日 ～ 6月29日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.41
●地下水（集排水設備）中の放射能濃度	大熊①工区	2020年4月14日 ～ 6月16日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.23
	大熊②工区	2020年4月23日 ～ 6月22日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.26
	大熊③工区	2020年4月16日 ～ 6月18日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.28
	大熊④工区	2020年4月23日 ～ 6月22日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.30
	大熊⑤工区	2020年4月16日 ～ 6月18日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.32
	双葉①工区東側	2020年4月9日 ～ 6月11日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.34
	双葉①工区西側	2020年4月9日 ～ 6月10日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.36
	双葉②工区	2020年4月2日 ～ 6月5日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.39
	双葉③工区	2020年4月27日 ～ 6月18日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.41

モニタリング結果概要（土壌貯蔵施設　その2）

主な測定項目		測定時期	概要	詳細
■処理水放流先河川の放射能濃度	大熊①工区	2020年4月14日 ～ 6月16日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.23
	大熊②工区	2020年4月3日 ～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.26
	大熊③工区	2020年4月2日 ～ 6月3日（月1回）	Cs134は全て検出下限値（1Bq/L）未満、Cs137は検出下限値（1Bq/L）未満～1.4Bq/Lの範囲であり、基準（Cs134の濃度/60+Cs137の濃度/90≦1）を下回った。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.28
	大熊④工区	2020年4月3日 ～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.30
	大熊⑤工区	2020年4月15日 ～ 6月11日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.32
	双葉①工区東側	2020年4月2日 ～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度は、貯蔵作業が終了したため測定なし。	資料1別添 P.34
	双葉①工区西側	2020年4月1日 ～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.36
	双葉②工区	2020年4月2日 ～ 6月5日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.39
	双葉③工区	2020年4月16日 ～ 6月16日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.41
河川最下流における放射性セシウムの測定結果	前田川	2020年5月28日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.78
	細谷川	2020年5月28日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.78
	陳場沢川	2020年5月29日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.78
	夫沢川	2020年5月28日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.78
	小入野川	2020年5月29日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.78
	熊川	2020年5月28日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.78

モニタリング結果概要（土壌貯蔵施設　その３）

主な測定項目		測定時期	概要	詳細
★粉じん濃度	大熊①工区	2020年4月16日 ～ 6月16日（月1回）	最大値は1.6mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.23
	大熊②工区	2020年4月2日 ～ 6月18日（月1回）	最大値は1.8mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.26
	大熊③工区	2020年4月1日 ～ 6月3日（月1回）	最大値は1.3mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.28
	大熊④工区	2020年4月1日 ～ 6月3日（月1回）	最大値は0.6mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.30
	大熊⑤工区	2020年4月15日 ～ 6月11日（月1回）	最大値は3.3mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.32
	双葉①工区西側	2020年4月9日 ～ 6月11日（月1回）	最大値は2.2mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.36
	双葉②工区	2020年4月2日 ～ 6月5日（月1回）	最大値は0.5mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.39
	双葉③工区	2020年4月7日 ～ 6月4日（月1回）	最大値は0.5mg/m^{3}であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^{3}超）に該当しない。	資料1別添 P.41
★空間線量率（作業環境）	大熊①工区	2020年4月2日 ～ 6月3日（月1回）	0.10 ～ 0.35μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.23
	大熊②工区	2020年4月17日 ～ 6月9日（月1回）	0.22 ～ 2.42μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.26
	大熊③工区	2020年4月1日 ～ 6月3日（月1回）	0.19 ～ 0.50μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.28
	大熊④工区	2020年4月22日 ～ 6月10日（月1回）	0.30 ～ 1.96μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.30
	大熊⑤工区	2020年4月14日 ～ 6月16日（月1回）	0.45 ～ 1.48μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.32
	双葉①工区東側	2020年4月27日 ～ 6月15日（月1回）	0.13 ～ 0.15μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.34
	双葉①工区西側	2020年4月9日 ～ 6月11日（月1回）	0.16 ～ 1.78μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.36
	双葉②工区	2020年4月2日 ～ 6月5日（月1回）	0.31 ～ 0.74μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.39
	双葉③工区	2020年4月1日 ～ 6月30日（月1回）	0.14 ～ 1.48μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.41

モニタリング結果概要（土壌貯蔵施設　その４）

主な測定項目		測定時期	概要	詳細
★空気中の放射能濃度	大熊①工区	2020年4月2日 ～ 6月3日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.23
	大熊②工区	2020年4月17日 ～ 6月9日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.26
	大熊③工区	2020年4月1日 ～ 6月3日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.28
	大熊④工区	2020年4月22日 ～ 6月10日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.30
	大熊⑤工区	2020年4月15日 ～ 6月11日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.32
	双葉①工区西側	2020年4月9日 ～ 6月11日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.36
	双葉②工区	2020年4月2日 ～ 6月5日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.39
	双葉③工区	2020年4月7日 ～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.41
表面汚染密度（★床★境界・壁★設備★重機）	大熊①工区	2020年4月4日 ～ 6月8日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.23
	大熊②工区	2020年4月17日 ～ 6月9日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.26
	大熊③工区	2020年4月1日 ～ 6月3日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.28
	大熊④工区	2020年4月22日 ～ 6月10日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.30
	大熊⑤工区	2020年4月14日 ～ 6月18日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.32
	双葉①工区東側	2020年4月28日 ～ 6月27日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.34
	双葉①工区西側	2020年4月6日 ～ 6月27日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.36
	双葉②工区	2020年4月2日 ～ 6月5日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.39
	双葉③工区	2020年4月24日 ～ 6月27日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.41

モニタリング結果概要（仮設焼却施設　大熊町）

主な測定項目	施設名	測定時期	概要	詳細
排ガス中の放射能濃度	大熊町仮設焼却施設	2020年3月1日 ～2020年6月30日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/m^3)未満であることを確認した。	資料1別添 P.90
地下水（井戸）中の放射能濃度	大熊町仮設焼却施設	2020年3月1日 ～2020年6月30日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料1別添 P.90
雨水（雨水排水集水桝）中の放射能濃度	大熊町仮設焼却施設	2020年3月1日 ～2020年6月30日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料1別添 P.90
空間線量率	大熊町仮設焼却施設	2020年3月1日 ～2020年6月30日（毎日）	0.36 ～ 3.49 μ Sv/hの範囲であった。	資料1別添 P.90
粉じん濃度	大熊町仮設焼却施設	2020年3月1日 ～2020年6月30日（月1回）	最大値は1.1mg/m^3であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^3超）に該当しない。	資料1別添 P.90

モニタリング結果概要（仮設処理施設 双葉町）

主な測定項目	施設名	測定時期	概要	詳細
排ガス中の放射能濃度	双葉町仮設処理施設	2020年3月1日 ～2020年6月30日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/m^3)未満であることを確認した。	資料1別添 P.92
地下水（井戸）中の放射能濃度	双葉町仮設処理施設	2020年3月1日 ～2020年6月30日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料1別添 P.92
雨水（雨水排水集水桝）中の放射能濃度	双葉町仮設処理施設	2020年3月1日 ～2020年6月30日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料1別添 P.92
空間線量率	双葉町仮設処理施設	2020年3月1日 ～2020年6月30日（毎日）	0.129 ～ 0.409 μSv/h　の範囲であった。	資料1別添 P.92
粉じん濃度	双葉町仮設処理施設	2020年3月1日 ～2020年6月30日（月1回）	最大値は6.56 mg/m^3であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^3超）に該当しない。	資料1別添 P.92

モニタリング結果概要（廃棄物貯蔵施設）

主な測定項目		測定時期	概要	詳細
◆地下水（井戸）中の放射能濃度	大熊1工区	2020年4月28日 ～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.44
	双葉1工区	2020年4月2日 ～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.46
★空間線量率（作業環境）	大熊1工区	2020年4月28日 ～ 6月5日（月1回）	0.06 ～ 0.16μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.44
	双葉1工区	2020年4月10日 ～ 6月30日（月1回）	0.15 ～ 0.70μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.46

モニタリング結果概要（技術実証フィールド）

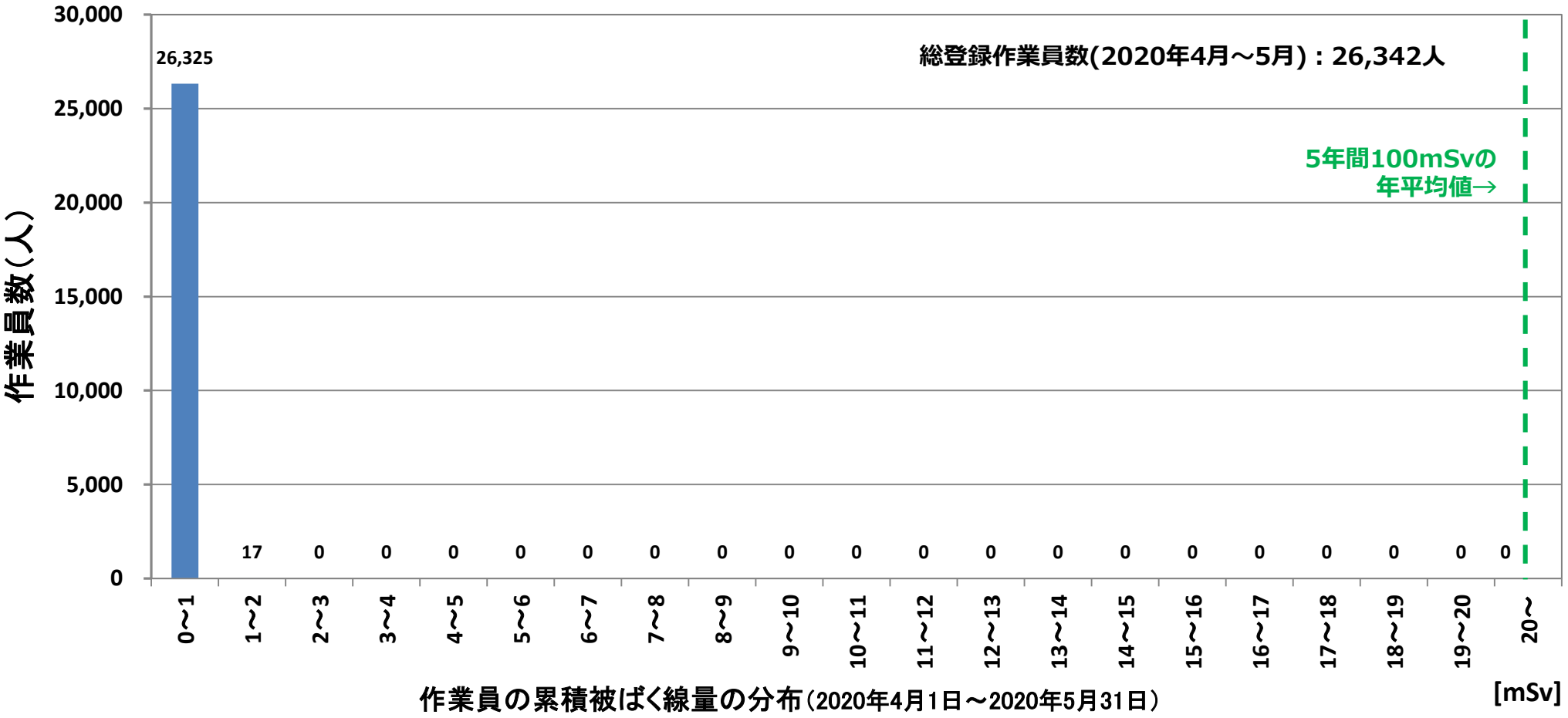
主な測定項目	測定時期	概要	詳細
◆地下水（井戸）中の放射能濃度	2020年4月2日 ～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.49
●排気中の放射能濃度	2020年4月24日 ～ 6月8日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.49
■処理水放流先河川の放射能濃度	2020年4月2日 ～ 6月4日（月1回）	Cs134は全て検出下限値（1Bq/L）未満、Cs137は検出下限値（1Bq/L）未満～3.9Bq/Lの範囲であり、基準（Cs134の濃度/60+Cs137の濃度/90≦1）を下回った。 なお、処理水の放射能濃度は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.49
★粉じん濃度	2020年4月24日 ～ 6月8日（月1回）	最大値は0.5mg/m^3であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^3超）に該当しない。	資料1別添 P.49
★空間線量率（作業環境）	2020年4月24日 ～ 6月8日（月1回）	0.09 ～ 0.66μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.49
★空気中の放射能濃度	2020年4月24日 ～ 6月8日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.49
表面汚染密度（★床★壁★設備）	2020年4月24日 ～ 6月8日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.49

その他の空間線量率、放射能濃度等の測定結果

測定項目	期間	概要	詳細
保管場等における 空間線量率、地下水中放射能濃度	2020年4月1日 ～ 8月2日	空間線量率は、除去土壌等の保管、処理、貯蔵等による周辺への影響は見られなかった。 地下水中の放射能濃度は、全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.95～96
中間貯蔵施設区域境界における 大気中放射能濃度、空間線量率	2020年4月1日 ～ 8月2日	大気中放射能濃度は、Cs134は全て検出下限値未満、Cs137は検出下限値未満～4.26×10^{-3}Bq/m^3の範囲であり、基準（Cs134の濃度/20＋Cs137の濃度/30≦1）を下回った。 空間線量率は、通常の変動の範囲内で推移していることを確認した。	資料1別添 P.97～98
輸送路における放射線量率	2020年4月1日 ～ 6月30日	輸送車両が通る時などに、数十秒間程度、平常時より高い放射線量率が観測される場合があったが、追加被ばく線量は十分に小さいことを確認した。	資料1別添 P.101
仮置場搬出時の輸送車両周辺の 空間線量率	2020年4月1日 ～ 7月31日	全輸送車両が除去土壌の収集・運搬に係るガイドラインの基準の100μSv/hを十分に下回った。 （表面線量率が30μSv/hを超える大型土のうを積載した車両について測定を実施）	資料1別添 P.103
中間貯蔵施設退出時の 輸送車両の表面汚染密度	2020年4月1日 ～ 7月31日	全輸送車両が退出基準の13,000cpmを十分に下回った。	資料1別添 P.104

作業員の被ばく線量①

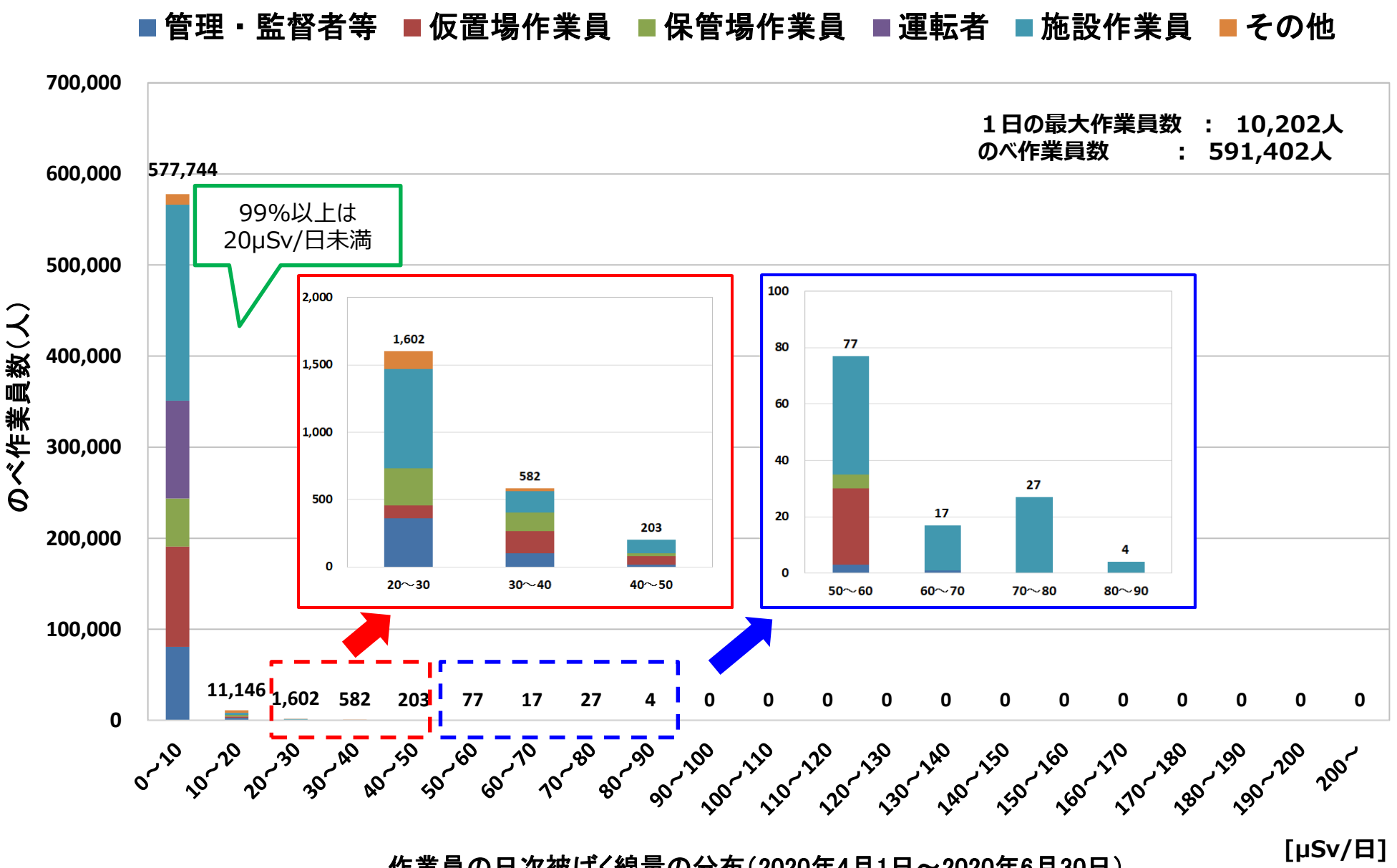
- 仮置場等及び中間貯蔵施設の作業員、輸送車両の運転者等、全ての業務従事者の被ばく線量が、電離則及び除染電離則で定められた限度（5年間で100mSvかつ1年間で50mSv等）を超えないよう、各工事の受注者が管理している。（各受注者は、安全を見込んだ自主的な目標を設定し、管理している。）
- 環境省は、各受注者が管理する作業員の被ばく線量の情報を収集・分析し、管理が適切に実施されていることを確認している。



作業員の累積被ばく線量の分布（2020年4月1日～2020年5月31日）

※　中間貯蔵施設事業による被ばく線量に限ると、2020年度の累積被ばく線量の最大は1.30mSv。

作業員の被ばく線量②



作業員の日次被ばく線量の分布(2020年4月1日～2020年6月30日)

減容・再生利用

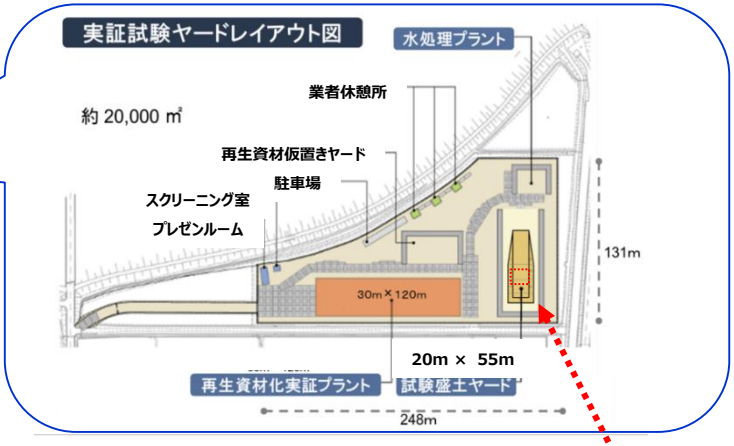
南相馬市小高区東部仮置場における実証事業の概要

- 南相馬市において、再生資材化の方法や再生資材を用いて施工した盛土の安全性等を確認するための実証事業を行っている。
- 本実証事業において、盛土の施工前後で空間線量率等の大きな変動は見られず、盛土の浸透水の放射性セシウムは検出下限値未満であり、安全性が確認されている。引き続き、広く実証事業等を実施し、データを蓄積していく。

◆事業箇所図（東部仮置場内の敷地の一部を再生利用実証事業に使用）

★は実証事業実施場所

実施期間：2016年12月～



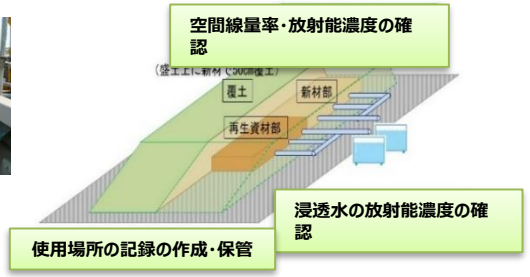
◆作業工程

再生資材化実証工程			試験盛土工程
土のう袋の開封・大きい異物の除去	小さな異物の除去	放射能濃度による分別	試験盛土の施工・モニタリング

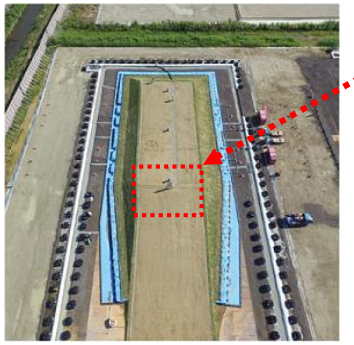
開封機

回転式ふるい機

測定機



◆完成後の盛土の様子



飯舘村における再生利用実証事業の概要

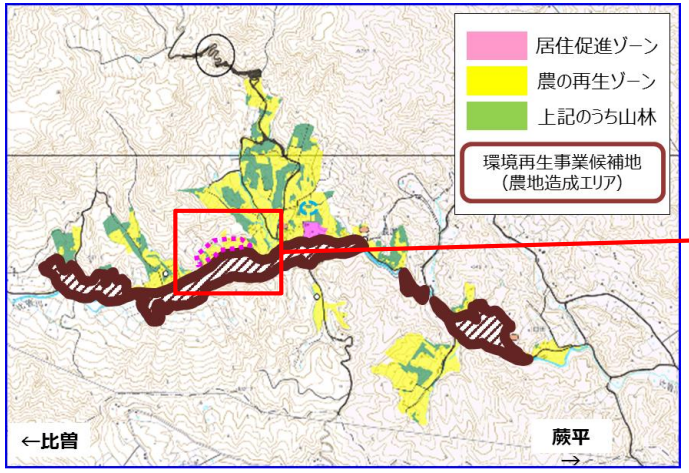
- 2018年４月に認定された「飯舘村特定復興再生拠点区域復興再生計画」において、実証事業により安全性を確認したうえで、造成が可能な農用地等については、再生資材で盛土した上で覆土することで、農用地等の利用促進を図ることとされている。
- 地元の皆様の御要望等を踏まえ、以下に示す試験栽培を実施し、放射性セシウムの移行等に関する科学的知見を幅広く取得することとしている。

  ①ビニールハウス内にて、遮へい土による花き類等の生育性について確認(2019年1月～)

  ②西側盛土にて資源作物の露地栽培を開始し、放射性セシウムの移行について確認（2019年6月～）

  ③西側盛土および東側盛土にて、食用作物・花き類の栽培を開始（西側盛土：2020年５月～、東側盛土：2020年6月～）

  ④東側盛土の一部にて、覆土なしによる露地栽培を開始し、覆土材の農業利用上の特性等を検証（2020年8月～）
- 2020年６月から農地の盛土等工事の準備を順次開始。



【全体整備規模】候補値：34ha（今後変更となる場合がある）　※盛土量等について、今後の計画により具体化する。

ビニールハウスでの栽培状況

西側盛土での栽培状況

※2020年7月24日撮影

技術実証フィールドの整備状況

- 除去土壌等の処理、減容・再生利用及び県外最終処分を効果的に進めていくため、中間貯蔵施設区域内で貯蔵されている除去土壌等を用いて、これらに関する実用的、実務的な技術の開発を行う技術実証フィールドを大熊町に整備し、実証試験事業を実施中。また、双葉町においても技術実証試験を検討中。

ドローンによる技術実証フィールド全景（2020年8月6日時点）

技術実証フィールドの主な施設

実証ヤード	実証試験を実施するための４つのヤードを整備（約1,600㎡／ヤード）
資材置場	試験資材の一時置場
分析棟	放射能濃度分析、土質分析、化学分析等を実施
管理棟	技術実証フィールド管理のための事務室等を設置

○2020年1月技術実証フィールド完成。
○技術実証フィールドは、公募技術実証事業の採択者や、JESCO（共同で研究を実施する者を含む。）が利用。現在、JESCOにおいて分析業務も実施中。
○技術実証フィールド利用者は、実証ヤードを利用した実証試験の実施や、分析棟を利用した試料の分析が可能（分析はJESCOの委託業者が実施）。
　また、実証試験に必要な試験資材、電気、水の提供を受けることができる。

2020年8月時点の実証事業

実証試験者	実証テーマ	ヤードNo.	期間
奥村組	膨潤抑制剤添加処理により除去土壌の再利用を効率化する技術	4 (北側)	2019/9～2020/12予定 (2019年度からの継続事業)
JESCO・国立環境研究所	除去土壌の再生利用時の安全性や安定性に関する実証実験	3	2020/1～2021年度予定 (2019年度からの継続事業)

2020年度のJESCO公募実証事業のスケジュール
9月頃：新規実証事業者による実証ヤードの利用開始予定

広報・普及活動

広報・普及活動

- ラジオ：毎週月・水・木曜午前10時台（AM）、火・金曜午前9時台（FM）の交通情報枠で、地元ラジオにおいてお知らせを放送。
- 新聞広告：再生利用に関する取組（12月～3月）、輸送の状況（3月）を紹介。
- ポスター等の掲示：チラシやポスターを県内外の高速道路のSAやPAに配置。
- 中間貯蔵施設見学会：一般の方向けの見学会（事前申込制）を毎月実施。
- 環境大臣等の部屋への、中間貯蔵施設からの除去土壌を用いた鉢植えの設置。（3/6）

除去土壌を用いた鉢植えの設置状況（大臣会見時）

新聞広告の一例

中間貯蔵工事情報センターについて

【概　　要】

●2019年１月に国道６号沿いの中間貯蔵施設区域内に情報センターを設置。

●中間貯蔵施設事業を中心とする福島の環境再生に向けた取組について、映像やパネルを用いて分かりやすく紹介。　　中間貯蔵施設が立地する大熊町・双葉町の風土、歴史や復興に向けた取組なども紹介。

【運営状況】

●来館者数累計：　7,981 人

　　平均：　26人/日（平日28/日　土・祝22人/日）（2019年１月31日～2020年７月31日）

●中間貯蔵施設区域内をバスで周回する中間貯蔵施設見学会（事前申込制）を毎月実施。

開館時間：10時から16時まで
休館日：日曜・月曜（月曜日が祝日の場合は翌平日）、年末年始

エントランスゾーン

大熊町・双葉町コーナー

展示コーナー

見学会の様子

その他

新型コロナウイルス感染症に対する対策

- 環境省から全事業者に対して、福島県新型コロナウイルス感染拡大防止対策や福島県知事による要請、業界団体等が作成した感染予防ガイドライン等に沿った対策を行うよう、累次にわたり要請・指示を行っている。

- 具体的には、下請け事業者も含めた全作業員に対して、以下の取組を行うよう要請・指示を行っている。
  - マスクの着用、手洗い・手指消毒の徹底など基本的な感染防止策の徹底
  - 相対的に感染リスクの高い地域に移動する場合等の行動履歴の記録等
  - 仮に感染者等が発生した場合において、速やかに対応する体制づくり

対策の具体的な事例

共用部（ドアノブ）の消毒

朝礼における3密の回避

事業の方針

参考

令和２年度の中間貯蔵施設事業の方針①

〇安全を第一に、地域の理解を得ながら、事業を実施する。
〇令和3年度までに、県内に仮置きされている除去土壌等※（帰還困難区域を除く）の概ね搬入完了を目指す。
〇これに向け、身近な場所から仮置場をなくすことを目指しつつ、令和2年度は安全を第一に、前年度と同程度の量を輸送する。

輸　送

〇より安全で円滑な輸送のために以下の対策を実施。
・運転者研修等の交通安全対策や、必要な道路交通対策を実施し、安全な輸送を確保。
・円滑な輸送のため、輸送出発時間の調整など特定の時期・時間帯への車両の集中防止・平準化に取り組む。
〇市町村と連携して計画的な輸送を実施。各市町村の搬出量は、福島県と連携し、市町村と調整の上、避難指示の解除等に伴い住民の帰還を進めていく地域や立地町である大熊町・双葉町等への配慮等を考慮して決定予定。

※令和元年10月集計時点での輸送対象物量（搬入済量＋仮置場及び減容化施設等での保管量）は約1,400万㎥

令和２年度の中間貯蔵施設事業の方針②

用　地

〇着実な事業実施に向け、引き続き丁寧な説明を尽くしながら用地取得に全力で取り組む。

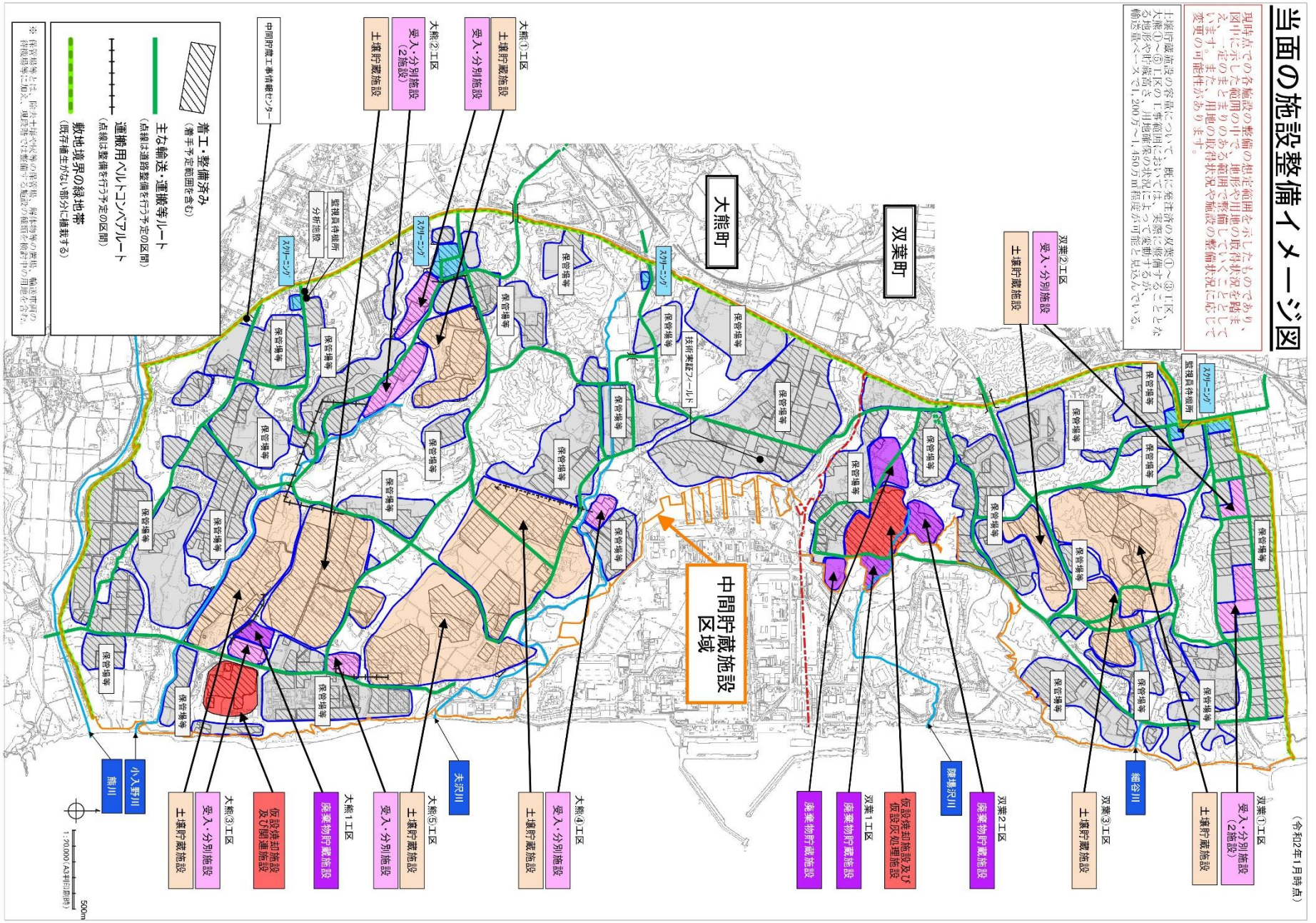
施　設

〇受入・分別施設及び土壌貯蔵施設
・受入・分別施設は、全９施設を安全に稼働。
・土壌貯蔵施設は、全８工区を安全に稼働するとともに、整備されたところから順次活用。
　土壌貯蔵が終了した施設では、安全性を確保しつつ、維持管理を着実に実施。
〇廃棄物関連施設
・仮設焼却施設及び灰処理施設並びに廃棄物貯蔵施設を安全に稼働しつつ有効に活用。

減容・再生利用

〇最終処分量の低減に資する、除去土壌等の減容・再生利用に向け、関係機関の連携の下、地元の御理解を得ながら、技術開発や実証事業を実施するとともに、再生利用先の具体化を推進。
〇減容・再生利用の必要性・安全性等に関する理解醸成活動を推進。

当面の施設整備イメージ図



資料１別添

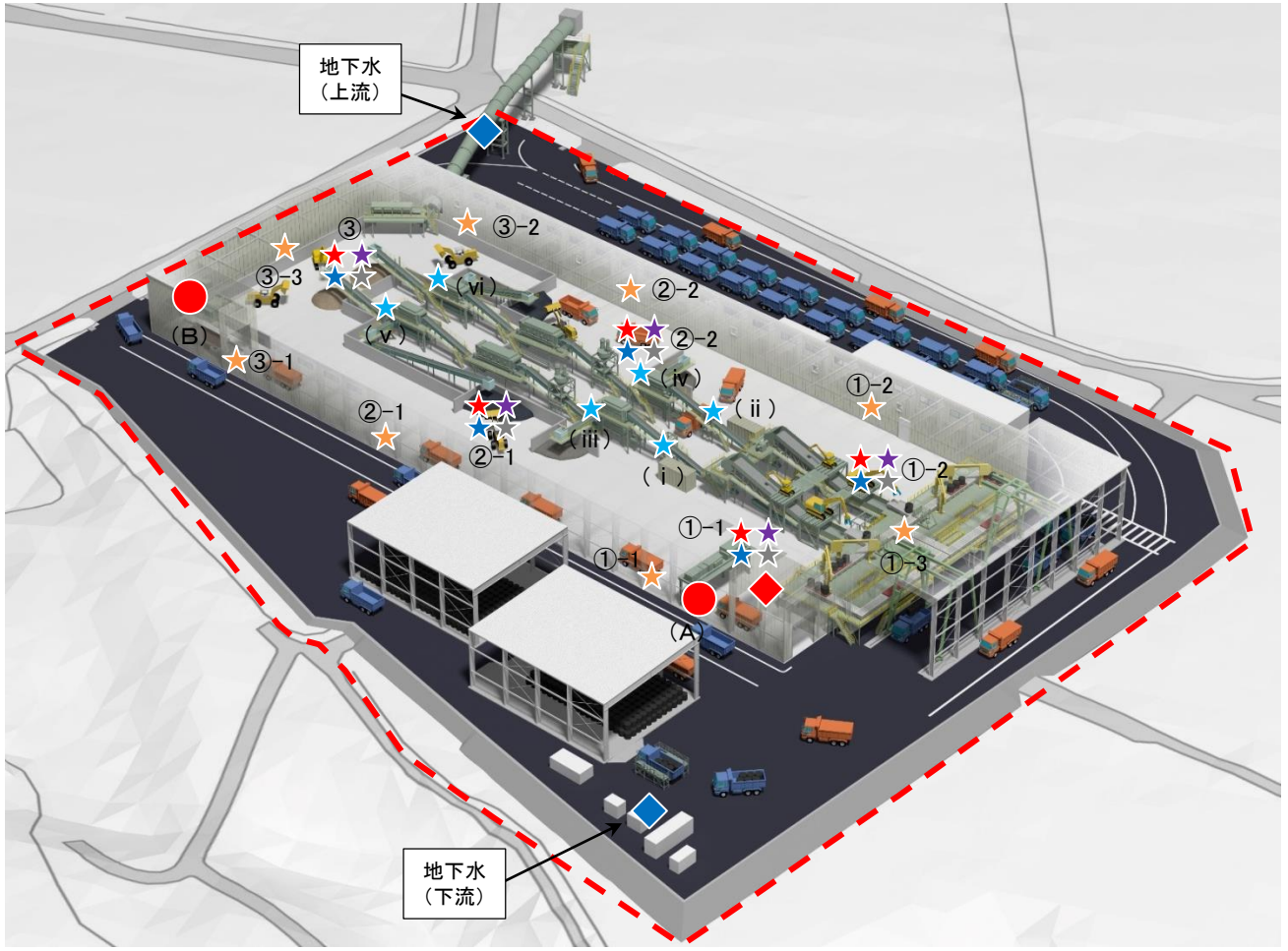
モニタリング等の状況の詳細について

2020年8月

環境省

受入・分別施設のモニタリング結果（月次測定）

受入・分別施設（大熊①工区）のモニタリング測定地点（月次測定）



★:施設の位置

【 凡例 】

- ◆：地下水中の放射能濃度等
- ●：排気中の放射能濃度
- ◆：排水中の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（床）
- ★：表面汚染密度（壁）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ---：敷地境界線

受入・分別施設（大熊①工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水中の放射能濃度等

測定地点		上流			下流		
測定日 ＼ 測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
2018/7/10	（稼働前）	23	17	ND	27	5.9	ND
2020/4/15 ～2020/6/17	（稼働後）※	40	17	ND	27	14	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
※期間中の最大値を示す。

●排気中の放射能濃度

測定地点		2020/4/16 ～2020/6/16 放射能濃度 (Bq/m^3)
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値：ろ紙部：0.1Bq/m^3、ドレン部：0.5Bq/m^3
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/m^3]の限度：セシウム134の濃度／20＋セシウム137の濃度／30≦1

◆排水中の放射能濃度

排水実績はないため測定なし。

★粉じん濃度

測定地点	2020/4/15 ～2020/6/15 粉じん濃度※ (mg/m^3)
①-1	1.0
①-2	0.8
②-1	1.6
②-2	2.1
③	1.4

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2020/4/8 ～2020/6/2 空間線量率 (μSv/h)	
	最小値	最大値
①-1	0.13	0.13
①-2	0.09	0.10
②-1	0.15	0.16
②-2	0.11	0.11
③	0.13	0.14

★空気中の放射能濃度

測定地点	2020/4/8～2020/6/2	
	Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
①-1	ND	ND
①-2	ND	ND
②-1	ND	ND
②-2	ND	ND
③	ND	ND

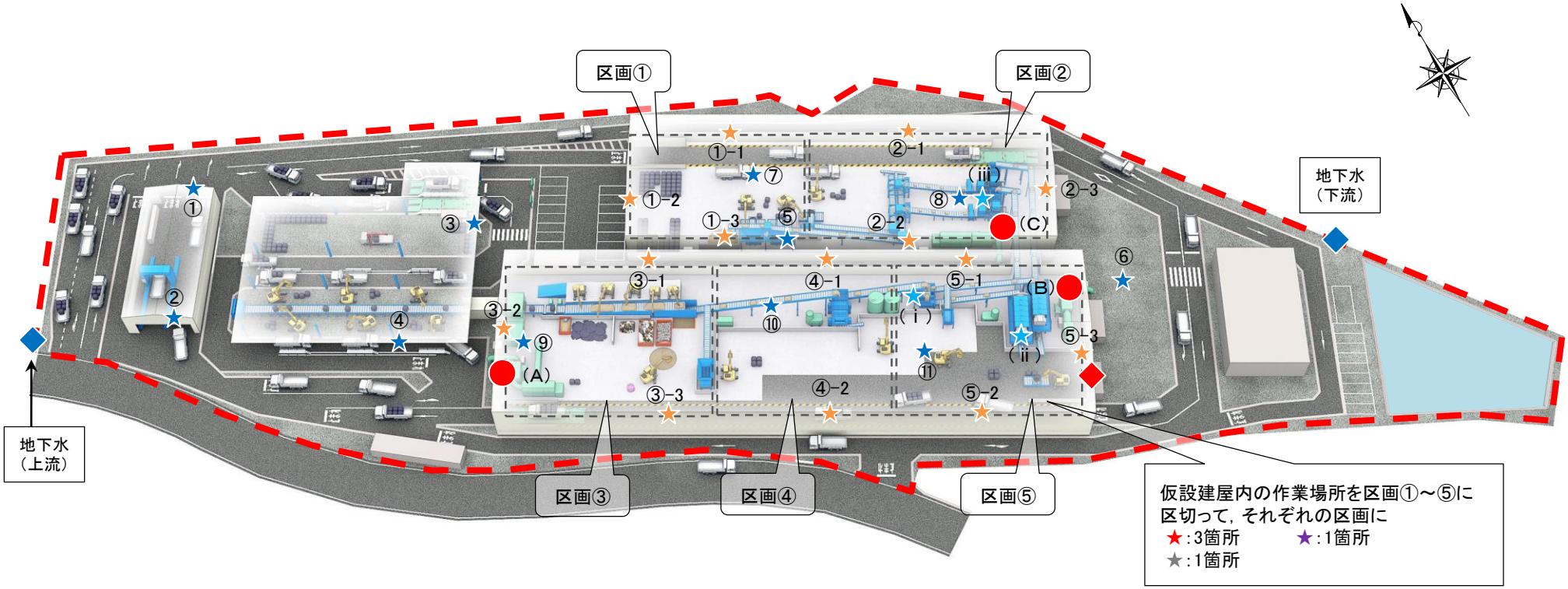
放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}＋セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点		2020/4/9 ～2020/6/9 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
床	①-1	ND
	①-2	ND
	②-1	ND
	②-2	ND
	③	ND
壁	①-1	ND
	①-2	ND
	①-3	ND
	②-1	ND
	②-2	ND
	③-1	ND
	③-2	ND
	③-3	ND
設備	（ⅰ）一次分別設備（A）	ND
	（ⅱ）一次分別設備（B）	ND
	（ⅲ）改質材添加装置（A）	ND
	（ⅳ）改質材添加装置（B）	ND
	（ⅴ）二次分別設備（A）	ND
	（ⅵ）二次分別設備（B）	ND

表面汚染密度検出下限値：0.40Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

受入・分別施設（大熊②工区、第1期）のモニタリング測定地点（月次測定）



【 凡例 】

- ◆：地下水中の放射能濃度等
- ●：排気中の放射能濃度
- ◆：排水中の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（床）
- ★：表面汚染密度（壁）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ---：敷地境界線

★：施設の位置

受入・分別施設（大熊②工区、第1期）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水中の放射能濃度等

測定地点		上流			下流		
測定日 ＼ 測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
2017/7/7	（稼働前）	12	5.1	ND	11	7.2	ND
2020/4/2 ～2020/6/4	（稼働後）※	12	4.9	ND	17	14	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
※期間中の最大値を示す。

●排気中の放射能濃度

測定地点		2020/4/2 ～2020/6/5 放射能濃度 (Bq/m^3)
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機C	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値：ろ紙部：0.2Bq/m^3、ドレン部：0.6Bq/m^3
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/m^3]の限度：セシウム134の濃度／20＋セシウム137の濃度／30≦1

◆排水中の放射能濃度

測定日 ＼ 測定項目		放射能濃度 (Bq/L)
2020/6/2	（稼働後）	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2020/4/3 ～2020/6/5 粉じん濃度※ (mg/m^3)
①-1	1.0
①-2	1.1
①-3	1.4
②-1	1.8
②-2	1.3
②-3	0.9
③-1	2.0
③-2	2.6
③-3	3.2
④-1	3.2
④-2	4.3
④-3	4.8
⑤-1	4.0
⑤-2	3.7
⑤-3	4.6

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2020/4/15 ～2020/6/12 空間線量率 (μSv/h)	
	最小値	最大値
①	0.18	0.19
②	0.18	0.28
③	0.17	0.24
④	0.19	0.28
⑤	0.17	0.20
⑥	0.18	0.19
⑦	0.32	0.33
⑧	0.16	0.20
⑨	0.13	0.14
⑩	0.16	0.27
⑪	0.19	0.27

★空気中の放射能濃度

測定地点	2020/4/15～2020/6/12	
	Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
①	ND	ND
②	ND	ND
③	ND	ND
④	ND	ND
⑤	ND	ND

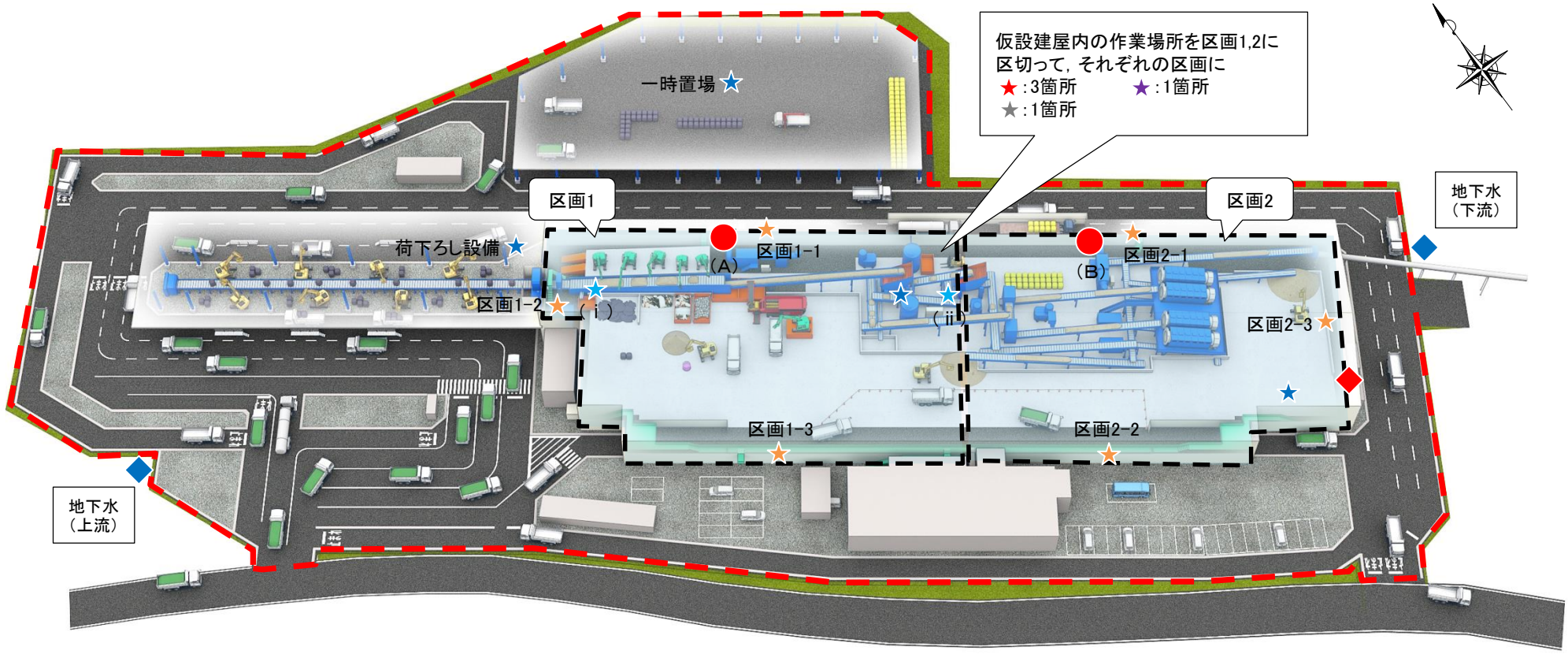
放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点		2020/4/15 ～2020/6/12 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
床	①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
	⑤	ND
壁	①-1	ND
	①-2	ND
	①-3	ND
	②-1	ND
	②-2	ND
	②-3	ND
	③-1	ND
	③-2	ND
	③-3	ND
	④-1	ND
	④-2	ND
	⑤-1	ND
	⑤-2	ND
	⑤-3	ND
設備	（ⅰ）改質設備	ND
	（ⅱ）二次分別設備	ND
	（ⅲ）濃度測定設備	ND

表面汚染密度検出下限値：0.14Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

受入・分別施設（大熊②工区、第2期）のモニタリング測定地点（月次測定）



★:施設の位置

【 凡例 】

- ◆：地下水中の放射能濃度等
- ●：排気中の放射能濃度
- ◆：排水中の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（床）
- ★：表面汚染密度（壁）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ---：敷地境界線

受入・分別施設（大熊②工区、第2期）のモニタリング測定結果（月次測定）

♦地下水中の放射能濃度等

測定地点		上流			下流		
測定項目 / 測定日		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
2018/6/13	（稼働前）	11	9.0	ND	7.9	6.2	ND
2020/4/2 ～2020/6/4	（稼働後）※	11	16	ND	9.7	14	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
※期間中の最大値を示す。

●排気中の放射能濃度

測定地点		2020/4/3 ～2020/6/4 放射能濃度 (Bq/m^3)
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値：ろ紙部：$0.1Bq/m^3$、ドレン部：$0.5Bq/m^3$
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/m^3]の限度：セシウム134の濃度／20＋セシウム137の濃度／30≦1

♦排水中の放射能濃度

測定項目 / 測定日		放射能濃度 (Bq/L)
2020/6/1	（稼働後）	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2020/4/3 ～2020/6/5 粉じん濃度※ (mg/m^3)
区画1-1	3.1
区画1-2	1.3
区画1-3	3.5
区画2-1	2.1
区画2-2	3.7
区画2-3	3.7

定量下限値：$0.1mg/m^3$、高濃度粉じんの下限値：$10mg/m^3$
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2020/4/15 ～2020/6/12 空間線量率 (μSv/h)	
	最小値	最大値
区画1	0.10	0.10
区画2	0.12	0.17
荷下ろし設備	0.22	0.25
一時置場	0.16	0.18

★空気中の放射能濃度

測定地点	2020/4/15～2020/6/12	
	Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
区画1	ND	ND
区画2	ND	ND

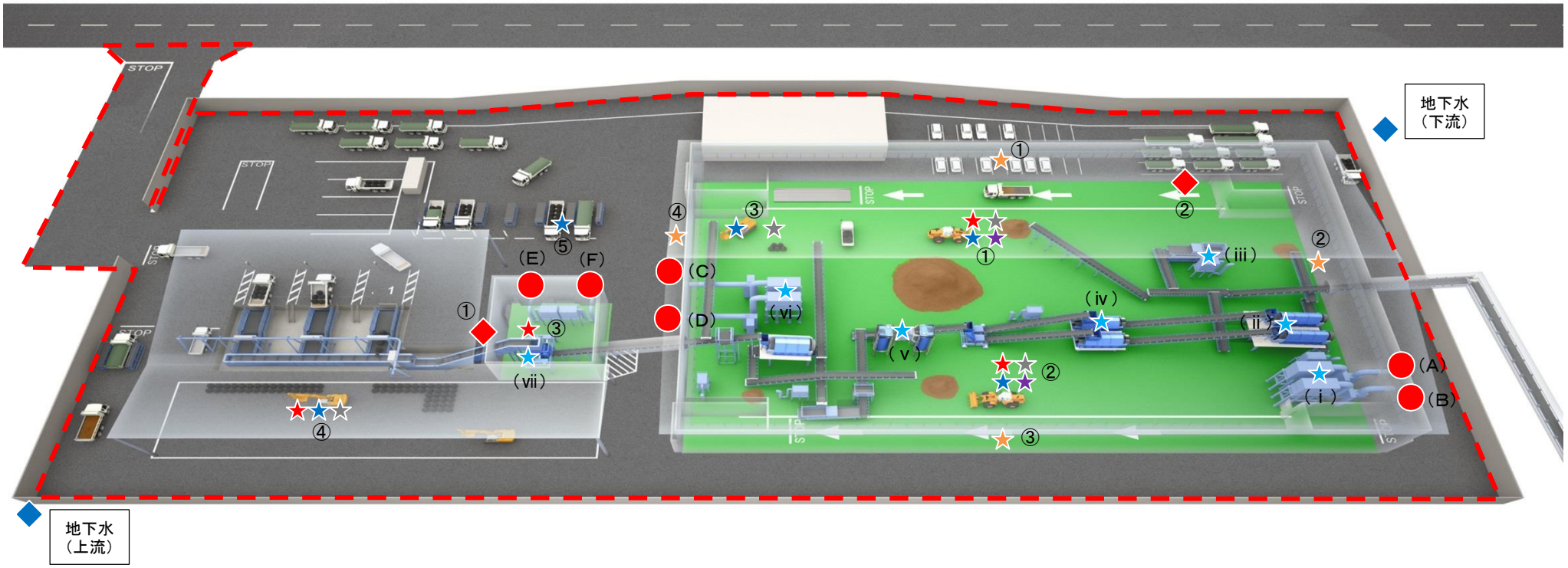
放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}＋セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点		2020/4/15 ～2020/6/12 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
床	区画1	ND
	区画2	ND
壁	区画1-1	ND
	区画1-2	ND
	区画1-3	ND
	区画2-1	ND
	区画2-2	ND
	区画2-3	ND
設備	（ⅰ）破袋機操作盤	ND
	（ⅱ）改質機操作盤	ND

表面汚染密度検出下限値：$0.14Bq/cm^2$
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：$40Bq/cm^2$

受入・分別施設（大熊③工区）のモニタリング測定地点（月次測定）



★:施設の位置

【 凡例 】

- ◆：地下水中の放射能濃度等
- ●：排気中の放射能濃度
- ◆：排水中の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（床）
- ★：表面汚染密度（壁）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ---：敷地境界線

受入・分別施設（大熊③工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

♦地下水中の放射能濃度等

測定地点		上流			下流		
測定項目 / 測定日		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
2018/7/6	（稼働前）	17	7.5	ND	17	22	ND
2020/4/2 ～2020/6/3	（稼働後）※	23	14	ND	15	19	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
※期間中の最大値を示す。

●排気中の放射能濃度

測定地点		2020/4/1 ～2020/6/17 放射能濃度 (Bq/m^3)
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機C	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機D	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機E	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機F	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値：ろ紙部：$0.7Bq/m^3$、ドレン部：$0.7Bq/m^3$
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/m^3]の限度：セシウム134の濃度／20＋セシウム137の濃度／30≦1

♦排水中の放射能濃度

排水実績はないため測定なし。

★粉じん濃度

測定地点	2020/4/1 ～2020/6/4 粉じん濃度※ (mg/m^3)
①	1.5
②	0.9
③	0.6
④	0.4

定量下限値：$0.1mg/m^3$、高濃度粉じんの下限値：$10mg/m^3$
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2020/4/1 ～2020/6/4 空間線量率 (μSv/h)	
	最小値	最大値
①	0.16	0.21
②	0.20	0.24
③	0.17	0.19
④	0.19	0.24
⑤	0.22	0.24

★空気中の放射能濃度

測定地点	2020/4/1～2020/6/4	
	Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
①	ND	ND
②	ND	ND

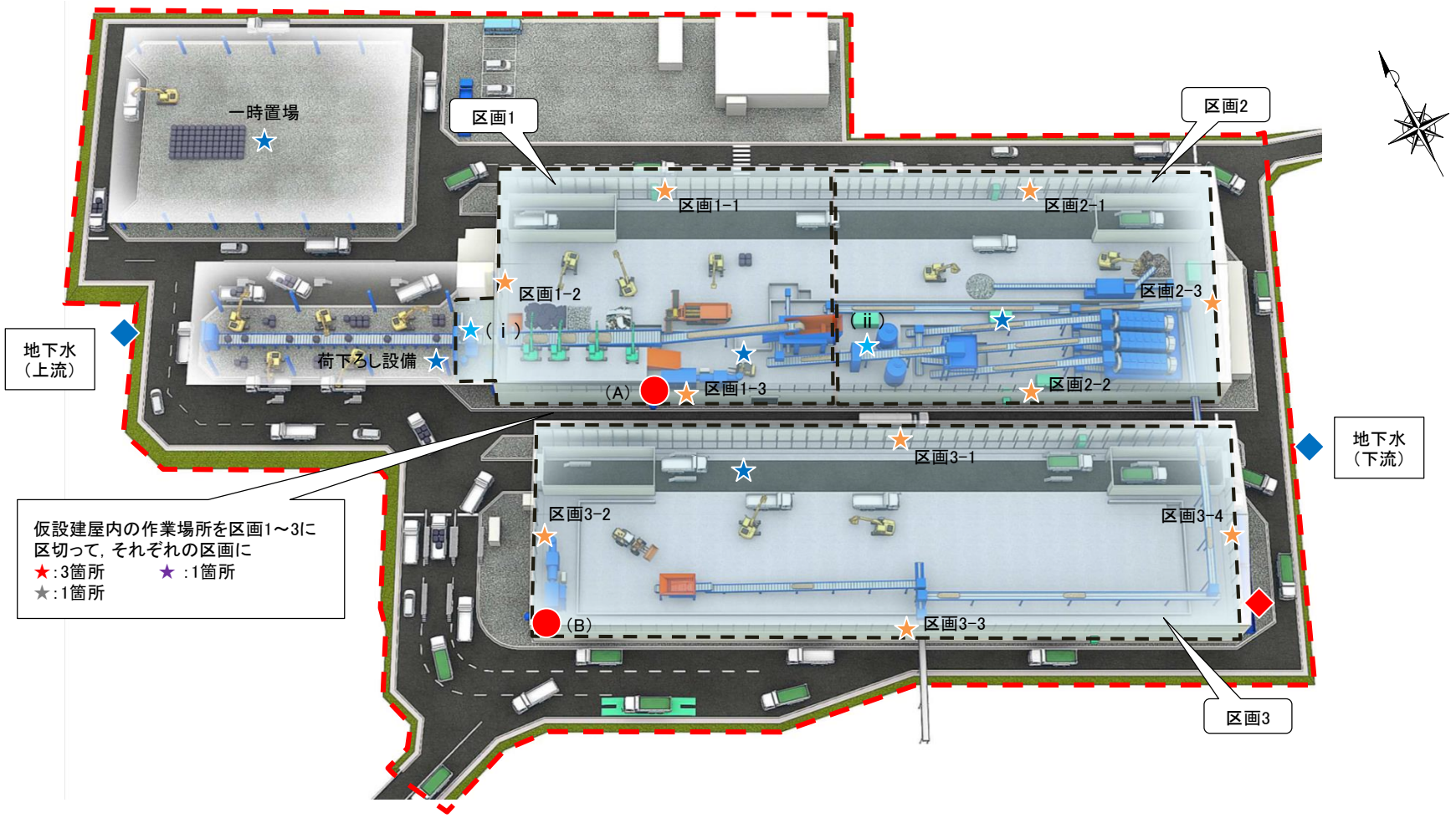
放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}＋セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点		2020/4/1 ～2020/6/4 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
床	①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
壁	①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
設備	（ｉ）集じん機②	ND
	（ii）分別機	ND
	（iii）集じん機①	ND
	（iv）ベルトコンベア	ND
	（v）改質材貯留サイロ	ND
	（vi）集じん機③	ND
	（vii）破袋機	ND

表面汚染密度検出下限値：$0.70Bq/cm^2$
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：$40Bq/cm^2$

受入・分別施設（大熊④工区）のモニタリング測定地点（月次測定）



★:施設の位置

【 凡例 】

- ◆：地下水中の放射能濃度等
- ●：排気中の放射能濃度
- ◆：排水中の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（床）
- ★：表面汚染密度（壁）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ---：敷地境界線

受入・分別施設（大熊④工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水中の放射能濃度等

測定地点		上流			下流		
測定日 ＼ 測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
2019/7/24	（稼働前）	12	8.1	ND	14	5.0	ND
2020/4/2 ～2020/6/4	（稼働後）※	16	7.1	ND	14	9.0	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
※期間中の最大値を示す。

●排気中の放射能濃度

測定地点		2020/4/1 ～2020/6/3 放射能濃度 (Bq/m^3)
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値：ろ紙部：0.1Bq/m^3、ドレン部：0.5Bq/m^3
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/m^3]の限度：セシウム134の濃度／20＋セシウム137の濃度／30≦1

◆排水中の放射能濃度

測定日 ＼ 測定項目		放射能濃度 (Bq/L)
2020/4/7	（稼働後）	ND
2020/6/12	（稼働後）	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2020/4/1 ～2020/6/3 粉じん濃度※ (mg/m^3)
区画1-1	0.2
区画1-2	1.7
区画1-3	0.9
区画2-1	0.9
区画2-2	4.7
区画2-3	1.8
区画3-1	2.1
区画3-2	2.2
区画3-3	2.0

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2020/4/15 ～2020/6/12 空間線量率 (μSv/h)	
	最小値	最大値
区画1	0.21	0.22
区画2	0.21	0.23
区画3	0.32	0.34
荷下ろし設備	0.31	0.36
一時置場	0.47	0.50

★空気中の放射能濃度

測定地点	2020/4/15～2020/6/12	
	Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
区画1	ND	ND
区画2	ND	ND
区画3	ND	1.1×10^{-7}

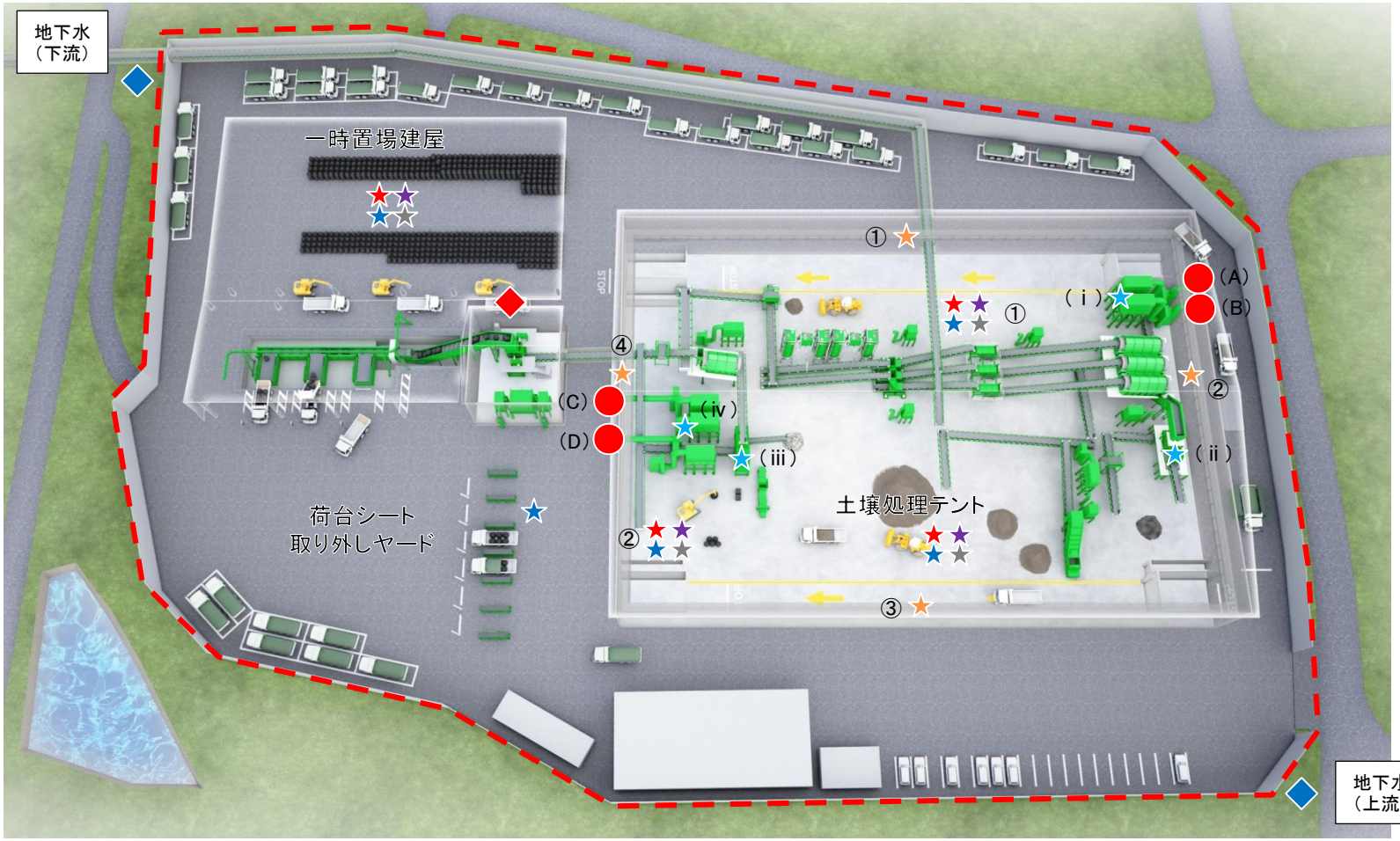
放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点		2020/4/15 ～2020/6/12 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
床	区画1	ND
	区画2	ND
	区画3	ND
壁	区画1-1	ND
	区画1-2	ND
	区画1-3	ND
	区画2-1	ND
	区画2-2	ND
	区画2-3	ND
	区画3-1	ND
	区画3-2	ND
	区画3-3	ND
	区画3-4	ND
設備	（ⅰ）破袋機操作盤	ND
	（ⅱ）改質機操作盤	ND

表面汚染密度検出下限値：0.14Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

受入・分別施設（大熊⑤工区）のモニタリング測定地点（月次測定）



★:施設の位置

【 凡例 】

- ◆：地下水中の放射能濃度等
- ●：排気中の放射能濃度
- ◆：排水中の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（床）
- ★：表面汚染密度（壁）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ---：敷地境界線

受入・分別施設（大熊⑤工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

♦地下水中の放射能濃度等

測定地点	上流			下流		
測定項目 / 測定日	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
2019/7/26 （稼働前）	16	20	ND	21	10	ND
2020/4/2 ～2020/6/10 （稼働後）※	16	21	ND	17	11	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
※期間中の最大値を示す。

●排気中の放射能濃度

測定地点		2020/4/16 ～2020/6/10 放射能濃度 (Bq/m^3)
集じん機A	ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機C	ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機D	ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値：ろ紙部：$0.2Bq/m^3$、ドレン部：$1.1Bq/m^3$
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/m^3]の限度：セシウム134の濃度／20＋セシウム137の濃度／30≦1

♦排水中の放射能濃度

排水実績はないため測定なし。

★粉じん濃度

測定地点	2020/4/16 ～2020/6/10 粉じん濃度※ (mg/m^3)
①	4.2
②	3.2
土壌処理テント	2.2
一時置場建屋	0.2

定量下限値：$0.1mg/m^3$、高濃度粉じんの下限値：$10mg/m^3$
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2020/4/16 ～2020/6/10 空間線量率 (μSv/h)	
	最小値	最大値
①	0.26	0.32
②	0.40	0.45
土壌処理テント	0.41	0.50
一時置場建屋	0.42	0.60
荷台シート取り外しヤード	0.56	0.64

★空気中の放射能濃度

測定地点	2020/4/16～2020/6/10	
	Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
①	ND	ND
②	ND	ND
土壌処理テント	ND	ND
一時置場建屋	ND	ND

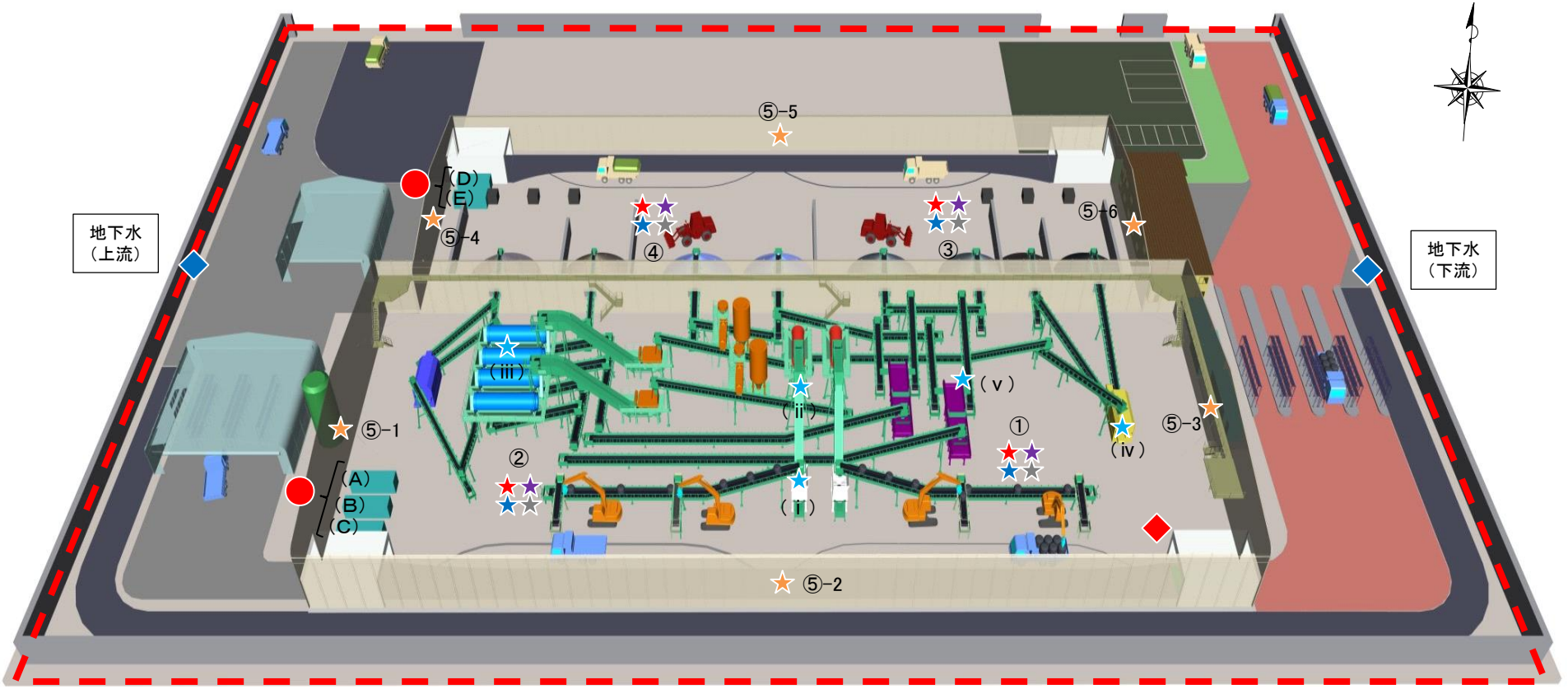
放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}＋セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点		2020/4/16 ～2020/6/10 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
床	①	ND
	②	ND
	土壌処理テント	ND
	一時置場建屋	ND
壁	①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
設備	（ⅰ）集じん機No.14,15	ND
	（ⅱ）ベルトセパレータ	ND
	（ⅲ）バリオセパレータ	ND
	（ⅳ）集じん機No.12,13	ND

表面汚染密度検出下限値：$0.80Bq/cm^2$
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：$40Bq/cm^2$

受入・分別施設（双葉①工区、第1期）のモニタリング測定地点（月次測定）



★:施設の位置

【 凡例 】

- ◆：地下水中の放射能濃度等
- ●：排気中の放射能濃度
- ◆：排水中の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（床）
- ★：表面汚染密度（壁）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ---：敷地境界線

受入・分別施設（双葉①工区、第1期）のモニタリング測定結果（月次測定）

♦地下水中の放射能濃度等

測定地点	上流			下流		
測定項目 / 測定日	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
2017/6/1 （稼働前）	46	54	ND	49	30	ND
2020/4/2 ～2020/6/4 （稼働後）※	59	41	ND	37	37	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
※期間中の最大値を示す。

●排気中の放射能濃度

測定地点		2020/4/6 ～2020/6/8 放射能濃度 (Bq/m^3)
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機C	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機D	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機E	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値：ろ紙部：0.2Bq/m^3、ドレン部：0.6Bq/m^3
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/m^3]の限度：セシウム134の濃度／20＋セシウム137の濃度／30≦1

♦排水中の放射能濃度

排水実績はないため測定なし。

★粉じん濃度

測定地点	2020/4/14 ～2020/6/16 粉じん濃度※ (mg/m^3)
①受入 東	1.4
②受入 西	6.8
③搬出 東	1.0
④搬出 西	1.3

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2020/4/14 ～2020/6/16 空間線量率 (μSv/h)	
	最小値	最大値
①受入 東	0.38	0.38
②受入 西	0.14	0.15
③搬出 東	0.14	0.16
④搬出 西	0.17	0.20

★空気中の放射能濃度

測定地点	2020/4/14～2020/6/16	
	Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
①受入 東	ND	ND
②受入 西	ND	ND
③搬出 東	ND	ND
④搬出 西	ND	ND

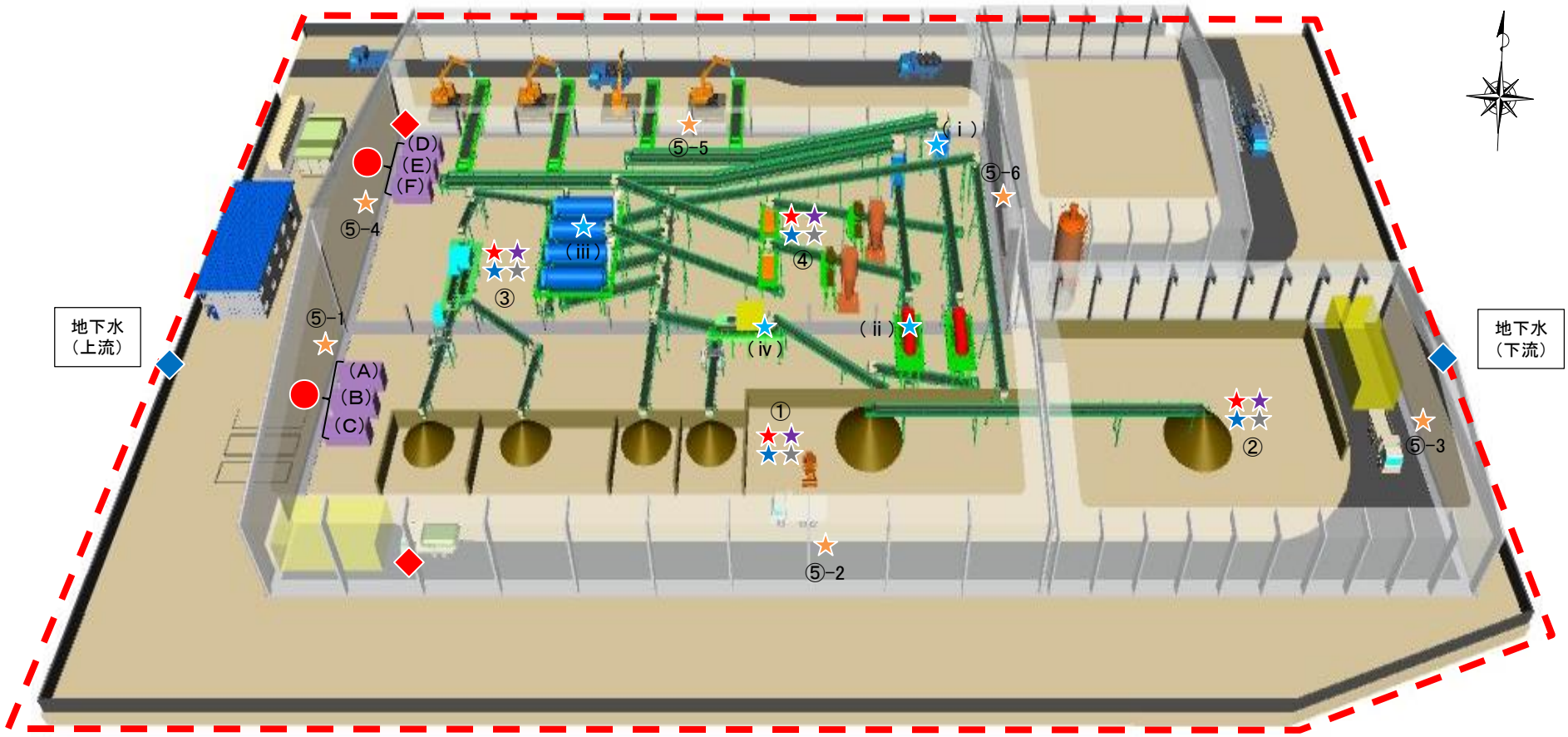
放射能濃度検出下限値：セシウム134：$3.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$3.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}＋セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点		2020/4/7 ～2020/6/8 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
床	①受入 東	ND
	②受入 西	ND
	③搬出 東	ND
	④搬出 西	ND
壁	⑤-1	ND
	⑤-2	ND
	⑤-3	ND
	⑤-4	ND
	⑤-5	ND
	⑤-6	ND
設備	（ⅰ）破袋設備	ND
	（ⅱ）一次分別設備	ND
	（ⅲ）二次分別設備	ND
	（ⅳ）可燃物分離設備	ND
	（ⅴ）濃度測定設備	ND

表面汚染密度検出下限値：0.72Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

受入・分別施設（双葉①工区、第2期）のモニタリング測定地点（月次測定）



★:施設の位置

【 凡例 】

- ◆：地下水中の放射能濃度等
- ●：排気中の放射能濃度
- ◆：排水中の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（床）
- ★：表面汚染密度（壁）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ---：敷地境界線

受入・分別施設（双葉①工区、第2期）のモニタリング測定結果（月次測定）

♦地下水中の放射能濃度等

測定地点		上流			下流		
測定項目 / 測定日		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
2018/9/3	（稼働前）	34	9.7	ND	47	12	ND
2020/4/1 ～2020/6/4	（稼働後）※	42	30	ND	40	27	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
※期間中の最大値を示す。

●排気中の放射能濃度

測定地点		2020/4/15 ～2020/6/15 放射能濃度 (Bq/m^3)
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機C	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機D	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機E	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機F	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値：ろ紙部：$0.2Bq/m^3$、ドレン部：$0.6Bq/m^3$
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/m^3]の限度：セシウム134の濃度／20＋セシウム137の濃度／30≦1

♦排水中の放射能濃度

排水実績はないため測定なし。

★粉じん濃度

測定地点	2020/4/9 ～2020/6/16 粉じん濃度※ (mg/m^3)
①搬出 西	0.5
②搬出 東	0.5
③受入 西	4.3
④受入 東	4.3

定量下限値：$0.1mg/m^3$、高濃度粉じんの下限値：$10mg/m^3$
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2020/4/9 ～2020/6/16 空間線量率 (μSv/h)	
	最小値	最大値
①搬出 西	0.12	0.12
②搬出 東	0.10	0.14
③受入 西	0.08	0.09
④受入 東	0.08	0.09

★空気中の放射能濃度

測定地点	2020/4/9～2020/6/16	
	Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
①搬出 西	ND	ND
②搬出 東	ND	ND
③受入 西	ND	ND
④受入 東	ND	ND

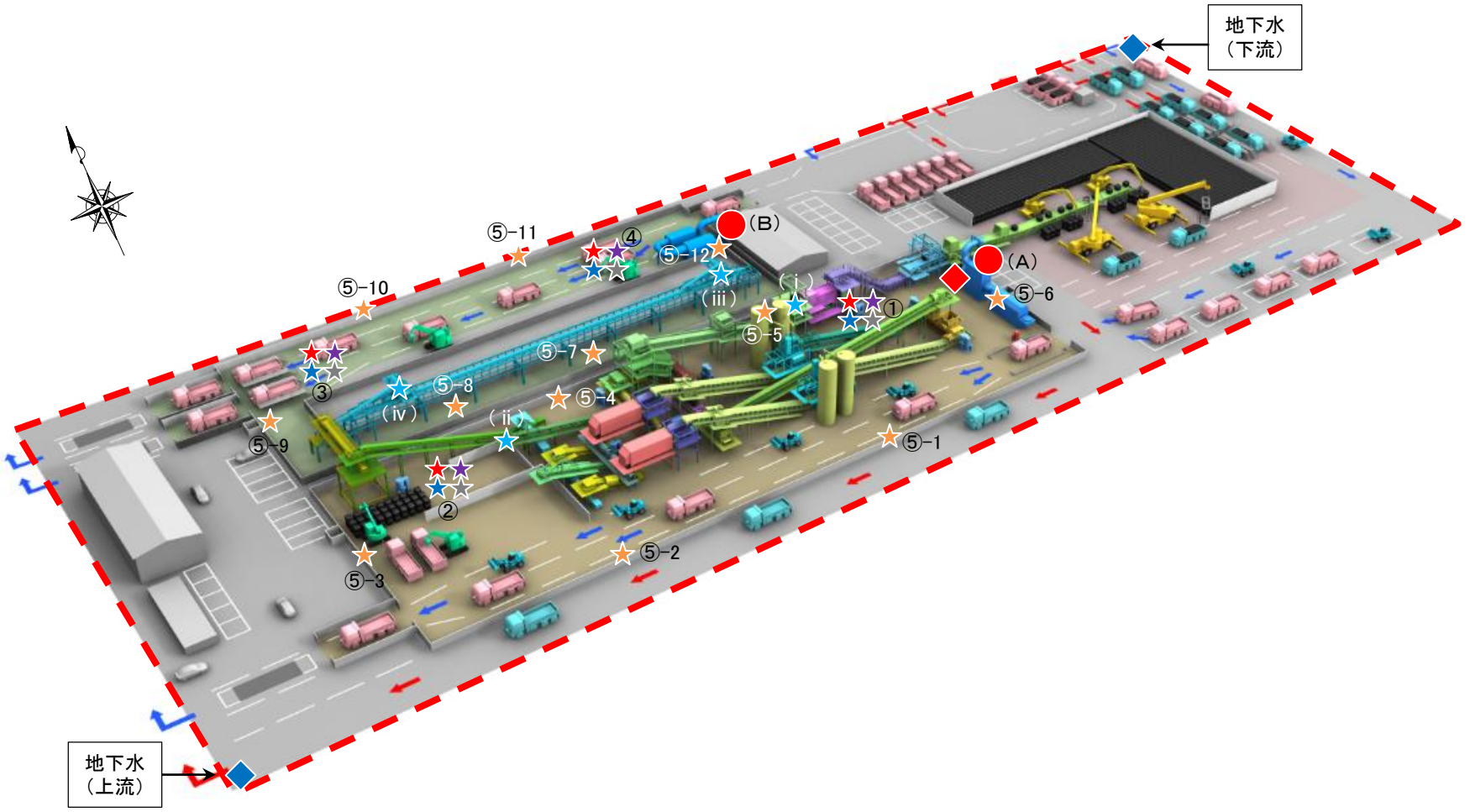
放射能濃度検出下限値：セシウム134：$3.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$3.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}＋セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点		2020/4/28 ～2020/6/27 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
床	①搬出 西	ND
	②搬出 東	ND
	③受入 西	ND
	④受入 東	ND
壁	⑤-1	ND
	⑤-2	ND
	⑤-3	ND
	⑤-4	ND
	⑤-5	ND
	⑤-6	ND
設備	（ｉ）破袋設備	ND
	（ⅱ）一次分別設備	ND
	（ⅲ）二次分別設備	ND
	（ⅳ）可燃物分離設備	ND

表面汚染密度検出下限値：$0.64Bq/cm^2$
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：$40Bq/cm^2$

受入・分別施設（双葉②工区）のモニタリング測定地点（月次測定）



★:施設の位置

【 凡例 】

- ◆：地下水中の放射能濃度等
- ●：排気中の放射能濃度
- ◆：排水中の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（床）
- ★：表面汚染密度（壁）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ---：敷地境界線

受入・分別施設（双葉②工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水中の放射能濃度等

測定地点		上流			下流		
測定項目 / 測定日		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
2019/1/17	（稼働前）	47	10	ND	26	12	ND
2020/4/10 ～2020/6/4	（稼働後）※	100	13	ND	39	16	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
※期間中の最大値を示す。

●排気中の放射能濃度

測定地点		2020/4/10 ～2020/6/4 放射能濃度 (Bq/m^3)
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値：ろ紙部：0.2Bq/m^3、ドレン部：0.9Bq/m^3
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/m^3]の限度：セシウム134の濃度／20＋セシウム137の濃度／30≦1

◆排水中の放射能濃度

測定項目 / 測定日		放射能濃度 (Bq/L)
2020/4/14 ～2020/5/23	（稼働後）	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2020/4/10 ～2020/6/4 粉じん濃度※ (mg/m^3)
①	2.7
②	1.8
③	2.7
④	1.2

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2020/4/10 ～2020/6/4 空間線量率 (μSv/h)	
	最小値	最大値
①	0.11	0.11
②	0.13	0.17
③	0.17	0.18
④	0.17	0.18

★空気中の放射能濃度

測定地点	2020/4/10～2020/6/4	
	Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
①	ND	ND
②	ND	ND
③	ND	ND
④	ND	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}＋セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

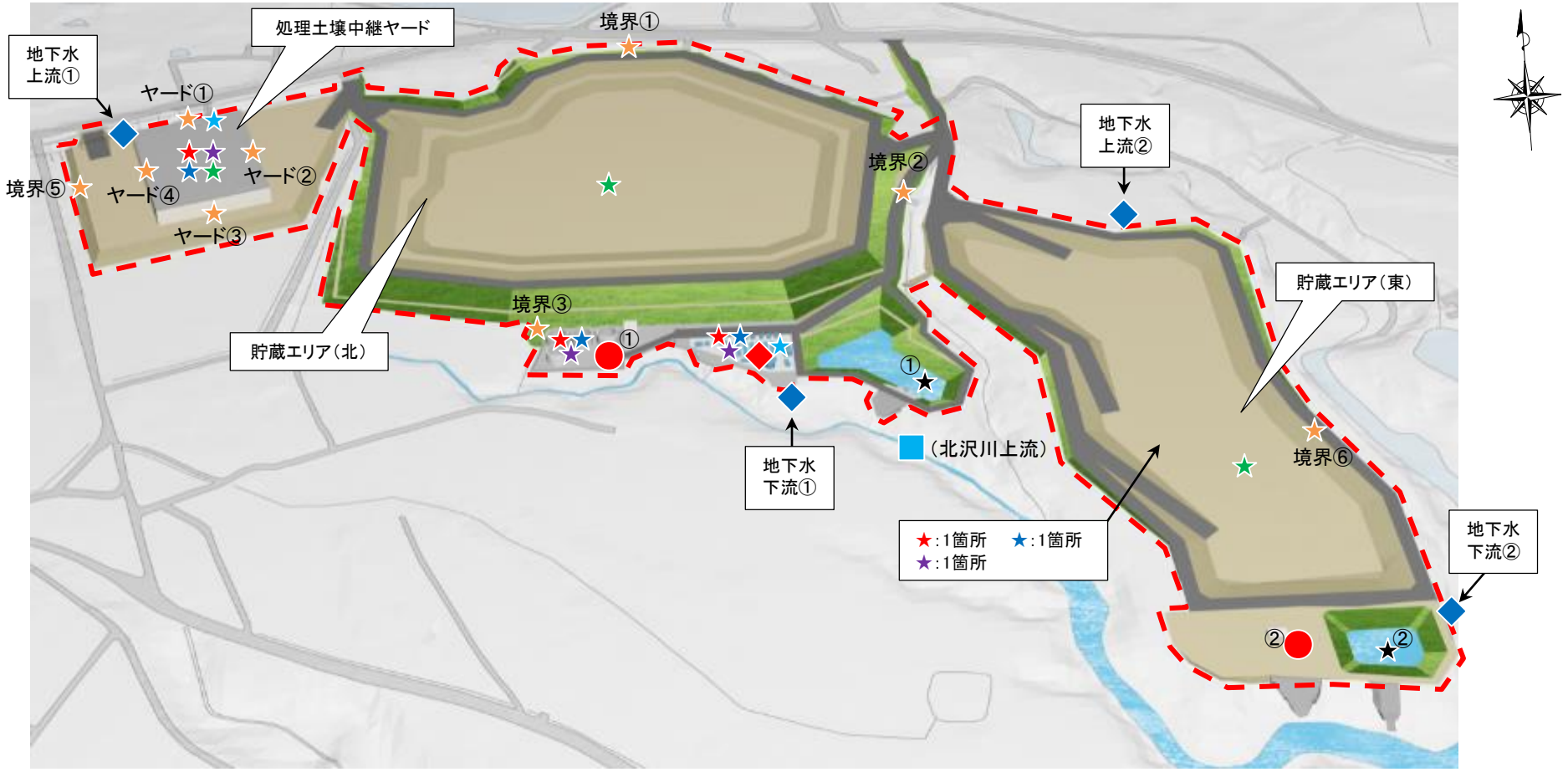
表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点		2020/4/10 ～2020/6/4 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
床	①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
壁	⑤-1	ND
	⑤-2	ND
	⑤-3	ND
	⑤-4	ND
	⑤-5	ND
	⑤-6	ND
	⑤-7	ND
	⑤-8	ND
	⑤-9	ND
	⑤-10	ND
	⑤-11	ND
	⑤-12	ND
設備	（ｉ）破袋機	ND
	（ⅱ）20㎜ｵｰﾊﾞｰｻｲｽﾞ集合ﾍﾞﾙｺﾝ	ND
	（ⅲ）ﾄﾘｯﾊﾟｰｺﾝﾍﾞｱ	ND
	（ⅳ）ﾄﾘｯﾊﾟｰｺﾝﾍﾞｱ	ND

表面汚染密度検出下限値：0.70Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設のモニタリング結果（月次測定等）

土壌貯蔵施設（大熊①工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）



☆:施設の位置

【 凡例 】

- ◆ : 地下水（井戸）中の電気伝導率等
- ● : 地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ◆ : 浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★ : 沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ■ : 放流先河川の放射能濃度
- ★ : 粉じん濃度
- ★ : 空間線量率（作業環境）
- ★ : 空気中の放射能濃度
- ★ : 表面汚染密度（貯蔵施設境界・壁）
- ★ : 表面汚染密度（設備）
- ★ : 表面汚染密度（重機）
- ---- : 敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊①工区）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点		上流①		上流②		下流①		下流②	
測定日＼測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
2018/7/11（上流①、下流①） 2020/2/24（上流②、下流②）	（稼働前）	240	8.1	110	25	32	9.5	42	23
2020/4/14 ～2020/6/16	（稼働後）※	150	10	78	18	150	6.9	37	18

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度（週次測定）

測定地点		上流①		上流②		下流①		下流②	
測定日＼測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2018/7/11（上流①、下流①） 2020/2/24（上流②、下流②）	（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
2020/4/1 ～2020/6/24	（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目		放射能濃度 (Bq/L)
集排水設備①	2018/7/11	（稼働前）	ND
	2020/4/14 ～2020/6/16	（稼働後）	ND
集排水設備②	2020/3/5	（稼働前）	ND
	2020/4/14 ～2020/6/16	（稼働後）	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定日＼測定項目	水素イオン濃度 (pH)		生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
	最小値	最大値			
2020/4/14 ～2020/6/17	7.3	7.8	2.8～4.0	25～42	7～15

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD基準：90mg/L，SS基準：60mg/L

◆浸出水処理施設放流水の放射能濃度（週次測定）

測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2020/4/1 ～2020/6/24	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

放流日	放流回数	濁度		放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
		最小値	最大値		
2020/4/1 ～2020/6/30	292	0.0	4.9	ND	9290

濁度管理値：5以下
放射性セシウム管理値：ND
NDとは、検出下限値（6.5Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定日＼測定項目	浮遊物質量 (SS) ※ (mg/L)
沈砂池①	2020/4/14 ～2020/6/16	24
沈砂池②	2020/4/28 ～2020/6/16	37

SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L
※期間中の最大値を示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定日＼測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2018/7/11	（稼働前）	ND	ND
2020/4/14 ～2020/6/16	（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2020/4/16 ～2020/6/16 粉じん濃度※ (mg/m^3)
貯蔵エリア（東）	0.3
浸出水調整設備	0.1
浸出水処理設備	0.1
処理土壌中継ヤード	1.6

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2020/4/2 ～2020/6/3 空間線量率 (μSv/h)	
	最小値	最大値
貯蔵エリア（東）	0.28	0.35
浸出水調整設備	0.24	0.27
浸出水処理設備	0.10	0.11
処理土壌中継ヤード	0.22	0.23

★空気中の放射能濃度

測定地点	2020/4/2～2020/6/3	
	Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
貯蔵エリア（東）	ND	ND
浸出水調整設備	ND	ND
浸出水処理設備	ND	ND
処理土壌中継ヤード	ND	ND

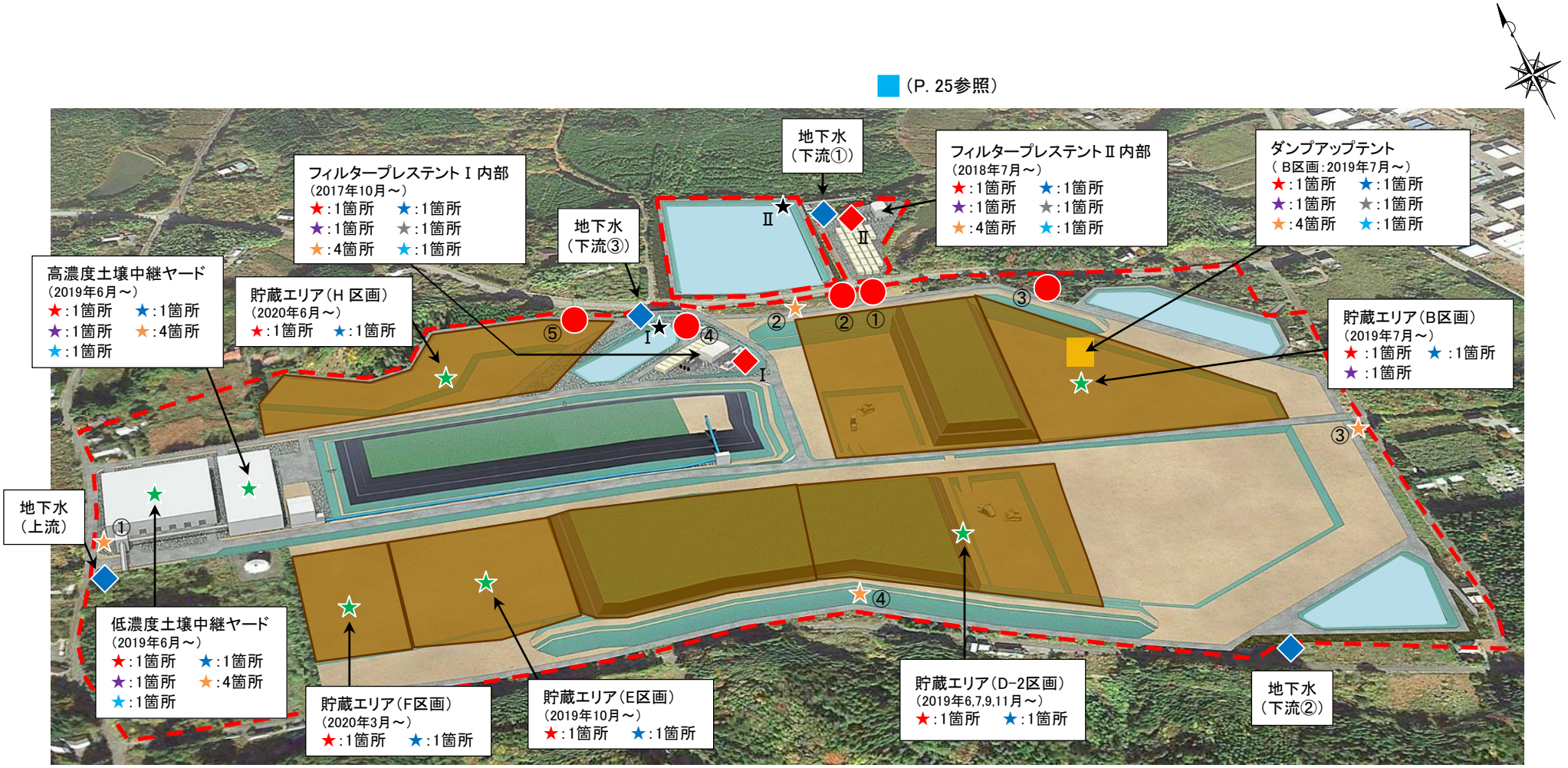
放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★貯蔵施設境界・壁、★設備、★重機）

測定地点			2020/4/4 ～2020/6/8 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
貯蔵施設境界		①	ND
		②	ND
		③	ND
		⑤	ND
		⑥	ND
浸出水処理施設	設備	汚泥脱水機	ND
処理土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	ベルコン出口	ND
	重機	タイヤショベル①	ND
		タイヤショベル②	ND
貯蔵エリア（北）	重機	ブルドーザー②	ND
		バックホウ③	ND
貯蔵エリア（東）	重機	バックホウ①	ND
		ローラー①	ND
		ブルドーザー①	ND
		バックホウ②	ND
		ブルドーザー②	ND
		バックホウ③	ND
		バックホウ④	ND

表面汚染密度検出下限値：0.40Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（大熊②工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）①

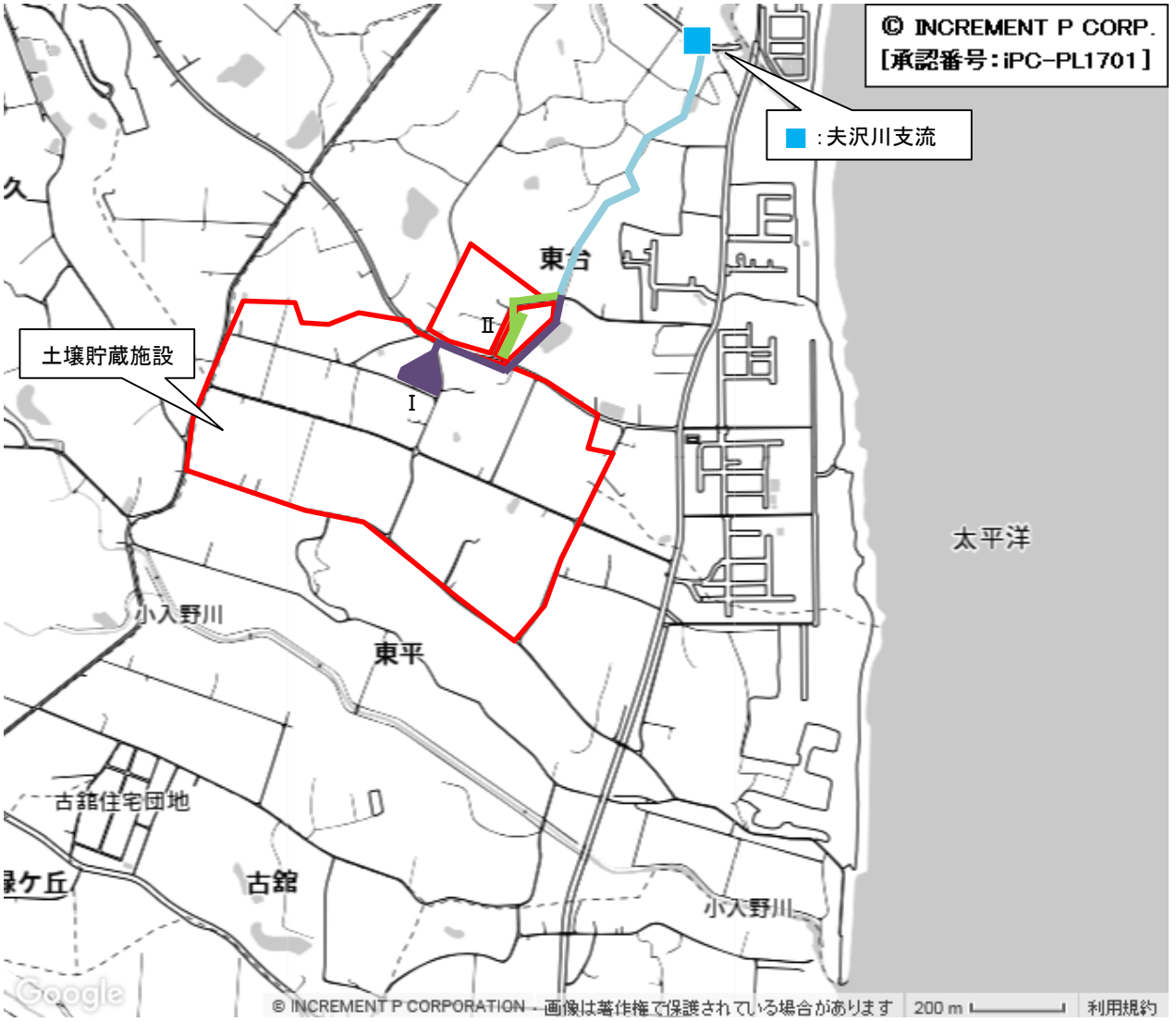


☆:施設の位置

【 凡例 】

- ◆ : 地下水（井戸）中の電気伝導率等
- ★ : 沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ★ : 空間線量率（作業環境）
- ★ : 表面汚染密度（貯蔵施設境界・壁）
- --- : 敷地境界線
- ● : 地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ■ : 放流先河川の放射能濃度
- ★ : 空気中の放射能濃度
- ★ : 表面汚染密度（設備）
- ◆ : 浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★ : 粉じん濃度
- ★ : 表面汚染密度（床）
- ★ : 表面汚染密度（重機）

土壌貯蔵施設（大熊②工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）②



凡例

■ ：河川水観測地点

— ：放流水の流路（浸出水処理施設Ⅰ）

— ：放流水の流路（浸出水処理施設Ⅱ）

土壌貯蔵施設（大熊②工区）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点 / 測定項目 / 測定日	上流 電気伝導率 (mS/m)	上流 塩化物イオン濃度 (mg/L)	下流① 電気伝導率 (mS/m)	下流① 塩化物イオン濃度 (mg/L)	下流② 電気伝導率 (mS/m)	下流② 塩化物イオン濃度 (mg/L)	下流③ 電気伝導率 (mS/m)	下流③ 塩化物イオン濃度 (mg/L)
2017/10/11（下流③） 2018/7/10,11（上流、下流①,②） （稼働前）	13	13	23	13	17	5.7	19	6.5
2020/4/2 ～2020/6/4 （稼働後）※	12	12	26	12	15	8.1	43	14

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度（週次測定）

測定地点 / 測定項目 / 測定日	上流 Cs-134 (Bq/L)	上流 Cs-137 (Bq/L)	下流① Cs-134 (Bq/L)	下流① Cs-137 (Bq/L)	下流② Cs-134 (Bq/L)	下流② Cs-137 (Bq/L)	下流③ Cs-134 (Bq/L)	下流③ Cs-137 (Bq/L)
2017/10/11（下流③） 2018/7/10,11（上流、下流①,②） （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
2020/4/2 ～2020/6/25 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日 / 測定項目	放射能濃度 (Bq/L)
集排水設備①	2018/7/5 （稼働前）	ND
	2020/4/23 ～2020/6/22 （稼働後）	ND
集排水設備②	2018/10/15 （稼働前）	ND
	2020/4/23 ～2020/6/22 （稼働後）	ND
集排水設備③	2019/6/26 （稼働前）	ND
	2020/4/23 ～2020/6/22 （稼働後）	ND
集排水設備④	2017/10/5 （稼働前）	ND
	2020/4/23 ～2020/6/22 （稼働後）	ND
集排水設備⑤	2020/5/28 （稼働前）	ND
	2020/6/22 （稼働後）	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定地点	測定日 / 測定項目	水素イオン濃度 (pH) 最小値	水素イオン濃度 (pH) 最大値	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
処理水I	2020/4/2 ～2020/6/4	7.9	8.1	0.8～1.4	13～18	ND～9
処理水Ⅱ	2020/4/2 ～2020/6/4	7.7	8.0	0.9～3.0	16～17	2～5

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD基準：90mg/L，SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）のNDとは、報告下限値（1mg/L）未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の放射能濃度（週次測定）

測定地点	測定日 / 測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
処理水I	2020/4/2 ～2020/6/25	ND	ND
処理水Ⅱ	2020/4/2 ～2020/6/25	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

測定地点	放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
処理水I	2020/4/1 ～2020/6/30	447	0.0	4.9	ND	12576.9
処理水Ⅱ	2020/4/1 ～2020/6/30	425	0.0	4.7	ND	11504.8

濁度管理値：5以下
放射性セシウム管理値：ND
NDとは、検出下限値（5.85Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定日	浮遊物質量 (SS) ※ (mg/L)
沈砂池I	2020/4/2 ～2020/6/4	10
沈砂池Ⅱ	2020/4/2 ～2020/6/4	9

SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L
※期間中の最大値を示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定日 / 測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2018/7/10 （稼働前）	ND	5.0
2020/4/3 ～2020/6/4 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2020/4/2 ～2020/6/18 粉じん濃度※ (mg/m^3)
ダンプアップテント（B区画）	0.5
フィルタープレステントI	0.2
フィルタープレステントⅡ	0.2
低濃度土壌中継ヤード	1.8
高濃度土壌中継ヤード	1.3
貯蔵エリア（B区画）	0.2
貯蔵エリア（D-2区画）	0.3
貯蔵エリア（E区画）	0.2
貯蔵エリア（F区画）	0.4
貯蔵エリア（H区画）	0.3

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2020/4/17 ～2020/6/9 空間線量率 (μSv/h) 最小値	最大値
ダンプアップテント（B区画）	0.23	0.28
フィルタープレステントI	0.22	0.23
フィルタープレステントⅡ	0.44	0.65
低濃度土壌中継ヤード	0.33	0.42
高濃度土壌中継ヤード	0.28	0.50
貯蔵エリア（B区画）	2.20	2.42
貯蔵エリア（D-2区画）	0.42	0.56
貯蔵エリア（E区画）	0.67	0.76
貯蔵エリア（F区画）	0.63	0.72
貯蔵エリア（H区画）	0.62	0.62

★空気中の放射能濃度

測定地点	2020/4/17～2020/6/9 Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
ダンプアップテント（B区画）	ND	ND
フィルタープレステントI	ND	ND
フィルタープレステントⅡ	ND	ND
低濃度土壌中継ヤード	ND	ND
高濃度土壌中継ヤード	ND	ND
貯蔵エリア（B区画）	ND	ND

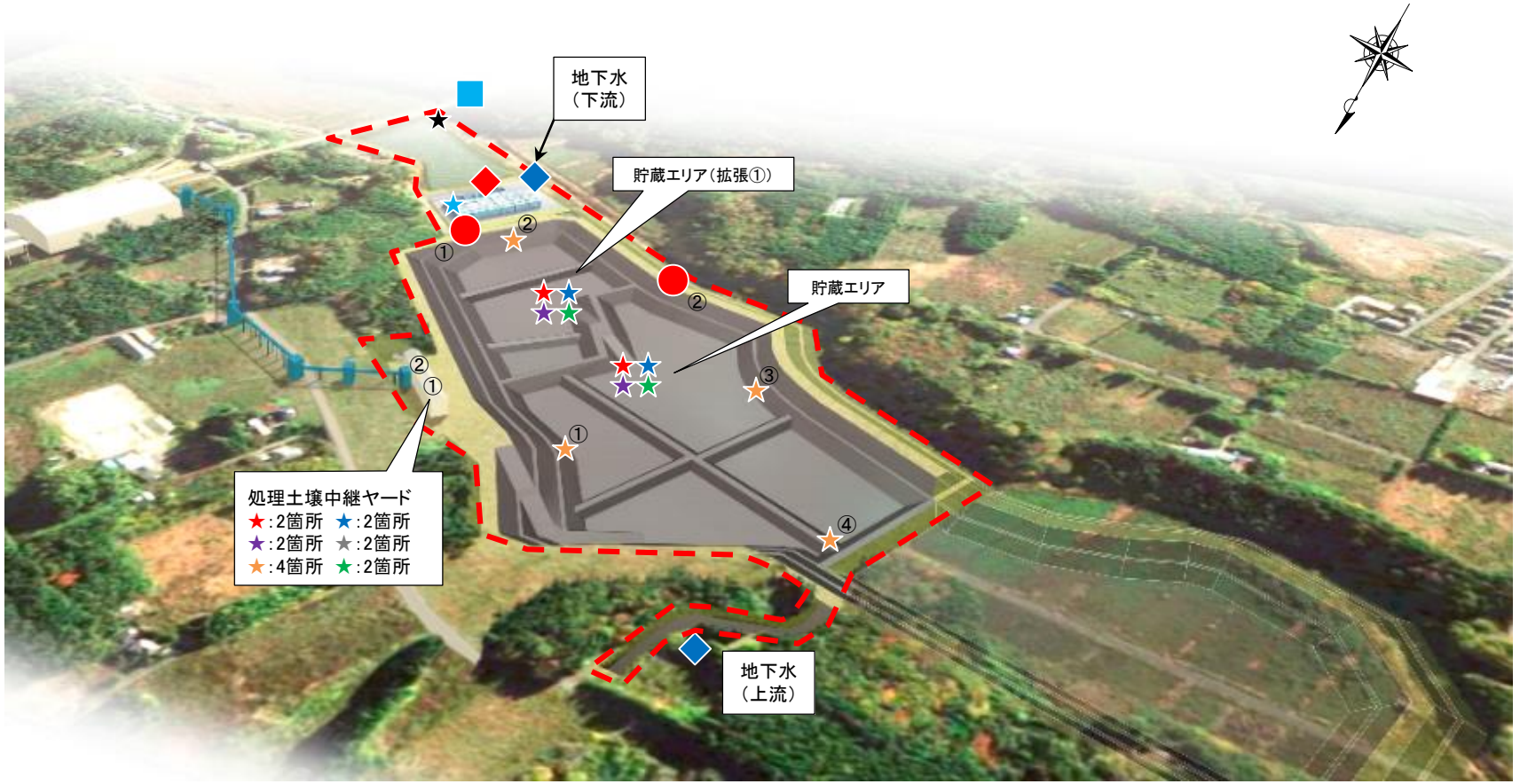
放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★貯蔵施設境界・壁、★設備、★重機）

測定地点			2020/4/17 ～2020/6/9 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
貯蔵施設境界		境界①	ND
		境界②	ND
		境界③	ND
		境界④	ND
ダンプアップテント（B区画）	床	B-①	ND
	壁	B-①	ND
		B-②	ND
		B-③	ND
		B-④	ND
	設備	ベルトコンベア	ND
フィルタープレステントI	床	I-①	ND
	壁	I-①	ND
		I-②	ND
		I-③	ND
		I-④	ND
	設備	フィルタープレスI	ND
フィルタープレステントⅡ	床	①	ND
	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	フィルタープレスⅡ	ND
低濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	ベルトコンベア出口	ND
	重機	バックホウ①	ND
		バックホウ②	ND
		ホイールローダー	ND
高濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	ベルトコンベア出口	ND
	重機	バックホウ①	ND
		ホイールローダー	ND
貯蔵エリア（B区画）	重機	バックホウB-①	ND
		バックホウB-②	ND
		ローラーB	ND
		ブルドーザーB-①	ND
		スクレープドーザーB①	ND
		スクレープドーザーB②	ND
貯蔵エリア（D-2区画）	重機	バックホウD2-①	ND
		バックホウD2-②	ND
		ローラーD2	ND
		ブルドーザーD2-①	ND
		スクレープドーザーD2	ND
		キャリアダンプD2	ND
貯蔵エリア（E区画）	重機	バックホウE-①	ND
		バックホウE-②	ND
		バックホウE-③	ND
		ブルドーザーE-①	ND
		ブルドーザーE-②	ND
		ブルドーザーE-③	ND
		ローラーE	ND
		キャリアダンプE	ND
貯蔵エリア（F区画）	重機	バックホウF-①	ND
		ブルドーザーF-①	ND
		キャリアダンプF	ND
貯蔵エリア（H区画）	重機	バックホウH-①	ND
		ブルドーザーH-①	ND
		ローラーH	ND

表面汚染密度検出下限値：0.14Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（大熊③工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）



☆:施設の位置

【 凡例 】

- ◆ : 地下水（井戸）中の電気伝導率等
- ★ : 沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ★ : 空間線量率（作業環境）
- ★ : 表面汚染密度（貯蔵施設境界・壁）
- --- : 敷地境界線
- ● : 地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ■ : 放流先河川の放射能濃度
- ★ : 空気中の放射能濃度
- ★ : 表面汚染密度（設備）
- ◆ : 浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★ : 粉じん濃度
- ★ : 表面汚染密度（床）
- ★ : 表面汚染密度（重機）

土壌貯蔵施設（大熊③工区）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	上流		下流	
測定項目 / 測定日	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
2018/9/18,25 （稼働前）	15	7.9	90	130
2020/4/2 ～2020/6/4 （稼働後）※	24	16	200	120

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度（週次測定）

測定地点	上流		下流	
測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2018/9/18,25 （稼働前）	ND	ND	ND	ND
2020/4/2 ～2020/6/25 （稼働後）	ND	ND	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定項目 / 測定日	放射能濃度 (Bq/L)
集排水設備①	2020/2/10 （稼働前）	ND
	2020/4/16 ～2020/6/18 （稼働後）	ND
集排水設備②	2018/9/27 （稼働前）	ND
	2020/4/16 ～2020/6/18 （稼働後）	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH) 最小値	水素イオン濃度 (pH) 最大値	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
2020/4/2 ～2020/6/3	7.2	7.9	ND～2.3	10～18	4～8

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD基準：90mg/L，SS基準：60mg/L
生物化学的酸素要求量（BOD）のNDとは、報告下限値（0.5mg/L）未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の放射能濃度（週次測定）

測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2020/4/2 ～2020/6/25	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
2020/4/1 ～2020/6/30	455	0.0	4.6	ND	19827.1

濁度管理値：5以下
放射性セシウム管理値：ND
NDとは、検出下限値（6.5Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定項目 / 測定日	浮遊物質量 (SS) ※ (mg/L)
2020/4/2 ～2020/6/3	10

SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L
※期間中の最大値を示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2018/9/18 （稼働前）	ND	1.2
2020/4/2 （稼働後）	ND	ND
2020/5/12 （稼働後）	ND	1.4
2020/6/3 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2020/4/1 ～2020/6/3 粉じん濃度※ (mg/m^3)
貯蔵エリア	0.6
貯蔵エリア（拡張①）	1.2
処理土壌中継ヤード①	1.3
処理土壌中継ヤード②	1.2

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2020/4/1 ～2020/6/3 空間線量率 (μSv/h) 最小値	最大値
貯蔵エリア	0.28	0.39
貯蔵エリア（拡張①）	0.33	0.50
処理土壌中継ヤード①	0.19	0.23
処理土壌中継ヤード②	0.19	0.25

★空気中の放射能濃度

測定地点	2020/4/1～2020/6/3 Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
貯蔵エリア	ND	ND
貯蔵エリア（拡張①）	ND	ND
処理土壌中継ヤード①	ND	ND
処理土壌中継ヤード②	ND	ND

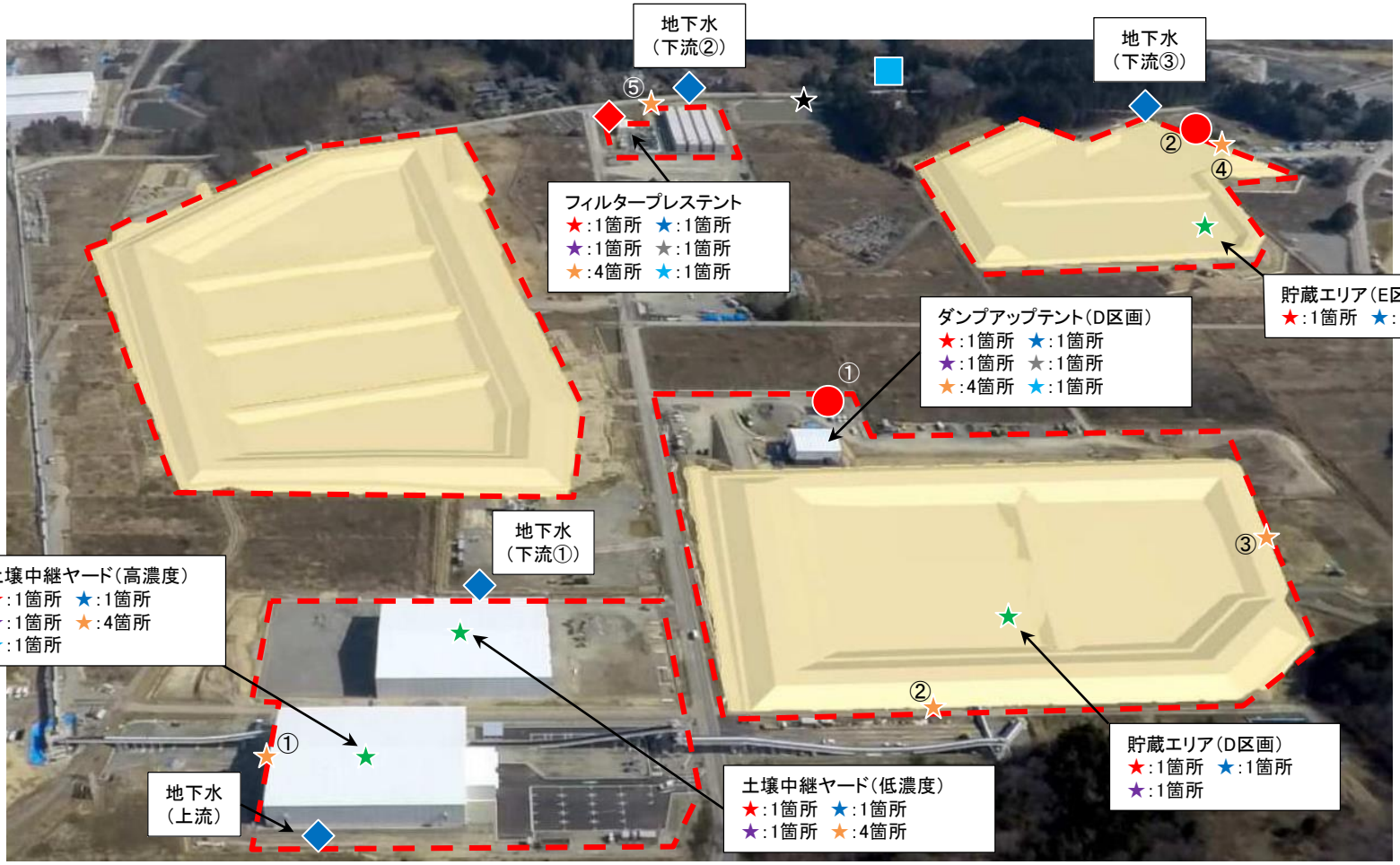
放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★貯蔵施設境界・壁、★設備、★重機）

測定地点			2020/4/1 ～2020/6/3 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
貯蔵施設境界		①北	ND
		②東	ND
		③南	ND
		④西	ND
処理土壌中継ヤード	床	①	ND
		②	ND
	壁	①北	ND
		②東	ND
		③南	ND
		④西	ND
	重機	ブルドーザー①	ND
		ブルドーザー②	ND
浸出水処理施設	設備	調整槽	ND
		濁水処理設備	ND
		脱水プラント	ND
貯蔵エリア	重機	ブルドーザー	ND
		バックホウ	ND
		タイヤローラー	ND
		振動ローラー	ND
貯蔵エリア（拡張①）	重機	ブルドーザー	ND
		バックホウ	ND
		タイヤローラー	ND
		振動ローラー	ND

表面汚染密度検出下限値：0.70Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（大熊④工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）



☆:施設の位置

【 凡例 】

- ◆ : 地下水（井戸）中の電気伝導率等
- ★ : 沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ★ : 空間線量率（作業環境）
- ★ : 表面汚染密度（貯蔵施設境界・壁）
- --- : 敷地境界線
- ● : 地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ■ : 放流先河川の放射能濃度
- ★ : 空気中の放射能濃度
- ★ : 表面汚染密度（設備）
- ◆ : 浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★ : 粉じん濃度
- ★ : 表面汚染密度（床）
- ★ : 表面汚染密度（重機）

土壌貯蔵施設（大熊④工区）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点 / 測定項目 / 測定日	上流 電気伝導率 (mS/m)	上流 塩化物イオン濃度 (mg/L)	下流① 電気伝導率 (mS/m)	下流① 塩化物イオン濃度 (mg/L)	下流② 電気伝導率 (mS/m)	下流② 塩化物イオン濃度 (mg/L)	下流③ 電気伝導率 (mS/m)	下流③ 塩化物イオン濃度 (mg/L)
2020/3/12 （稼働前）	37	17	24	21	57	12	24	21
2020/4/2 ～2020/6/4 （稼働後）※	40	16	29	21	53	11	36	25

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度（週次測定）

測定地点 / 測定項目 / 測定日	上流 Cs-134 (Bq/L)	上流 Cs-137 (Bq/L)	下流① Cs-134 (Bq/L)	下流① Cs-137 (Bq/L)	下流② Cs-134 (Bq/L)	下流② Cs-137 (Bq/L)	下流③ Cs-134 (Bq/L)	下流③ Cs-137 (Bq/L)
2020/3/12 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
2020/4/2 ～2020/6/25 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日		放射能濃度 (Bq/L)
集排水設備①	2020/3/24	（稼働前）	ND
	2020/4/23 ～2020/6/22	（稼働後）	ND
集排水設備②	2020/4/15	（稼働前）	ND
	2020/4/23 ～2020/6/22	（稼働後）	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定日 \ 測定項目	水素イオン濃度 (pH) 最小値	水素イオン濃度 (pH) 最大値	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
2020/4/3 ～2020/6/4	6.5	8.0	0.6～3.1	3.3～10	ND～4

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD基準：90mg/L，SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）のNDとは、報告下限値（1mg/L）未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の放射能濃度（週次測定）

測定日 \ 測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2020/4/3 ～2020/6/25	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m³)
2020/5/7 ～2020/6/30	245	0.0	4.5	ND	7115.3

濁度管理値：5以下
放射性セシウム管理値：ND
NDとは、検出下限値（5.85Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定日 \ 測定項目	浮遊物質量 (SS) ※ (mg/L)
2020/4/3 ～2020/6/4	21

SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L
※期間中の最大値を示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定日 \ 測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2020/3/12	（稼働前）	ND	ND
2020/4/3 ～2020/6/4	（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2020/4/1 ～2020/6/3 粉じん濃度※ (mg/m³)
フィルタープレステント	0.1
ダンプアップテント（D区画）	0.2
土壌中継ヤード（低濃度）	0.2
土壌中継ヤード（高濃度）	0.3
貯蔵エリア（D区画）	0.2
貯蔵エリア（E区画）	0.6

定量下限値：0.1mg/m³、高濃度粉じんの下限値：10mg/m³
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2020/4/22 ～2020/6/10 空間線量率 (μSv/h) 最小値	最大値
フィルタープレステント	0.38	0.45
ダンプアップテント（D区画）	0.35	0.42
土壌中継ヤード（低濃度）	0.30	0.38
土壌中継ヤード（高濃度）	0.38	0.48
貯蔵エリア（D区画）	1.77	1.96
貯蔵エリア（E区画）	0.96	1.75

★空気中の放射能濃度

測定地点	2020/4/22～2020/6/10 Cs-134 (Bq/cm³)	Cs-137 (Bq/cm³)
フィルタープレステント	ND	ND
ダンプアップテント（D区画）	ND	ND
土壌中継ヤード（低濃度）	ND	ND
土壌中継ヤード（高濃度）	ND	ND
貯蔵エリア（D区画）	ND	ND

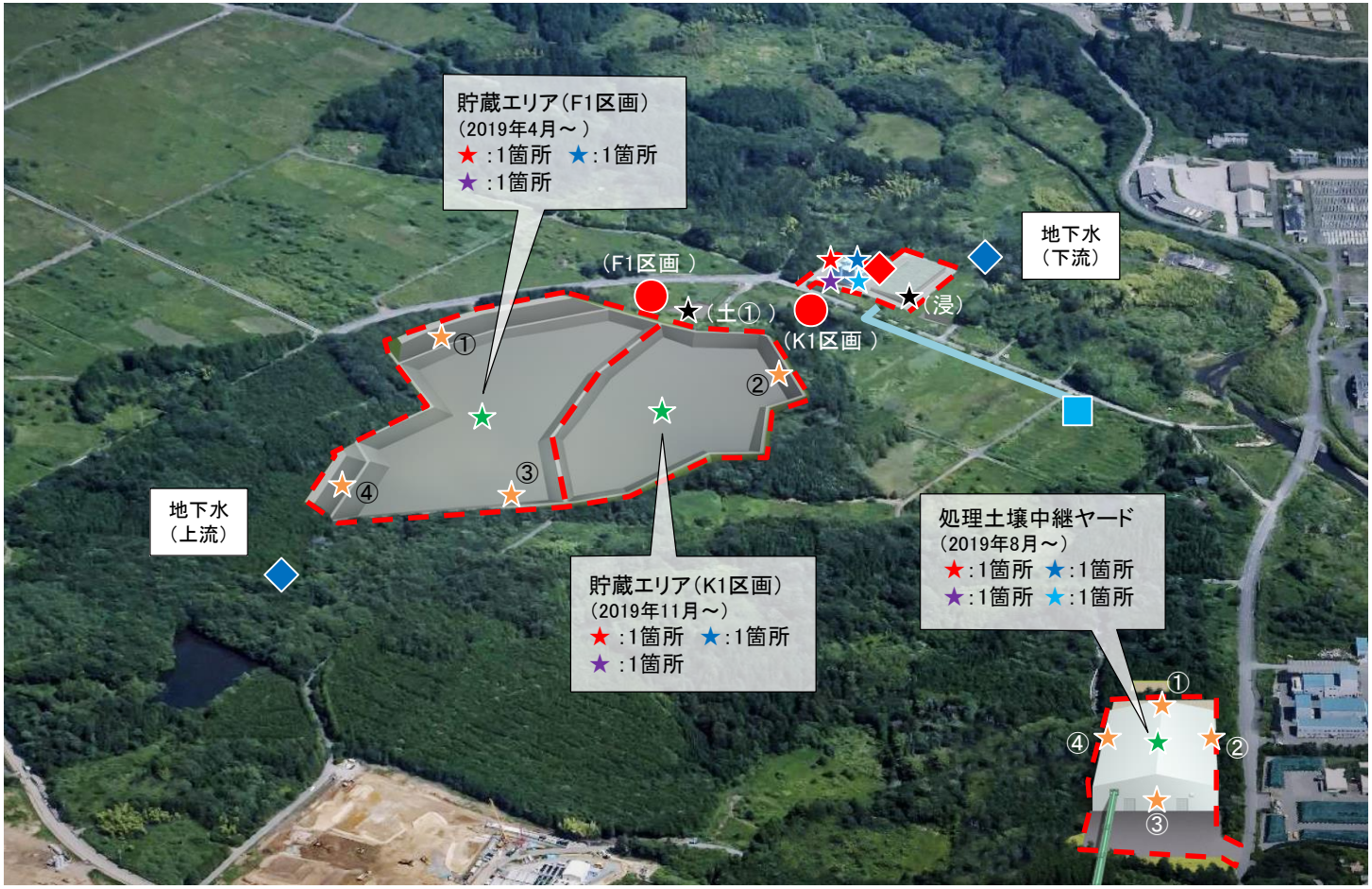
放射能濃度検出下限値：セシウム134：1.0×10^{-7}Bq/cm³，セシウム137：1.0×10^{-7}Bq/cm³
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm³]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★貯蔵施設境界・壁、★設備、★重機）

測定地点			2020/4/22 ～2020/6/10 表面汚染密度 (Bq/cm²)
貯蔵施設境界		境界①	ND
		境界②	ND
		境界③	ND
		境界④	ND
		境界⑤	ND
フィルタープレステント	床	①	ND
	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	フィルタープレス	ND
ダンプアップテント（D区画）	床	①	ND
	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	ベルトコンベア	ND
土壌中継ヤード（低濃度）	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	重機	バックホウ①	ND
		バックホウ②	ND
土壌中継ヤード（高濃度）	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	ベルトコンベア出口	ND
	重機	バックホウ①	ND
		ホイールローダー	ND
貯蔵エリア（D区画）	重機	ブルドーザーD①	ND
		ローラーD①	ND
		バックホウD①	ND
貯蔵エリア（E区画）	重機	バックホウE①	ND
		バックホウE②	ND
		バックホウE③	ND
		ブルドーザーE①	ND
		キャリアダンプE	ND
		ローラーE①	ND

表面汚染密度検出下限値：0.14Bq/cm²
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm²

土壌貯蔵施設（大熊⑤工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）



☆：施設の位置

【 凡例 】

- ◆：地下水（井戸）中の電気伝導率等
- ●：地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ◆：浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★：沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ■：放流先河川の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（貯蔵施設境界）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ★：表面汚染密度（重機）
- ---：敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊⑤工区）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点		上流		下流	
測定項目 / 測定日		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
2019/4/18	（稼働前）	21	11	33	14
2020/4/15 ～2020/6/11	（稼働後）※	9.1	11	44	29

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度（週次測定）

測定地点		上流		下流	
測定項目 / 測定日		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2019/4/18	（稼働前）	ND	ND	ND	ND
2020/4/2 ～2020/6/25	（稼働後）	ND	ND	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定項目 / 測定日		放射能濃度 (Bq/L)
貯蔵エリア（F1区画）	2019/4/18	（稼働前）	ND
	2020/4/16 ～2020/6/18	（稼働後）	ND
貯蔵エリア（K1区画）	2019/11/28	（稼働前）	ND
	2020/4/16 ～2020/6/18	（稼働後）	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH) 最小値	水素イオン濃度 (pH) 最大値	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
2020/4/15 ～2020/6/11	7.6	8.1	ND～1	20～34	2～3

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD基準：90mg/L，SS基準：60mg/L
生物化学的酸素要求量（BOD）のNDとは、報告下限値（1mg/L）未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の放射能濃度（週次測定）

測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2020/4/2 ～2020/6/25	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
2020/4/1 ～2020/6/30	345	0.0	2.0	ND	16636.8

濁度管理値：5以下
放射性セシウム管理値：ND
NDとは、検出下限値（6.5Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定項目 / 測定日	浮遊物質量 (SS) ※ (mg/L)
沈砂池（土①）	2020/4/15 ～2020/6/11	6
沈砂池（浸）	2020/4/15 ～2020/6/11	8

SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L
※期間中の最大値を示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定項目 / 測定日		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2019/4/18	（稼働前）	ND	ND
2020/4/15 ～2020/6/11	（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2020/4/15 ～2020/6/11 粉じん濃度※ (mg/m^3)
貯蔵エリア（F1区画）	0.8
貯蔵エリア（K1区画）	2.4
浸出水処理施設	0.4
処理土壌中継ヤード	3.3

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2020/4/14 ～2020/6/16 空間線量率 (μSv/h) 最小値	2020/4/14 ～2020/6/16 空間線量率 (μSv/h) 最大値
貯蔵エリア（F1区画）	0.90	1.30
貯蔵エリア（K1区画）	1.13	1.48
浸出水処理施設	0.45	0.51
処理土壌中継ヤード	0.50	0.56

★空気中の放射能濃度

測定地点	2020/4/15～2020/6/11 Cs-134 (Bq/cm^3)	2020/4/15～2020/6/11 Cs-137 (Bq/cm^3)
貯蔵エリア（F1区画）	ND	ND
貯蔵エリア（K1区画）	ND	ND
浸出水処理施設	ND	ND
処理土壌中継ヤード	ND	ND

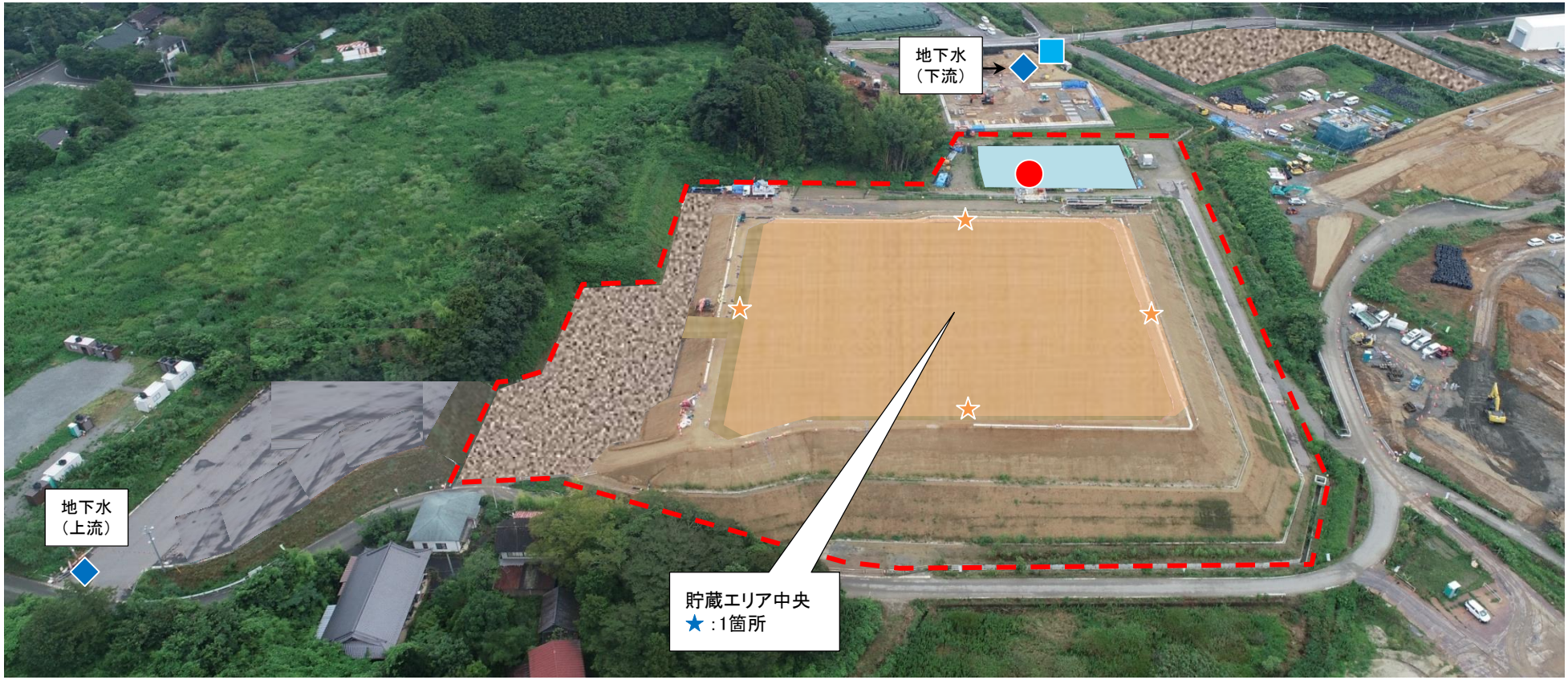
放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★貯蔵施設境界、★設備、★重機）

測定地点			2020/4/14 ～2020/6/18 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
貯蔵施設境界		境界①	ND
		境界②	ND
		境界③	ND
		境界④	ND
浸出水処理施設	設備	濁水処理装置	ND
処理土壌中継ヤード	境界	境界①	ND
		境界②	ND
		境界③	ND
		境界④	ND
	設備	集じん機	ND
	重機	バックホウA	ND
貯蔵エリア（F1区画）	重機	バックホウA-①	ND
		バックホウA-②	ND
		ローラーA	ND
		ブルドーザーA-②	ND
貯蔵エリア（K1区画）	重機	バックホウB-①	ND
		ローラーB	ND
		ブルドーザーB	ND

表面汚染密度検出下限値：0.80Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（双葉①工区東側）のモニタリング測定地点（月次測定等）



☆：施設の位置

【 凡例 】

- ◆：地下水（井戸）中の放射能濃度等
- ●：地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ■：放流先河川の放射能濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：表面汚染密度（貯蔵施設境界）
- ---：敷地境界線

土壌貯蔵施設（双葉①工区東側）のモニタリング測定結果（月次測定等）

♦地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点		上流		下流	
測定日 ＼ 測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
2017/11/23	（稼働前）	13	21	17	9.4
2020/4/2 ～2020/6/4	（稼働後）※	17	19	20	9.4

※期間中の最大値を示す。

♦地下水（井戸）中の放射能濃度

測定地点		上流		下流	
測定日 ＼ 測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2017/11/23	（稼働前）	ND	ND	ND	ND
2020/4/2 ～2020/6/4	（稼働後）	ND	ND	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定日 ＼ 測定項目		放射能濃度 (Bq/L)
2017/12/7	（稼働前）	ND
2020/4/9 ～2020/6/11	（稼働後）	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

♦浸出水処理施設放流水の環境項目

貯蔵作業が終了したため測定なし。

♦浸出水処理施設放流水の放射能濃度（週次測定）

貯蔵作業が終了したため測定なし。

♦浸出水処理施設放流水の自動測定結果

貯蔵作業が終了したため測定なし。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

貯蔵作業が終了したため測定なし。

■放流先河川の放射能濃度

測定日 ＼ 測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2017/11/2	（稼働前）	ND	ND
2020/4/2 ～2020/6/4	（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

貯蔵作業が終了したため測定なし。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2020/4/27 ～2020/6/15 空間線量率 (μSv/h)	
	最小値	最大値
貯蔵エリア中央	0.13	0.15

★空気中の放射能濃度

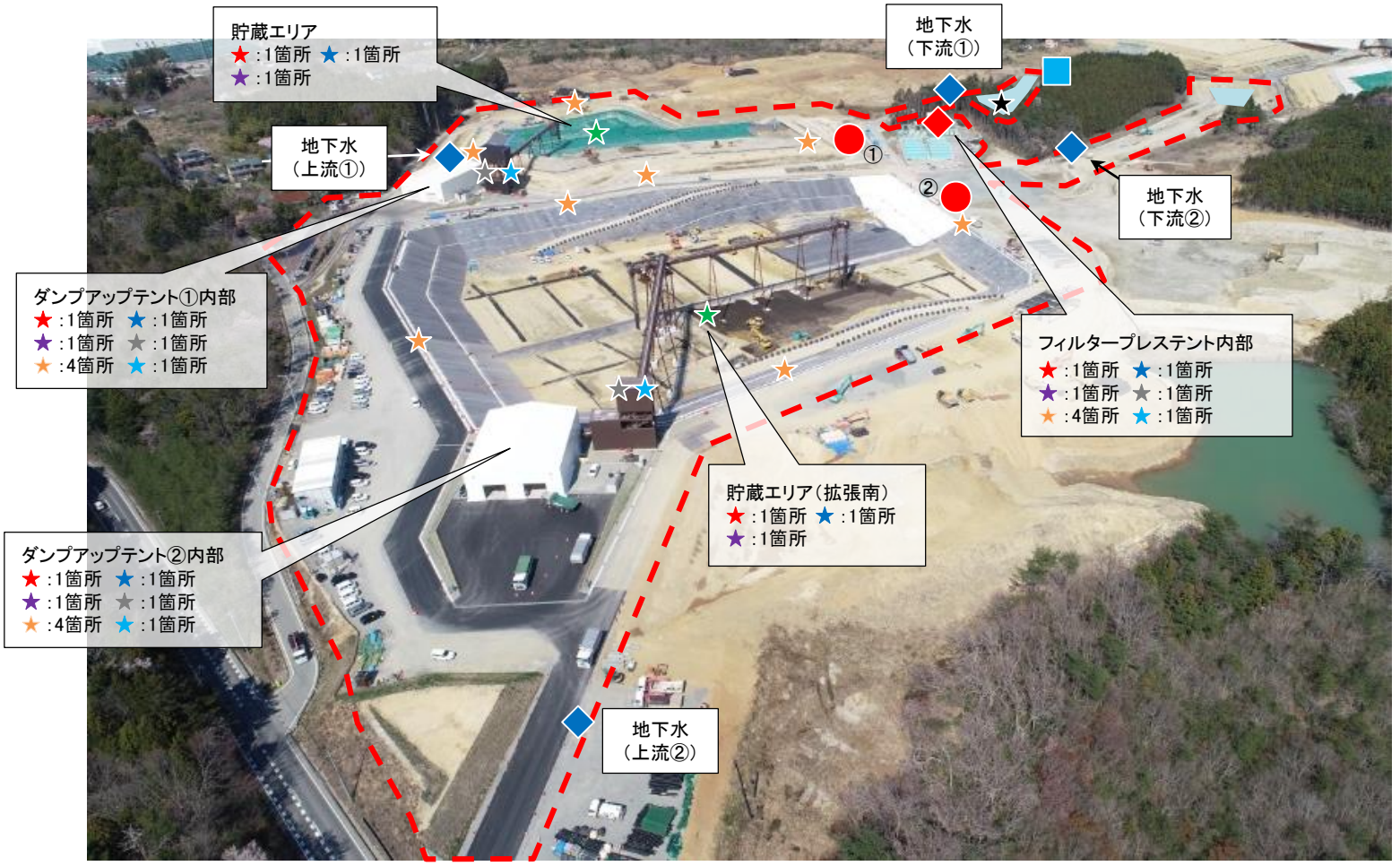
貯蔵作業が終了したため測定なし。

表面汚染密度（★貯蔵施設境界）

測定地点		2020/4/28 ～2020/6/27 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
貯蔵施設境界	境界東	ND
	境界西	ND
	境界南	ND
	境界北	ND

表面汚染密度検出下限値：0.67Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（双葉①工区西側）のモニタリング測定地点（月次測定等）



☆:施設の位置

【 凡例 】

- ◆ : 地下水（井戸）中の電気伝導率等
- ● : 地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ◆ : 浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★ : 沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ■ : 放流先河川の放射能濃度
- ★ : 粉じん濃度
- ★ : 空間線量率（作業環境）
- ★ : 空気中の放射能濃度
- ★ : 表面汚染密度（床、ベルトコンベア直下）
- ★ : 表面汚染密度（貯蔵エリア境界・壁）
- ★ : 表面汚染密度（設備、ベルトコンベア）
- ★ : 表面汚染密度（重機）
- --- : 敷地境界線

土壌貯蔵施設（双葉①工区西側）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点		上流①		上流②		下流①		下流②	
測定日 ＼ 測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
2018/9/10（上流①、下流①） 2020/3/25（上流②、下流②）	（稼働前）	100	6.8	19	13	19	11	83	9.6
2020/4/1 ～2020/6/4	（稼働後）※	61	13	23	12	17	10	14	8.3

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度（週次測定）

測定地点		上流①		上流②		下流①		下流②	
測定日 ＼ 測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2018/9/10（上流①、下流①） 2020/3/25（上流②、下流②）	（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
2020/4/1 ～2020/6/25	（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日 ＼ 測定項目		放射能濃度 (Bq/L)
集排水設備①	2018/9/10	（稼働前）	ND
	2020/4/9 ～2020/6/10	（稼働後）	ND
集排水設備②	2020/3/31	（稼働前）	ND
	2020/4/9 ～2020/6/10	（稼働後）	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定日 ＼ 測定項目	水素イオン濃度 (pH) 最小値	水素イオン濃度 (pH) 最大値	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
2020/4/1 ～2020/6/4	7.8	8.2	1.4～22	42～55	ND～4

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD基準：90mg/L，SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）のNDとは、報告下限値（1mg/L）未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の放射能濃度（週次測定）

測定日 ＼ 測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2020/4/1 ～2020/6/25	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
2020/4/1 ～2020/6/30	153	0.0	1.7	ND	5353

濁度管理値：5以下
放射性セシウム管理値：ND
NDとは、検出下限値（6.5Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定日 ＼ 測定項目	浮遊物質量 (SS) ※ (mg/L)
2020/4/1 ～2020/6/4	8

SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L
※期間中の最大値を示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定日 ＼ 測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2018/9/3	（稼働前）	ND	ND
2020/4/1 ～2020/6/4	（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2020/4/9 ～2020/6/11 粉じん濃度※ (mg/m^3)
ダンプアップテント①	0.3
ダンプアップテント②	2.2
フィルタープレステント	0.2
貯蔵エリア	1.0
貯蔵エリア（拡張南）	0.5

定量下限値：0.1mg/m^3，高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2020/4/9 ～2020/6/11 空間線量率 (μSv/h) 最小値	最大値
ダンプアップテント①	0.30	0.35
ダンプアップテント②	0.16	0.21
フィルタープレステント	0.21	0.25
貯蔵エリア	1.63	1.78
貯蔵エリア（拡張南）	0.31	0.50

★空気中の放射能濃度

測定地点	2020/4/9～2020/6/11 Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
ダンプアップテント①	ND	ND
ダンプアップテント②	ND	ND
フィルタープレステント	ND	ND
貯蔵エリア	ND	ND
貯蔵エリア（拡張南）	ND	ND

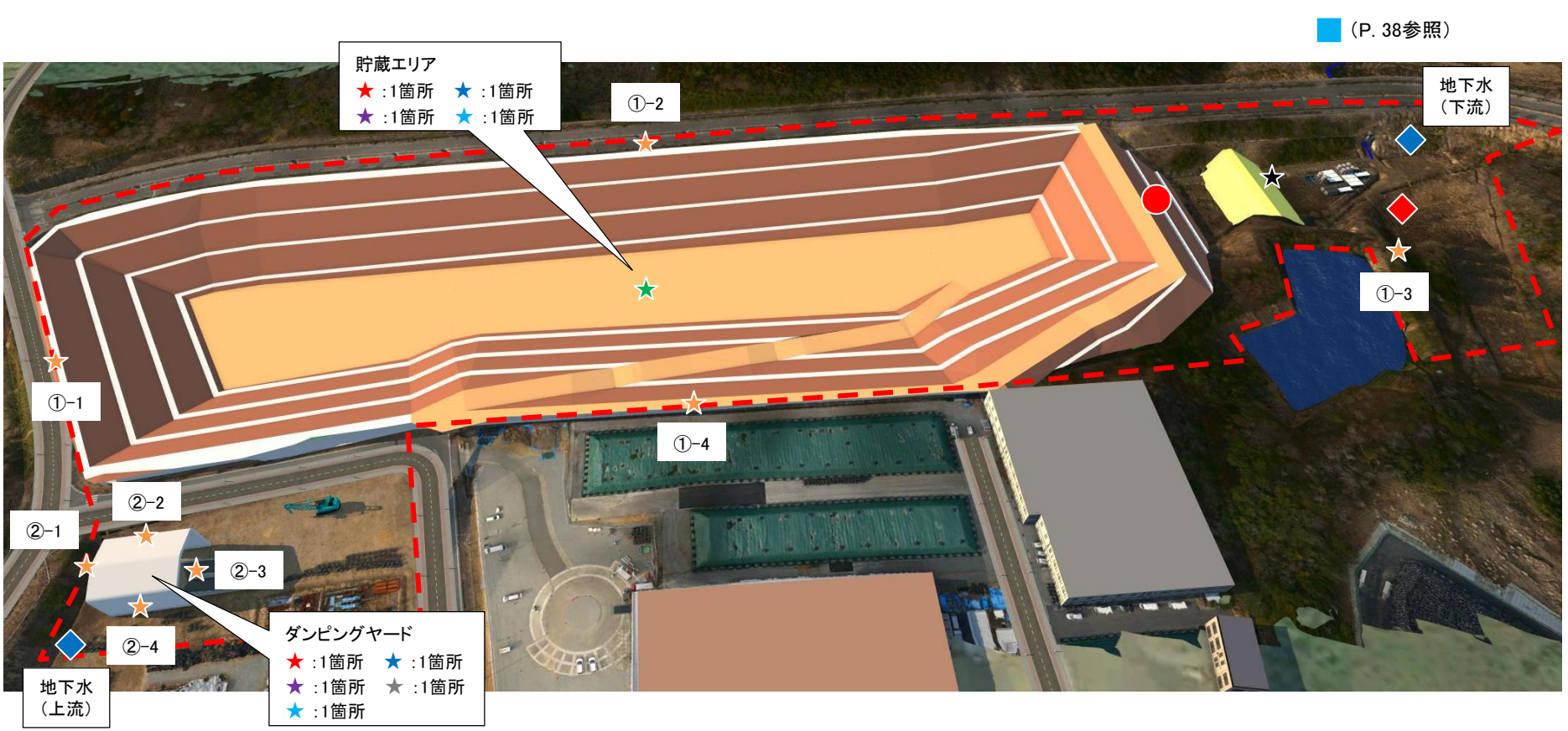
放射能濃度検出下限値：セシウム134：$3.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$3.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★貯蔵エリア・壁、★設備、★重機）

測定地点		2020/4/6 ～2020/6/27 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
ダンプアップテント①	床	ND
	東側（壁）	ND
	西側（壁）	ND
	南側（壁）	ND
	北側（壁）	ND
	設備	ND
ダンプアップテント②	床	ND
	東側（壁）	ND
	西側（壁）	ND
	南側（壁）	ND
	北側（壁）	ND
	設備	ND
フィルタープレステント	床	ND
	東側（壁）	ND
	西側（壁）	ND
	南側（壁）	ND
	北側（壁）	ND
	設備	ND
貯蔵エリア	床（ベルトコンベア直下）	ND
	境界（東側）	ND
	境界（西側）	ND
	境界（南側）	ND
	境界（北側）	ND
	設備（ベルトコンベア）	ND
	重機	ND
貯蔵エリア（拡張南）	床（ベルトコンベア直下）	ND
	境界（東側）	ND
	境界（西側）	ND
	境界（南側）	ND
	境界（北側）	ND
	設備（ベルトコンベア）	ND
	重機	ND

表面汚染密度検出下限値：0.67Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（双葉②工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）①

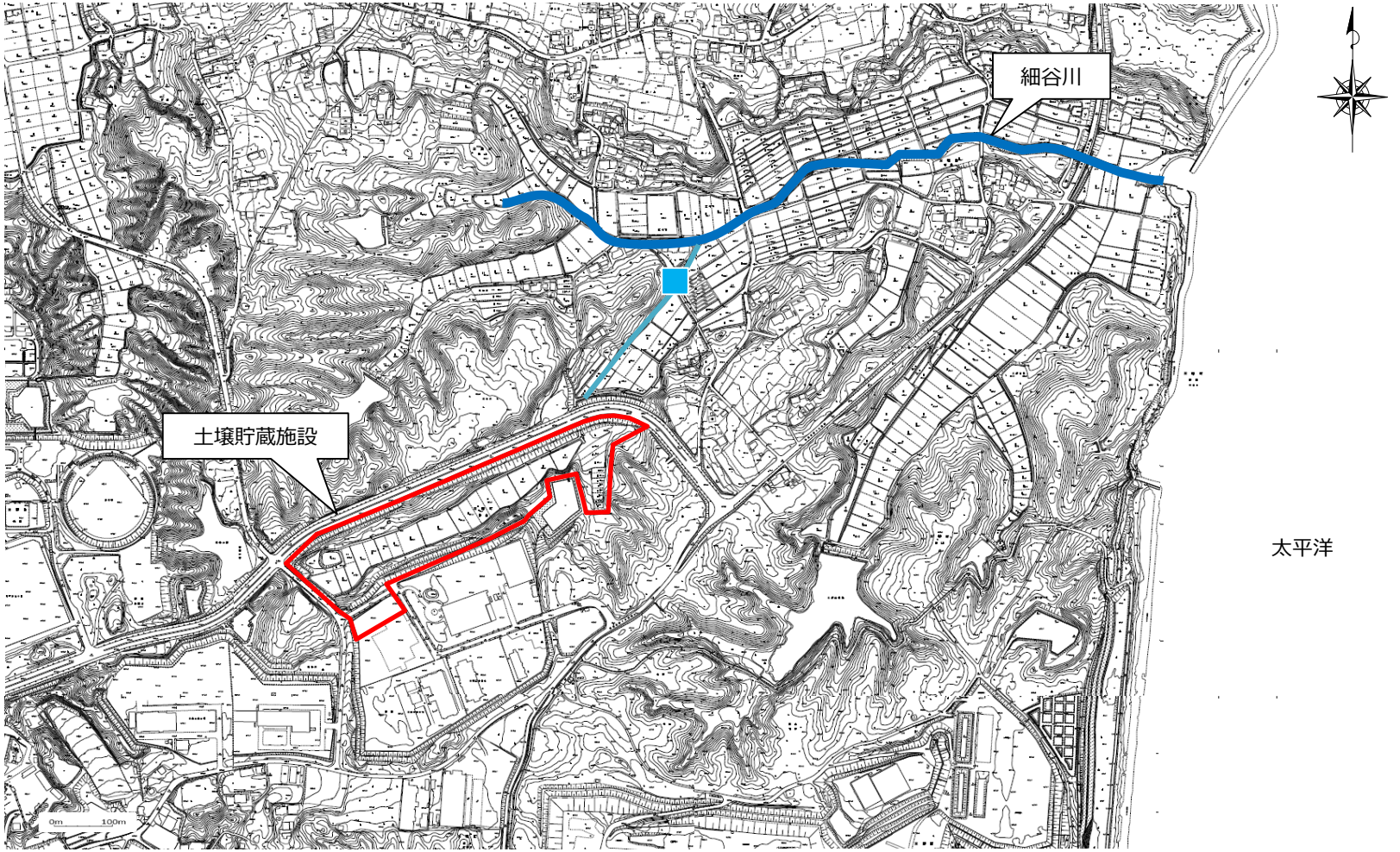


☆：施設の位置

【 凡例 】

- ◆：地下水（井戸）中の電気伝導率等
- ★：沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：表面汚染密度（貯蔵施設境界・壁）
- ---：敷地境界線
- ●：地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ■：放流先河川の放射能濃度
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（設備）
- ◆：浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★：粉じん濃度
- ★：表面汚染密度（床）
- ★：表面汚染密度（重機）

土壌貯蔵施設（双葉②工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）②



凡例

■ :河川水観測地点

土壌貯蔵施設（双葉②工区）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点 / 測定項目 / 測定日	上流 電気伝導率 (mS/m)	上流 塩化物イオン濃度 (mg/L)	下流 電気伝導率 (mS/m)	下流 塩化物イオン濃度 (mg/L)
2019/5/8 （稼働前）	61	8	18	10
2020/4/2 ～2020/6/5 （稼働後）※	100	10	24	12

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度（週次測定）

測定地点 / 測定項目 / 測定日	上流 Cs-134 (Bq/L)	上流 Cs-137 (Bq/L)	下流 Cs-134 (Bq/L)	下流 Cs-137 (Bq/L)
2019/5/8 （稼働前）	ND	ND	ND	ND
2020/4/2 ～2020/6/25 （稼働後）	ND	ND	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定項目 / 測定日	放射能濃度 (Bq/L)
2019/5/21 （稼働前）	ND
2020/4/2 ～2020/6/5 （稼働後）	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH) 最小値	水素イオン濃度 (pH) 最大値	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
2020/4/2 ～2020/6/5	7.5	8.1	1～2	18～34	ND～4

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD基準：90mg/L，SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）のNDとは、報告下限値（1mg/L）未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の放射能濃度（週次測定）

測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2020/4/2 ～2020/6/25	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
2020/4/1 ～2020/6/30	247	0.0	0.0	ND	7047.7

濁度管理値：5以下
放射性セシウム管理値：ND
NDとは、検出下限値（6.5Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定項目 / 測定日	浮遊物質量 (SS) ※ (mg/L)
2020/4/2 ～2020/6/5	10

SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L
※期間中の最大値を示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2019/4/24 （稼働前）	ND	ND
2020/4/2 ～2020/6/5 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2020/4/2 ～2020/6/5 粉じん濃度※ (mg/m^3)
ダンピングヤード	0.4
貯蔵エリア	0.5

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2020/4/2 ～2020/6/5 空間線量率 (μSv/h) 最小値	最大値
ダンピングヤード	0.31	0.33
貯蔵エリア	0.59	0.74

★空気中の放射能濃度

測定地点	2020/4/2～2020/6/5 Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
ダンピングヤード	ND	ND
貯蔵エリア	ND	ND

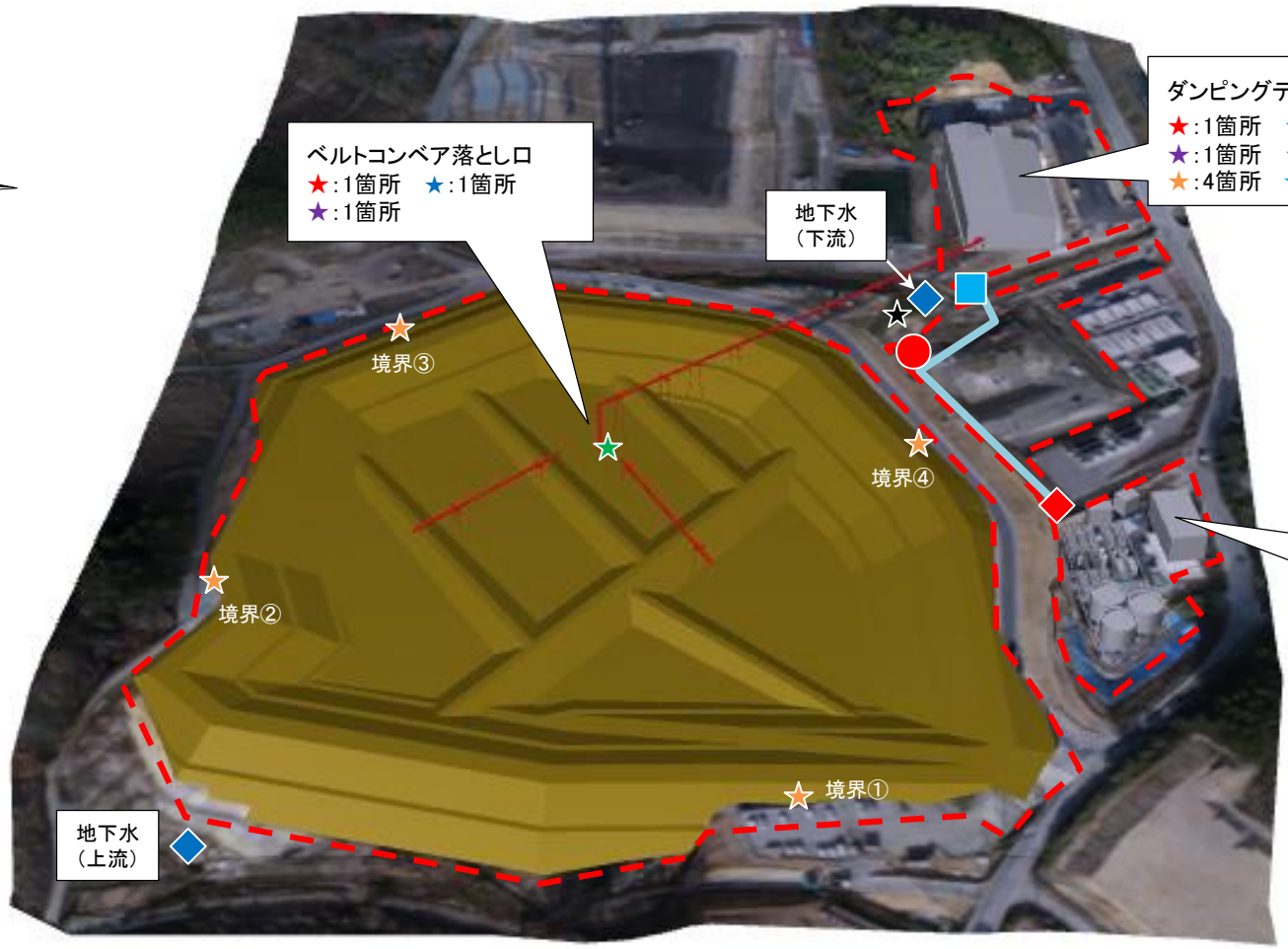
放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}$$Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}$$Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}＋セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★貯蔵施設境界・壁、★設備、★重機）

測定地点			2020/4/2 ～2020/6/5 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
貯蔵施設境界		①-1	ND
		①-2	ND
		①-3	ND
		①-4	ND
ダンピングヤード	壁	②-1	ND
		②-2	ND
		②-3	ND
		②-4	ND
	床		ND
	設備	トラックホッパー	ND
貯蔵エリア	設備	法面ベルトコンベア	ND
	重機	バックホウ	ND
		ブルドーザー	ND

表面汚染密度検出下限値： 0.70 Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（双葉③工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）



【 凡例 】

- ◆ : 地下水（井戸）中の電気伝導率等
- ★ : 沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ★ : 空間線量率（作業環境）
- ★ : 表面汚染密度（貯蔵エリア境界・壁）
- ---: 敷地境界線
- ● : 地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ■ : 放流先河川の放射能濃度
- ★ : 空気中の放射能濃度
- ★ : 表面汚染密度（設備）
- ◆ : 浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★ : 粉じん濃度
- ★ : 表面汚染密度（床）
- ★ : 表面汚染密度（重機）

☆:施設の位置

土壌貯蔵施設（双葉③工区）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	上流		下流	
測定項目 / 測定日	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
2019/12/24 （稼働前）	18	8.1	22	7.8
2020/4/16 ～2020/6/16 （稼働後）※	27	9.8	23	9.1

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度（週次測定）

測定地点	上流		下流	
測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2019/12/24 （稼働前）	ND	ND	ND	ND
2020/4/6 ～2020/6/29 （稼働後）	ND	ND	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定項目 / 測定日	放射能濃度 (Bq/L)
2019/12/20 （稼働前）	ND
2020/4/27 ～2020/6/18 （稼働後）	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH) 最小値	水素イオン濃度 (pH) 最大値	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
2020/4/16 ～2020/6/18	7.3	7.5	2.1～4.1	9.6～29	2～7

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD基準：90mg/L，SS基準：60mg/L

◆浸出水処理施設放流水の放射能濃度（週次測定）

測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2020/4/6 ～2020/6/29	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
2020/4/2 ～2020/6/30	252	0.0	3.5	ND	6120

濁度管理値：5以下
放射性セシウム管理値：ND
NDとは、検出下限値（6.5Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定項目 / 測定日	浮遊物質量 (SS) ※ (mg/L)
2020/4/3 ～2020/6/16	12

SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L
※期間中の最大値を示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2019/12/17 （稼働前）	ND	ND
2020/4/16 ～2020/6/16 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2020/4/7 ～2020/6/4 粉じん濃度※ (mg/m^3)
ダンピングテント	0.5
フィルタープレステント	0.3
ベルトコンベア落とし口	0.2

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2020/4/1 ～2020/6/30 空間線量率 (μSv/h) 最小値	最大値
ダンピングテント	0.18	0.25
フィルタープレステント	0.14	0.19
ベルトコンベア落とし口	1.12	1.48

★空気中の放射能濃度

測定地点	2020/4/7～2020/6/4 Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
ダンピングテント	ND	ND
フィルタープレステント	ND	ND
ベルトコンベア落とし口	ND	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}$$Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}$$Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

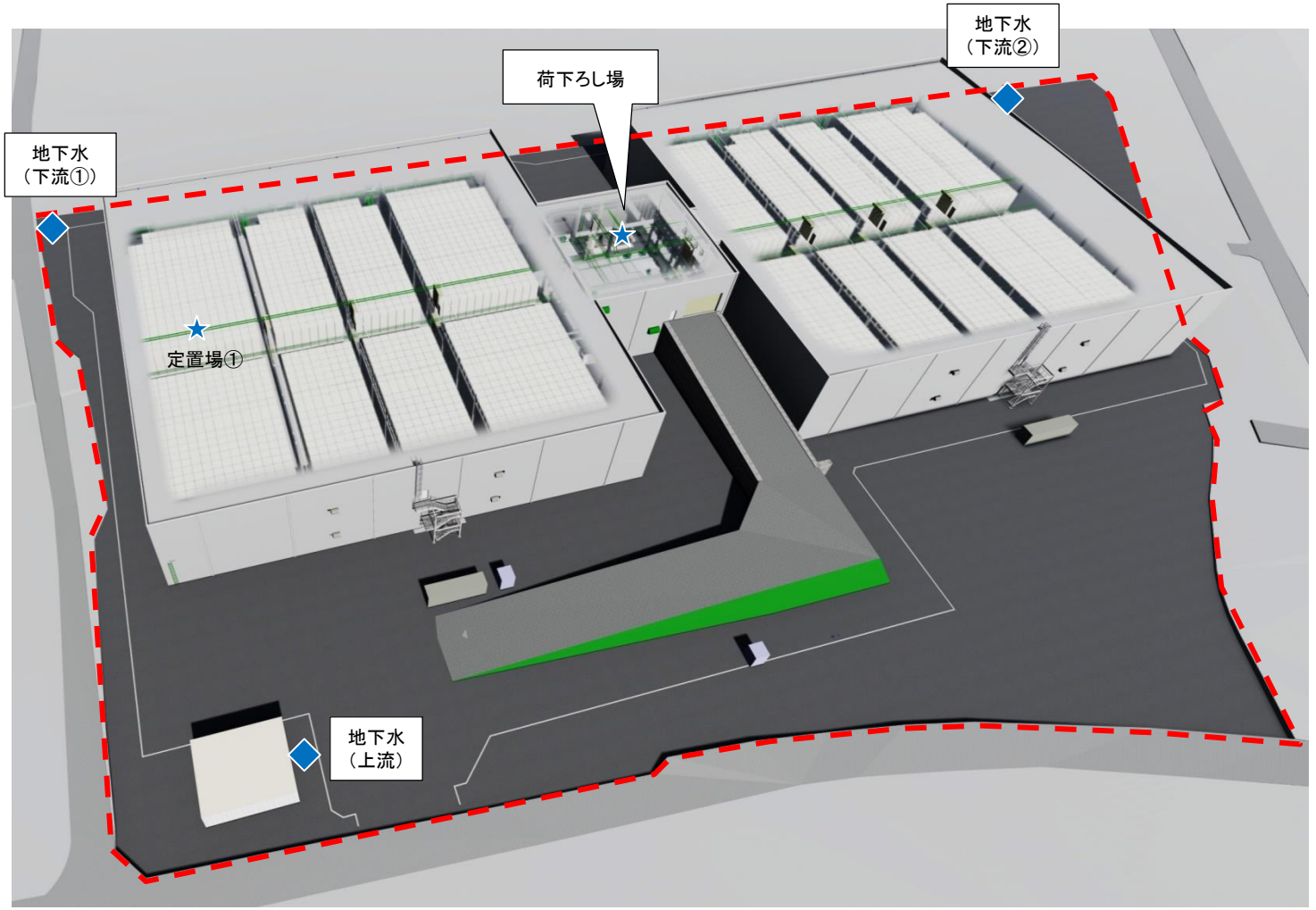
表面汚染密度（★床、★貯蔵施設境界・壁、★設備、★重機）

測定地点			2020/4/24 ～2020/6/27 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
貯蔵施設境界（西側）		境界①	ND
		境界②	ND
		境界③	ND
		境界④	ND
ダンピングテント	壁	北側	ND
		東側	ND
		南側	ND
		西側	ND
	床		ND
	設備	ベルトコンベア	ND
フィルタープレステント	壁	北側	ND
		東側	ND
		南側	ND
		西側	ND
	床		ND
	設備	フィルタープレス	ND
ベルトコンベア落とし口	重機	ブルドーザー	ND
		バックホウ	ND
		振動ローラー	ND

表面汚染密度検出下限値： 0.41 Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

廃棄物貯蔵施設のモニタリング結果（月次測定）

廃棄物貯蔵施設（大熊1工区）のモニタリング測定地点（月次測定）



★:施設の位置

【 凡例 】

◆ ：地下水中の放射能濃度等　　★ ：空間線量率（作業環境）　　--- ：敷地境界線

廃棄物貯蔵施設（大熊1工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点		上流		下流①		下流②	
測定項目 / 測定日		電気伝導率（mS/m）	塩化物イオン濃度（mg/L）	電気伝導率（mS/m）	塩化物イオン濃度（mg/L）	電気伝導率（mS/m）	塩化物イオン濃度（mg/L）
2020/3/31	（稼働前）	30	ND	28	ND	15	ND
2020/4/28～2020/6/4	（稼働後）※	23	6.6	29	9.6	15	26.5

塩化物イオン濃度報告下限値：（稼働前）100mg/L 、（稼働後）0.1mg/L
NDとは、塩化物イオン濃度が検出下限値未満であることを示す。
※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度

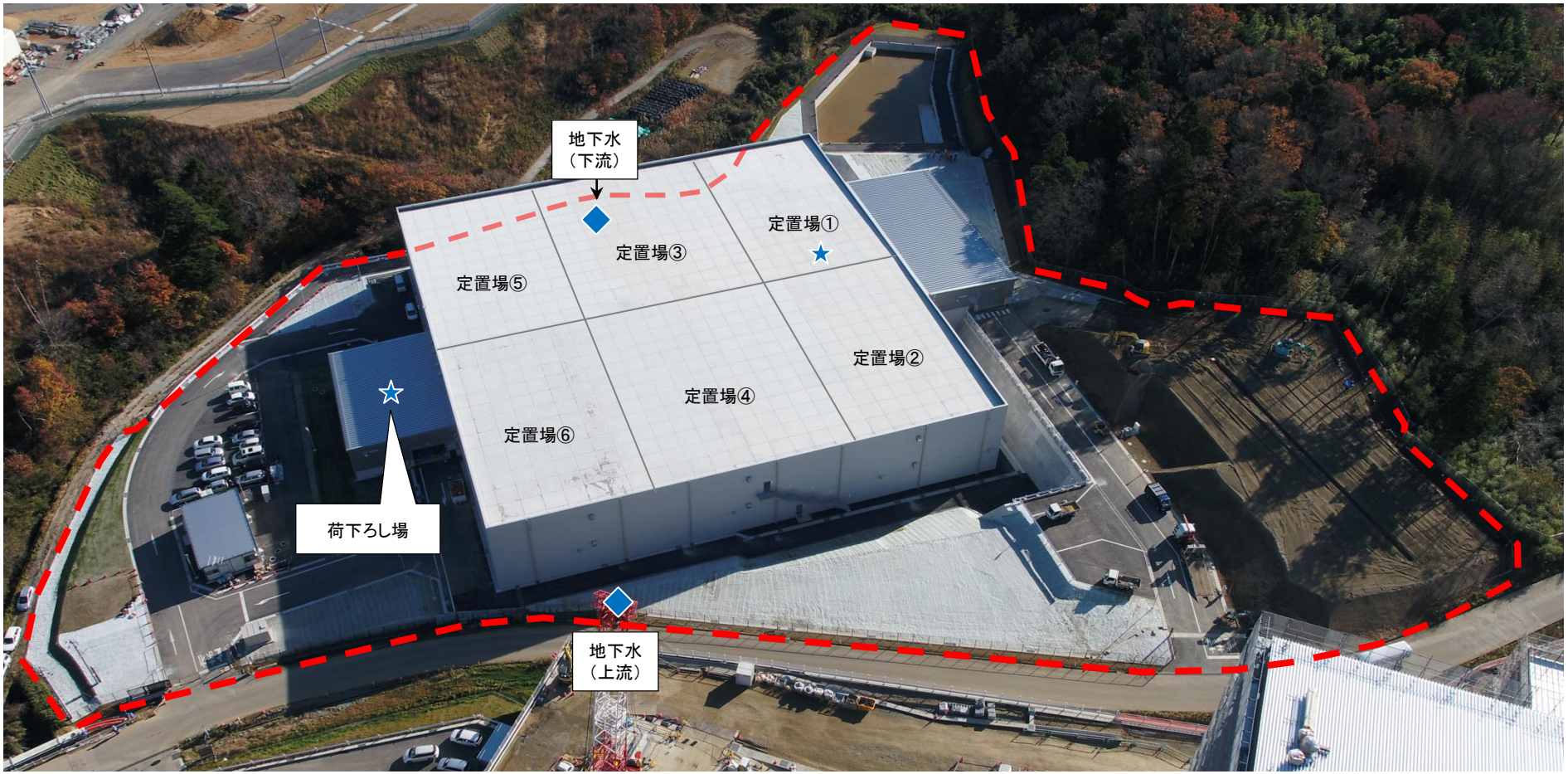
測定地点		上流		下流①		下流②	
測定項目 / 測定日		Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
2020/3/9,12	（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND
2020/4/28～2020/6/4	（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2020/4/28～2020/6/5 空間線量率（μSv/h）	
	最小値	最大値
定置場① 1階	0.06	0.16
荷下ろし場	0.09	0.11

廃棄物貯蔵施設（双葉1工区）のモニタリング測定地点（月次測定）



★:施設の位置

【 凡例 】

◆ ： 地下水中の放射能濃度等　　★ ： 空間線量率（作業環境）　　--- ： 敷地境界線

廃棄物貯蔵施設（双葉1工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点		上流		下流	
測定項目 / 測定日		電気伝導率（mS/m）	塩化物イオン濃度（mg/L）	電気伝導率（mS/m）	塩化物イオン濃度（mg/L）
2020/3/2	（稼働前）	16	7.3	21	12
2020/4/17～2020/6/15	（稼働後）※	15	7.1	26	7.9

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度

測定地点		上流		下流	
測定項目 / 測定日		Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
2020/3/2	（稼働前）	ND	ND	ND	ND
2020/4/2～2020/6/4	（稼働後）	ND	ND	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

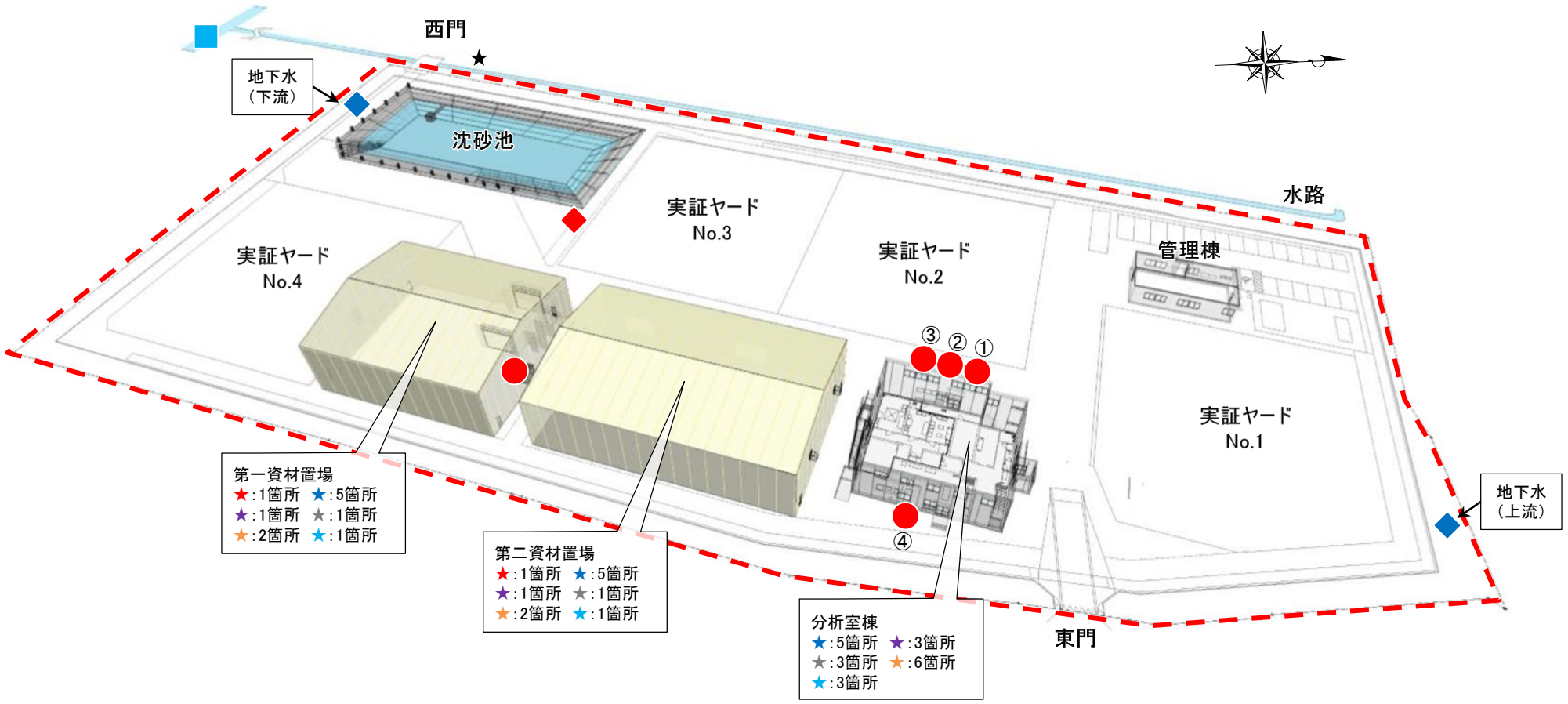
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2020/4/10～2020/6/30 空間線量率（μSv/h）	
	最小値	最大値
定置場① 1階	0.24	0.70
荷下ろし場	0.15	0.17

技術実証フィールドのモニタリング結果（月次測定等）

技術実証フィールドのモニタリング測定地点（月次測定等）



☆:施設の位置

【 凡例 】

- ◆ : 地下水中の放射能濃度等
- ● : 排気中の放射能濃度
- ◆ : 浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★ : 沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ■ : 放流先河川の放射能濃度
- ★ : 粉じん濃度
- ★ : 空間線量率（作業環境）
- ★ : 空気中の放射能濃度
- ★ : 表面汚染密度（床）
- ★ : 表面汚染密度（壁）
- ★ : 表面汚染密度（設備）
- --- : 敷地境界線

技術実証フィールドのモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点 / 測定項目 / 測定日	上流 電気伝導率 (mS/m)	上流 塩化物イオン濃度 (mg/L)	下流 電気伝導率 (mS/m)	下流 塩化物イオン濃度 (mg/L)
2019/9/6 （稼働前）	27	8.0	14	8.0
2020/4/2 ～2020/6/4 （稼働後）※	20	8.5	16	11

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度（週次測定）

測定地点 / 測定項目 / 測定日	上流 Cs-134 (Bq/L)	上流 Cs-137 (Bq/L)	下流 Cs-134 (Bq/L)	下流 Cs-137 (Bq/L)
2019/9/6 （稼働前）	ND	ND	ND	ND
2020/4/2 ～2020/6/4 （稼働後）	ND	ND	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●排気中の放射能濃度

測定地点		測定対象	2020/4/24 ～2020/6/8 放射能濃度 (Bq/m³)
第一資材置場	集じん機	円筒ろ紙	ND
		ドレン部	ND
分析室棟	①一般分析第一前処理室	円筒ろ紙	ND
		ドレン部	ND
	②固体試料第一前処理室	円筒ろ紙	ND
		ドレン部	ND
	③固体試料第二前処理室	円筒ろ紙	ND
		ドレン部	ND
	④放射能濃度測定室前室	円筒ろ紙	ND
		ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値：ろ紙部：0.4Bq/m³、ドレン部：1.9Bq/m³
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/m³]の限度：セシウム134の濃度／20＋セシウム137の濃度／30≦1

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH) 最小値	水素イオン濃度 (pH) 最大値	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
2020/4/20 ～2020/6/23	7.2	7.9	3.4～14.5	11～12	5.4～8.4

pH基準：5.8～8.6 , COD基準：90mg/L
BOD基準：30mg/L （福島県生活環境の保全等に関する条例 日間平均）
SS基準：50mg/L（福島県生活環境の保全等に関する条例 日間平均）

◆浸出水処理施設放流水の放射能濃度等

放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m³)
2020/4/17 ～2020/6/30	13	0.1	2.1	ND	80.8

濁度管理値：5以下
放射能濃度検出下限値：1 Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定項目 / 測定日	浮遊物質量 (SS) ※ (mg/L)
2020/4/2 ～2020/6/23	34

SS基準：50mg/L（福島県生活環境の保全等に関する条例 日間平均）
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L
※期間中の最大値を示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2019/9/27 （稼働前）	ND	1.2
2020/4/2 （稼働前）	ND	3.9
2020/5/7 ～2020/6/4 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2020/4/24 ～2020/6/8 粉じん濃度※ (mg/m³)
第一資材置場	0.1
第二資材置場	0.5

定量下限値：0.1mg/m³、高濃度粉じんの下限値：10mg/m³
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点		2020/4/24 ～2020/6/8 空間線量率 (μSv/h) 最小値	最大値
第一資材置場	東	0.55	0.66
	西	0.28	0.34
	南	0.45	0.51
	北	0.20	0.27
	中央	0.32	0.39
第二資材置場	東	0.33	0.40
	西	0.25	0.29
	南	0.40	0.58
	北	0.26	0.36
	中央	0.28	0.32
分析室棟	一般分析第一前処理室	0.09	0.12
	固体試料第二前処理室	0.14	0.15
	放射能濃度測定室	0.15	0.17
	防護具脱衣室	0.11	0.12
	廊下1	0.11	0.12

★空気中の放射能濃度

測定地点		2020/4/24～2020/6/8 Cs-134 (Bq/cm³)	Cs-137 (Bq/cm³)
第一資材置場		ND	ND
第二資材置場		ND	ND
分析室棟	一般分析第一前処理室	ND	ND
	固体試料第一前処理室	ND	ND
	固体試料第二前処理室	ND	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134：5.0×10^{-8}Bq/cm³、セシウム137：5.2×10^{-8}Bq/cm³
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm³]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点				2020/4/24 ～2020/6/8 表面汚染密度 (Bq/cm²)
第一資材置場		床	中央	ND
		壁	東	ND
			西	ND
		設備	集じん機	ND
第二資材置場		床	中央	ND
		壁	東	ND
			西	ND
		設備	操作盤	ND
分析室棟	一般分析第一前処理室	床	中央	ND
		壁	東	ND
			西	ND
		設備	集じん機	ND
	固体試料第一前処理室	床	中央	ND
		壁	東	ND
			西	ND
		設備	集じん機	ND
	固体試料第二前処理室	床	中央	ND
		壁	東	ND
			西	ND
		設備	集じん機	ND

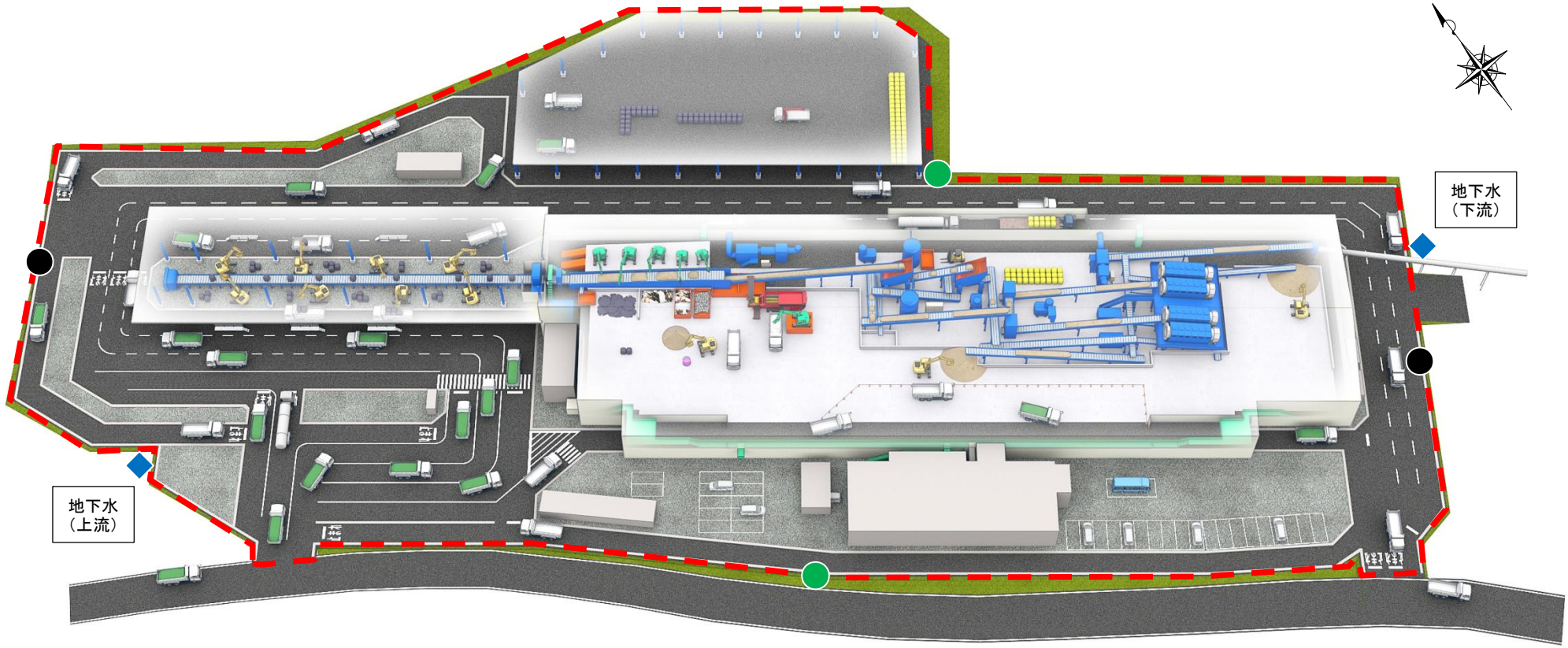
表面汚染密度検出下限値：0.24Bq/cm²
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm²

受入・分別施設のモニタリング結果（年次測定）

以下の施設については、中間貯蔵施設環境安全委員会（第17回）でモニタリング結果を報告して以降、年次測定は実施していないため、今回は報告対象外。

・大熊①工区
・大熊②工区 第1期
・大熊④工区
・大熊⑤工区
・双葉②工区

受入・分別施設（大熊②工区、第2期）のモニタリング測定地点（年次測定）



【 凡例 】

● ：騒音・振動　● ：悪臭　◆ ：地下水検査項目　--- ：敷地境界線

★:施設の位置

受入・分別施設（大熊②工区、第2期）のモニタリング測定結果（年次測定）

●騒音

測定地点	測定項目 / 測定日	騒音レベル (dB)
北側	2018/6/13 （稼働前）	62
	2020/6/18 （稼働後）	69
南側	2018/6/13 （稼働前）	59
	2020/6/18 （稼働後）	67

大熊町と双葉町は、騒音規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準：60dB （昼間7:00～19:00）

●振動

測定地点	測定項目 / 測定日	振動レベル (dB)
北側	2018/6/13 （稼働前）	52
	2020/6/18 （稼働後）	51
南側	2018/6/13 （稼働前）	40
	2020/6/18 （稼働後）	48

大熊町と双葉町は、振動規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県振動防止対策指針に基づく基準：65dB（昼間7:00～19:00）

●悪臭

測定地点	測定項目 / 測定日	臭気指数
西側	2018/6/13 （稼働前）	10未満 （風下）
	2020/6/18 （稼働後）	10未満 （風下）
東側	2018/6/13 （稼働前）	10未満 （風上）
	2020/6/18 （稼働後）	10未満 （風上）

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水検査項目

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)
	地下水環境基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下
上流	2018/6/13 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND
	2020/6/11 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND
下流	2018/6/13 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND
	2020/6/11 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2018/6/13 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
	2020/6/11 （稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND
下流	2018/6/13 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
	2020/6/11 （稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2018/6/13 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2018/6/13 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

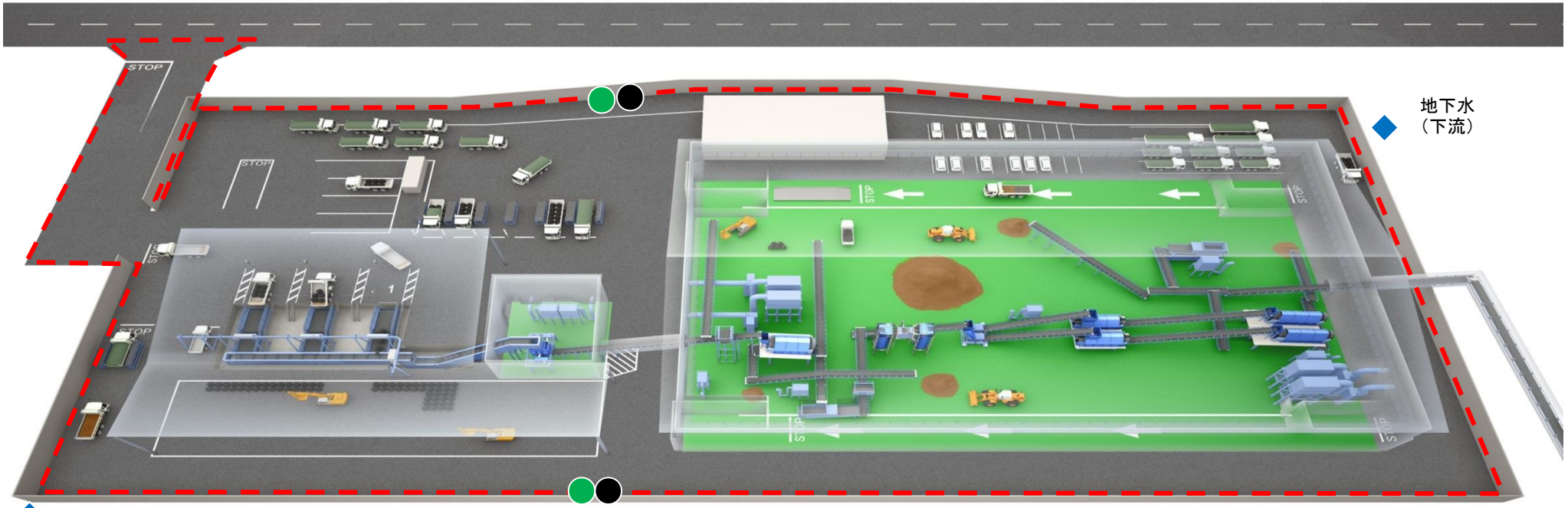
測定地点	測定項目 / 測定日	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	地下水環境基準	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2018/6/13 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2018/6/13 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2018/6/13 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2018/6/13 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水環境基準	1以下
上流	2018/6/13 （稼働前）	0.057
	2020/6/11 （稼働後）	0.05
下流	2018/6/13 （稼働前）	0.057
	2020/6/11 （稼働後）	0.048

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

受入・分別施設（大熊③工区）のモニタリング測定地点（年次測定）



★:施設の位置

【 凡例 】

● ：騒音・振動　● ：悪臭　◆ ：地下水検査項目　--- ：敷地境界線

受入・分別施設（大熊③工区）のモニタリング測定結果（年次測定）

●騒音

測定地点	測定項目 / 測定日	騒音レベル (dB)
西側	2018/7/6 （稼働前）	65
	2020/6/4 （稼働後）	75
東側	2018/7/6 （稼働前）	58
	2020/6/4 （稼働後）	75

大熊町と双葉町は、騒音規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準：60dB （昼間7:00～19:00）

●振動

測定地点	測定項目 / 測定日	振動レベル (dB)
西側	2018/7/6 （稼働前）	30未満
	2020/6/4 （稼働後）	49
東側	2018/7/6 （稼働前）	30未満
	2020/6/4 （稼働後）	50

大熊町と双葉町は、振動規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県振動防止対策指針に基づく基準：65dB（昼間7:00～19:00）

●悪臭

測定地点	測定項目 / 測定日	臭気指数
西側	2018/7/6 （稼働前）	10未満 （風上）
	2020/6/4 （稼働後）	10未満 （風下）
東側	2018/7/6 （稼働前）	10未満 （風下）
	2020/6/4 （稼働後）	10未満 （風上）

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水検査項目

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)
	地下水環境基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下
上流	2018/7/6 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND
	2020/6/3 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND
下流	2018/7/6 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND
	2020/6/4 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2018/7/6 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
	2020/6/3 （稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND
下流	2018/7/6 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
	2020/6/4 （稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2018/7/6 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/3 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2018/7/6 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/4 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

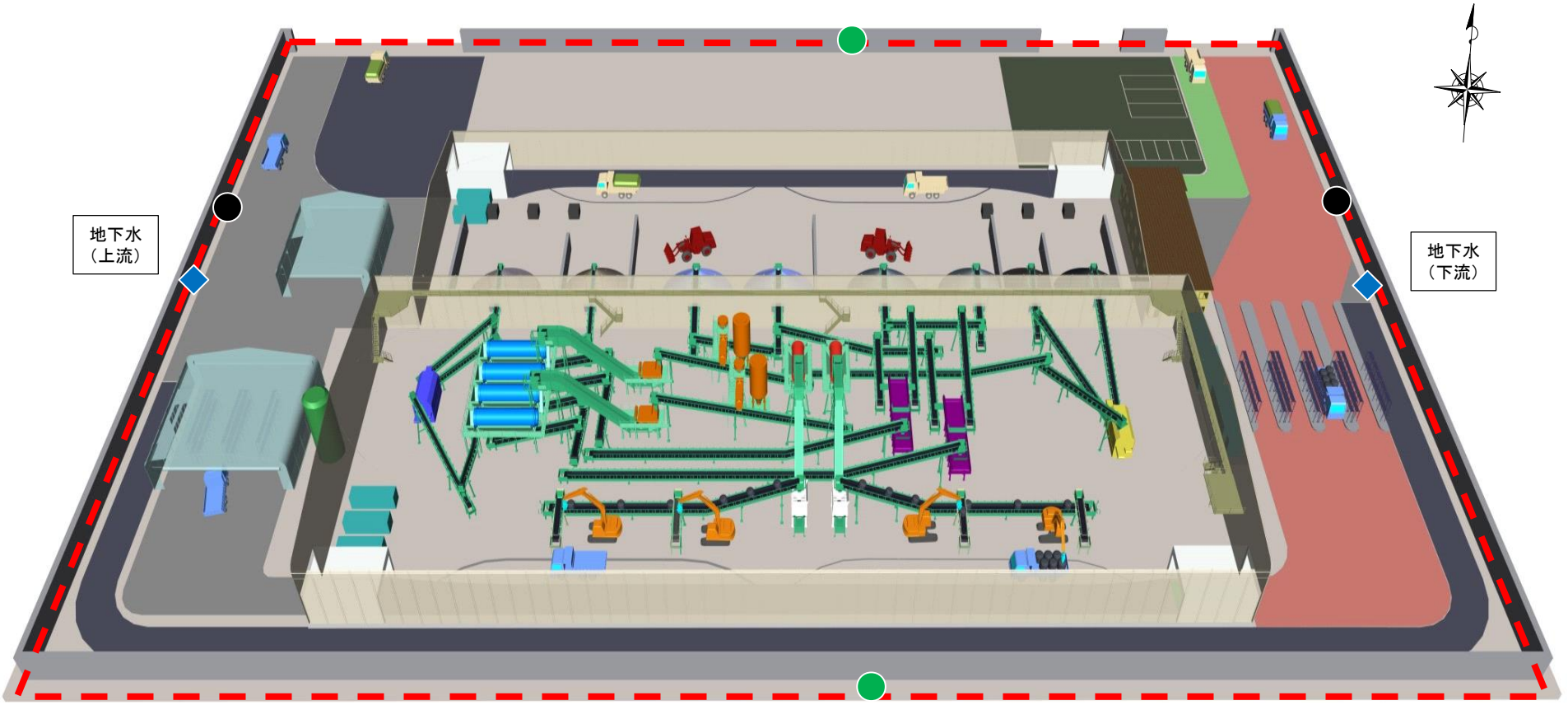
測定地点	測定項目 / 測定日	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	地下水環境基準	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2018/7/6 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/3 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2018/7/6 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/4 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2018/7/6 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/3 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2018/7/6 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/4 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水環境基準	1以下
上流	2018/7/6 （稼働前）	0.067
	2020/6/3 （稼働後）	0.039
下流	2018/7/6 （稼働前）	0.063
	2020/6/4 （稼働後）	0.043

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

受入・分別施設（双葉①工区、第1期）のモニタリング測定地点（年次測定）



★:施設の位置

【 凡例 】
● ：騒音・振動　● ：悪臭　◆ ：地下水検査項目　--- ：敷地境界線

受入・分別施設（双葉①工区、第1期）のモニタリング測定結果（年次測定）

●騒音

測定地点	測定項目 / 測定日	騒音レベル (dB)
北側	2017/5/21 （稼働前）	44
	2020/6/9 （稼働後）	71
南側	2017/5/21 （稼働前）	50
	2020/6/9 （稼働後）	70

大熊町と双葉町は、騒音規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準：60dB （昼間7:00～19:00）

●振動

測定地点	測定項目 / 測定日	振動レベル (dB)
北側	2017/5/21 （稼働前）	30未満
	2020/6/9 （稼働後）	56
南側	2017/5/21 （稼働前）	30未満
	2020/6/9 （稼働後）	48

大熊町と双葉町は、振動規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県振動防止対策指針に基づく基準：65dB（昼間7:00～19:00）

●悪臭

測定地点	測定項目 / 測定日	臭気指数
西側	2017/5/21 （稼働前）	10未満 （風下）
	2020/6/9 （稼働後）	10未満 （風下）
東側	2017/5/21 （稼働前）	10未満 （風上）
	2020/6/9 （稼働後）	10未満 （風上）

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水検査項目

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)
	地下水環境基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下
上流	2017/6/1 （稼働前）	不検出	ND	ND	0.001	ND
	2020/5/14 （稼働後）	不検出	ND	ND	0.001	ND
下流	2017/6/1 （稼働前）	不検出	ND	ND	0.006	ND
	2020/5/14 （稼働後）	不検出	ND	ND	0.009	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2017/6/1 （稼働前）	0.001	不検出	不検出	ND	ND
	2020/5/14 （稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND
下流	2017/6/1 （稼働前）	0.007	不検出	不検出	ND	ND
	2020/5/14 （稼働後）	0.013	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2017/6/1 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/5/14 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2017/6/1 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/5/14 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

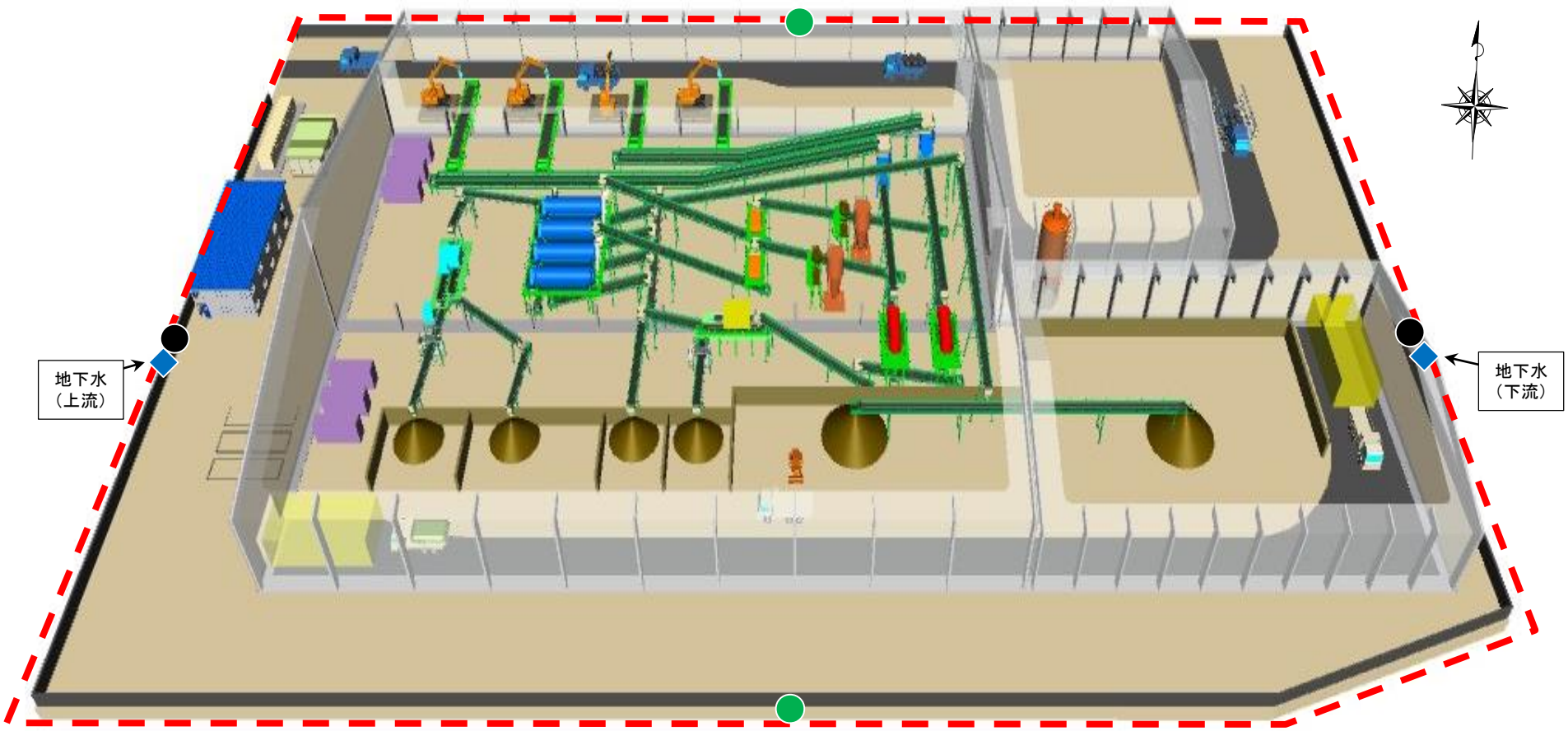
測定地点	測定項目 / 測定日	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	地下水環境基準	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2017/6/1 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/5/14 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2017/6/1 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/5/14 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2017/6/1 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/5/14 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2017/6/1 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/5/14 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水環境基準	1以下
上流	2017/6/1 （稼働前）	0.066
	2020/5/14 （稼働後）	0.087
下流	2017/6/1 （稼働前）	0.21
	2020/5/14 （稼働後）	1.3

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

受入・分別施設（双葉①工区、第2期）のモニタリング測定地点（年次測定）



★:施設の位置

【 凡例 】
● ：騒音・振動　● ：悪臭　◆ ：地下水検査項目　--- ：敷地境界線

受入・分別施設（双葉①工区、第2期）のモニタリング測定結果（年次測定）

●騒音

測定地点	測定項目 / 測定日	騒音レベル (dB)
北側	2018/7/29 （稼働前）	57
	2020/4/21 （稼働後）	73
南側	2018/7/29 （稼働前）	58
	2020/4/21 （稼働後）	61

大熊町と双葉町は、騒音規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準：60dB （昼間7:00～19:00）

●振動

測定地点	測定項目 / 測定日	振動レベル (dB)
北側	2018/7/29 （稼働前）	30未満
	2020/4/21 （稼働後）	46
南側	2018/7/29 （稼働前）	30未満
	2020/4/21 （稼働後）	41

大熊町と双葉町は、振動規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県振動防止対策指針に基づく基準：65dB（昼間7:00～19:00）

●悪臭

測定地点	測定項目 / 測定日	臭気指数
西側	2018/7/29 （稼働前）	10未満 （風下）
	2020/4/21 （稼働後）	10未満 （風下）
東側	2018/7/29 （稼働前）	10未満 （風上）
	2020/4/21 （稼働後）	10未満 （風上）

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水検査項目

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)
	地下水環境基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下
上流	2018/9/3 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND
	2020/4/14 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND
下流	2018/9/3 （稼働前）	不検出	ND	ND	0.001	ND
	2020/4/14 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2018/9/3 （稼働前）	0.001	不検出	不検出	ND	ND
	2020/4/14 （稼働後）	0.001	不検出	不検出	ND	ND
下流	2018/9/3 （稼働前）	0.012	不検出	不検出	ND	ND
	2020/4/14 （稼働後）	0.008	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2018/9/3 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/4/14 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2018/9/3 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/4/14 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	地下水環境基準	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2018/9/3 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/4/14 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2018/9/3 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/4/14 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2018/9/3 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/4/14 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2018/9/3 （稼働前）	ND	ND	0.004	ND	ND
	2020/4/14 （稼働後）	ND	ND	0.002	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水環境基準	1以下
上流	2018/9/3 （稼働前）	0.7
	2020/4/14 （稼働後）	0.056
下流	2018/9/3 （稼働前）	1.9
	2020/4/14 （稼働後）	0.38

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

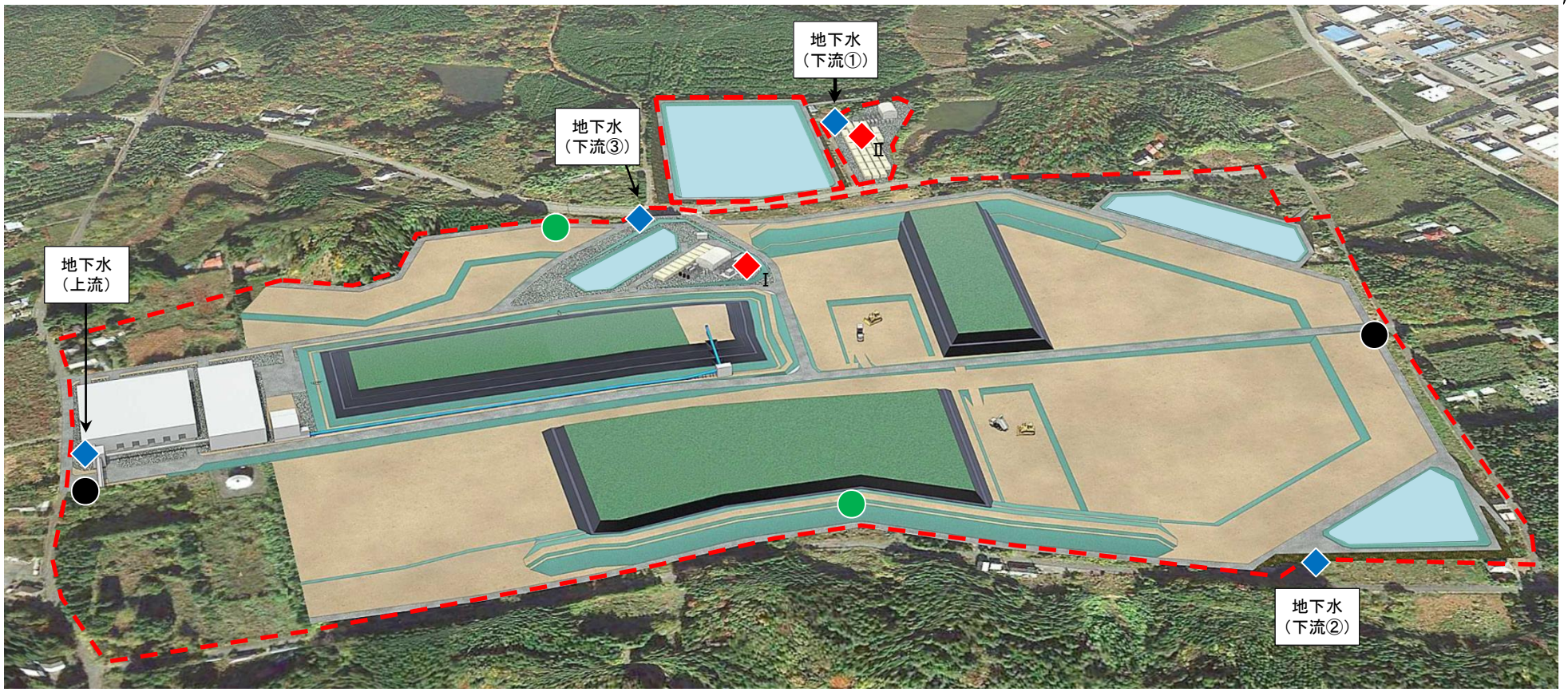
土壌貯蔵施設のモニタリング結果（年次測定）

以下の施設については、中間貯蔵施設環境安全委員会（第17回）でモニタリング結果を報告して以降、年次測定は実施していないため、今回は報告対象外。

・大熊①工区
・双葉②工区
・双葉③工区

土壌貯蔵施設（大熊②工区）のモニタリング測定地点（年次測定）

■（P. 25参照）



☆：施設の位置

【凡例 】

- ●：騒音・振動
- ●：悪臭
- ◆：地下水（井戸）の環境項目
- ◆：浸出水処理施設放流水の排水基準項目
- ■：放流先河川の環境項目
- ---：敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊②工区）のモニタリング測定結果（年次測定）①

●騒音

測定地点	測定項目 / 測定日	騒音レベル (dB)
北側	2018/7/11 （稼働前）	58
	2020/6/18 （稼働後）	68
南側	2018/7/11 （稼働前）	56
	2020/6/18 （稼働後）	56

大熊町と双葉町は、騒音規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準：60dB （昼間7:00～19:00）

●振動

測定地点	測定項目 / 測定日	振動レベル (dB)
北側	2018/7/11 （稼働前）	36
	2020/6/18 （稼働後）	40
南側	2018/7/11 （稼働前）	39
	2020/6/18 （稼働後）	36

大熊町と双葉町は、振動規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県振動防止対策指針に基づく基準：65dB（昼間7:00～19:00）

●悪臭

測定地点	測定項目 / 測定日	臭気指数
西側	2018/7/11 （稼働前）	10未満 （風上）
	2020/6/18 （稼働後）	10未満 （風下）
東側	2018/7/11 （稼働前）	10未満 （風下）
	2020/6/18 （稼働後）	10未満 （風上）

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水（井戸）の環境項目

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)
	地下水環境基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下	0.01以下	検出されないこと
上流	2018/7/10 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2020/6/11 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
下流①	2018/7/11 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2020/6/11 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
下流②	2018/7/10 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2020/6/11 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
下流③	2017/10/11 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2020/6/11 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出

測定地点	測定項目 / 測定日	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	検出されないこと	0.01以下	0.01以下	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下
上流	2018/7/10 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/11 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2018/7/11 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/11 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2018/7/10 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/11 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流③	2017/10/11 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/11 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)	チオベンカルブ (mg/L)
	地下水環境基準	0.04以下	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下	0.02以下
上流	2018/7/10 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2018/7/11 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2018/7/10 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流③	2017/10/11 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水環境基準	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下	1以下
上流	2018/7/10 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.057
	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.048
下流①	2018/7/11 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.13
	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.076
下流②	2018/7/10 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.058
	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.049
下流③	2017/10/11 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.058
	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.048

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（大熊②工区）のモニタリング測定結果（年次測定）②

◆浸出水処理施設放流水の排水基準項目

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀化合物 (mg/L)	水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物 (mg/L)	カドミウム及びその化合物 (mg/L)	鉛及びその化合物 (mg/L)	有機燐化合物 (mg/L)
	浸出水処理施設の排水基準	検出されないこと	0.005	0.03	0.1	1
処理水Ⅰ	2020/6/11 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND
処理水Ⅱ	2020/6/11 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	六価クロム化合物 (mg/L)	砒素及びその化合物 (mg/L)	シアン化合物 (mg/L)	ポリ塩化ビフェニル (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)
	浸出水処理施設の排水基準	0.5	0.1	1	0.003	0.1
処理水Ⅰ	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
処理水Ⅱ	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	テトラクロロエチレン (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)
	浸出水処理施設の排水基準	0.1	0.2	0.02	0.04	1
処理水Ⅰ	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
処理水Ⅱ	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)
	浸出水処理施設の排水基準	0.4	3	0.06	0.02	0.06
処理水Ⅰ	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
処理水Ⅱ	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	シマジン (mg/L)	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン及びその化合物 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
	浸出水処理施設の排水基準	0.03	0.2	0.1	0.1	0.5
処理水Ⅰ	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
処理水Ⅱ	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ほう素及びその化合物 (mg/L)	ふっ素及びその化合物 (mg/L)	アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物 (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量（鉱油類含有量） (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量（動植物油脂類含有量） (mg/L)
	浸出水処理施設の排水基準	50	15	200	5	30
処理水Ⅰ	2020/6/11 （稼働後）	ND	0.12	2.8	ND	ND
処理水Ⅱ	2020/6/11 （稼働後）	ND	0.13	3.2	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	フェノール類含有量 (mg/L)	銅含有量 (mg/L)	亜鉛含有量 (mg/L)	溶解性鉄含有量 (mg/L)	溶解性マンガン含有量 (mg/L)
	浸出水処理施設の排水基準	5	3	2	10	10
処理水Ⅰ	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.01
処理水Ⅱ	2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.59

測定地点	測定項目 / 測定日	クロム含有量 (mg/L)	大腸菌群数 (個/cm3)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	浸出水処理施設の排水基準	2	3000	10
処理水Ⅰ	2020/6/11 （稼働後）	ND	14	0.038
処理水Ⅱ	2020/6/11 （稼働後）	ND	38	0.036

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

■放流先河川の環境項目

測定項目 / 測定日	カドミウム (mg/L)	全シアン (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)
水質環境基準	0.003	検出されないこと	0.01	0.05	0.01
2018/7/10 （稼働前）	ND	不検出	ND	ND	ND
2020/6/11 （稼働後）	ND	不検出	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	総水銀 (mg/L)	アルキル水銀 (mg/L)	PCB (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)
水質環境基準	0.0005	検出されないこと	検出されないこと	0.02	0.002
2018/7/10 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
2020/6/11 （稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)
水質環境基準	0.004	0.1	0.04	1	0.006
2018/7/10 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
水質環境基準	0.01	0.01	0.002	0.006	0.003
2018/7/10 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	フッ素 (mg/L)
水質環境基準	0.02	0.01	0.01	10	0.8
2018/7/10 （稼働前）	ND	ND	ND	0.38	ND
2020/6/11 （稼働後）	ND	ND	ND	0.2	0.09

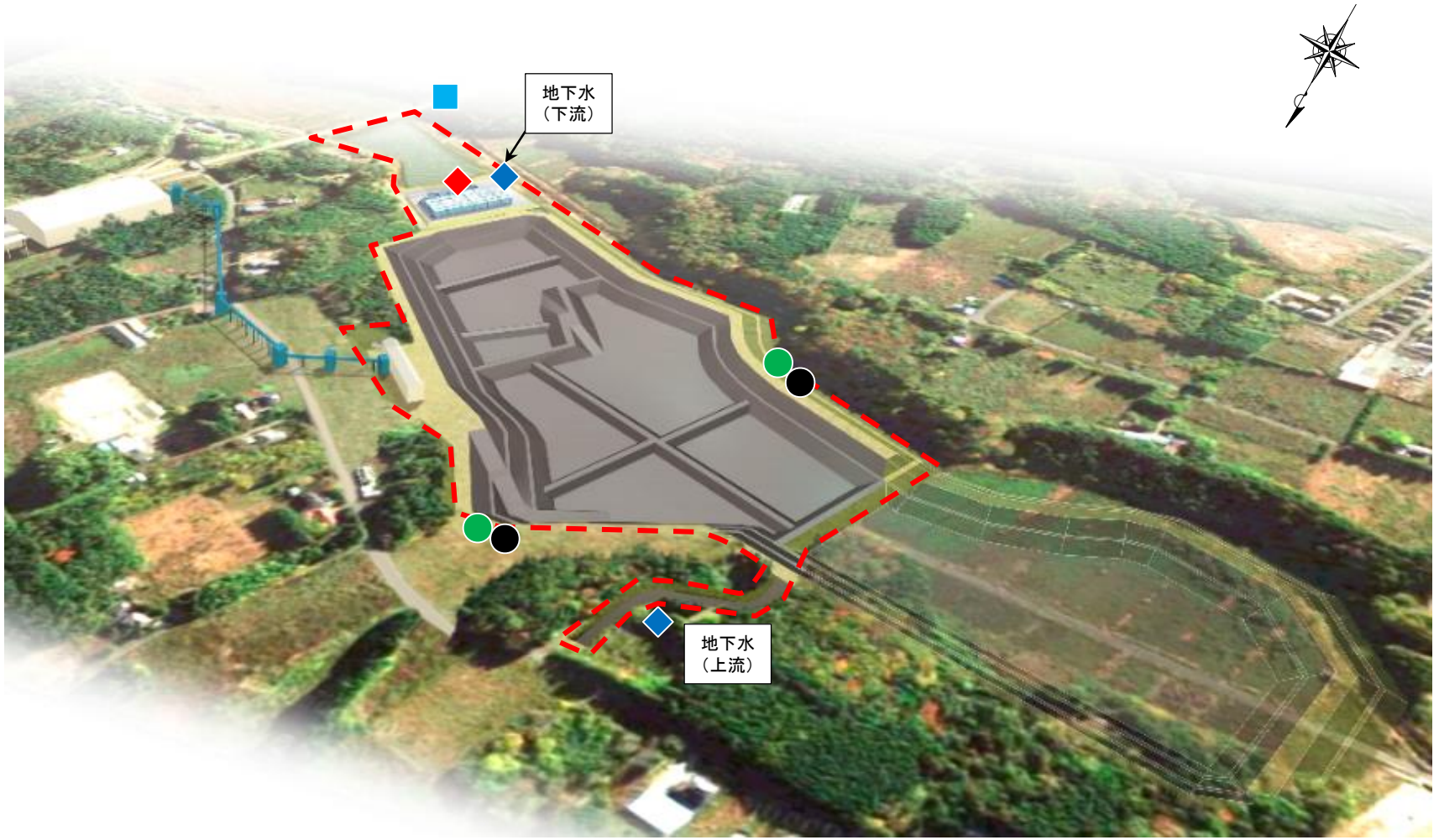
測定項目 / 測定日	ホウ素 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
水質環境基準	1	0.05
2018/7/10 （稼働前）	0.01	ND
2020/6/11 （稼働後）	ND	ND

測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH) ※	生物化学的酸素要求量 (BOD) ※ (mg/L)	浮遊物質量 (SS) ※ (mg/L)	溶存酸素量 (DO) ※ (mg/L)	大腸菌群数 ※ (MPN/100mL)
2018/7/10 （稼働前）	7.1	0.9	19	9.4	240
2020/6/11 （稼働後）	7.9	1.7	7	10	7900

※中間貯蔵施設区域及び周辺の河川は、環境基準の水域類型に指定されていない。
（参考）河川C類型の環境基準：pH 6.5～8.5、BOD 5mg/L以下、SS 50mg/L以下、DO 5mg/L以上

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（大熊③工区）のモニタリング測定地点（年次測定）



☆：施設の位置

【凡例】

- ●：騒音・振動
- ●：悪臭
- ◆：地下水（井戸）の環境項目
- ◆：浸出水処理施設放流水の排水基準項目
- ■：放流先河川の環境項目
- ---：敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊③工区）のモニタリング測定結果（年次測定）①

●騒音

測定地点	測定項目 / 測定日	騒音レベル (dB)
北側	2018/9/18 （稼働前）	43
	2020/6/4 （稼働後）	65
南側	2018/9/18 （稼働前）	39
	2020/6/4 （稼働後）	60

大熊町と双葉町は、騒音規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準：60dB （昼間7:00～19:00）

●振動

測定地点	測定項目 / 測定日	振動レベル (dB)
北側	2018/9/18 （稼働前）	38
	2020/6/4 （稼働後）	39
南側	2018/9/18 （稼働前）	40
	2020/6/4 （稼働後）	35

大熊町と双葉町は、振動規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県振動防止対策指針に基づく基準：65dB（昼間7:00～19:00）

●悪臭

測定地点	測定項目 / 測定日	臭気指数
北側	2018/9/18 （稼働前）	10未満 （風上）
	2020/6/4 （稼働後）	10未満 （風下）
南側	2018/9/18 （稼働前）	10未満 （風下）
	2020/6/4 （稼働後）	10未満 （風上）

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水（井戸）の環境項目

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)
	地下水環境基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下
上流	2018/9/18 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND
	2020/6/4 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND
下流	2018/9/25 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND
	2020/6/3 （稼働後）	不検出	ND	ND	0.004	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2018/9/18 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
	2020/6/4 （稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND
下流	2018/9/25 （稼働前）	0.003	不検出	不検出	ND	ND
	2020/6/3 （稼働後）	0.001	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2018/9/18 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/4 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2018/9/25 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/3 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	地下水環境基準	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2018/9/18 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/4 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2018/9/25 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/3 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2018/9/18 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/4 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2018/9/25 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/3 （稼働後）	ND	ND	0.003	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水環境基準	1以下
上流	2018/9/18 （稼働前）	0.062
	2020/6/4 （稼働後）	0.046
下流	2018/9/25 （稼働前）	0.82
	2020/6/3 （稼働後）	0.039

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（大熊③工区）のモニタリング測定結果（年次測定）②

◆浸出水処理施設放流水の排水基準項目

測定項目 / 測定日	アルキル水銀化合物 (mg/L)	水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物 (mg/L)	カドミウム及びその化合物 (mg/L)	鉛及びその化合物 (mg/L)	有機燐化合物 (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	検出されないこと	0.005	0.03	0.1	1
2020/6/3 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	六価クロム化合物 (mg/L)	砒素及びその化合物 (mg/L)	シアン化合物 (mg/L)	ポリ塩化ビフェニル (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.5	0.1	1	0.003	0.1
2020/6/3 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	テトラクロロエチレン (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.1	0.2	0.02	0.04	1
2020/6/3 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.4	3	0.06	0.02	0.06
2020/6/3 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	シマジン (mg/L)	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン及びその化合物 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.03	0.2	0.1	0.1	0.5
2020/6/3 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	ほう素及びその化合物 (mg/L)	ふっ素及びその化合物 (mg/L)	アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物 (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量（鉱油類含有量） (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量（動植物油脂類含有量） (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	50	15	200	5	30
2020/6/3 （稼働後）	ND	ND	1.8	ND	ND

測定項目 / 測定日	フェノール類含有量 (mg/L)	銅含有量 (mg/L)	亜鉛含有量 (mg/L)	溶解性鉄含有量 (mg/L)	溶解性マンガン含有量 (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	5	3	2	10	10
2020/6/3 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.5

測定項目 / 測定日	クロム含有量 (mg/L)	大腸菌群数 (個/cm3)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
浸出水処理施設の排水基準	2	3000	10
2020/6/3 （稼働後）	ND	ND	0.0033

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

■放流先河川の環境項目

測定項目 / 測定日	カドミウム (mg/L)	全シアン (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)
水質環境基準	0.003	検出されないこと	0.01	0.05	0.01
2018/9/18 （稼働前）	ND	不検出	ND	ND	ND
2020/6/3 （稼働後）	ND	不検出	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	総水銀 (mg/L)	アルキル水銀 (mg/L)	PCB (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)
水質環境基準	0.0005	検出されないこと	検出されないこと	0.02	0.002
2018/9/18 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
2020/6/3 （稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)
水質環境基準	0.004	0.1	0.04	1	0.006
2018/9/18 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2020/6/3 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
水質環境基準	0.01	0.01	0.002	0.006	0.003
2018/9/18 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2020/6/3 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	フッ素 (mg/L)
水質環境基準	0.02	0.01	0.01	10	0.8
2018/9/18 （稼働前）	ND	ND	ND	0.3	0.3
2020/6/3 （稼働後）	ND	ND	ND	0.26	0.1

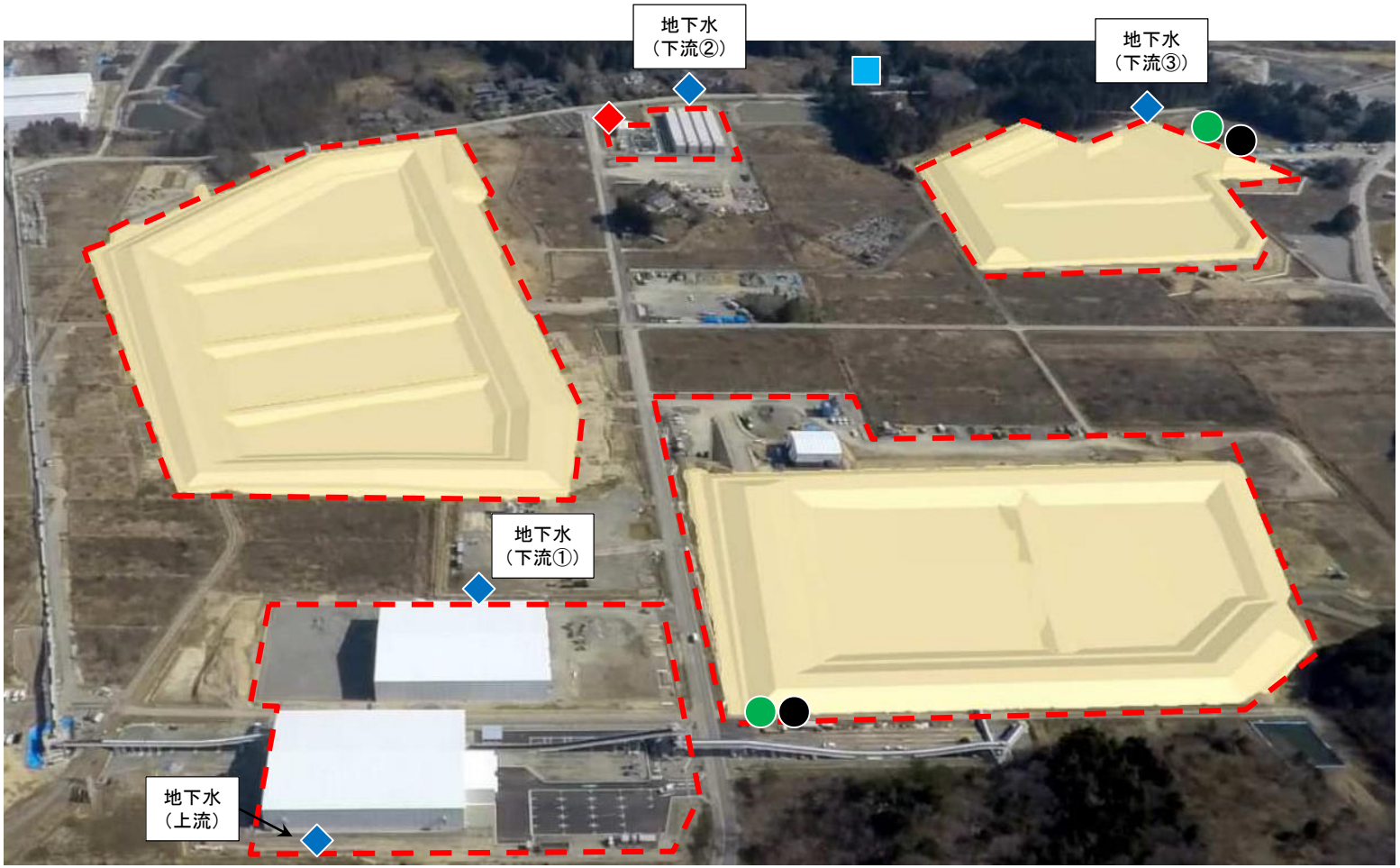
測定項目 / 測定日	ホウ素 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
水質環境基準	1	0.05
2018/9/18 （稼働前）	0.14	ND
2020/6/3 （稼働後）	0.07	ND

測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH) ※	生物化学的酸素要求量 (BOD) ※ (mg/L)	浮遊物質量 (SS) ※ (mg/L)	溶存酸素量 (DO) ※ (mg/L)	大腸菌群数 ※ (MPN/100mL)
2018/9/18 （稼働前）	7.6	ND	5	9	240
2020/6/3 （稼働後）	7.4	1.9	9	7.9	79

※中間貯蔵施設区域及び周辺の河川は、環境基準の水域類型に指定されていない。
（参考）河川C類型の環境基準：pH 6.5～8.5、BOD 5mg/L以下、SS 50mg/L以下、DO 5mg/L以上

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（大熊④工区）のモニタリング測定地点（年次測定）



☆：施設の位置

【 凡例 】

- ●：騒音・振動
- ●：悪臭
- ◆：地下水（井戸）の環境項目
- ◆：浸出水処理施設放流水の排水基準項目
- ■：放流先河川の環境項目
- ---：敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊④工区）のモニタリング測定結果（年次測定）①

●騒音

測定地点	測定項目 / 測定日	騒音レベル (dB)
D区画南側	2020/3/13 （稼働前）	50
	2020/4/27 （稼働後）	62
E区画東側	2020/3/13 （稼働前）	52
	2020/4/27 （稼働後）	55

大熊町と双葉町は、騒音規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準：60dB （昼間7:00～19:00）

●振動

測定地点	測定項目 / 測定日	振動レベル (dB)
D区画南側	2020/3/13 （稼働前）	25
	2020/4/27 （稼働後）	33
E区画東側	2020/3/13 （稼働前）	30
	2020/4/27 （稼働後）	31

大熊町と双葉町は、振動規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県振動防止対策指針に基づく基準：65dB（昼間7:00～19:00）

●悪臭

測定地点	測定項目 / 測定日	臭気指数
D区画南側	2020/3/13 （稼働前）	10未満 （風下）
	2020/4/27 （稼働後）	10未満 （風下）
E区画東側	2020/3/13 （稼働前）	10未満 （風上）
	2020/4/27 （稼働後）	10未満 （風上）

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水（井戸）の環境項目

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)
	地下水環境基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下	0.01以下	検出されないこと
上流	2020/3/12 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2020/4/6 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
下流①	2020/3/12 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2020/4/6 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
下流②	2020/3/12 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2020/4/6 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
下流③	2020/3/12 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2020/4/6 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出

測定地点	測定項目 / 測定日	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	検出されないこと	0.01以下	0.01以下	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下
上流	2020/3/12 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/4/6 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2020/3/12 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/4/6 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/3/12 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/4/6 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流③	2020/3/12 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/4/6 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)	チオベンカルブ (mg/L)
	地下水環境基準	0.04以下	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下	0.02以下
上流	2020/3/12 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/4/6 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2020/3/12 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/4/6 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/3/12 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/4/6 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流③	2020/3/12 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/4/6 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水環境基準	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下	1以下
上流	2020/3/12 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.052
	2020/4/6 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.052
下流①	2020/3/12 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.060
	2020/4/6 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.059
下流②	2020/3/12 （稼働前）	ND	0.001	ND	ND	0.049
	2020/4/6 （稼働後）	ND	0.001	ND	ND	0.051
下流③	2020/3/12 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.091
	2020/4/6 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.055

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（大熊④工区）のモニタリング測定結果（年次測定）②

◆浸出水処理施設放流水の排水基準項目

測定項目 / 測定日	アルキル水銀化合物 (mg/L)	水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物 (mg/L)	カドミウム及びその化合物 (mg/L)	鉛及びその化合物 (mg/L)	有機燐化合物 (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	検出されないこと	0.005	0.03	0.1	1
2020/4/6 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	六価クロム化合物 (mg/L)	砒素及びその化合物 (mg/L)	シアン化合物 (mg/L)	ポリ塩化ビフェニル (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.5	0.1	1	0.003	0.1
2020/4/6 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	テトラクロロエチレン (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.1	0.2	0.02	0.04	1
2020/4/6 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.4	3	0.06	0.02	0.06
2020/4/6 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	シマジン (mg/L)	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン及びその化合物 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.03	0.2	0.1	0.1	0.5
2020/4/6 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	ほう素及びその化合物 (mg/L)	ふっ素及びその化合物 (mg/L)	アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物 (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量（鉱油類含有量） (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量（動植物油脂類含有量） (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	50	15	200	5	30
2020/4/6 （稼働後）	ND	0.1	0.4	ND	ND

測定項目 / 測定日	フェノール類含有量 (mg/L)	銅含有量 (mg/L)	亜鉛含有量 (mg/L)	溶解性鉄含有量 (mg/L)	溶解性マンガン含有量 (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	5	3	2	10	10
2020/4/6 （稼働後）	ND	ND	0.28	0.06	ND

測定項目 / 測定日	クロム含有量 (mg/L)	大腸菌群数 (個/cm^3)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
浸出水処理施設の排水基準	2	3000	10
2020/4/6 （稼働後）	ND	0	0.009

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

■放流先河川の環境項目

測定項目 / 測定日	カドミウム (mg/L)	全シアン (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)
水質環境基準	0.003	検出されないこと	0.01	0.05	0.01
2020/3/12 （稼働前）	ND	不検出	ND	ND	ND
2020/4/6 （稼働後）	ND	不検出	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	総水銀 (mg/L)	アルキル水銀 (mg/L)	PCB (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)
水質環境基準	0.0005	検出されないこと	検出されないこと	0.02	0.002
2020/3/12 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
2020/4/6 （稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)
水質環境基準	0.004	0.1	0.04	1	0.006
2020/3/12 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2020/4/6 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
水質環境基準	0.01	0.01	0.002	0.006	0.003
2020/3/12 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2020/4/6 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	フッ素 (mg/L)
水質環境基準	0.02	0.01	0.01	10	0.8
2020/3/12 （稼働前）	ND	ND	ND	0.2	ND
2020/4/6 （稼働後）	ND	ND	ND	0.2	0.12

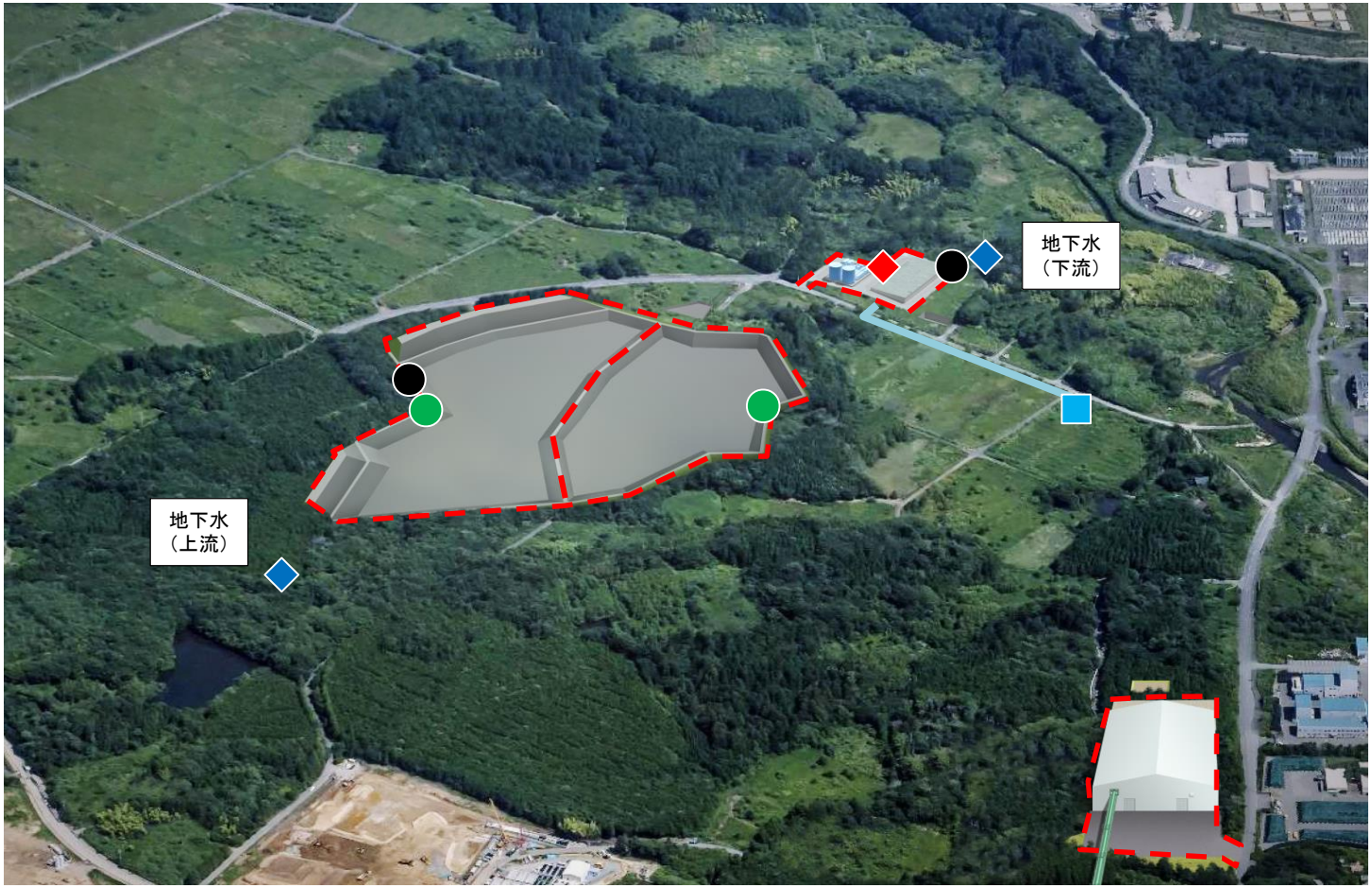
測定項目 / 測定日	ホウ素 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
水質環境基準	1	0.05
2020/3/12 （稼働前）	ND	ND
2020/4/6 （稼働後）	ND	ND

測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH) ※	生物化学的酸素要求量 (BOD) ※ (mg/L)	浮遊物質量 (SS) ※ (mg/L)	溶存酸素量 (DO) ※ (mg/L)	大腸菌群数 ※ (MPN/100mL)
2020/3/12 （稼働前）	7.7	0.7	11	10	130
2020/4/6 （稼働後）	7.4	1.4	14	10	220

※中間貯蔵施設区域及び周辺の河川は、環境基準の水域類型に指定されていない。
（参考）河川C類型の環境基準：pH 6.5～8.5、BOD 5mg/L以下、SS 50mg/L以下、DO 5mg/L以上

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（大熊⑤工区）のモニタリング測定地点（年次測定）



☆：施設の位置

【 凡例 】

- ●：騒音・振動
- ●：悪臭
- ◆：地下水（井戸）の環境項目
- ◆：浸出水処理施設放流水の排水基準項目
- ■：放流先河川の環境項目
- ---：敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊⑤工区）のモニタリング測定結果（年次測定）①

●騒音

測定地点	測定項目 / 測定日	騒音レベル (dB)
西側	2019/4/18　（稼働前）	65
	2020/6/4　（稼働後）	66
東側	2019/4/18　（稼働前）	66
	2020/6/4　（稼働後）	56

大熊町と双葉町は、騒音規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準：60dB （昼間7:00～19:00）

●振動

測定地点	測定項目 / 測定日	振動レベル (dB)
西側	2019/4/18　（稼働前）	41
	2020/6/4　（稼働後）	37
東側	2019/4/18　（稼働前）	54
	2020/6/4　（稼働後）	34

大熊町と双葉町は、振動規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県振動防止対策指針に基づく基準：65dB（昼間7:00～19:00）

●悪臭

測定地点	測定項目 / 測定日	臭気指数
北側（浸出水）	2019/4/18　（稼働前）	10未満　（風上）
	2020/6/4　（稼働後）	10未満　（風上）
南側（貯蔵エリアF1）	2019/4/18　（稼働前）	10未満　（風下）
	2020/6/4　（稼働後）	10未満　（風下）

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水（井戸）の環境項目

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)
	地下水環境基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下
上流	2019/4/18　（稼働前）	不検出	ND	ND	0.051	ND
	2020/6/4　（稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND
下流	2019/4/18　（稼働前）	不検出	ND	ND	0.008	ND
	2020/6/4　（稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2019/4/18　（稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
	2020/6/4　（稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND
下流	2019/4/18　（稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
	2020/6/4　（稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2019/4/18　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/4　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2019/4/18　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/4　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	地下水環境基準	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2019/4/18　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/4　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2019/4/18　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/4　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2019/4/18　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/4　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2019/4/18　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/6/4　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水環境基準	1以下
上流	2019/4/18　（稼働前）	0.79
	2020/6/4　（稼働後）	0.072
下流	2019/4/18　（稼働前）	0.039
	2020/6/4　（稼働後）	0.061

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（大熊⑤工区）のモニタリング測定結果（年次測定）②

◆浸出水処理施設放流水の排水基準項目

測定項目 / 測定日	アルキル水銀化合物 (mg/L)	水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物 (mg/L)	カドミウム及びその化合物 (mg/L)	鉛及びその化合物 (mg/L)	有機燐化合物 (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	検出されないこと	0.005	0.03	0.1	1
2020/6/4 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	六価クロム化合物 (mg/L)	砒素及びその化合物 (mg/L)	シアン化合物 (mg/L)	ポリ塩化ビフェニル (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.5	0.1	1	0.003	0.1
2020/6/4 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	テトラクロロエチレン (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.1	0.2	0.02	0.04	1
2020/6/4 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.4	3	0.06	0.02	0.06
2020/6/4 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	シマジン (mg/L)	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン及びその化合物 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.03	0.2	0.1	0.1	0.5
2020/6/4 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	ほう素及びその化合物 (mg/L)	ふっ素及びその化合物 (mg/L)	アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物 (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量（鉱油類含有量） (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量（動植物油脂類含有量） (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	50	15	200	5	30
2020/6/4 （稼働後）	ND	ND	11	ND	ND

測定項目 / 測定日	フェノール類含有量 (mg/L)	銅含有量 (mg/L)	亜鉛含有量 (mg/L)	溶解性鉄含有量 (mg/L)	溶解性マンガン含有量 (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	5	3	2	10	10
2020/6/4 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.56

測定項目 / 測定日	クロム含有量 (mg/L)	大腸菌群数 (個/cm3)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
浸出水処理施設の排水基準	2	3000	10
2020/6/4 （稼働後）	ND	39	0.03

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

■放流先河川の環境項目

測定項目 / 測定日	カドミウム (mg/L)	全シアン (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)
水質環境基準	0.003	検出されないこと	0.01	0.05	0.01
2019/4/18 （稼働前）	ND	不検出	ND	ND	ND
2020/6/10 （稼働後）	ND	不検出	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	総水銀 (mg/L)	アルキル水銀 (mg/L)	PCB (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)
水質環境基準	0.0005	検出されないこと	検出されないこと	0.02	0.002
2019/4/18 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
2020/6/10 （稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)
水質環境基準	0.004	0.1	0.04	1	0.006
2019/4/18 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2020/6/10 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
水質環境基準	0.01	0.01	0.002	0.006	0.003
2019/4/18 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2020/6/10 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	フッ素 (mg/L)
水質環境基準	0.02	0.01	0.01	10	0.8
2019/4/18 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2020/6/10 （稼働後）	ND	ND	ND	0.4	ND

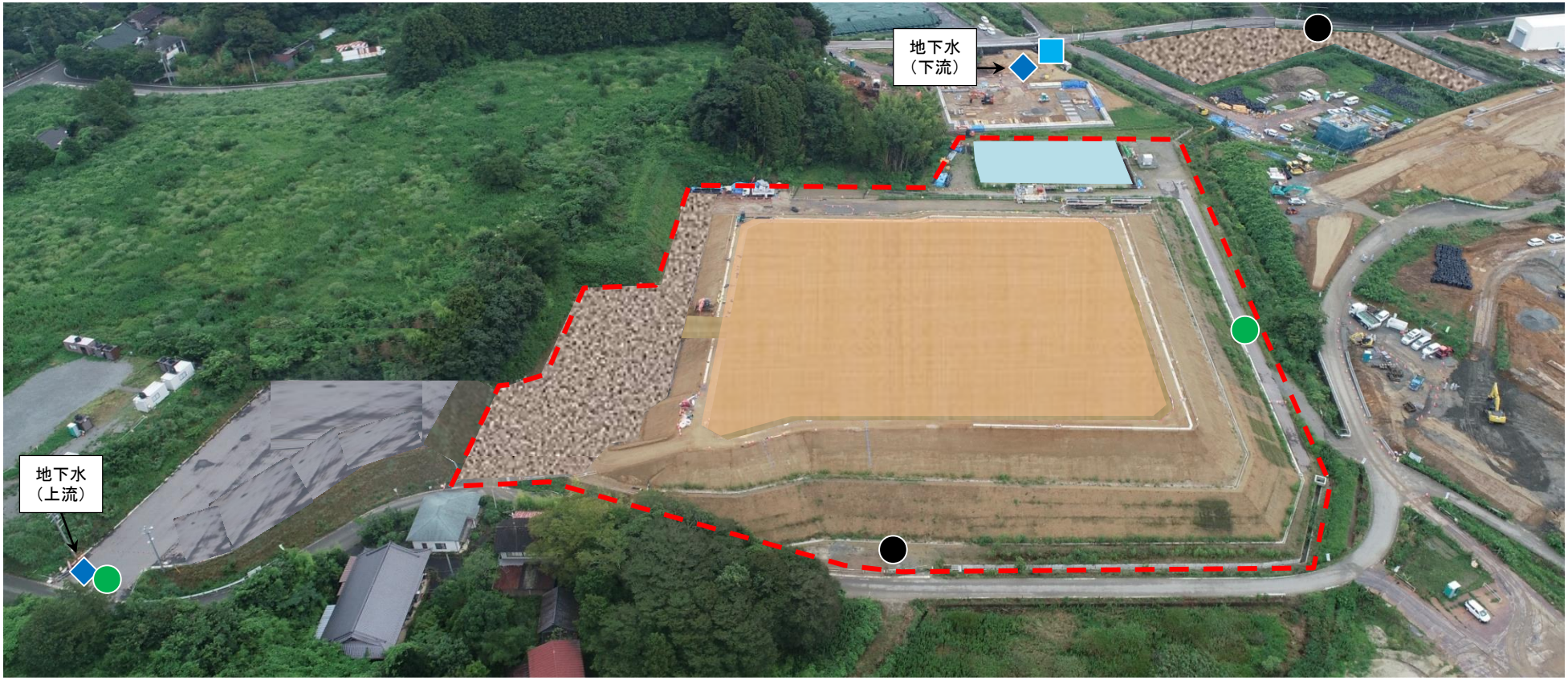
測定項目 / 測定日	ホウ素 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
水質環境基準	1	0.05
2019/4/18 （稼働前）	ND	ND
2020/6/10 （稼働後）	ND	ND

測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH) ※	生物化学的酸素要求量 (BOD) ※ (mg/L)	浮遊物質量 (SS) ※ (mg/L)	溶存酸素量 (DO) ※ (mg/L)	大腸菌群数 ※ (MPN/100mL)
2019/4/18 （稼働前）	7.8	0.9	4	11.2	33
2020/6/10 （稼働後）	7.6	0.8	1	10.7	4900

※中間貯蔵施設区域及び周辺の河川は、環境基準の水域類型に指定されていない。
（参考）河川C類型の環境基準：pH 6.5～8.5、BOD 5mg/L以下、SS 50mg/L以下、DO 5mg/L以上

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（双葉①工区東側）のモニタリング測定地点（年次測定）



☆：施設の位置

【 凡例 】

- ●：騒音・振動
- ■：放流先河川の環境項目
- ●：悪臭
- ---：敷地境界線
- ◆：地下水（井戸）の環境項目

土壌貯蔵施設（双葉①工区東側）のモニタリング測定結果（年次測定）①

●騒音

測定地点	測定項目 / 測定日	騒音レベル (dB)
北側	2017/12/3　（稼働前）	42
	2020/6/9　（稼働後）	63
南側	2017/12/3　（稼働前）	39
	2020/6/9　（稼働後）	61

大熊町と双葉町は、騒音規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準：60dB （昼間7:00～19:00）

●振動

測定地点	測定項目 / 測定日	振動レベル (dB)
北側	2017/12/3　（稼働前）	30未満
	2020/6/9　（稼働後）	46
南側	2017/12/3　（稼働前）	30未満
	2020/6/9　（稼働後）	37

大熊町と双葉町は、振動規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県振動防止対策指針に基づく基準：65dB（昼間7:00～19:00）

●悪臭

測定地点	測定項目 / 測定日	臭気指数
西側	2017/12/3　（稼働前）	10未満　（風下）
	2020/6/9　（稼働後）	10未満　（風下）
東側	2017/12/3　（稼働前）	10未満　（風上）
	2020/6/9　（稼働後）	10未満　（風上）

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水（井戸）の環境項目

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)
	地下水環境基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下
上流	2017/11/23　（稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND
	2020/5/21　（稼働後）	不検出	ND	0.0003	0.003	ND
下流	2017/11/23　（稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND
	2020/5/21　（稼働後）	不検出	ND	ND	0.005	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2017/11/23　（稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
	2020/5/21　（稼働後）	0.002	不検出	不検出	ND	ND
下流	2017/11/23　（稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
	2020/5/21　（稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2017/11/23　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/5/21　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2017/11/23　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/5/21　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	地下水環境基準	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2017/11/23　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/5/21　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2017/11/23　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/5/21　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2017/11/23　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/5/21　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2017/11/23　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/5/21　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水環境基準	1以下
上流	2017/11/23　（稼働前）	0.34
	2020/5/21　（稼働後）	0.14
下流	2017/11/23　（稼働前）	0.097
	2020/5/21　（稼働後）	0.068

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（双葉①工区東側）のモニタリング測定結果（年次測定）②

◆浸出水処理施設放流水の排水基準項目

貯蔵作業が終了したため測定なし。

■放流先河川の環境項目

測定項目 / 測定日	カドミウム (mg/L)	全シアン (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)
水質環境基準	0.003	検出されないこと	0.01	0.05	0.01
2017/11/2 （稼働前）	0.0004	不検出	ND	ND	ND
2020/5/13 （稼働後）	ND	不検出	ND	ND	0.001

測定項目 / 測定日	総水銀 (mg/L)	アルキル水銀 (mg/L)	PCB (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)
水質環境基準	0.0005	検出されないこと	検出されないこと	0.02	0.002
2017/11/2 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
2020/5/13 （稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)
水質環境基準	0.004	0.1	0.04	1	0.006
2017/11/2 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2020/5/13 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
水質環境基準	0.01	0.01	0.002	0.006	0.003
2017/11/2 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2020/5/13 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	フッ素 (mg/L)
水質環境基準	0.02	0.01	0.01	10	0.8
2017/11/2 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.09
2020/5/13 （稼働後）	ND	ND	ND	0.3	0.15

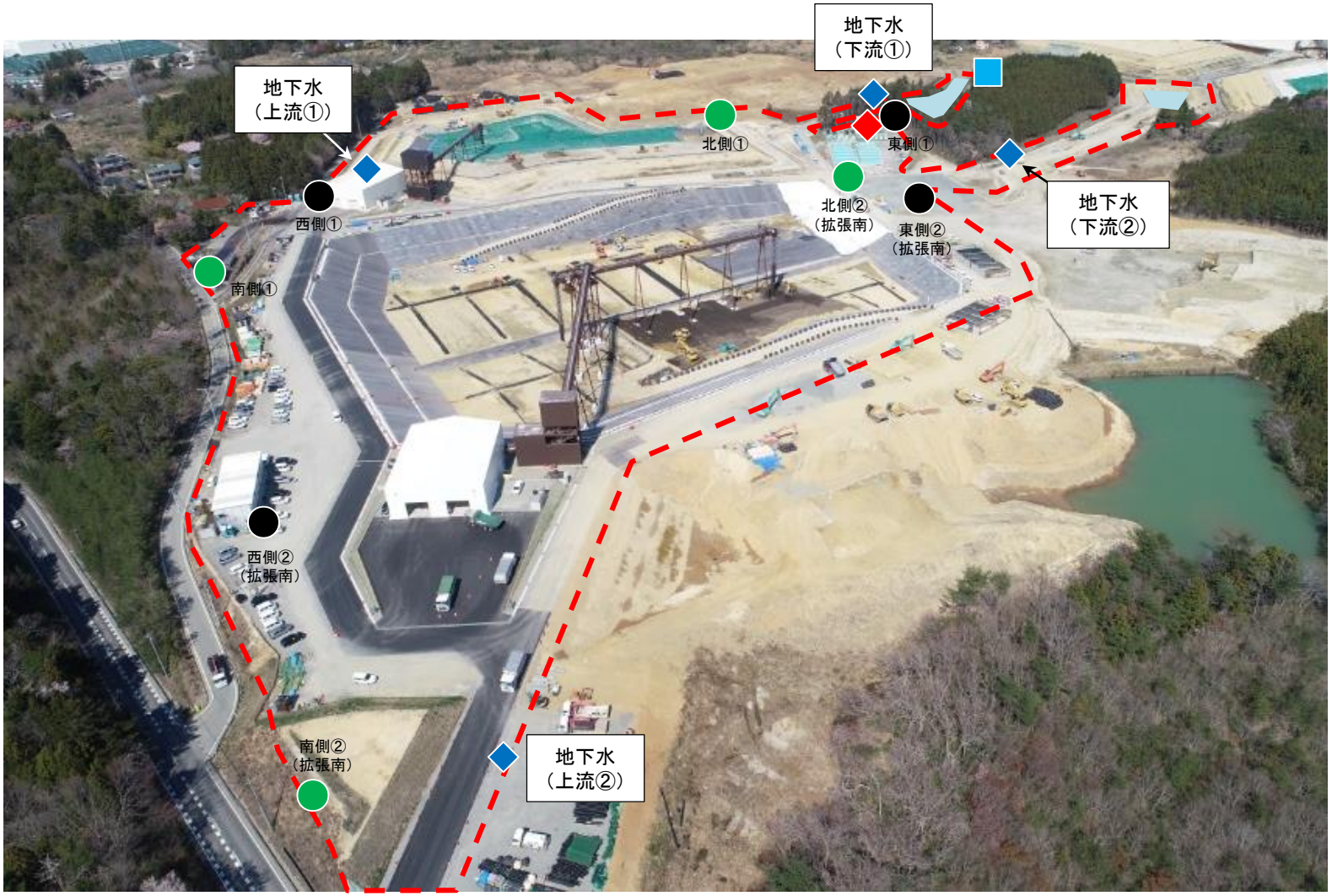
測定項目 / 測定日	ホウ素 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
水質環境基準	1	0.05
2017/11/2 （稼働前）	ND	ND
2020/5/13 （稼働後）	ND	ND

測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH) ※	生物化学的酸素要求量 (BOD) ※ (mg/L)	浮遊物質量 (SS) ※ (mg/L)	溶存酸素量 (DO) ※ (mg/L)	大腸菌群数 ※ (MPN/100mL)
2017/11/2 （稼働前）	7.0	ND	7	9.7	2200
2020/5/13 （稼働後）	7.0	2.2	12	8.5	17000

※中間貯蔵施設区域及び周辺の河川は、環境基準の水域類型に指定されていない。
（参考）河川C類型の環境基準：pH 6.5～8.5、BOD 5mg/L以下、SS 50mg/L以下、DO 5mg/L以上

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（双葉①工区西側）のモニタリング測定地点（年次測定）



☆:施設の位置

【 凡例 】

- ●：騒音・振動
- ●：悪臭
- ◆：地下水（井戸）の環境項目
- ◆：浸出水処理施設放流水の排水基準項目
- ■：放流先河川の環境項目
- ---：敷地境界線

土壌貯蔵施設（双葉①工区西側）のモニタリング測定結果（年次測定）①

●騒音

測定地点	測定項目 / 測定日	騒音レベル (dB)
北側①	2018/7/29 （稼働前）	68
	2020/4/21 （稼働後）	75
北側②	2020/3/15 （稼働前）	40
（拡張南）	2020/5/26 （稼働後）	70
南側①	2018/7/29 （稼働前）	66
	2020/4/21 （稼働後）	59
南側②	2020/3/15 （稼働前）	44
（拡張南）	2020/5/26 （稼働後）	74

大熊町と双葉町は、騒音規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準：60dB （昼間7:00～19:00）

●振動

測定地点	測定項目 / 測定日	振動レベル (dB)
北側①	2018/7/29 （稼働前）	30未満
	2020/4/21 （稼働後）	35
北側②	2020/3/15 （稼働前）	30未満
（拡張南）	2020/5/26 （稼働後）	43
南側①	2018/7/29 （稼働前）	30未満
	2020/4/21 （稼働後）	36
南側②	2020/3/15 （稼働前）	30未満
（拡張南）	2020/5/26 （稼働後）	45

大熊町と双葉町は、振動規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県振動防止対策指針に基づく基準：65dB（昼間7:00～19:00）

●悪臭

測定地点	測定項目 / 測定日	臭気指数
西側①	2018/7/29 （稼働前）	10未満 （風下）
	2020/4/21 （稼働後）	10未満 （風下）
西側②	2020/3/15 （稼働前）	10未満 （風下）
（拡張南）	2020/5/26 （稼働後）	10未満 （風下）
東側①	2018/7/29 （稼働前）	15 （風上）
	2020/4/21 （稼働後）	10未満 （風上）
東側②	2020/3/15 （稼働前）	10未満 （風上）
（拡張南）	2020/5/26 （稼働後）	10未満 （風上）

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水（井戸）の環境項目

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)
	地下水環境基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下	0.01以下	検出されないこと
上流①	2018/9/10 （稼働前）	不検出	ND	ND	0.008	ND	0.002	不検出
	2020/4/8 （稼働後）	不検出	ND	0.0009	0.001	ND	0.001	不検出
上流②	2020/3/25 （稼働前）	不検出	ND	0.0003	0.029	ND	0.003	不検出
（拡張南）	2020/4/16 （稼働後）	不検出	ND	ND	0.012	ND	ND	不検出
下流①	2018/9/10 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2020/4/8 （稼働後）	不検出	ND	ND	0.002	ND	ND	不検出
下流②	2020/3/25 （稼働前）	不検出	ND	ND	0.025	ND	0.002	不検出
（拡張南）	2020/4/16 （稼働後）	不検出	ND	0.0042	0.03	ND	0.003	不検出

測定地点	測定項目 / 測定日	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	検出されないこと	0.01以下	0.01以下	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下
上流①	2018/9/10 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/4/8 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
上流②	2020/3/25 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
（拡張南）	2020/4/16 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2018/9/10 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/4/8 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/3/25 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
（拡張南）	2020/4/16 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)	チオベンカルブ (mg/L)
	地下水環境基準	0.04以下	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下	0.02以下
上流①	2018/9/10 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/4/8 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
上流②	2020/3/25 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
（拡張南）	2020/4/16 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2018/9/10 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/4/8 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/3/25 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
（拡張南）	2020/4/16 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水環境基準	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下	1以下
上流①	2018/9/10 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	2.0
	2020/4/8 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.062
上流②	2020/3/25 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.55
（拡張南）	2020/4/16 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.09
下流①	2018/9/10 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.71
	2020/4/8 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.072
下流②	2020/3/25 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	1.7
（拡張南）	2020/4/16 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.15

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（双葉①工区西側）のモニタリング測定結果（年次測定）②

◆浸出水処理施設放流水の排水基準項目

測定項目 / 測定日	アルキル水銀化合物 (mg/L)	水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物 (mg/L)	カドミウム及びその化合物 (mg/L)	鉛及びその化合物 (mg/L)	有機燐化合物 (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	検出されないこと	0.005	0.03	0.1	1
2020/4/8 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	六価クロム化合物 (mg/L)	砒素及びその化合物 (mg/L)	シアン化合物 (mg/L)	ポリ塩化ビフェニル (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.5	0.1	1	0.003	0.1
2020/4/8 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	テトラクロロエチレン (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.1	0.2	0.02	0.04	1
2020/4/8 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.4	3	0.06	0.02	0.06
2020/4/8 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	シマジン (mg/L)	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン及びその化合物 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.03	0.2	0.1	0.1	0.5
2020/4/8 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	ほう素及びその化合物 (mg/L)	ふっ素及びその化合物 (mg/L)	アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物 (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量（鉱油類含有量） (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量（動植物油脂類含有量） (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	50	15	200	5	30
2020/4/8 （稼働後）	ND	ND	5.4	ND	ND

測定項目 / 測定日	フェノール類含有量 (mg/L)	銅含有量 (mg/L)	亜鉛含有量 (mg/L)	溶解性鉄含有量 (mg/L)	溶解性マンガン含有量 (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	5	3	2	10	10
2020/4/8 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	5.4

測定項目 / 測定日	クロム含有量 (mg/L)	大腸菌群数 (個/cm^3)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
浸出水処理施設の排水基準	2	3000	10
2020/4/8 （稼働後）	ND	1	0.035

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

■放流先河川の環境項目

測定項目 / 測定日	カドミウム (mg/L)	全シアン (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)
水質環境基準	0.003	検出されないこと	0.01	0.05	0.01
2018/9/3 （稼働前）	0.004	不検出	0.001	ND	0.001
2020/4/14 （稼働後）	0.0009	不検出	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	総水銀 (mg/L)	アルキル水銀 (mg/L)	PCB (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)
水質環境基準	0.0005	検出されないこと	検出されないこと	0.02	0.002
2018/9/3 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
2020/4/14 （稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)
水質環境基準	0.004	0.1	0.04	1	0.006
2018/9/3 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2020/4/14 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
水質環境基準	0.01	0.01	0.002	0.006	0.003
2018/9/3 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2020/4/14 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	フッ素 (mg/L)
水質環境基準	0.02	0.01	0.01	10	0.8
2018/9/3 （稼働前）	ND	ND	ND	1.1	0.17
2020/4/14 （稼働後）	ND	ND	ND	0.5	ND

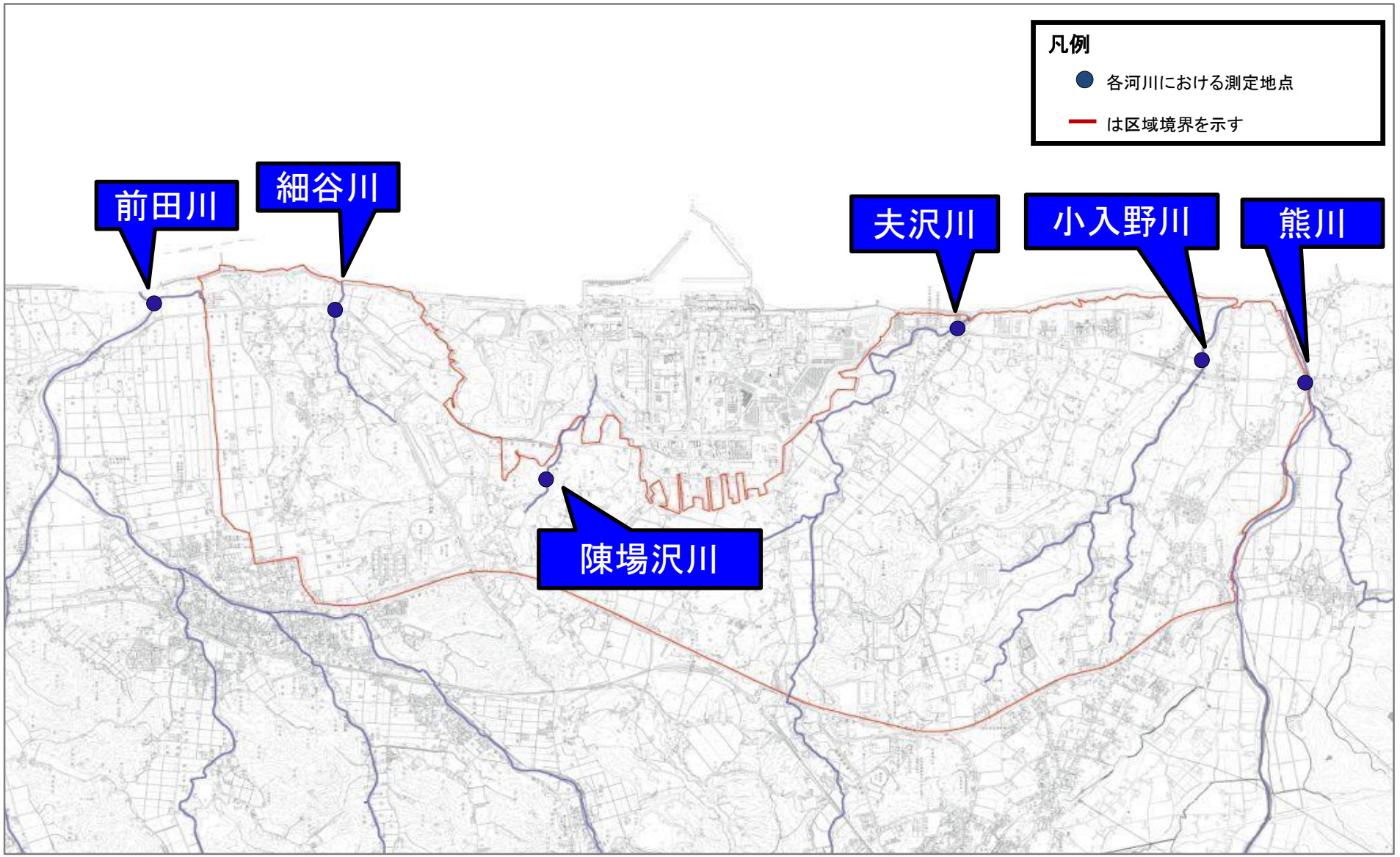
測定項目 / 測定日	ホウ素 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
水質環境基準	1	0.05
2018/9/3 （稼働前）	ND	ND
2020/4/14 （稼働後）	ND	ND

測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH) ※	生物化学的酸素要求量 (BOD) ※ (mg/L)	浮遊物質量 (SS) ※ (mg/L)	溶存酸素量 (DO) ※ (mg/L)	大腸菌群数 ※ (MPN/100mL)
2018/9/3 （稼働前）	4.9	4.4	58	7.8	330
2020/4/14 （稼働後）	5.6	0.6	24	9.6	110

※中間貯蔵施設区域及び周辺の河川は、環境基準の水域類型に指定されていない。
（参考）河川C類型の環境基準：pH 6.5～8.5、BOD 5mg/L以下、SS 50mg/L以下、DO 5mg/L以上

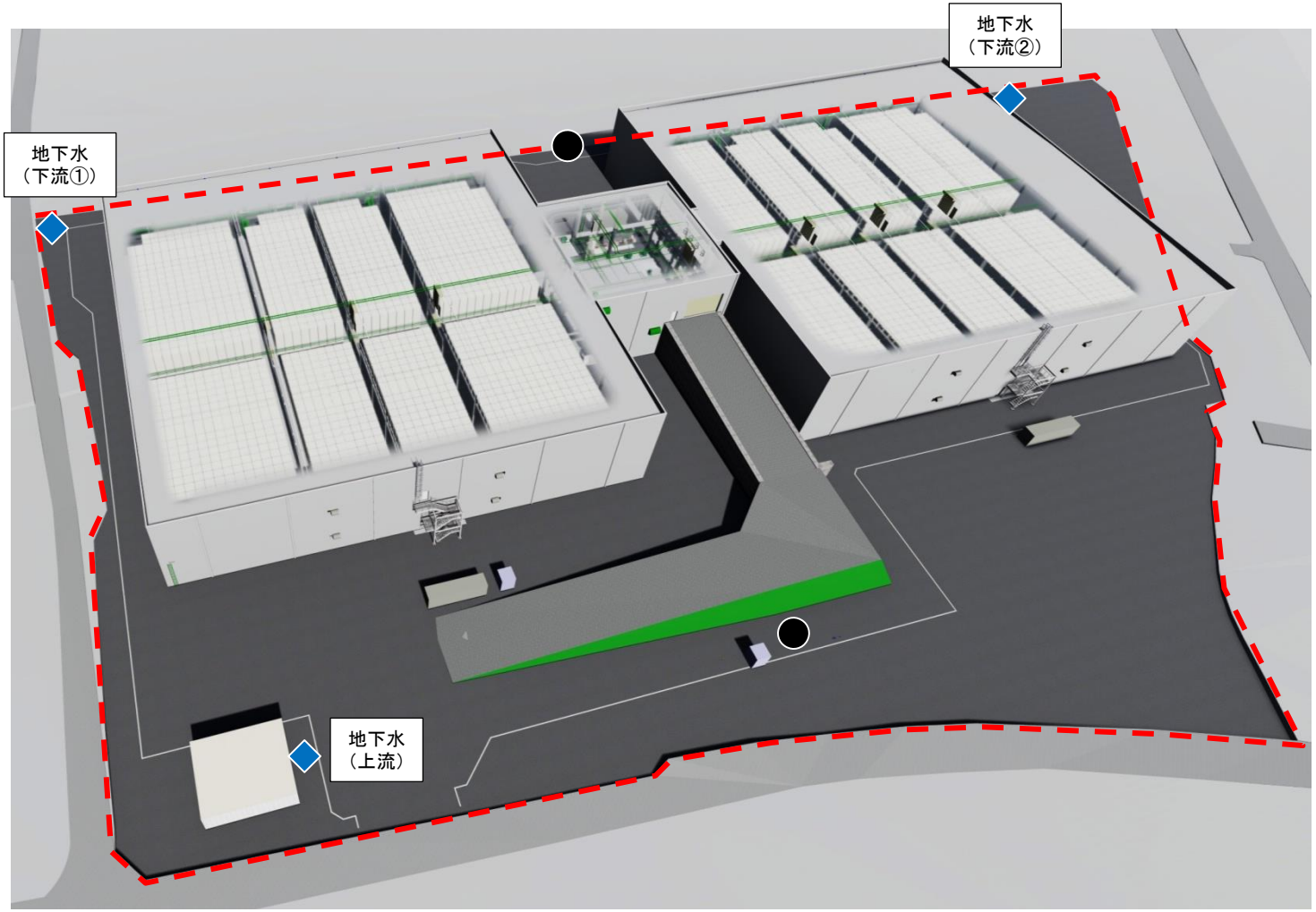
NDとは、定量下限値未満であることを示す。

河川最下流における放射性セシウムの測定地点



廃棄物貯蔵貯蔵施設のモニタリング結果（年次測定）

廃棄物貯蔵施設（大熊1工区）のモニタリング測定地点（年次測定）



★:施設の位置

【 凡例 】

● ：悪臭　　◆：地下水検査項目　　--- ：敷地境界線

廃棄物貯蔵施設（大熊1工区）のモニタリング測定結果（年次測定：稼働前）

●悪臭

測定地点	測定項目 / 測定日	臭気指数
西側	2020/4/13	10未満　（風下）
東側	2020/4/13	10未満　（風上）

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水検査項目

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)
	地下水環境基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下
上流	2020/3/9	ND	ND	0.0009	0.015	ND
下流①	2020/3/9	ND	ND	ND	0.002	ND
下流②	2020/3/9	ND	ND	ND	0.010	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2020/3/9	0.016	ND	ND	ND	ND
下流①	2020/3/9	0.002	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/3/9	0.009	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2020/3/9	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2020/3/9	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/3/9	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	地下水環境基準	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2020/3/9	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2020/3/9	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/3/9	ND	ND	ND	ND	ND

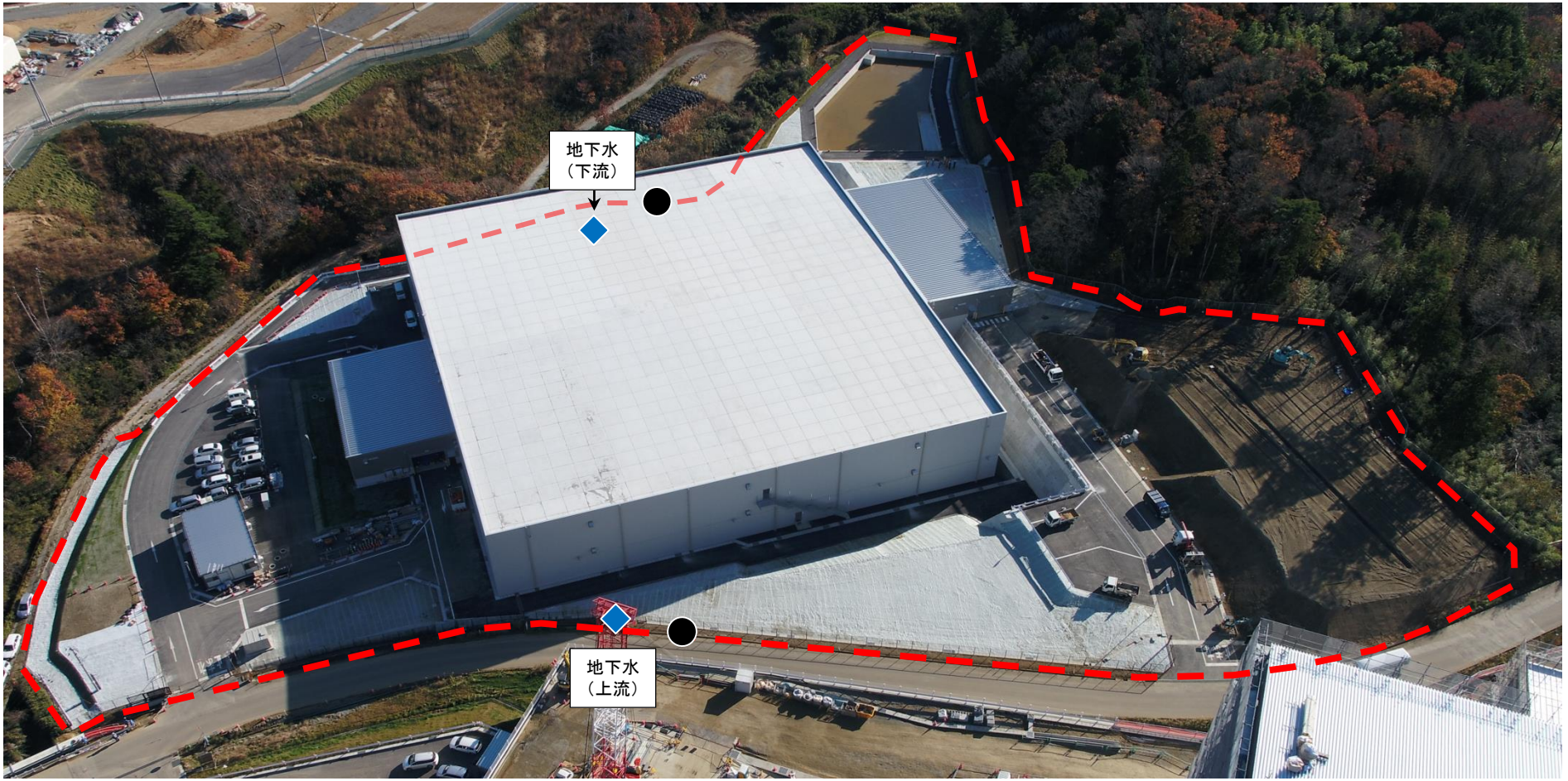
測定地点	測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2020/3/9	ND	ND	0.001	ND	ND
下流①	2020/3/9	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/3/9	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水環境基準	1以下
上流	2020/3/9	1.3
下流①	2020/3/9	0.57
下流②	2020/3/9	1.7

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

※年次測定項目については、稼働前のデータを記載している。稼働後は本年度中に測定する。

廃棄物貯蔵施設（双葉1工区）のモニタリング測定地点（年次測定）



★:施設の位置

【 凡例 】
● ：悪臭　◆ ：地下水検査項目　--- ：敷地境界線

廃棄物貯蔵施設（双葉1工区）のモニタリング測定結果（年次測定：稼働前）

●悪臭

測定地点	測定項目 / 測定日	臭気指数
西側	2020/3/2	10未満　（風上）
東側	2020/3/2	10未満　（風下）

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。

福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水検査項目

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)
	地下水環境基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下
上流	2020/3/2	不検出	ND	ND	0.15	ND
下流	2020/3/2	不検出	ND	ND	0.62	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2020/3/2	ND	不検出	不検出	ND	ND
下流	2020/3/2	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2020/3/2	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2020/3/2	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	地下水環境基準	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2020/3/2	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2020/3/2	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2020/3/2	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2020/3/2	ND	ND	ND	ND	ND

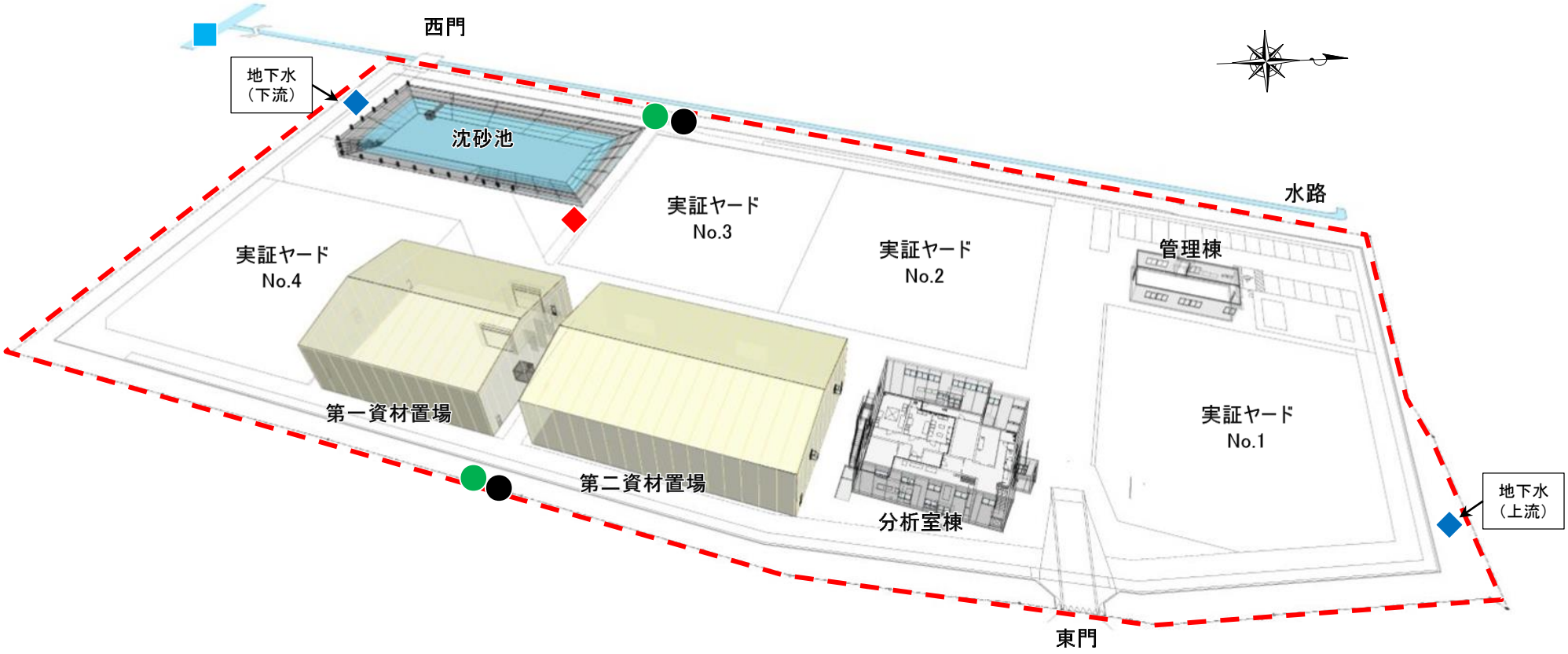
測定地点	測定項目 / 測定日	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水環境基準	1以下
上流	2020/3/2	0.18
下流	2020/3/2	0.43

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

※年次測定項目については、稼働前のデータを記載している。稼働後は本年度中に測定する。

技術実証フィールドのモニタリング結果（年次測定）

技術実証フィールドのモニタリング測定地点（年次測定）



☆:施設の位置

【 凡例 】

- ●：騒音・振動
- ●：悪臭
- ◆：地下水（井戸）の環境項目
- ◆：浸出水処理施設放流水の排水基準項目
- ■：放流先河川の環境項目
- ---：敷地境界線

技術実証フィールドのモニタリング測定結果（年次測定）①

●騒音

測定日＼測定地点	騒音レベル（dB）	
	東側	西側
2019/9/21　（稼働前）	38	38
2020/2/27　（稼働後）	66	64

大熊町と双葉町は、騒音規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準：60dB （昼間7:00～19:00）

●振動

測定日＼測定地点	振動レベル（dB）	
	東側	西側
2019/9/21　（稼働前）	30	30
2020/2/27　（稼働後）	35	41

大熊町と双葉町は、振動規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県振動防止対策指針に基づく基準：65dB（昼間7:00～19:00）

●悪臭

測定日＼測定地点	臭気指数	
	東側	西側
2019/9/21　（稼働前）	10未満　（風上）	10未満　（風下）
2020/2/27　（稼働後）	10未満　（風上）	10未満　（風下）

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水（井戸）の環境項目

測定地点	測定項目／測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)
	地下水環境基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下
上流	2019/9/6　（稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND
	2020/2/6　（稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND
下流	2019/9/6　（稼働前）	不検出	ND	0.0007	0.094	ND
	2020/2/6　（稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目／測定日	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2019/9/6　（稼働前）	0.039	不検出	不検出	ND	ND
	2020/2/6　（稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND
下流	2019/9/6　（稼働前）	0.014	不検出	不検出	ND	ND
	2020/2/6　（稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目／測定日	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2019/9/6　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/2/6　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2019/9/6　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/2/6　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目／測定日	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	地下水環境基準	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2019/9/6　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/2/6　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2019/9/6　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/2/6　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目／測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)
	地下水環境基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2019/9/6　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/2/6　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2019/9/6　（稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2020/2/6　（稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目／測定日	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水環境基準	1以下
上流	2019/9/6　（稼働前）	0.043
	2020/2/6　（稼働後）	0.03
下流	2019/9/6　（稼働前）	4
	2020/2/6　（稼働後）	0.098

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

技術実証フィールドのモニタリング測定結果（年次測定）②

◆浸出水処理施設放流水の排水基準項目

2019年度は、浸出水処理・放流の実績がないため測定なし。

■放流先河川の環境項目

測定項目 / 測定日	カドミウム (mg/L)	全シアン (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)
水質環境基準	0.003	検出されないこと	0.01	0.05	0.01
2019/9/27 （稼働前）	ND	不検出	ND	ND	ND
2020/2/6 （稼働後）	ND	不検出	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	総水銀 (mg/L)	アルキル水銀 (mg/L)	PCB (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)
水質環境基準	0.0005	検出されないこと	検出されないこと	0.02	0.002
2019/9/27 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
2020/2/6 （稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	ｼｽ-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)
水質環境基準	0.004	0.1	0.04	1	0.006
2019/9/27 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2020/2/6 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
水質環境基準	0.01	0.01	0.002	0.006	0.003
2019/9/27 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2020/2/6 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	フッ素 (mg/L)
水質環境基準	0.02	0.01	0.01	10	0.8
2019/9/27 （稼働前）	ND	ND	ND	0.09	0.09
2020/2/6 （稼働後）	ND	ND	ND	0.1	ND

測定項目 / 測定日	ホウ素 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
水質環境基準	1	0.05
2019/9/27 （稼働前）	ND	ND
2020/2/6 （稼働後）	ND	ND

測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH) ※	生物化学的酸素要求量 (BOD) ※ (mg/L)	浮遊物質量 (SS) ※ (mg/L)	溶存酸素量 (DO) ※ (mg/L)	大腸菌群数 ※ (MPN/100mL)
2019/9/27 （稼働前）	8	1.3	ND	11.7	11000
2020/2/6 （稼働後）	7.8	ND	4	15	1300

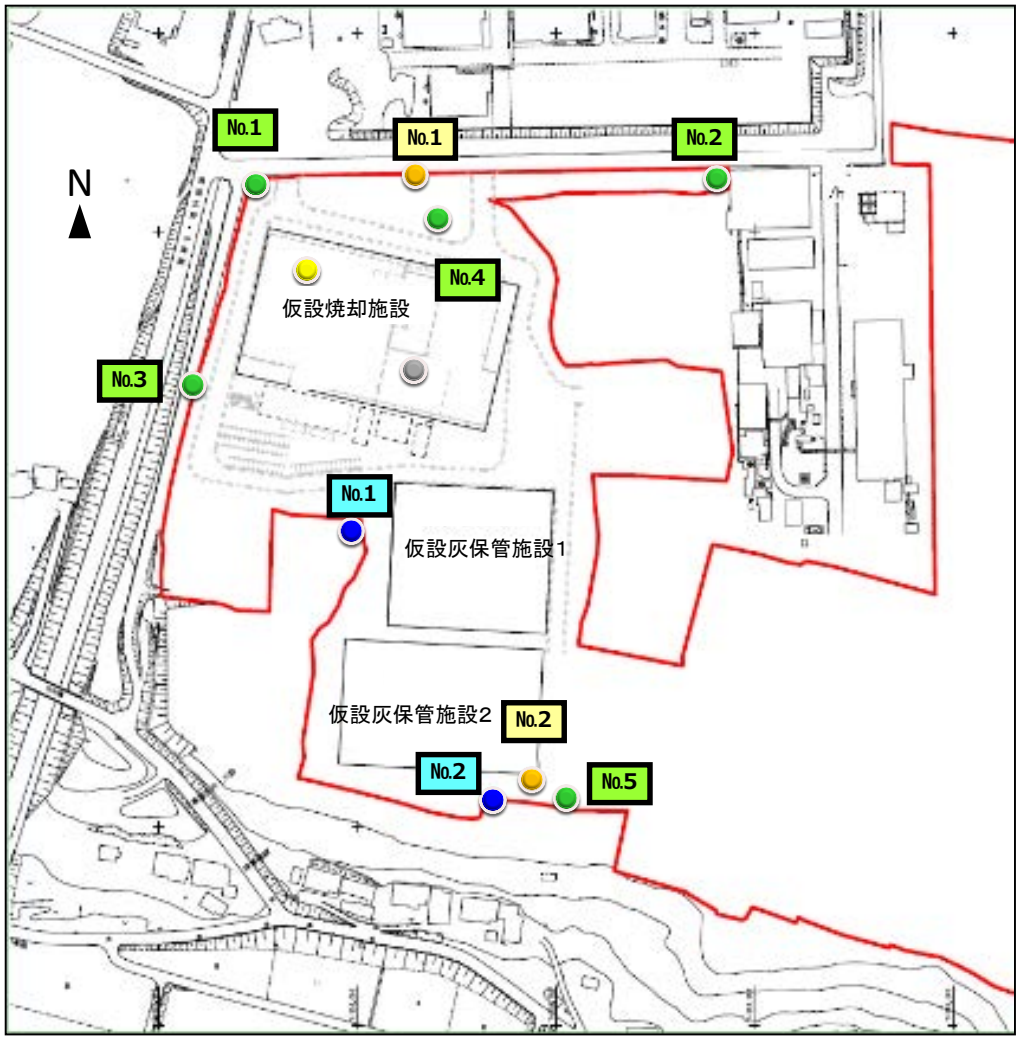
※中間貯蔵施設区域及び周辺の河川は、環境基準の水域類型に指定されていない。

（参考）河川C類型の環境基準：pH 6.5～8.5、BOD 5mg/L以下、SS 50mg/L以下、DO 5mg/L以上

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

仮設焼却施設のモニタリング結果

大熊町仮設焼却施設のモニタリング測定地点



凡例

- 排ガス中の放射性物質濃度
- 地下水（井戸）中の放射性物質濃度
- 雨水（雨水排水集水桝）中の放射能濃度
- 空間線量率
- 粉じん濃度

大熊町仮設焼却施設のモニタリング測定結果

排ガス

測定地点	放射能濃度 (Bq/m^3_N)	
煙突測定口	2020/3～2020/6	ND

検出下限値：$4Bq/m^3_N$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

粉じん

測定地点	粉じん濃度 (mg/m^3)	
受入ヤード破砕機近傍	2020/3～2020/6	0.42～1.1

雨水

測定地点	放射能濃度 (Bq/L)	
No.1	2020/3～2020/6	ND
No.2	2020/3～2020/6	ND

検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

地下水

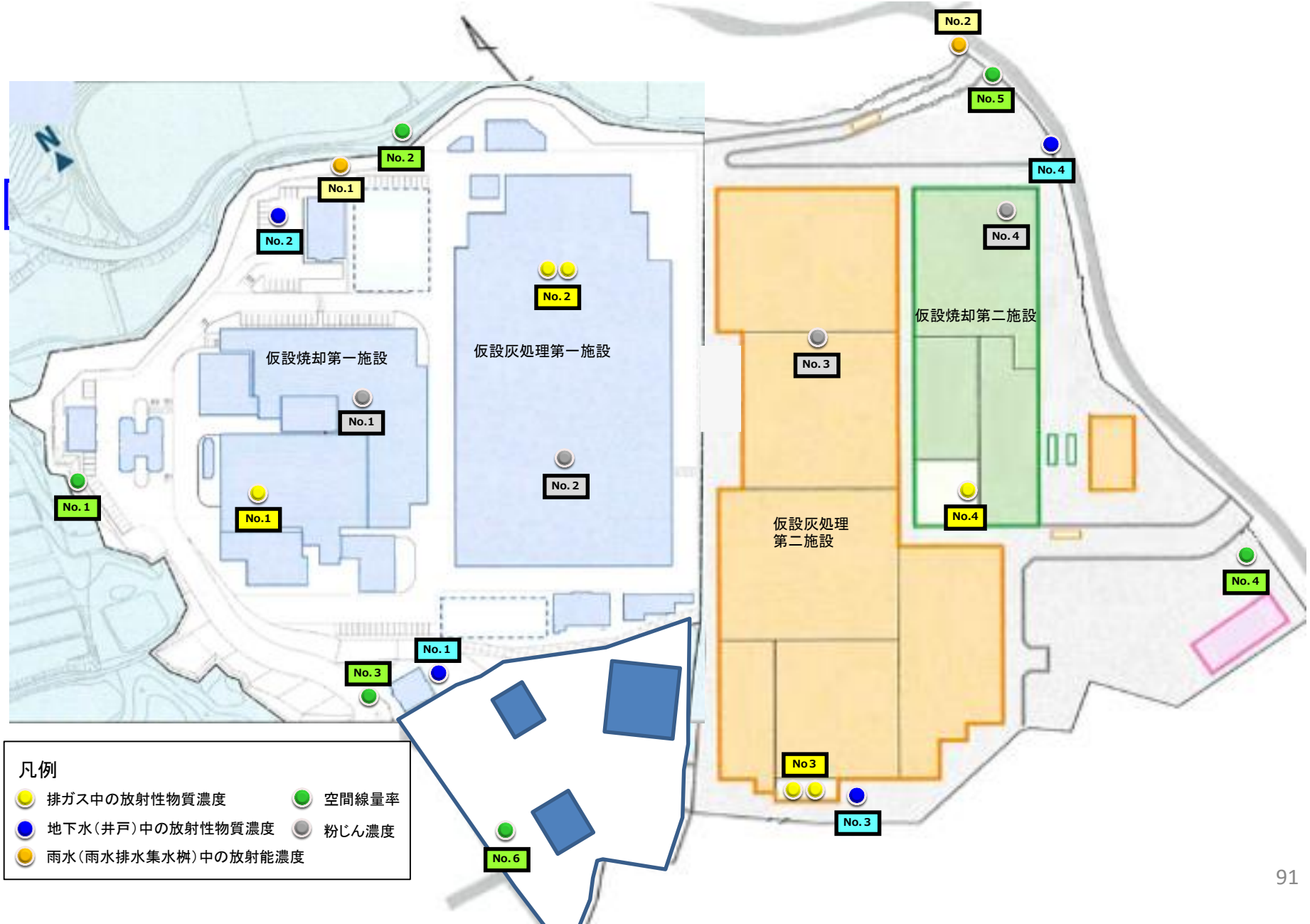
測定地点	放射能濃度 (Bq/L)	
No.1	2020/3～2020/6	ND
No.2	2020/3～2020/6	ND

検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

空間線量率

測定地点	空間線量率 (μSv/h)	
No.1	稼働前（2017/12/1～11）	4.41 ～ 4.60
	2020/3～ 2020/6	2.77 ～ 3.30
No.2	稼働前（2017/12/1～11）	4.41 ～ 4.63
	2020/3～ 2020/6	2.93 ～ 3.49
No.3	稼働前（2017/12/1～11）	2.05 ～ 2.21
	2020/3～ 2020/6	1.03 ～ 1.26
No.4	稼働前（2017/12/1～11）	0.61 ～ 1.10
	2020/3～ 2020/6	0.36 ～ 0.40
No.5	稼働前（2017/12/1～11）	0.93 ～ 1.11
	2020/3～ 2020/6	0.40 ～ 0.49

双葉町仮設処理施設のモニタリング測定地点



双葉町仮設処理施設のモニタリング測定結果

排ガス

測定地点	放射能濃度(Bq/m3N)	
煙突測定口　No.1	2020/2～2020/6	ND
煙突測定口　No.2	2020/3～2020/6	ND
煙突測定口　No.3	2020/4～2020/6	ND
煙突測定口　No.4	2020/3～2020/6	ND

検出下限値：4Bq/m^3_N
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

粉じん

測定地点	粉じん濃度(mg/㎥)	
受入ヤード No.1焼却	2020/2～2020/6	0.21～0.46
受入ヤード破砕機 近傍　No.1灰処理	2020/3～2020/6	0.06～0.16
受入ヤード破砕機 近傍　No.2焼却	2020/4～2020/6	0.31～6.56
受入ヤード破砕機 近傍　No.2灰処理	2020/4～2020/6	0.15～0.26

雨水

測定地点	放射能濃度(Bq/L)	
No.1	2020/1～2020/6	ND
No.2	2020/2～2020/6	ND

検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

地下水

測定地点	放射能濃度(Bq/L)	
No.1	2020/1～2020/6	ND
No.2	2020/1～2020/6	ND
No.3	2020/2～2020/6	ND
No.4	2020/2～2020/6	ND

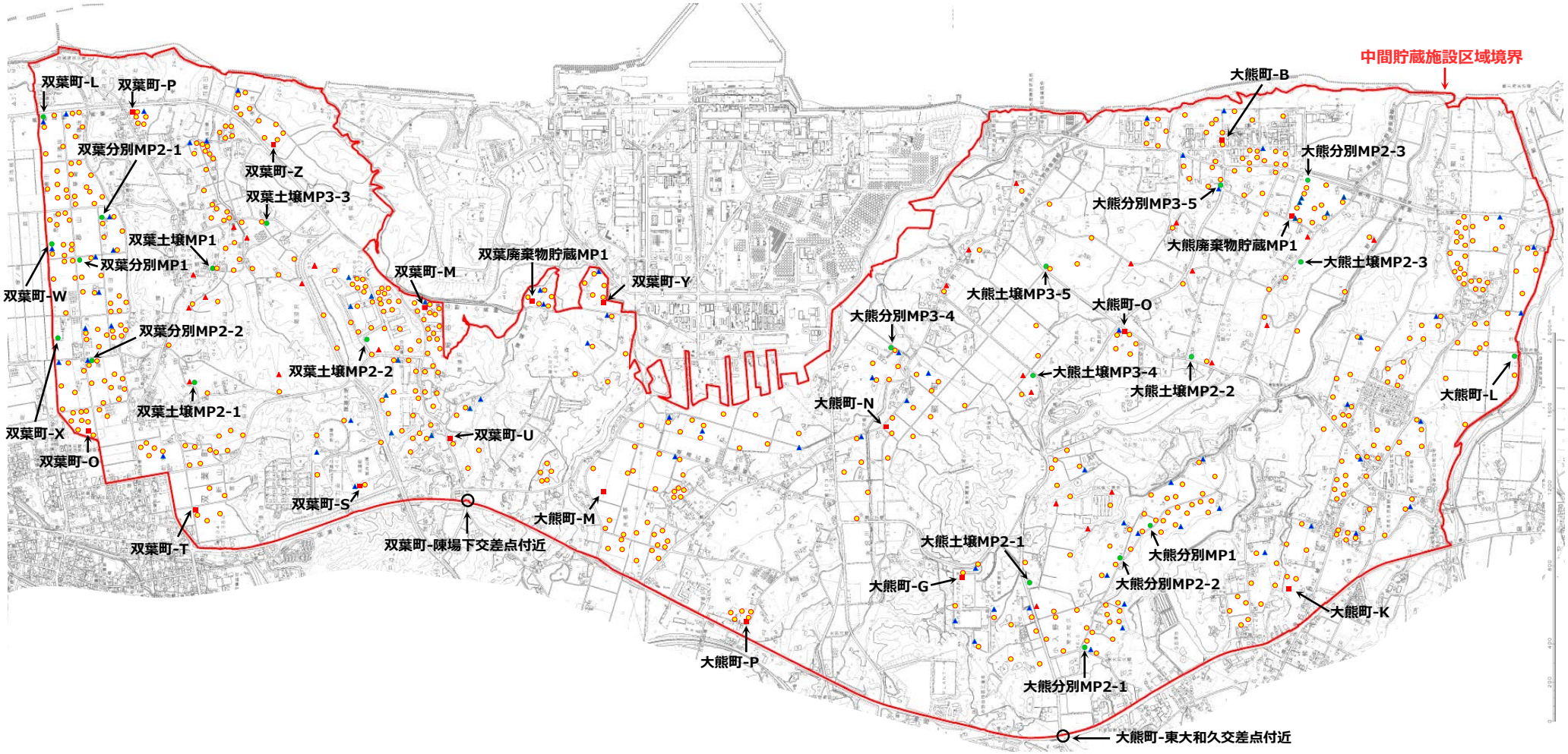
検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

空間線量率

測定地点	放射線量(μSv/h)	
MP No.1	稼働前(2020/1/16～24)	0.174 ～ 0.223
	2020/3～2020/6	0.158 ～ 0.197
MP No.2	稼働前(2020/1/16～24)	0.138 ～ 0.174
	2020/3～2020/6	0.129 ～ 0.167
MP No.3	稼働前(2020/1/16～24)	0.201 ～ 0.264
	2020/3～2020/6	0.186 ～ 0.222
MP No.4	稼働前(2020/3/1～3/26)	0.381 ～ 0.434
	2020/3～2020/6	0.344 ～ 0.409
MP No.5	稼働前(2020/3/1～3/26)	0.388 ～ 0.421
	2020/3～2020/6	0.351 ～ 0.425
MP No.6	稼働前(2020/3/1～3/26)	0.196 ～ 0.200
	2020/3～2020/6	0.165 ～ 0.204

中間貯蔵施設区域におけるモニタリング結果

中間貯蔵施設区域における放射線モニタリング位置図

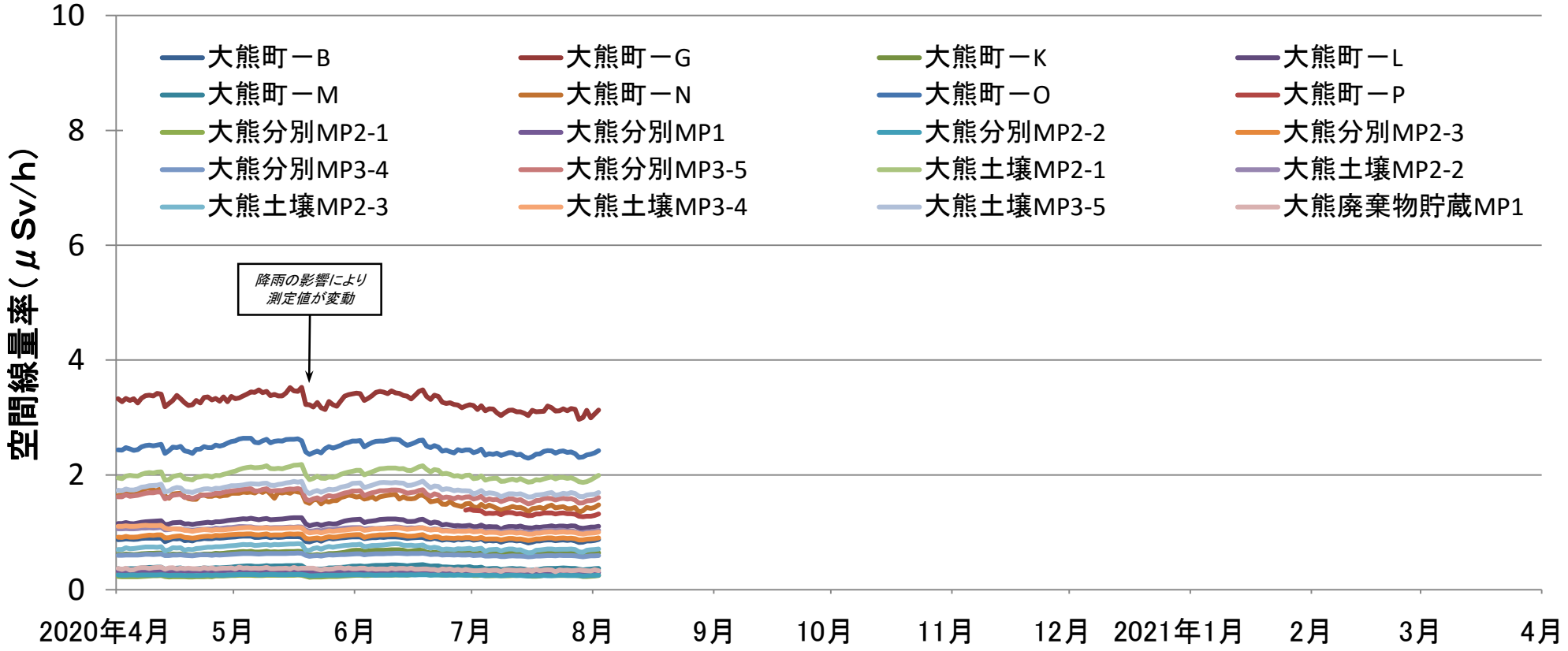


【凡例】

- 空間線量率測定地点（リアルタイムデータ自動送信）
- 空間線量率測定地点（連続測定週次データ回収）
- 空間線量率測定地点（週次測定）
- 地下水中放射能濃度測定地点（月次測定）
- 地下水中放射能濃度測定地点（週次測定）
- 大気中放射能濃度、空間線量率測定地点（リアルタイムデータ自動送信）

空間線量率及び地下水中の放射能濃度の測定結果（大熊町）

○　モニタリングの地点数（連続測定20箇所、週次測定309箇所で空間線量率の測定を行っている）
○　モニタリングの結果（空間線量率は、0.19～9.84μSv/hの範囲であり、降雨、工事の進捗に伴う周辺の線量低減等による変動が見られたが、除去土壌等の保管、処理、貯蔵等による周辺への影響は見られなかった）

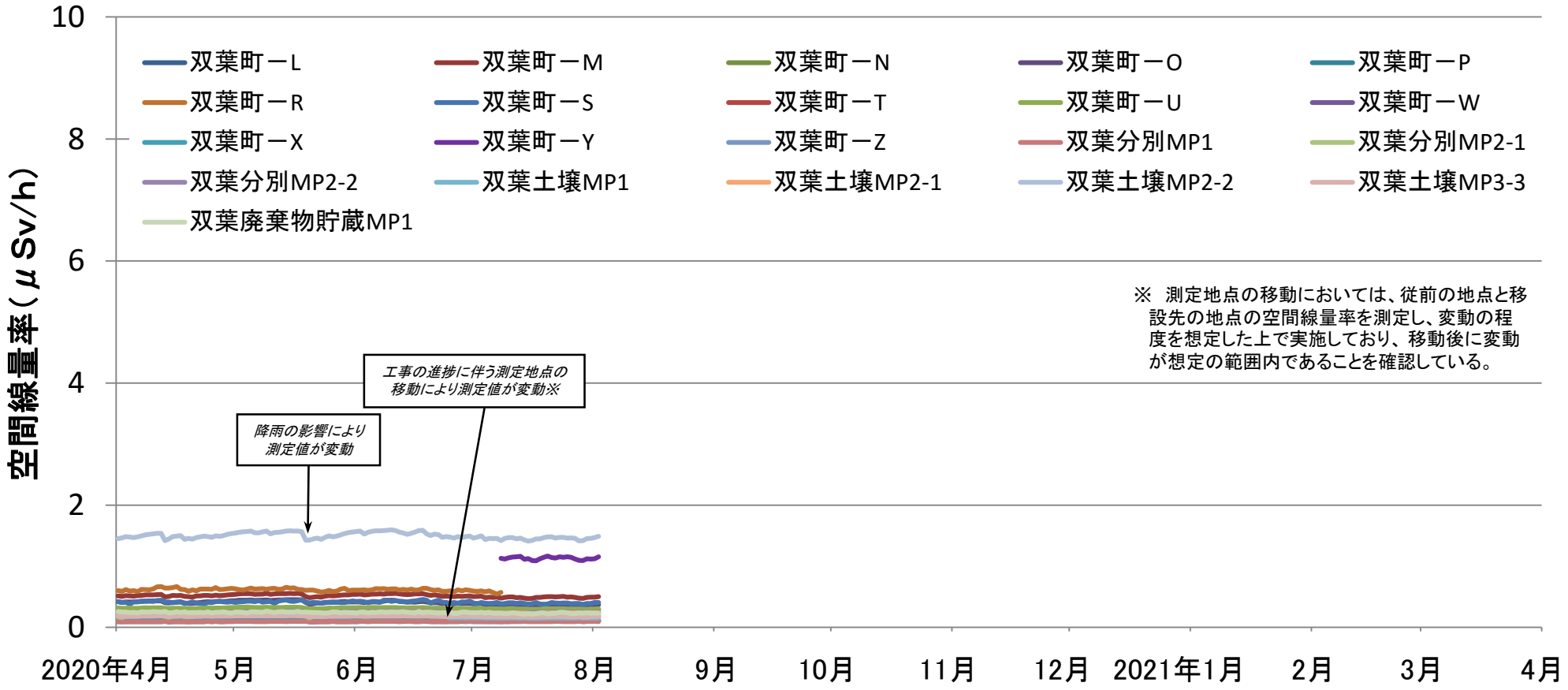


空間線量率の推移（連続測定）（2020年4月1日～8月2日）

○　地下水中の放射能濃度は、全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。

空間線量率及び地下水中の放射能濃度の測定結果（双葉町）

○　モニタリングの地点数（連続測定21箇所、週次測定270箇所で空間線量率の測定を行っている）
○　モニタリングの結果（空間線量率は、0.07～6.45μSv/hの範囲であり、降雨、工事の進捗に伴う周辺の線量低減、測定地点の移動等による変動が見られたが、除去土壌等の保管、処理、貯蔵等による周辺への影響は見られなかった）



空間線量率の推移（連続測定）（2020年4月1日～8月2日）

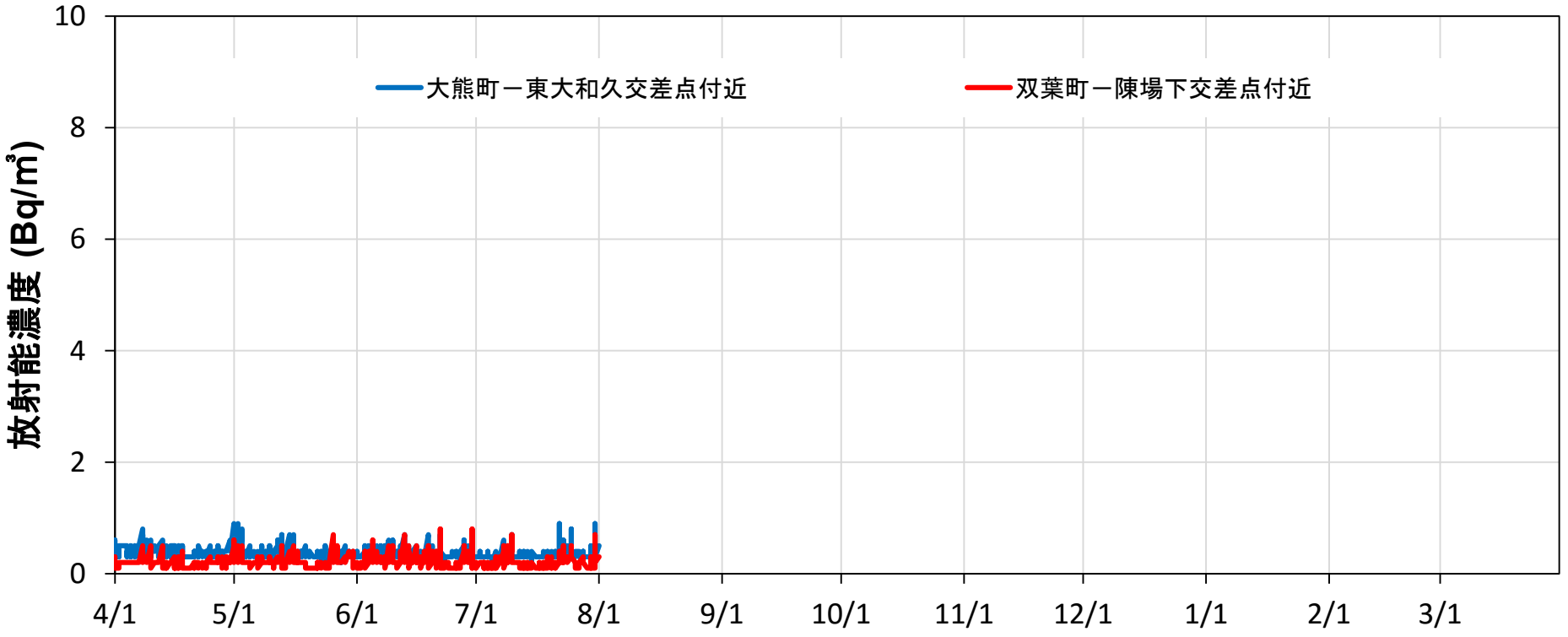
○　地下水中の放射能濃度は、全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。

中間貯蔵施設区域境界における大気中放射能濃度の測定結果

○大気中放射能濃度は最大でもセシウム137が4.26×10^{-3}Bq/m^3（セシウム134は検出限界未満）であり、濃度限度の7千分の1程度であった（測定頻度：週1回）。

※検出下限値は千分の1Bq/m^{3}程度、濃度限度はセシウム134濃度/20+セシウム137濃度/30≦1

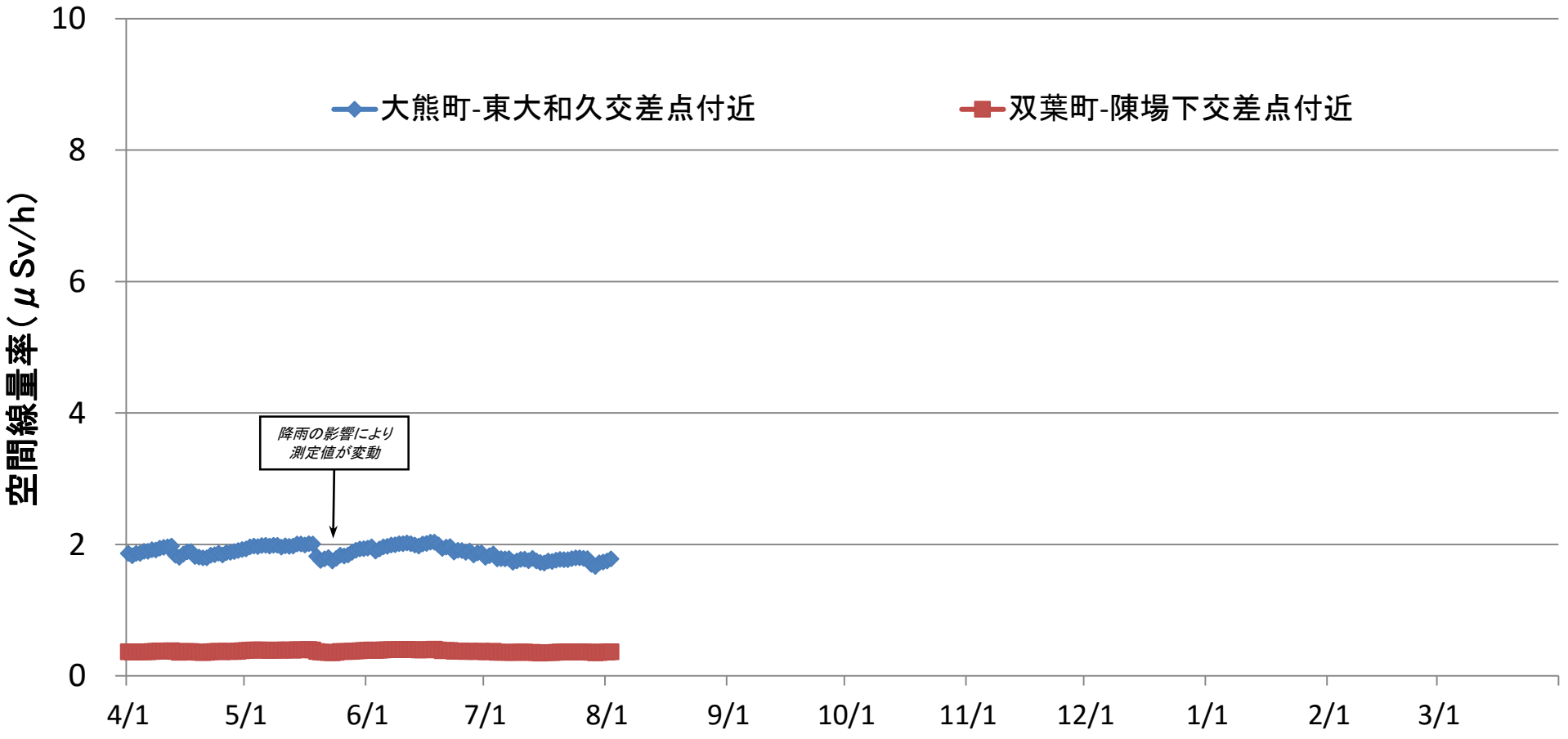
○放射能濃度の変化をより迅速に把握するため、β線の放射能濃度をリアルタイムに監視している。連続測定結果は下図のとおりであり、通常の変動の範囲内で推移している。



中間貯蔵施設区域境界における大気中のβ線の放射能濃度（連続測定）
（2020年4月1日～7月31日）

中間貯蔵施設区域境界における空間線量率の測定結果（連続測定）

○ 区域境界における空間線量率は下図のとおりであり、通常の変動の範囲内で推移している。

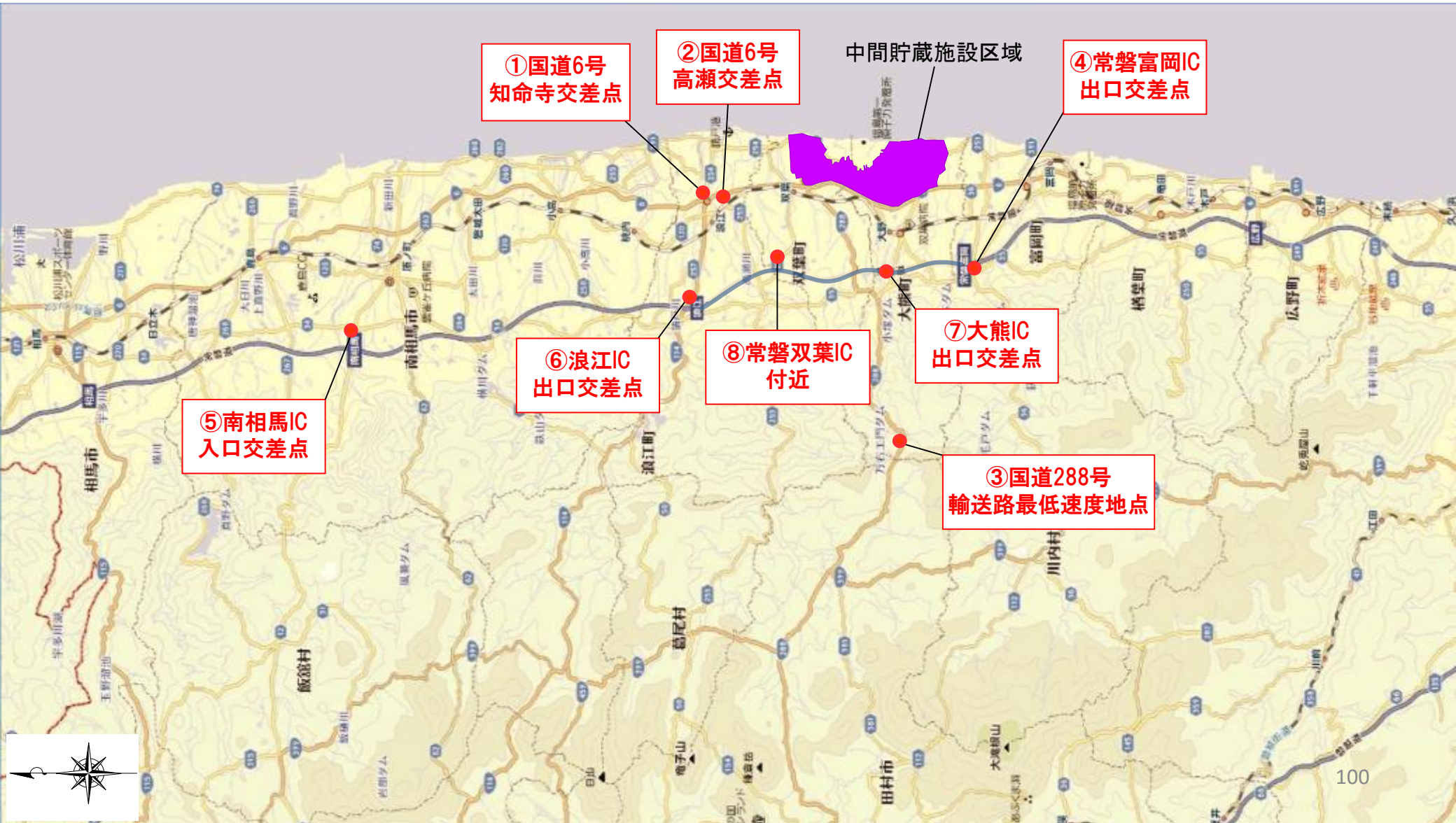


中間貯蔵施設区域境界における空間線量率の推移（連続測定）
（2020年4月1日～8月2日）

輸送路における放射線量率の測定結果

輸送路における放射線量率の測定

○ 輸送車両の通過地点のうち交差点や速度低下地点において、遮へい板付きの測定器を用いて周囲の放射線の影響を除去し、車道から歩道方向に入射する放射線量率の変化を測定している。



輸送路における放射線量率の測定結果

○ 輸送車両が通る時などに、数十秒間程度、平常時より高い放射線量率が観測される場合があったが、追加被ばく線量は十分に小さいことを確認した。

	当該地点を通過した輸送車両数［台］	うち通過時に線量率の増加が観測されたもの［台］※1	（参考）当該地点の空間線量率［μSv/h］	（輸送車両通過時） 追加被ばく線量率（瞬間最大値）［μSv/h］※2	（輸送車両通過時） 線量率の増加が観測された時間（累積）［分］※2	（輸送車両通過時） 追加被ばく線量（累積）［μSv］
①知命寺	3,743	77	0.11	0.04	13	0.004
②高瀬	8,440	591	0.16	0.10	168	0.08
③国道288	1,954	172	0.17	0.15	42	0.04
④常磐富岡IC	3,669	26	0.48	0.04	5.3	0.002
⑤南相馬IC	20,366	1,495	0.12	0.11	246	0.2
⑥浪江IC	7,108	830	0.32	0.21	220	0.2
⑦大熊IC	53,445	6	0.37	0.05	0.67	0.0005
⑧常磐双葉IC	19,531	20	1.06	0.05	2.3	0.001

※1 各地点の放射線量率の測定結果について「測定期間の平均値＋標準偏差の3倍」を超過した輸送車両数。

※2 測定は20秒単位。

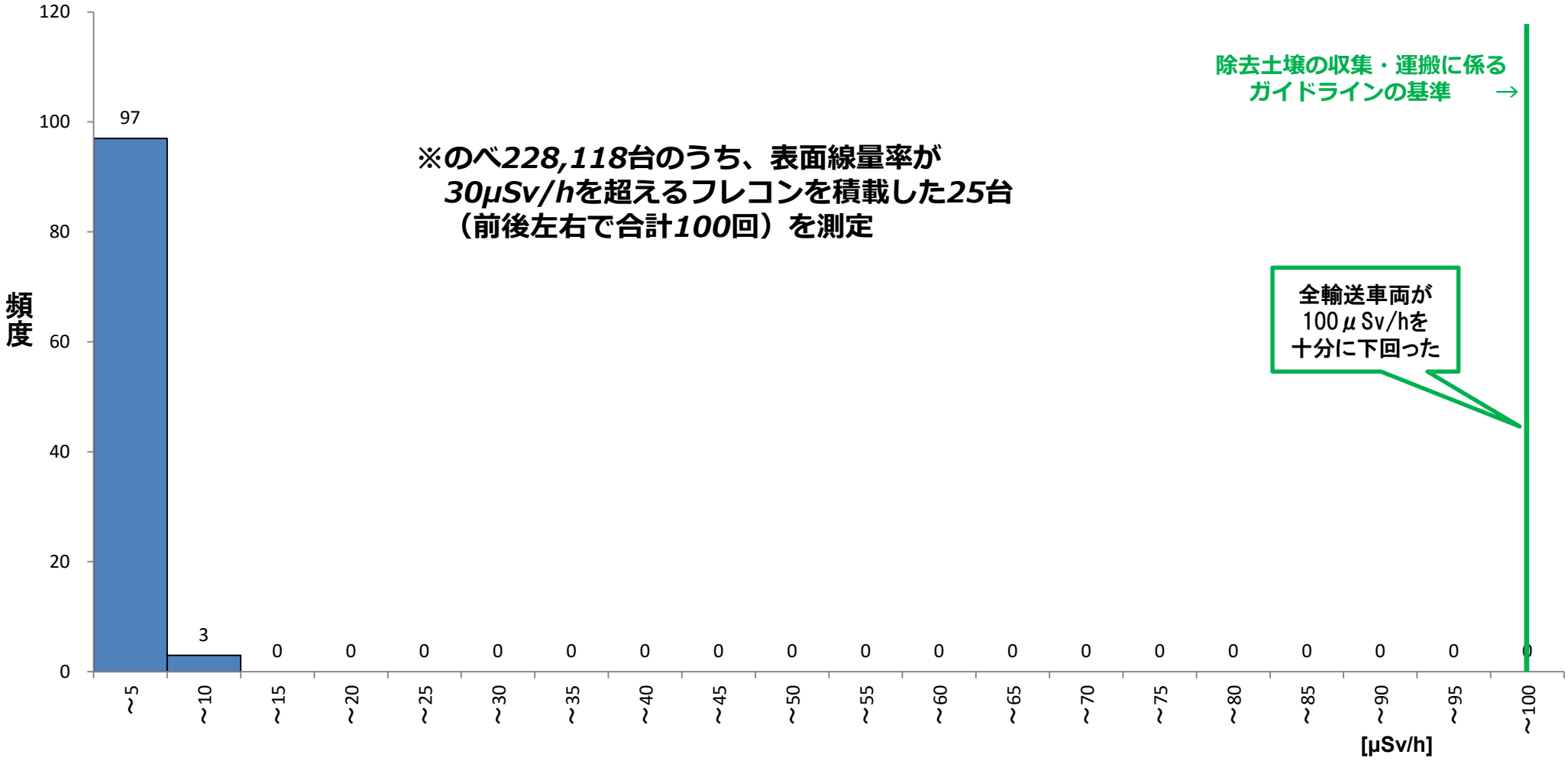
※ 測定地点「広野IC」は、当該地点を通過する輸送が2020年3月で終了したため、測定終了。

輸送路における放射線量率の測定結果（2020年4月1日～6月30日）

輸送車両のモニタリング結果

仮置場搬出時の輸送車両周辺の空間線量率の測定結果

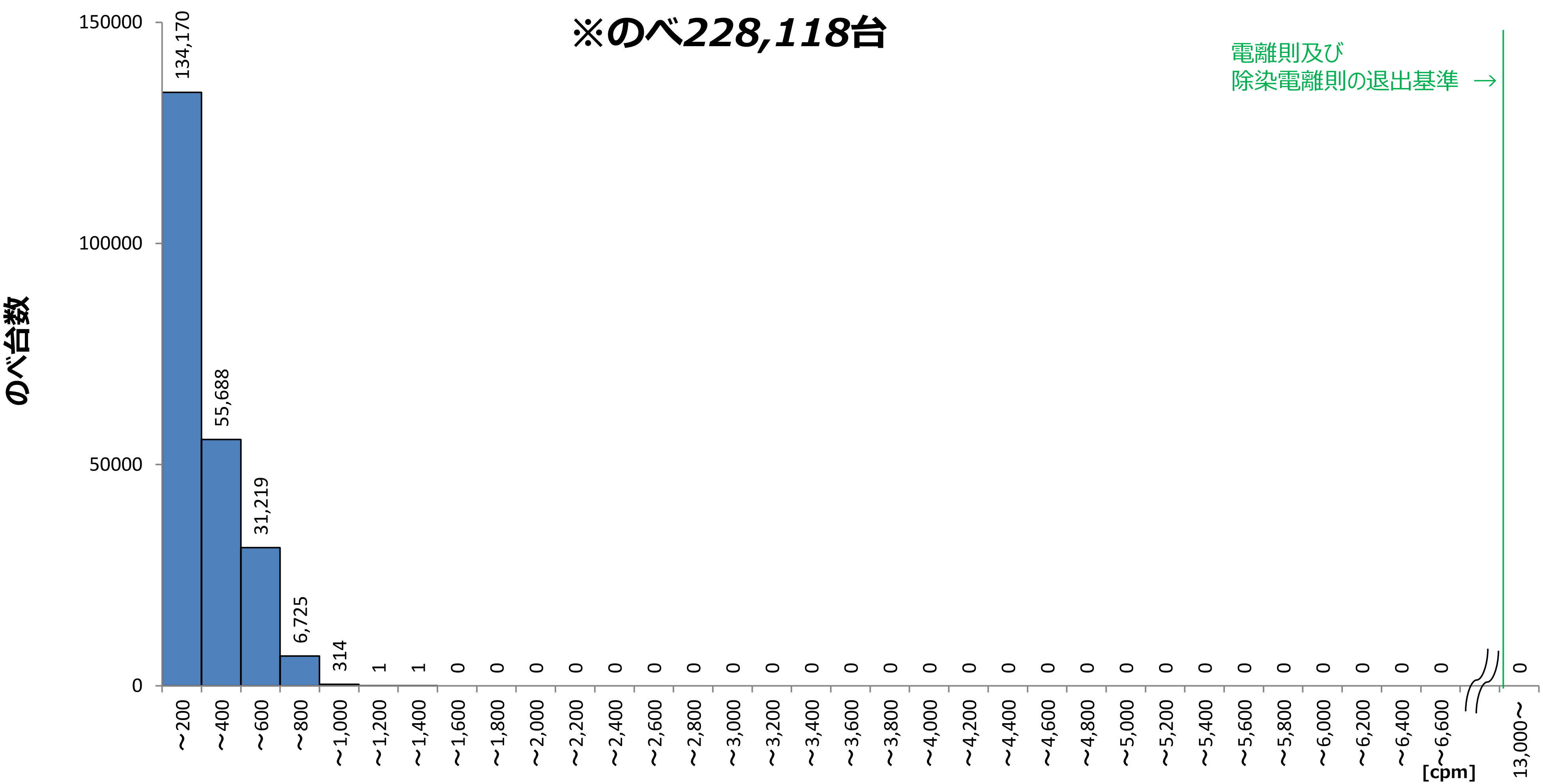
○　仮置場からの搬出時に、表面線量率が30μSv/hを超えるフレコンを積載した車両について、前後左右1メートル離れた地点で空間線量率を測定し、積載した除去土壌等による周辺への放射線の影響を確認している。



輸送車両周辺の空間線量率の測定結果（2020年4月1日～7月31日）　※バックグラウンドの影響も含む

中間貯蔵施設退出時の輸送車両の表面汚染密度の測定結果

〇　中間貯蔵施設からの退出時に、<u>除去土壌等を荷下ろしした輸送車両の汚染検査</u>（スクリーニング）を行い、電離則及び除染電離則に定められた基準を超えていないことを確認している。



輸送車両のスクリーニング時の最大の表面汚染密度の分布(2020年4月1日～7月31日)

※表面汚染密度の値はバックグラウンドを含むグロス値

資料2

令和元年度中間貯蔵施設事業に係るモニタリング調査の結果について

令和2年8月31日

福島県生活環境部中間貯蔵施設等対策室

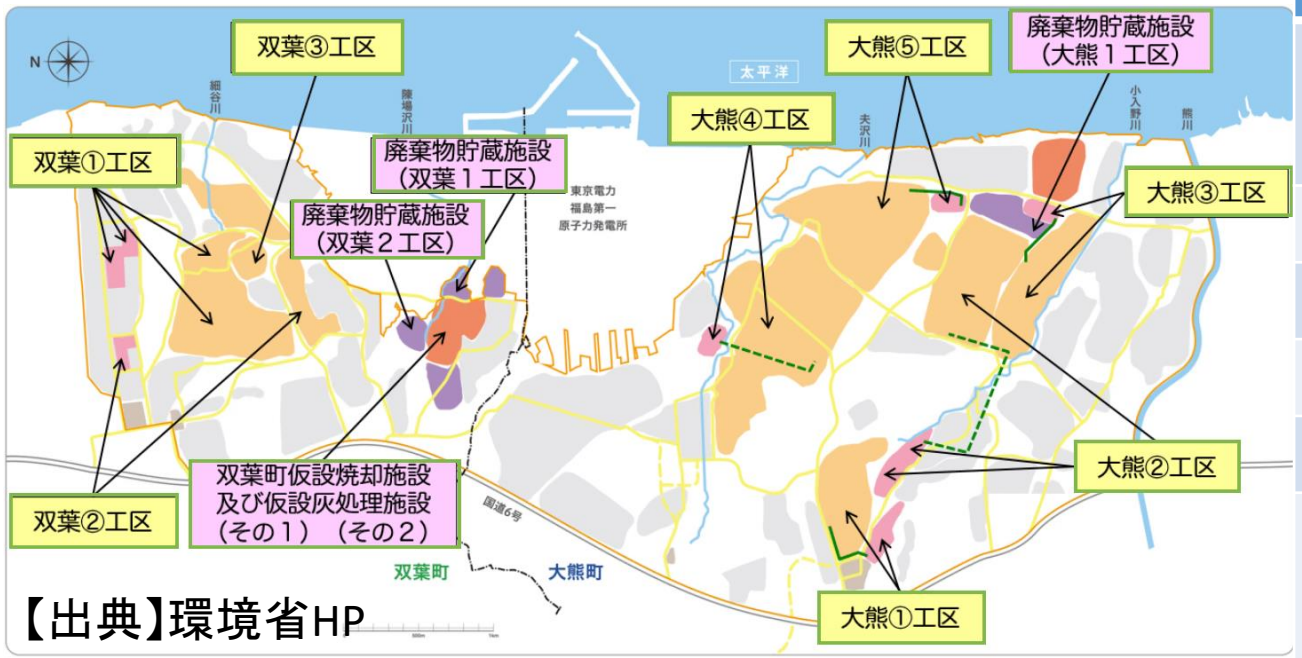
調査の概要（１）

○調査の目的

国が実施する中間貯蔵施設事業に関して、「中間貯蔵施設の周辺地域の安全確保等に関する協定書」に基づき、空間線量率、大気（大気浮遊じん）、水の環境放射能等を測定し、事業の安全性を確認するもの。

調査の概要（2）

○放射能等調査



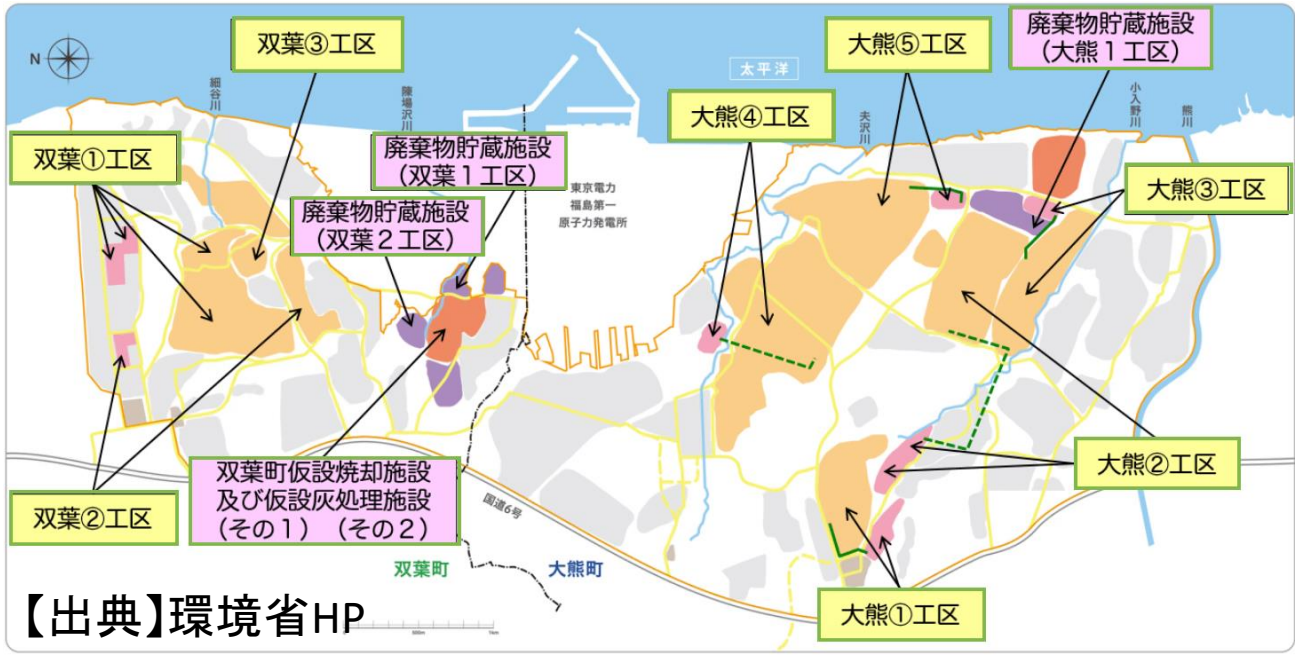
中間貯蔵施設内の各施設の地下水等や河川の下流域
中間貯蔵施設との敷地境界及び輸送路について調査する

調査対象	調査項目
敷地境界	空間線量率 大気浮遊じん中の放射能濃度
輸送路※	空間線量率
河川	河川水中の放射能濃度
保管場	地下水中の放射能濃度
受入・分別施設	地下水中の放射能濃度
土壌貯蔵施設	地下水中の放射能濃度 シート下部湧水中の放射能濃度 放流水中の放射能濃度
減容化施設	排ガス中の放射能濃度

※輸送路はR元年度から、調査場所を浪江町役場から浪江町地域スポーツセンターへ変更した。

調査の概要（3）

○環境調査



【出典】環境省HP

中間貯蔵施設内の各施設の放流水
輸送路について調査する

調査対象	調査項目
輸送路※	大気質（NOx、SPM） 騒音・振動
土壌貯蔵施設	放流水中の有害物質等

※輸送路はR元年度から、調査場所を浪江町役場から浪江町地域スポーツセンターへ変更した。

調査の概要（4）

○調査件数

中間貯蔵施設敷地内

調査項目	調査回	調査地点数（大熊工区内）	調査地点数（双葉工区内）
地下水中の放射能濃度	1回目	11	6
	2回目	9	8
シート下部湧水中の放射能濃度	1回目	5	3
	2回目	6	3
放流水中の放射能濃度	1回目	4	3
	2回目	4	3
放流水中の有害物質等	1回目	4	3
	2回目	―	―
減容化施設の排ガスの放射能濃度	1回目	1	―
	2回目	―	―

調査の概要（5）

○調査件数

中間貯蔵施設敷地境界・敷地外

調査項目	調査回	中間貯蔵施設敷地境界	輸送路（浪江町地域スポーツセンター）	下流河川
空間線量率	1・2回目	2	1	―
大気浮遊じん中の放射能濃度	1・2回目	2	―	―
大気質（NOx、SPM）	1回目	―	1	―
騒音・振動	1回目	―	1	―
河川水中の放射能濃度	1・2回目	―	―	5

調査結果の概要（1）

○空間線量率

単位：μSv/h

測定地点	測定結果	環境省の令和元年度モニタリング結果	県のH30年度モニタリング結果
敷地境界	0．32 ～ 1．31	0．30 ～ 2．72	0．49 ～ 2．28
輸送路（浪江町地域スポーツセンター）	0．14	―	―

・敷地境界の空間線量率は、H30年度よりも低い値となった。

・輸送路はR元年度から、調査場所を浪江町役場から変更した。
H30年度の結果（0.12-0.13 μSv/h）と比較すると同程度であった。

調査結果の概要（2）

○大気浮遊じん放射能濃度（セシウム-134+セシウム-137）

単位：mBq/m³

測定地点	測定結果	環境省の令和元年度モニタリング結果	県のH30年度モニタリング結果
敷地境界	不検出 ～ 2．1 （検出下限値：1）	不検出 ～ 1．68 （検出下限値：1）	不検出 ～ 2．8 （検出下限値：1～3）
敷地内（参考） 【出典】原子力発電所周辺環境放射能測定結果（県危機管理部）	0．15 ～ 2．56 （検出下限値： 0.01～0.1）	―	0．098 ～ 3．65 （検出下限値： 0.01～0.1）

全て基準超過なし

(基準値(濃度限界)：セシウム-134濃度（Bq/m³）/20 + セシウム-137濃度（Bq/m³）/30 ≦ 1)

調査結果の概要（3）

○大気浮遊じん放射能濃度の測定地点

双葉町陳場下交差点

大熊町東大和久交差点

調査結果の概要（４）

○輸送路のモニタリング結果

（１）騒音・振動

測定地点	測定結果	県のH30年度調査結果※	環境基準等（参考）
輸送路 浪江町地域スポーツセンター	等価騒音レベル 62.2 ～ 65.7 dB	等価騒音レベル 63.9 ～ 68.3 dB	70dB
	振動レベル 38.6 ～ 52.4 dB	振動レベル 46.0 ～ 52.3 dB	65dB（第一種区域） 70dB（第二種区域）

※輸送路はR元年度から、調査場所を浪江町役場から変更した。
　H30年度の結果と比較すると同程度であった。

調査結果の概要（５）

○輸送路のモニタリング結果

（２）大気質

調査対象	項目	測定値の範囲	H30年度結果※	基準値等
二酸化窒素(NO_2)	１日平均値（ppm）	0.002 ～ 0.007	0.002 ～ 0.014	【環境基準】 0.04～0.06ppm、又はそれ以下
	１時間の最大値（ppm）	0.005 ～ 0.028	0.004 ～ 0.025	
一酸化窒素(NO)	１日平均値（ppm）	0.000 ～ 0.003	0.001 ～ 0.007	【H30年度大気測定局舎(8局)】 1日平均値の最高値：0.002～0.028ppm 1時間値の最高値：0.010～0.103ppm
	１時間の最大値（ppm）	0.003 ～ 0.051	0.002 ～ 0.023	
浮遊粒子状物質(SPM)	１日平均値（mg/m^3）	0.001 ～ 0.007	0.005 ～ 0.017	【環境基準】 １時間値の１日平均値が0.10mg/m^3以下かつ1時間値が0.20mg/m^3以下
	１時間の最大値（mg/m^3）	0.004 ～ 0.019	0.009 ～ 0.024	

※輸送路はR元年度から、調査場所を浪江町役場から変更した。

調査結果の概要（6）

○輸送路の測定地点

浪江町地域スポーツセンター

調査結果の概要（7）

○河川水中の放射能濃度（セシウム-134+セシウム-137）

ND　～3．４Bq/L　（検出下限値　１Bq/L）

平成30年度県モニタリング結果
不検出 ～ 5.6 Bq/L （検出下限値：1 Bq/L）

令和元年度環境省モニタリング結果
不検出～1.8 Bq/L （検出下限値：１ Bq/L）

調査結果の概要（８）

○地下水中の放射能濃度（セシウム-134+セシウム-137）

全て不検出　　(検出下限値　1Bq/L)

平成30年度県モニタリング結果
全て不検出　（検出下限値：１ Bq/L）

令和元年度環境省モニタリング結果
全て不検出　（検出下限値：１ Bq/L）

調査結果の概要（９）

○土壌貯蔵施設の放流水

（１）放射能濃度（セシウム-134+セシウム-137）

全て不検出　(検出下限値　1 Bq/L)

全て基準超過なし

(基準値(濃度限界)：セシウム-134濃度（Bq/L）/60 + セシウム-137濃度（Bq/L）/90 ≦ 1)

平成30年度県モニタリング結果
不検出 ～ 0.85 Bq/L （検出下限値：1 Bq/L）

令和元年度環境省モニタリング結果
不検出 （検出下限値：１ Bq/L）

調査結果の概要（10）

○土壌貯蔵施設の放流水

（2）有害物質等

全て基準超過なし　(基準値：「中間貯蔵施設に係る指針」による基準)

平成30年度県モニタリング結果
全て基準超過なし

令和元年度環境省モニタリング結果
基準超過なし

調査結果の概要（１１）

○排ガス（セシウム134+セシウム-137）

単位：Bq/m³

測定地点		測定結果 (Cs-134+Cs-137)	環境省の令和元年度モニタリング結果
大熊町仮設焼却施設	ろ紙部	不検出（検出下限値：2）	不検出（検出下限値：4）
	ドレン部	不検出（検出下限値：2）	

基準超過なし

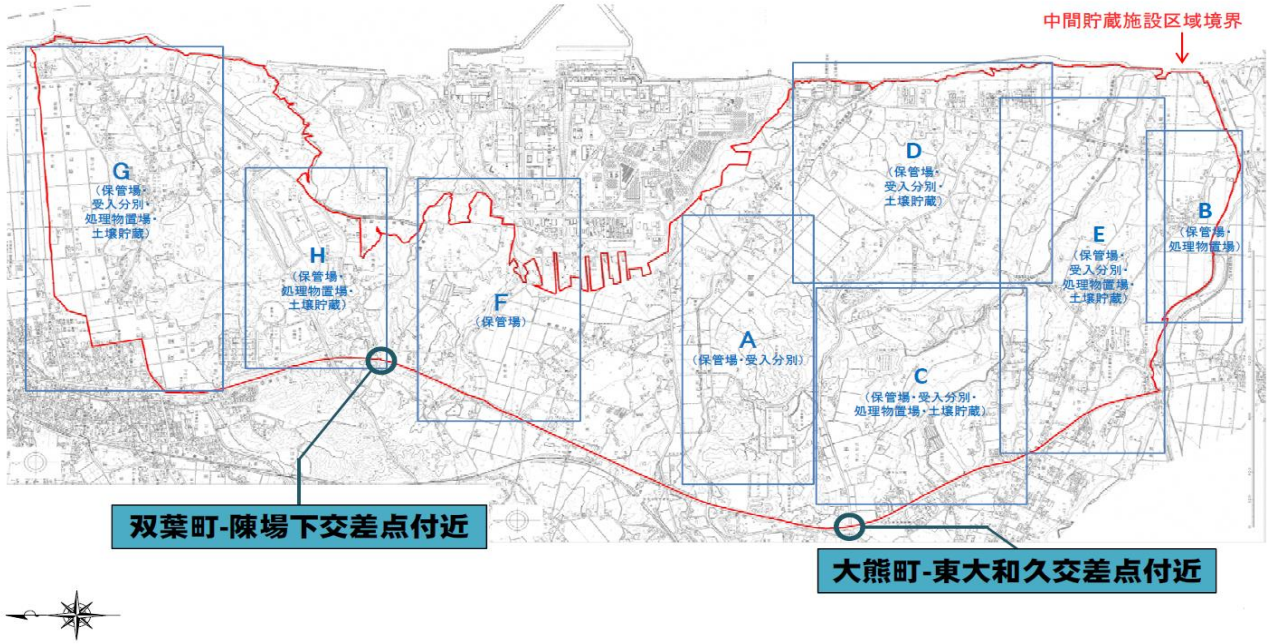
(基準値(濃度限界)：セシウム-134濃度（Bq/m³）/20 + セシウム-137濃度（Bq/m³）/30 ≦ 1)

※平成30年度は県で実施せず

令和元年度中間貯蔵施設事業に係るモニタリング調査地点

資料2別添

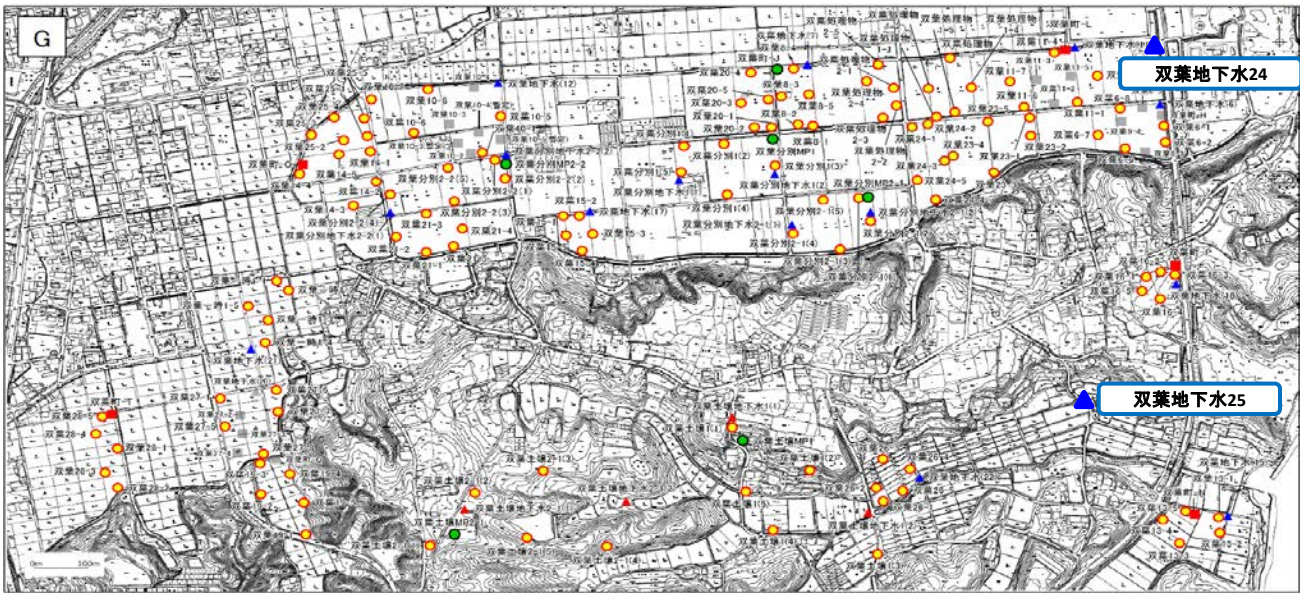
1　大気浮遊じん、空間線量率測定地点（敷地境界）



（出典：中間貯蔵施設環境安全委員会（第15回）資料より抜粋、一部改変）

2　地下水等測定地点（図面左上のアルファベットは上記1の図中の位置を示す）

〇双葉工区　保管場

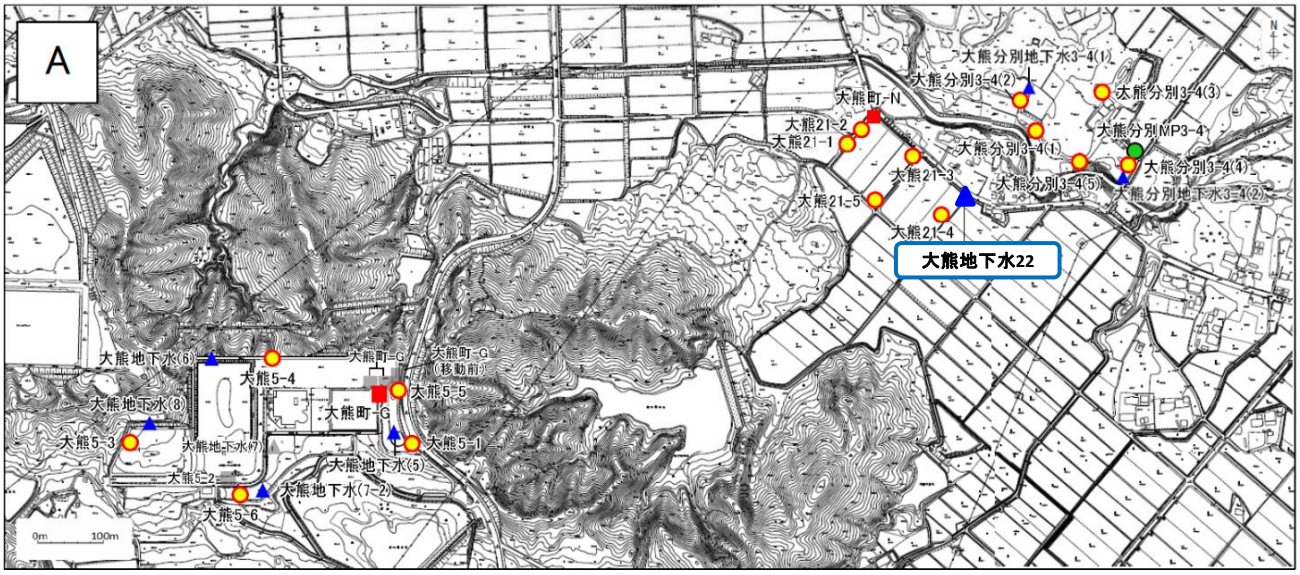


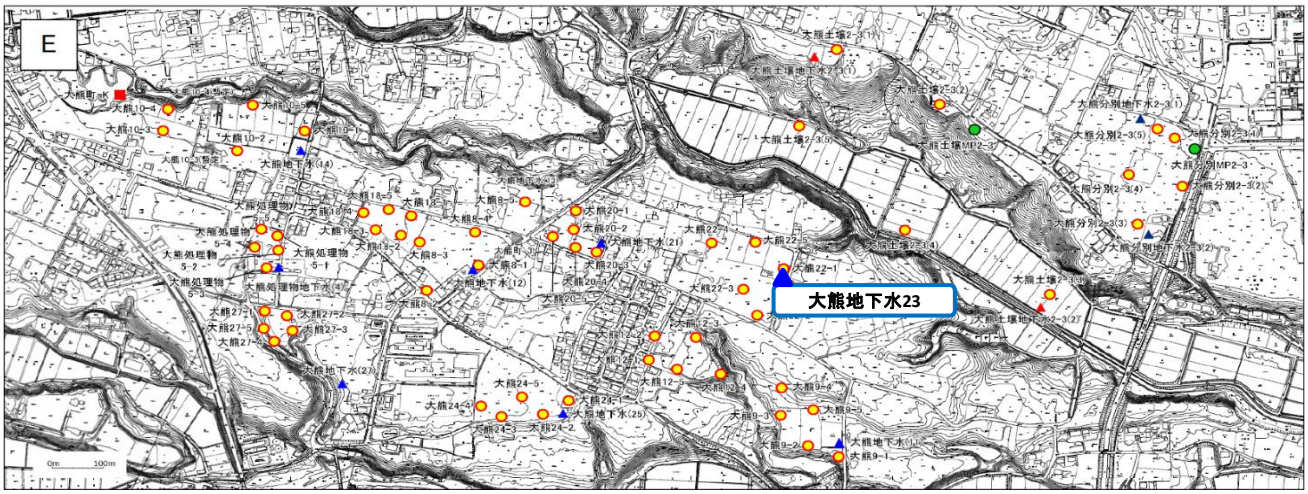
凡例

地下水測定地点

※　:国のモニタリング地点

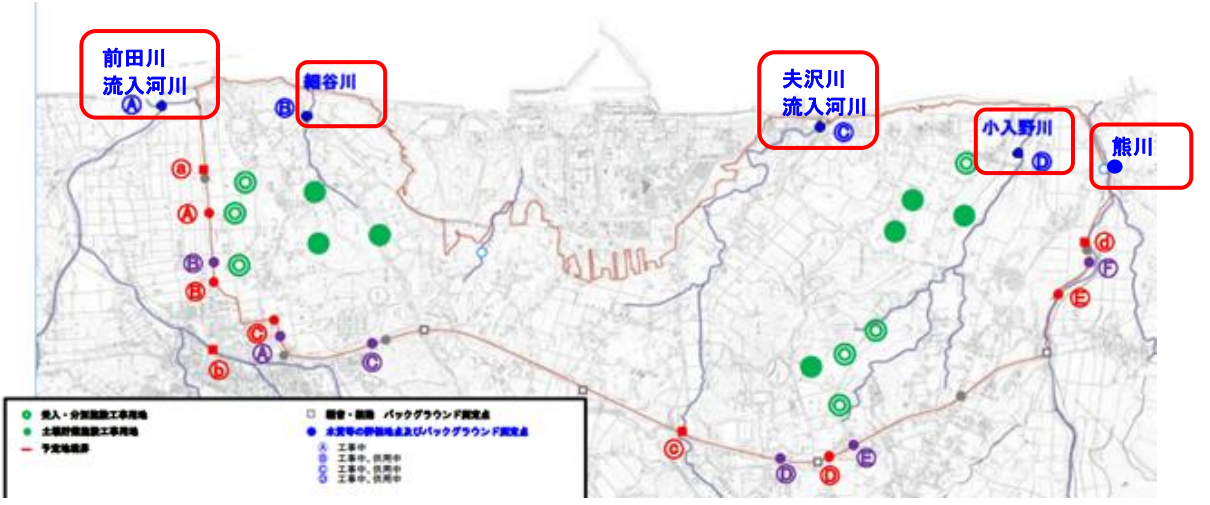
○大熊工区　保管場


A
大熊分別地下水3-4(1)
大熊分別3-4(2)
大熊分別3-4(3)
大熊町-N
大熊21-2
大熊21-1
大熊分別3-4(1)
大熊分別MP3-4
大熊分別3-4(4)
大熊21-3
大熊分別3-4(5)
大熊分別地下水3-4(2)
大熊21-5
大熊21-4
大熊地下水22
大熊地下水(6)
大熊町-G
大熊町-G（移動前）
大熊5-4
大熊5-5
大熊地下水(8)
大熊町-G
大熊5-3
大熊地下水(7)
大熊5-1
大熊地下水(5)
大熊5-2
大熊地下水(7-2)
大熊5-6
0m
100m


E
大熊地下水23
0m
100m

3　河川測定地点

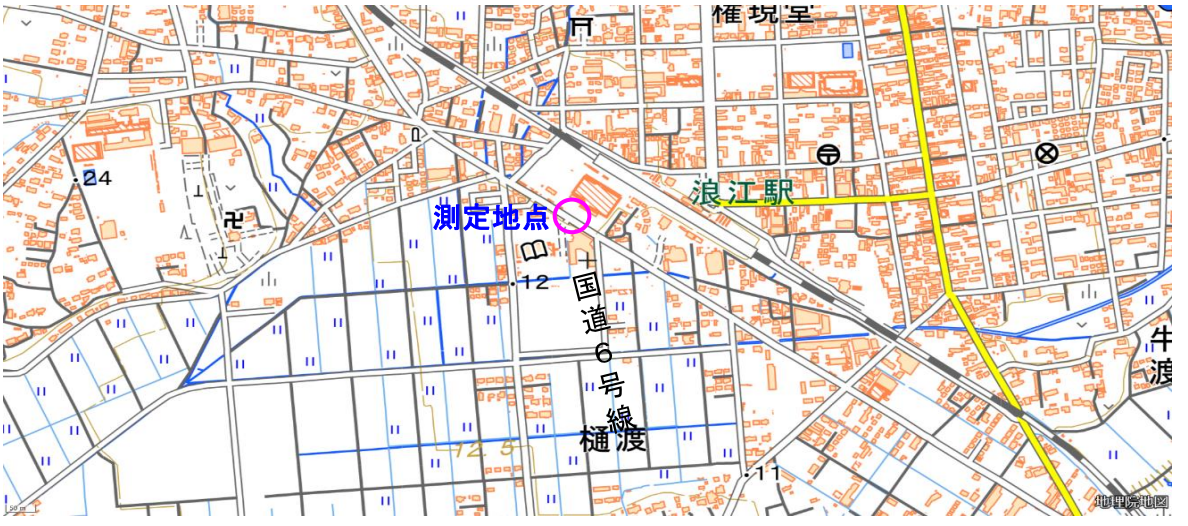
○ [　　] で囲んだ地点で採水実施



出典：環境省HP「中間貯蔵施設環境安全委員会」の資料から抜粋

4　騒音・振動、大気質、空間線量率測定地点

○浪江町地域スポーツセンター



出典：国土地理院地図

空間線量率測定結果一覧

No.	施設種類等	地点名	地面の状態	1回目		2回目	
				測定年月日	測定結果（μSv/h）	測定年月日	測定結果（μSv/h）
1	敷地境界	中間貯蔵施設敷地境界 双葉町 -陳場下交差点付近 （浮遊じん試料採取開始時）	アスファルト	R1.9.26	0.35	R2.2.18	0.32 ※
2	敷地境界	中間貯蔵施設敷地境界 大熊町 -東大和久交差点付近 （浮遊じん試料採取開始時）	アスファルト	R1.9.26	1.31	R2.2.18	1.24
3	輸送路	浪江町地域スポーツセンター 浪江町大字権現堂 下馬洗田	アスファルト	―	―	R1.12.2	0.14

※　道路工事のため、測定地点を南西方向へ5m程度移動した。

敷地境界における大気中の浮遊じん放射能濃度測定結果一覧

No.	検体名	1回目					2回目				
		調査年月日	Cs-134		Cs-137		調査年月日	Cs-134		Cs-137	
			結果 (mBq/m^3)	検出下限値	結果 (mBq/m^3)	検出下限値		結果 (mBq/m^3)	検出下限値	結果 (mBq/m^3)	検出下限値
1	中間貯蔵施設敷地境界 双葉町-陳場下交差点付近	R1.9.26	不検出	1	1.9	1	R2.2.18	不検出	1	不検出	1
2	中間貯蔵施設敷地境界 大熊町-東大和久交差点付近	R1.9.26	不検出	1	2.1	1	R2.2.18	不検出	1	1.8	1

大気中の浮遊じん(原子力発電所周辺)放射能濃度測定結果一覧

(単位:mBq/m^3)

No.	検体名	核種	採取月											
			H31.4月	R1.5月	R1.6月	R1.7月	R1.8月	R1.9月	R1.10月	R1.11月	R1.12月	R2.1月	R2.2月	R2.3月
1	大熊町　夫沢 (連続ダストモニタ)	Cs-134	0.14	0.062	0.028	0.035	0.022	0.053	0.11	0.16	0.12	0.063	0.094	0.13
		Cs-137	1.8	0.78	0.38	0.50	0.31	0.78	1.6	2.4	1.8	1.0	1.5	2.4
2	大熊町　南台 (ダストサンプラー)	Cs-134	不検出	0.060	不検出	0.079	0.057	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
		Cs-137	0.38	0.52	0.56	0.85	0.57	0.69	0.59	0.45	0.32	0.38	0.45	0.33
3	大熊町　向畑 (リアルタイムダストモニタ)	Cs-134	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.12	0.045	0.035	不検出
		Cs-137	0.27	0.23	0.15	0.23	0.19	0.36	0.29	0.63	2.2	0.61	0.61	0.40
4	双葉町　郡山 (連続ダストモニタ)	Cs-134	0.037	0.048	0.082	0.035	0.043	0.050	0.023	0.029	0.016	0.017	0.075	0.053
		Cs-137	0.47	0.70	1.1	0.51	0.67	0.67	0.32	0.45	0.24	0.30	1.3	0.83

※出典は県危機管理部実施の原子力発電所周辺環境放射能測定結果(中間貯蔵施設敷地内のみ抜粋)

地下水中の放射能濃度測定結果一覧

No.	検体名	1回目					2回目				
		調査年月日	Cs-134		Cs-137		調査年月日	Cs-134		Cs-137	
			結果 (Bq/L)	検出下限値	結果 (Bq/L)	検出下限値		結果 (Bq/L)	検出下限値	結果 (Bq/L)	検出下限値
1	双葉工区保管場観測井 - 双葉地下水24	―	―	―	―	―	R2.2.13	不検出	1	不検出	1
2	双葉工区保管場観測井 - 双葉地下水25	―	―	―	―	―	R2.2.13	不検出	1	不検出	1
3	双葉町第1期1工区受入・分別施設 下流側観測井 - 双葉分別地下水1-1	R1.7.4	不検出	1	不検出	1	R1.12.5	不検出	1	不検出	1
4	双葉町第2期1工区受入・分別施設 下流側観測井 - 双葉分別地下水2-1	R1.7.4	不検出	1	不検出	1	R1.12.5	不検出	1	不検出	1
5	双葉町第2期2工区受入・分別施設 下流側観測井 - 双葉分別地下水2-2	R1.8.1	不検出	1	不検出	1	R2.1.9	不検出	1	不検出	1
6	双葉町第1期1工区土壌貯蔵施設 下流側観測井 - 双葉土壌地下水1-1	R1.7.4	不検出	1	不検出	1	R1.12.5	不検出	1	不検出	1
7	双葉町第2期1工区土壌貯蔵施設 下流側観測井 - 双葉土壌地下水2-1	R1.7.4	不検出	1	不検出	1	R1.12.5	不検出	1	不検出	1
8	双葉町第2期2工区土壌貯蔵施設 下流側観測井 - 双葉土壌地下水2-2	R1.8.1	不検出	1	不検出	1	R2.1.9	不検出	1	不検出	1
9	双葉町第1期1工区土壌貯蔵施設 地下水(集排水設備)	R1.7.4	不検出	1	不検出	1	R1.12.5	不検出	1	不検出	1
10	双葉町第2期1工区土壌貯蔵施設 地下水(集排水設備)	R1.7.4	不検出	1	不検出	1	R1.12.5	不検出	1	不検出	1
11	双葉町第2期2工区土壌貯蔵施設 地下水(集排水設備)	R1.8.1	不検出	1	不検出	1	R2.1.9	不検出	1	不検出	1
12	大熊工区保管場観測井 - 大熊地下水22	R1.9.26	不検出	1	不検出	1	―	―	―	―	―
13	大熊工区保管場観測井 - 大熊地下水23	R1.9.26	不検出	1	不検出	1	―	―	―	―	―
14	大熊町第1期2工区受入・分別施設 下流側観測井 - 大熊分別地下水1-2	R1.7.4	不検出	1	不検出	1	R1.12.5	不検出	1	不検出	1
15	大熊町第2期1工区受入・分別施設 下流側観測井 - 大熊分別地下水2-1	R1.8.1	不検出	1	不検出	1	R2.1.9	不検出	1	不検出	1
16	大熊町第2期2工区受入・分別施設 下流側観測井 - 大熊分別地下水2-2	R1.7.4	不検出	1	不検出	1	R1.12.5	不検出	1	不検出	1
17	大熊町第2期3工区受入・分別施設 下流側観測井 - 大熊分別地下水2-3	R1.8.1	不検出	1	不検出	1	R2.1.9	不検出	1	不検出	1
18	大熊町第1期2工区土壌貯蔵施設 下流側観測井 - 大熊土壌地下水1-2	R1.7.4	不検出	1	不検出	1	R1.12.5	不検出	1	不検出	1
19	大熊町第2期1工区土壌貯蔵施設 下流側観測井 - 大熊土壌地下水2-1	R1.8.1	不検出	1	不検出	1	R2.1.9	不検出	1	不検出	1
20	大熊町第2期2工区土壌貯蔵施設 下流側観測井 - 大熊土壌地下水2-2(1)	R1.7.4	不検出	1	不検出	1	R1.12.5	不検出	1	不検出	1
21	大熊町第2期2工区土壌貯蔵施設 下流側観測井 - 大熊土壌地下水2-2(2)	R1.7.4	不検出	1	不検出	1	R1.12.5	不検出	1	不検出	1
22	大熊町第2期3工区土壌貯蔵施設 下流側観測井 - 大熊土壌地下水2-3	R1.8.1	不検出	1	不検出	1	R2.1.9	不検出	1	不検出	1
23	大熊町第1期2工区土壌貯蔵施設 地下水(集排水設備)	R1.7.4	不検出	1	不検出	1	R1.12.5	不検出	1	不検出	1
24	大熊町第2期1工区土壌貯蔵施設 地下水(集排水設備)	R1.8.1	不検出	1	不検出	1	R2.1.9	不検出	1	不検出	1
25	大熊町第2期2工区土壌貯蔵施設 地下水(集排水設備)①	R1.7.4	不検出	1	不検出	1	R1.12.5	不検出	1	不検出	1
26	大熊町第2期2工区土壌貯蔵施設 地下水(集排水設備)②	R1.7.4	不検出	1	不検出	1	R1.12.5	不検出	1	不検出	1
27	大熊町第2期2工区土壌貯蔵施設 地下水(集排水設備)③	―	―	―	―	―	R1.12.5	不検出	1	不検出	1
28	大熊町第2期3工区土壌貯蔵施設 地下水(集排水設備)	R1.8.1	不検出	1	不検出	1	R2.1.9	不検出	1	不検出	1

放流水中の放射能濃度測定結果一覧

No.	検体名	1回目					2回目				
		調査年月日	Cs-134		Cs-137		調査年月日	Cs-134		Cs-137	
			結果（Bq/L）	検出下限値	結果（Bq/L）	検出下限値		結果（Bq/L）	検出下限値	結果（Bq/L）	検出下限値
1	双葉町第1期1工区土壌貯蔵施設 浸出水処理施設放流水	R1.7.4	不検出	1	不検出	1	R1.12.5	不検出	1	不検出	1
2	双葉町第2期1工区土壌貯蔵施設 浸出水処理施設放流水	R1.7.4	不検出	1	不検出	1	R1.12.5	不検出	1	不検出	1
3	双葉町第2期2工区土壌貯蔵施設 浸出水処理施設放流水	R1.8.1	不検出	1	不検出	1	R2.1.9	不検出	1	不検出	1
4	大熊町第1期2工区土壌貯蔵施設 浸出水処理施設放流水	R1.7.4	不検出	1	不検出	1	R1.12.5	不検出	1	不検出	1
5	大熊町第2期1工区土壌貯蔵施設 浸出水処理施設放流水	R1.8.1	不検出	1	不検出	1	R2.1.9	不検出	1	不検出	1
6	大熊町第2期2工区土壌貯蔵施設 浸出水処理施設放流水	R1.7.4	不検出	1	不検出	1	R1.12.5	不検出	1	不検出	1
7	大熊町第2期3工区土壌貯蔵施設 浸出水処理施設放流水	R1.8.1	不検出	1	不検出	1	R2.1.9	不検出	1	不検出	1

排ガス中の放射能濃度測定結果一覧

No.	検体名	1回目					2回目				
		調査年月日	Cs-134		Cs-137		調査年月日	Cs-134		Cs-137	
			結果（Bq/m^3）	検出下限値	結果（Bq/m^3）	検出下限値		結果（Bq/m^3）	検出下限値	結果（Bq/m^3）	検出下限値
1	大熊町仮設焼却施設 ろ紙部	R2.2.27	不検出	2	不検出	2	―	―	―	―	―
2	大熊町仮設焼却施設 ドレン部	R2.2.27	不検出	2	不検出	2	―	―	―	―	―

河川水中の放射能濃度測定結果一覧

No.	検体名	1回目					2回目				
		調査年月日	Cs-134		Cs-137		調査年月日	Cs-134		Cs-137	
			結果（Bq/L）	検出下限値	結果（Bq/L）	検出下限値		結果（Bq/L）	検出下限値	結果（Bq/L）	検出下限値
1	前田川流入河川	R1.8.30	不検出	1	不検出	1	R2.2.13	不検出	1	不検出	1
2	細谷川	R1.8.30	不検出	1	不検出	1	R2.2.13	不検出	1	不検出	1
3	夫沢川流入河川	R1.8.30	不検出	1	3.4 (2.5)	1	R2.2.13	不検出	1	不検出	1
4	小入野川	R1.8.30	不検出	1	1.4 (1.2)	1	R2.2.13	不検出	1	不検出	1
5	熊川	R1.8.30	不検出	1	不検出	1	R2.2.13	不検出	1	不検出	1

※( )内の値はろ過後(溶存態)

放流水中の結果一覧(放射性物質以外の物質)

検体名				双葉1期土壌貯蔵施設	双葉2期1工区土壌貯蔵施設	双葉2期2工区土壌貯蔵施設	大熊1期土壌貯蔵施設	大熊2期1工区土壌貯蔵施設	大熊2期2工区土壌貯蔵施設	大熊2期3工区土壌貯蔵施設	基準値※
検体採取年月日				令和元年12月5日	令和元年12月5日	令和2年1月9日	令和元年12月5日	令和2年1月9日	令和元年12月5日	令和2年1月9日	
一般項目	1	水素イオン濃度	—	7.9	7.7	7.8	8.1	8.0	8.1	7.7	5.8～8.6
	2	生物化学的酸素要求量	(mg/L)	2.6	1.5	2.3	1.1	0.6	1.0	1.0	60
	3	化学的酸素要求量	(mg/L)	30	45	27	15	11	15	16	90
	4	浮遊物質量	(mg/L)	2	2	<1	<1	3	<1	<1	60
有害物質項目	1	ｶﾄﾞﾐｳﾑ及びその化合物	(mg/L)	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	0.03
	2	シアン化合物	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1
	3	有機燐化合物	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1
	4	鉛及びその化合物	(mg/L)	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	0.1
	5	六価クロム化合物	(mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.5
	6	砒素及びその化合物	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.1
	7	水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.005
	8	アルキル水銀化合物	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
	9	ポリ塩化ビフェニル	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.003
	10	ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.1
	11	ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.1
	12	1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	3
	13	ｼﾞｸﾛﾛﾒﾀﾝ	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.2
	14	四塩化炭素	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02
	15	1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04
	16	1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	1
	17	ｼｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	0.4
	18	1,1,2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	0.06
	19	1,3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02
	20	チウラム	(mg/L)	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	0.06
	21	シマジン	(mg/L)	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	0.03
	22	チオベンカルブ	(mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.2
	23	ベンゼン	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.1
	24	セレン及びその化合物	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.1
	25	ふっ素及びその化合物	(mg/L)	<0.8	<0.8	<0.8	<0.8	<0.8	<0.8	<0.8	15
	26	ほう素及びその化合物	(mg/L)	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	50
	27	ｱﾝﾓﾆｱ、ｱﾝﾓﾆｳﾑ化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物	(mg/L)	9	4	4	4	<2	3	<2	200
	28	1,4-ジオキサン	(mg/L)	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	0.5
特殊項目	1	ﾉﾙﾏﾙﾍｷｻﾝ抽出物質	(mg/L)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	5（鉱油類） 30（動植物油脂類）
	2	フェノール類含有量	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	5
	3	銅含有量	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	3
	4	亜鉛含有量	(mg/L)	<0.01	<0.01	0.62	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	2
	5	溶解性鉄含有量	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	0.1	<0.1	<0.1	10
	6	溶解性マンガン含有量	(mg/L)	2.2	6.3	2.5	2.1	0.71	1.1	5.5	10
	7	クロム含有量	(mg/L)	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	2

（備考） 測定方法は、昭和49年9月環境庁告示第64号による。

※ 「中間貯蔵施設に係る指針」による基準

騒音・振動の測定結果一覧

項目	測定期間	測定結果		基準等
		項目	測定値の範囲	
騒音	R1.12.3 (9:00～16:00)	等価騒音レベル(L_{Aeq}) (dB)	62.2 ～ 65.7	【(参考)環境基準】 昼間(6:00～22:00)において、等価騒音レベルで70dB
		平均等価騒音レベル(L_{Aeq}) (dB)	64	
振動	R1.12.3 (9:00～16:00)	振動レベル(L_{v10}) (dB)	38.6 ～ 52.4	【(参考)要請限度】 昼間(8:00～19:00)において、65dB(第一種区域)、70dB(第二種区域)
		平均振動レベル(L_{v10}) (dB)	48	

大気質の測定結果一覧

項目	測定期間	測定結果		基準等
		項目	測定値の範囲	
二酸化窒素 (NO_2)	R1.12.3～R1.12.9	1日平均値 (ppm)	0.002 ～ 0.007	【環境基準】 1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。
		1時間値の最高値 (ppm)	0.005 ～ 0.028	
一酸化窒素 (NO)	R1.12.3～R1.12.9	1日平均値 (ppm)	0.000 ～ 0.003	【H30年度県内測定局の結果】 1日平均値の最高値:0.002～0.028ppm 1時間値の最高値:0.010～0.103ppm
		1時間値の最高値 (ppm)	0.003 ～ 0.051	
浮遊粒子状物質 (SPM)	R1.12.3～R1.12.9	1日平均値 (mg/m^3)	0.001 ～ 0.007	【環境基準(短期的評価)】 1時間値の1日平均値が0.10mg/m^3以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m^3以下であること。
		1時間値の最高値 (mg/m^3)	0.004 ～ 0.019	

資料３

中間貯蔵施設事業において発生した事例と対応等について（2020年３月環境安全委員会報告以降）

2020年８月

環境省

事業において発生した事例と対応等①

	事例の内容	主な発生要因	主な再発防止策
交通事故	輸送車両の人身事故	前方不注意	交差点の走行に関する安全教育、運転適性診断の実施、運転手の特性を考慮した配車計画
	輸送車両の物損（対車両）事故（11件）	狭隘箇所での減速不足、車間距離不足、前方や周囲の確認不足、運転操作ミス	狭隘箇所での減速・徐行、車間距離の確保、交差点通過時や右左折時の走行方法、危険予知運転等の安全教育、発生場所をハザードマップや車載音声ナビに追加して注意喚起
	輸送車両の物損（対物）事故（13件）	周囲の確認不足、狭隘箇所・凍結路面での減速不足、運転操作ミス、運転手の体調急変	狭隘箇所での減速・徐行、道路状況に即した運転方法、危険予知運転等の安全教育、ハザードマップや車載音声ナビに追加して注意喚起、注意喚起看板の設置、運転手の健康管理の徹底
	業務車両の物損（対物）事故（2件）	周囲の確認不足、運転操作ミス	狭隘箇所での減速・徐行等の安全教育
	通勤車両の物損（対車両）事故	後方確認不足、転回禁止箇所の理解不足	安全運転教育、走行ルールの教育
	通勤車両の物損（対物）事故	前方不注意、運転操作ミス	安全運転教育
公道での事例	輸送車両の運転手の交通違反（3件）	シートベルト装着の不確認、違反行為に対する認識の不足	出発前のシートベルト装着確認の徹底、携帯電話固定ホルダー設置、ハンズフリーイヤホン利用徹底、運転記録証明書の確認
	輸送車両のスクリーニング未実施	スクリーニング実施の注意不足	運転手への再教育、車載音声ナビの表現の改善
	輸送車両のルート逸脱（34件）	運転手のヒューマンエラー等	運転手への再教育・実走訓練、逸脱箇所のハザードマップによる周知、車載音声ナビへの追加、注意喚起看板の設置

事業において発生した事例と対応等②

	事例の内容	主な発生要因	主な再発防止策
公道での事例	輸送車両のエンジントラブル（15件）	部品の故障	日常点検及び定期点検の確実な実施
	輸送車両のタイヤのパンク（12件）	道路上の異物等	日常点検及び定期点検の確実な実施
	輸送車両のミッション部故障	部品の故障	日常点検及び定期点検の確実な実施
	輸送車両のブレーキ故障（2件）	部品の故障	日常点検及び定期点検の確実な実施
	輸送車両のその他故障等（3件）	部品の故障	日常点検及び定期点検の確実な実施
作業場での事例	飛来、落下によるけが【労災隠し】	上下作業回避の確認不足、資材の置き方の不備	上下作業の禁止の徹底、資材の置き方の改善と周知 労災発生時の報告体制や手順の再周知
	墜落、転落によるけが（5件）	足元が不安定な状態での作業、基本動作の不徹底、重機操作前の退避の確認不足	作業スペースの確保、作業手順の変更と周知、運転席昇降時の三点支持の指導、重機操作前の退避とその確認の徹底
	転倒によるけが（2件）	作業手順の不備	作業手順の明確化と周知
	激突によるけが	専用運搬機具の不使用	作業手順の明確化と周知
	はさまれ、巻き込まれによるけが	重機操作前の退避とその確認不足	重機操作前の退避とその確認の徹底、作業手順の明確化と周知
	重機による物損	重機移動時の合図と周囲状況の確認不足	架空線近接作業時の合図とその確認の徹底、立入禁止範囲の明確化

交通事故（輸送車両の道路脇への横転事故）

事例の概要

輸送車両（空荷）の道路脇への横転　　2020年７月２日　13時53分頃　＜大林JV＞

- 郡山市からの輸送車両（空荷）が、輸送を終え車両基地へ戻るため、国道288号（大熊町大字野上字湯の神地内）を走行中、脱輪し、道路脇に横転した。
- 運転手にけがはなかった。
- ７月18日夜間に車両の引き上げを行った。

発生要因

- 対向車を避けようとして左にハンドルを切ったところ、路肩の幅が狭い箇所であったため、脱輪した。

再発防止策

- すれ違い時の運転方法（特に、路肩の狭い区間においては徐行又は停止すること）を教育する。
- 当該区間に注意喚起看板等を設置する。

図　事故の発生状況

図　事故後の看板設置状況

作業場での事例（鉄板の落下による事故、労災隠し）

事例の概要

落下した鉄板に接触して骨折した事故及びその労災隠し　　事故発生：2019年1月27日　14時頃　＜鹿島JV＞

- 受入・分別施設において、ベルトコンベアへの大型土のうの投入口の補強作業を行っていた二次下請負事業者の作業員の左手に、上方から鉄板（重量約5.6kg）が落下して中指を骨折した。鉄板は、上方で片付けを行っていた別の作業員が重ねて置いた残材であった。
- 事故後、被災者は4日以上休業したにもかかわらず、私的理由による骨折として休暇を申請した。二次下請負事業者は、労働基準監督署への報告を行わなかった。
- 2019年9月に受注者が事実を確認。速やかに環境省及び富岡労働基準監督署に報告した。報告を受けた富岡労働基準監督署において調査を実施し、環境省も調査に協力していた。2020年7月、富岡労働基準監督署は、労働者死傷病報告書を遅滞なく提出しなかったとして、二次下請負事業者をいわき区検察庁に書類送検した。

事故の発生要因

- 事故発生時には主要作業が完了しており、また上部作業者から被災者を視認できない箇所であったため、上下作業回避のための確認が不足していた。
- 落下防止板の高さを越えて鉄板を置いていた。

事故の再発防止策

●受注者は事実確認後、速やかに下記の対策を実施した。

- 上下作業の禁止を周知徹底。上部作業者は相番作業者が目視確認できない場合は作業を中断し、声掛け又は無線により位置確認を行って上下作業を回避する。
- 資材は落下防止板の高さを越えないように、かつ落下防止板より十分奥に置く。

労災隠しの再発防止策

● 受注者が実施した対策

- 労災等の発生時には、被災者の保護を第一に考え、速やかに報告することの重要性や、具体的な報告体制・手順等について、全ての下請負事業者及び作業員に繰り返し周知する。

● 環境省から全受注者に指示した対策

- 休業を要する労災が発生した際には労働基準監督署に適正に報告することや、労災発生時の報告体制・手順等について、全ての下請負事業者及び作業員に周知徹底する。
- 下請負事業者が労働基準関係法令を遵守しているか点検する。

作業場での事例（トラック荷台からの転落事故）

事例の概要

トラック荷台からの転落による作業員のけが　　2020年３月24日　15時30分頃　＜前田JV＞

- 南相馬市の輸送の終了した仮置場の片付けのため、4tトラックに資材（直径50cm、長さ5mの集水管２本）をバックホウで積み込む作業中、資材が荷振れ（跳ね上がり）したため、荷台上で合図していた作業員が荷台から飛び降りて地面に右手を突いた。
- 右鎖骨の骨折と診断。

発生要因

- 長さのある資材に対して荷台の作業可能スペースが狭く、足元が不安定な状態で作業を行った。また転落防止策も不十分であった。
- 弾性があり、跳ね上がりの可能性がある資材に近付いて作業を行った。
- 積込み方法の指示が具体的ではなかった。

図　事故の発生状況

再発防止策

- 積込み作業について、作業手順や使用機械等を明確にして周知する。
- 荷の大きさや形状に合った運搬車両を使用し、無理な姿勢での作業とならないよう、作業スペースを確保する。
- 弾性のある資材の跳ね上がりが危険要因となることを注意する。
- 荷台上での作業が必要な場合には、親綱を張って転落を防止する。

作業場での事例（輸送車両荷台からの転落事故）

事例の概要

輸送車両の荷台からの転落による作業員のけが　　2020年7月14日　11時20分頃　＜清水JV＞

- 富岡町の仮置場で大型土のうをバックホウで輸送車両に積み込む作業中、作業員が荷台上で玉外しを行った後に足場に退避しようとしたところ、作業員の安全ブロックのワイヤーがバケットに引っ掛かった状態でバックホウが旋回した。作業員はワイヤーに引っ張られ、車両の側方にあった大型土のうの山の上に転落した。
- 胸椎の骨折、腰背部と腹部の打撲と診断。

発生要因

- 玉外し者が退避する前に、バックホウのオペレーターが旋回を行った。
- 輸送車両の後方に配置したバックホウで積込み作業を行っており、玉外し者の安全ブロックのワイヤーがバケットに引っ掛かりやすい配置であった。

図　事故の発生状況

再発防止策

- 玉外し者（合図者）は足場に退避してから合図をすること、重機のオペレーターは玉外し者が退避して合図してから旋回を行うことを周知徹底する。
- 積込み用のバックホウを、輸送車両の側方（玉外し者が退避する足場の逆側）に配置し、安全ブロックのワイヤーがバケットに引っ掛からないようにする。作業スペース上それが困難な場合には、バックホウのバケットを平爪に変更して引っ掛からないようにする。

工事全般に係る安全対策について①

- 安全パトロール
  通常の巡回とは別に、環境省職員及び労働安全コンサルタントによる抜き打ちの安全パトロールを実施。
  2019年度は51回、2020年度は7月末までに16回実施。

- 発注者安全点検
  重大事故防止のため、各現場の重機作業等について重点的に点検を実施。また、除去土壌等の輸送の安全確保を確実にするため、仮置場において、運転手の朝礼、KY活動、安全教育等の実施状況等の重点的な点検を実施。

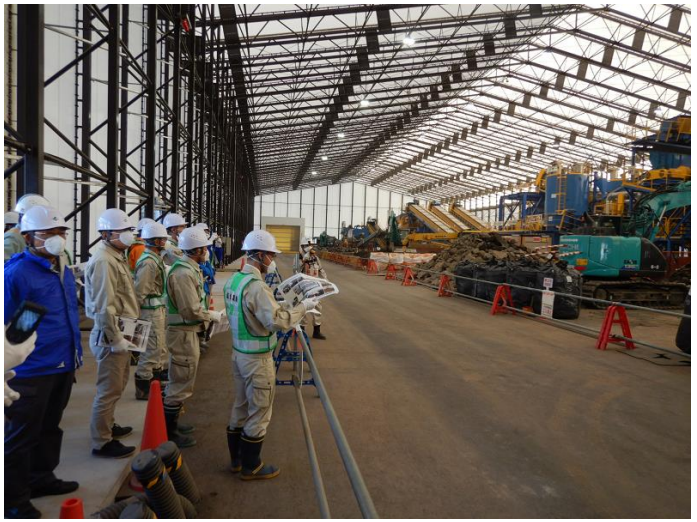
安全パトロールの実施状況

発注者安全点検の実施状況

工事全般に係る安全対策について②

- 中間貯蔵工事等協議会
  中間貯蔵施設等の工事施工に伴う、工事の安全に関する意識の向上や各工事の円滑な実施を目的として、受注者において設置。
  災害防止や交通安全に係る情報共有、安全パトロール等の活動を定期的に実施。富岡労働基準監督署に、パトロールへの同行・指導等の協力をいただいている。

- 中間貯蔵施設災害防止協議会
  福島労働局及び富岡労働基準監督署の指導により、中間貯蔵施設事業の作業現場における安全管理水準の更なる向上を目的として、2020年９月より開催予定。
  受注者が行っている労働災害防止の取組事例を報告し、受注者間で検討を行うこと等により、安全衛生管理水準の一層の底上げを図る。



中間貯蔵工事等協議会の安全パトロールの様子

工事全般に係る安全対策について③

● 中間貯蔵安全会議
受発注者が連携して、実効性ある安全対策に取り組んでいくための意見交換の場として開催。
重大事故等の発生要因及び再発防止策等に関する議論、重点的事項に係る各受注者の取組状況や課題に関する意見交換等を行った上で、受発注者それぞれにおける安全対策の強化・改善につなげている。

● 主な議題

（2020年度）
- ７月17日　吊荷作業等における事故防止対策、輸送の安全対策の強化に関する意見交換

（2019年度）
- ４月16日　交通事故防止対策に関する意見交換
- ６月21日　仮置場における吊荷挟まれ事故の再発防止に関する意見交換
- ７月23日　輸送車両のルートの逸脱の再発防止のための対策に関する意見交換
- ９月10日　重機・クレーン災害防止、架空線切断事故防止に関する意見交換
- 12月13日　大型土のうの積込・定置時等の事故の再発防止、KY活動の強化に関する意見交換
- １月21日　荷役災害防止等に関する意見交換

中間貯蔵安全会議の実施状況

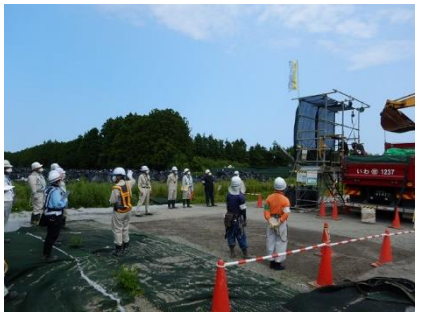
工事全般に係る安全対策について④

- 危険予知（KY）訓練ワークショップ
  監督官自らの危険予知能力・危険感受性を高め、各工事における安全対策への適切な指導ができるようにするため、監督官及びJESCOの委託監督員等を対象に、労働安全コンサルタントの指導による危険予知訓練を実施。
  座学で危険予知活動について学び実技訓練を実施するとともに、実際の作業現場において危険予知訓練を実施。

2020年度、順次実施中。
　7月までの開催回数：　座学ワークショップ　1回、現地ワークショップ　1回

2019年度、監督官・委託監督員等（約150名）全員が受講済み。
　開催回数：　座学ワークショップ　全6回、　現地ワークショップ　全15回

座学ワークショップ実施状況



現地ワークショップ実施状況

輸送に係る交通安全対策について①

運転手等への教育・研修の例（1）

- 新任者研修
  輸送車両の運転手及びJV職員等を対象に、中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送に係る研修を実施。2019年度は13回、2020年度は7月末までに4回実施。
  主な内容は以下のとおり。
  - 福島県警察本部から、県内の交通事情、高速道路での交通安全対策、事故時の対応等について講義。
  - 環境省から緊急時の対応に関するマニュアルの周知を行い、福島県警察本部、いわき市消防本部等の指導の下、緊急時の迅速な通報・連絡訓練を実施。

研修の様子

訓練の様子

輸送に係る交通安全対策について②

運転手等への教育・研修の例 （2）

- 現任者研修
  輸送に従事している全ての運転手が毎年度必ず再研修を受講することとし、2019年度から実施。
  2019年度は15回開催し、対象者全員が受講済み。2020年は順次実施中（7月末までに2回実施）。
  主な内容は以下のとおり。
  - 中間貯蔵施設工事・輸送は地域の多大なご協力の下に実施される事業であることについて、地元の方々から寄せられているご意見も含めて再説明。
  - 中間貯蔵施設工事・輸送において発生している事故等の状況を説明。
  - 自らの運転の自己評価や危険予知の気付きを促す教育を実施。

研修の様子

輸送に係る交通安全対策について③

運転手等への教育・研修等の例 （3）

- 受注者において仮置場等ごとに安全等に関する周知会や勉強会を実施し、作業手順、輸送ルートを確認。
- 輸送ルートの事前走行を実施。
  - 全運転手が輸送ルートを事前に実走して危険箇所や配慮事項等を相互に確認。
    運転手の安全意識の底上げと、ルート逸脱防止を図る。

輸送ルート・危険箇所事前周知1

輸送ルート・危険箇所事前周知2

運転手等への教育・研修等の例 （4）

- 受注者が、下請負事業者の運行管理者が行ったアルコールチェックの状況（検知器を使用していることを含む）を確認のうえ、各仮置場での朝礼に立ち会って運転手の状況を確認。
- 環境省において巡回時に実施記録を確認。また、監督官等による運転手の朝礼・KY活動への立会を実施。

輸送に係る交通安全対策について④

安全強化対策の徹底

- 各受注者の輸送責任者等を招集し、輸送安全強化に係る緊急会議を開催（2020年６月25日）。交通事故及び道路交通法令違反の発生状況や要因、再発防止策、具体的な走行ルール・マナー（車間距離確保、制限速度遵守、一般車両優先等）等について周知・議論し、各受注者において実施する安全対策の強化を指示。

走行状況の現場確認（帰投車両を含む）

- 速度超過について注意すべき箇所や交通量の多い箇所等において、輸送車両等の走行状況の確認を実施。

国道288号確認

双葉町町道原田・目迫線確認

中間貯蔵施設区域内確認

輸送に係る交通安全対策について⑤

優良ドライバー表彰

- 運転手の安全意識とモチベーションの維持・向上のため、安全な輸送を100日以上行った者に、受注者を通じて優良ドライバー認定証（ヘルメット及び車両ダッシュボードに掲示）を交付。
- 交付者数は、2019年６月末時点、11月末時点及び2020年３月末時点の輸送実績により、延べ3,272名（100日以上200日未満：1,801名、200日以上300日未満：1,020名、300日以上： 451名）。

金：300日以上

銀：200日以上300日未満

銅：100日以上200日未満

優良ドライバー認定証
（安全輸送の継続日数ごとに3種類）

認定証の交付

資料3別添

中間貯蔵施設事業において発生した事例と対応等の詳細（2020年３月環境安全委員会報告以降）

2020年８月

環境省

交通事故（輸送車両の人身事故）

事例の概要

輸送車両（空荷）の通勤車両（普通車）との追突　　2020年３月５日　16時27分頃　＜前田JV＞

- 浪江町からの輸送車両（空荷）が、輸送を終え車両基地へ戻る途中、南相馬市内の国道６号で、赤信号で停止した中間貯蔵施設事業他業務の作業員の通勤車両（普通車）に追突した。
- 当該車両の運転手はけがなし。相手車両の運転手は顔面・鼻部打撲、同乗者４名は頭部・腰部挫傷等と診断。

発生要因

- 緊張感を持続できず、前方不注意となった。

再発防止策

- 交差点の走行等に関する安全教育を実施する。
- 安全運転適性診断を実施する。
- 運転手の特性を考慮した配車計画とする。

交通事故（輸送車両の物損（対車両）事故①）

事例の概要

(1) **輸送車両（空荷）の一般車両（大型トラック）との接触**　2020年３月５日　６時5分頃　＜前田JV＞
- 川俣町からの輸送車両（空荷）が、車両基地から仮置場に向かうため、同町内の県道12号線を走行中、対向してきた一般車両（大型トラック）とすれ違った際、両車のサイドミラーが接触した。

(2) **除去土壌等の輸送車両の一般車両（大型トラック）との接触**　2020年３月12日　８時35分頃　＜前田JV＞
- 飯舘村からの輸送車両が、南相馬市内の八木沢トンネルを走行中、対向してきた一般車両（大型トラック）とすれ違った際、両車のサイドミラーが接触した。

(3) **除去土壌等の輸送車両の他の輸送車両との接触**　2020年３月27日　10時30分頃　＜大林JV＞
- 福島市からの輸送車両が、休憩のため立ち寄った磐越自動車道三春PA駐車場で、先に停車していた輸送車両に接触した。

発生要因

(1) 狭隘箇所での減速が不足していた。
(2) 狭隘なトンネル内で防衛運転（減速等）が不足しており、中央寄りに走行してきた対向車を避けきれなかった。
(3) パーキングブレーキの引きが不完全だった。

再発防止策

(1) 狭隘箇所の運転方法（減速、徐行又は停止）を指導。
(2) 狭隘なトンネルの運転方法（トンネル進入前やすれ違い前の十分な減速等）を指導。
(3) パーキングブレーキの確認方法（メーターパネルのブレーキ警告灯の点灯、フットブレーキを離しても車両が動かないこと）及び指差呼称の実施を指導。

交通事故（輸送車両の物損（対車両）事故②）

事例の概要

(4) **除去土壌等の輸送車両の他の輸送車両との接触**　2020年４月14日　11時12分頃　＜大林JV＞
- 飯舘村からの輸送車両が、常磐自動車道大熊IC出口合流地点で、他の車両に道を譲ろうとして停止した先行の輸送車両に接触した。

(5) **輸送車両（空荷）の他の輸送車両との接触**　2020年５月８日　10時16分頃　＜戸田JV＞
- 浪江町からの輸送車両（空荷）が、２回転目の輸送のため仮置場へ戻る途中、双葉町内の国道288号で対向してきた他の輸送車両とすれ違った際、両車のサイドミラーが接触した。

(6) **除去土壌等の輸送車両の他の輸送車両との接触**　2020年５月20日　９時55分頃　＜鹿島JV＞
- いわき市からの輸送車両が、富岡町内の県道36号線を走行中、対向してきた他の輸送車両とすれ違った際、両車の車両後部が接触した。

発生要因

(4) 前方の確認不足。車間距離の不足。
(5) 代車を運転中、車載器を台座に固定しておらず、カーブ走行時に落下が気になって脇見運転となった。カーブ手前での減速が不足していた。
(6) 狭隘箇所で、対向車が中央線寄りに停止する中、自らの運転技量で通過できると思い込み進んだ。

再発防止策

(4) 高速道路IC出口合流地点での前方・側方の安全確認、車間距離の確保、徐行運転を指導。
(5) 車載器は専用の台座に固定して使用することを代車の場合にも徹底。カーブの手前や大型車両とのすれ違い前等の早めの減速、徐行又は一時停止を指導。音声ナビに、対向車との接触事故発生地点であることの注意喚起を追加。
(6) すれ違いの難しい箇所での運転方法（対向車が停止しても、すれ違いできるか再確認すること、状況によりすれ違い可能な箇所まで協力し合って後退すること）を指導。ドライブレコーダー映像を使用して教育を実施。

交通事故（輸送車両の物損（対車両）事故③）

事例の概要

(7) **除去土壌等の輸送車両の一般車両（軽自動車）との接触**　　2020年5月25日　11時15分頃　＜大林JV＞

- 福島市からの輸送車両が、常磐自動車道を走行中、路肩に停車していた一般車両（軽自動車）が、急にハンドルを切って本線に戻ってきたため、避けられずに接触した。

(8) **輸送車両（空荷）の一般車両（軽自動車）との衝突**　　2020年6月2日　6時35分頃　＜戸田JV＞

- 南相馬市からの輸送車両（空荷）が、車両基地から仮置場に向かうため、同市内の県道34号線を走行し、仮置場へ左折して入場しようとした際、後方から走行してきた一般車両（軽自動車）が衝突した。

発生要因

(7) 相手車両がハザードランプを付けたまま急に走行車線に飛び出した。

(8) 左折して仮置場に入場する際に、路肩が狭いことから対向車線にはみ出す形となり、車線左側にスペースが空いたところを、後方車両が通過しようとした。輸送車両は後方車両の存在に気付いていなかった。

再発防止策

(7) 危険予知運転を徹底するよう指導。

(8) 仮置場への入口を、路肩に余裕のある箇所に変更。右左折や進路変更時の安全確認について指導。

交通事故（輸送車両の物損（対車両）事故④）

事例の概要

(9) **輸送車両（空荷）の一般車両（普通車）との接触**　2020年6月2日　13時5分頃　＜大林JV＞
- 郡山市からの輸送車両（空荷）が、輸送を終え車両基地へ戻る途中、大熊町内の町道東17号線を走行し、東大和久交差点を国道6号下り方面へ右折する際、下り線を直進してきた一般車両（普通車）と接触した。

(10) **除去土壌等の輸送車両の他の輸送車両との接触**　2020年6月6日　9時40分頃　＜戸田JV＞
- 国見町からの輸送車両が、休憩のため立ち寄った磐越自動車道三春PA駐車場で、他の輸送車両に接触した。

(11) **除去土壌等の輸送車両の一般車両（大型車）との接触**　2020年6月19日　8時25分頃　＜前田JV＞
- 川俣町からの輸送車両が、浪江町内の国道114号を走行中、対向してきた一般車両（大型車）とすれ違った際、両車のサイドミラーが接触した。

発生要因

(9)　周囲の確認不足。交差点手前で停止していたところ、国道6号上り線の車両がパッシングしてくれたため、下り線の直進車両を確認しないまま進んだ。（下り線の右折車線に車両が並んでおり直進車線が見えにくかった。）
(10) フットブレーキのみで停車している間に他のことが気になり、ブレーキの踏み込みを緩めた。
(11) カーブでの減速が不足していた。

再発防止策

(9)　交差点走行時の安全確認方法及び危険予知運転の徹底について指導。
(10)　停車時には必ずパーキングブレーキをかけるよう注意喚起するステッカーをハンドルに貼付。
(11)　カーブでは、対向車が中央線寄りを走行してくることを予測して事前に十分に減速するように指導。ハザードマップに追記して注意喚起。

交通事故（輸送車両の物損（対物）事故①）

事例の概要

(1) **除去土壌等の輸送車両の中央分離帯との衝突**　2020年３月９日　10時45分頃　＜前田JV＞
- 二本松市からの輸送車両が、磐越自動車道田村スマートIC付近を走行中、走行車線から追い越し車線へ斜行し、中央分離帯に衝突した。

(2) **除去土壌等の輸送車両の道路標識との接触**　2020年３月13日　13時40分頃　＜前田JV＞
- 飯舘村からの輸送車両が、双葉町内の国道288号を走行し、山田ゲートで通行許可証を確認後、発進する際、道路標識に左サイドミラーを接触させた。

(3) **輸送車両（空荷）の道路脇法面への衝突**　2020年３月16日　６時５分頃　＜前田JV＞
- 川俣町からの輸送車両（空荷）が、車両基地から仮置場へ向かう途中、同町内の県道12号線の左カーブでスリップしたため左にハンドルを切ったところ、道路脇の法面に衝突した。

発生要因

(1) 事故直前に運転手の体調に異変があった。（脂汗が出て胸等に違和感が生じ意識が飛んだ。事故後に病院で検査を行ったが、持病以外の病気については特定されなかった。持病である高血圧症等については薬を服用していた。）
(2) 通行許可証を受け取って車内に置く動作をしながら、前方の確認を十分に行わないまま発進した。
(3) 下り坂で路面が凍結している状況に対して、減速が不十分だった。

再発防止策

(1) 運行管理者が加療中の運転手を把握し、健康管理を指導する。薬服用中の運転手に対しては、現場朝礼時に血圧を確認する。
(2) 発進時の周囲の安全確認、ながら運転の禁止、通行許可証確認時のパーキングブレーキ使用を指導。
(3) 路面凍結時の運転方法等について指導。

交通事故（輸送車両の物損（対物）事故②）

事例の概要

(4) **除去土壌等の輸送車両の橋りょう地覆部との接触**　2020年４月９日　９時7分頃　＜前田JV＞
- 南相馬市からの輸送車両が、双葉町内の町道原田・目迫線を走行中、愛宕下橋を通過する際、橋りょうの地覆部に左側タイヤが乗り上げた。

(5) **輸送車両（空荷）の道路逸脱**　2020年４月14日　５時7分頃　＜前田JV＞
- 飯舘村からの輸送車両（空荷）が、車両基地から仮置場へ向かうため、南相馬市内の県道34号線を走行中、対向車を避けようとして道路脇の農地に逸脱した。

(6) **除去土壌等の輸送車両の道路標識との接触**　2020年４月22日　９時10分頃　＜前田JV＞
- 川俣町からの輸送車両が、双葉町内の国道288号を走行し、山田ゲートで通行許可証を提示するため順番待ちをしている際、道路標識支柱に左サイドミラーを接触させた。

発生要因

(4) 前方不注意。
(5) 対向車を避けようとして左側に寄り過ぎ、前日の大雨で滑りやすくなっていた路肩にハンドルを取られた。狭隘箇所での減速が不十分だった。
(6) 前方車両との距離に意識が集中し、標識への注意が不足した。

再発防止策

(4) 事例を周知し、ながら運転の禁止や安全速度での運転について指導。ハザードマップに追加して注意喚起を実施。
(5) 狭隘箇所でのすれ違いは十分に減速して行うこと、特に大雨後はハンドル操作ではなく減速により対向車の回避を行うことを指導。
(6) ハザードマップに追記し、注意箇所については指差確認を行うことを含めて注意喚起を実施。

交通事故（輸送車両の物損（対物）事故③）

事例の概要

(7) **除去土壌等の輸送車両の道路脇への脱輪**　2020年5月22日　9時30分頃　＜大林JV＞
- 川俣町からの輸送車両が、同町内の町道を走行中、路肩に脱輪した。

(8) **輸送車両（空荷）のデリネーターとの接触**　2020年5月25日　14時43分頃　＜清水JV＞
- いわき市からの輸送車両（空荷）が、輸送を終え車両基地へ戻るため、田村市内の国道288号を走行中、道路脇のデリネーターにバンパーを接触させた。

(9) **除去土壌等の輸送車両の電柱との接触**　2020年6月3日　8時14分頃　＜大成JV＞
- 飯舘村からの輸送車両が、同村内の県道12号線を走行中、大型車両とすれ違うため一旦停止し、すれ違い後に発進する際、電柱に左サイドミラーを接触させた。

(10) **輸送車両（空荷）の道路標識支柱との接触**　2020年6月20日　12時13分頃　＜大林JV＞
- 郡山市からの輸送車両（空荷）が、輸送を終え車両基地へ戻るため大熊町内の県道252号線を走行中、道路標識支柱に左サイドミラーを接触させた。

発生要因

(7)　走行中に助手席から手袋を取ろうとして前方不注意となった。
(8)　小動物の出現でハンドル操作を誤った。緩やかな右カーブの通過にあたり減速が不十分だった。
(9)　側方の確認不足。
(10)　対向車線の工事に気をとられた。右カーブ手前での減速が不十分だった。

再発防止策

(7)　ながら運転の禁止、出発前準備の徹底、指差確認の実施について指導。
(8)　危険予知運転を行うこと及び緩いカーブでも十分に減速することを指導。
(9)　ハザードマップ及び車載音声ナビに追加して注意喚起。すれ違い時のルールを指導。
(10)　脇見運転・ながら運転の禁止、道路状況の把握と十分な減速を指導。

交通事故（輸送車両の物損（対物）事故④）

事例の概要

(11) **輸送車両(空荷)の道路脇への横転**　　2020年7月2日　13時53分頃　＜大林JV＞

- 郡山市からの輸送車両(空荷)が、輸送を終え車両基地へ戻るため、国道288号(大熊町大字野上字湯の神地内)を走行中、脱輪し、道路脇に横転した。
- 運転手にけがはなかった。
- 7月18日夜間に車両の引き上げを行った。

発生要因

(11) 対向車を避けようとして左にハンドルを切ったところ、路肩の幅が狭い箇所であったため、脱輪した。

再発防止策

(11) すれ違い時の運転方法(特に、路肩の狭い区間においては徐行又は停止すること) を教育する。

- 当該区間に注意喚起看板等を設置する。

図　事故の発生状況

図　事故後の看板設置状況

交通事故（輸送車両の物損（対物）事故⑤）

事例の概要

(12) **除去土壌等の輸送車両の道路標識支柱との接触**　　2020年7月13日　10時5分頃　＜大林JV＞

- 二本松市からの輸送車両が、双葉町内の国道288号を走行し、山田ゲートで通行許可証の提示のために停止する際、道路標識支柱に左サイドミラーを接触させた。

(13) **除去土壌等の輸送車両の車線分離標との接触**　　2020年7月31日　12時22分頃　＜清水JV＞

- 西郷村からの輸送車両が、常磐自動車道を走行中、ならはPAを過ぎた付近で、車線分離標に接触した。

発生要因

(12) 側方の確認不足。
(13) 助手席に置いたファイルが落下しそうになったため押さえようとして目線をそらした。

再発防止策

(12) 二段階停止の実施、指差確認の実施の指導。
(13) 車内の整理整頓、車内の荷物等が動かないようにすること、運転中に運転から意識がそれる行動の禁止について指導。

交通事故（業務車両の物損（対物）事故）

事例の概要

(1) **運搬車両の電柱との衝突**　2020年7月13日　9時35分頃　＜清水JV＞

- 工事用運搬車両（4tダンプ）が、大熊町内の県道252号線を走行中、対向車とのすれ違いの際に、道路脇に脱輪し電柱に衝突した。

(2) **大型トレーラーの橋の欄干への接触**　2020年7月22日　10時40分頃　＜安藤・間JV＞

- バックホウを積んだ大型トレーラーが、双葉町内の町道113号線を走行し町道346号線へ右折するために切り返しを行っていたところ、伊賀橋の欄干（ガードレール）に接触した。

発生要因

(1) 路肩舗装があると思い込み、十分な徐行や一時停止をせずに、対向車とすれ違いをしようとした。
(2) ガードレールの位置の確認が不足していた。運転手の死角をカバーする位置に誘導員がいなかった。

再発防止策

(1) すれ違い時の走行方法（状況に応じて十分な徐行又は一時停止をする）について指導。当該箇所に注意喚起のためののぼり旗とロープを設置。
(2) 誘導員は、運転手の死角をカバーする位置に立ち、運転手は、誘導員が適切な位置にいることを確認して運転操作を行う。

交通事故（通勤車両の物損（対車両）事故）

事例の概要

通勤車両の一般車両（軽自動車）との衝突　　2020年7月28日　9時40分頃　＜大林JV＞

- 作業員の運転する通勤車両が、大熊町内の国道6号を走行中、中間貯蔵施設区域の入場ゲートに入るために転回して一旦歩道部に入った後に本線に出たところ、後方から走行してきた一般車両（軽自動車）が追突した。

発生要因

- 後方確認不足。
- 転回禁止箇所であることの理解不足。

再発防止策

- 後方確認、一時停止、制限速度遵守等の安全教育の実施。
- 中間貯蔵施設区域への入場ゲート周辺の国道6号の走行ルールの周知。

交通事故（通勤車両の物損（対物）事故）

事例の概要

通勤車両の道路標識との衝突　　2020年5月25日　20時24分頃　＜鹿島JV＞

- JV職員が運転する通勤車両が、大熊町内の町道西49号線を走行中、道路左側の歩車道境界ブロックに乗り上げ、標識柱に衝突した。

発生要因

- 前方不注意、運転操作ミス。

再発防止策

- 漫然運転の防止等に関する安全教育を実施。

公道での事例（輸送車両の運転手の交通違反）

事例の概要

輸送車両の運転手の交通違反

(1) 浪江町からの除去土壌等の輸送車両が、同町内を走行中、シートベルト装着義務違反で警察の取締りを受けた。（2020年３月27日）＜清水JV＞

(2) 二本松市からの除去土壌等の輸送車両が、東北自動車道を走行中、携帯電話使用等（保持）違反で警察の取締りを受けた。（2020年４月17日）＜鹿島JV＞

(3) 相馬市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道を走行中、シートベルト装着義務違反で警察の取締りを受けた。（2020年６月16日）＜戸田JV＞

発生原因

(1) シートベルト装着を失念していた。警報ランプが点灯していたが気が付かなかった（音声警報機能はなかった）。
(2) 仮置場出発前に着信があったことが気になり、不意に携帯電話を手に取って操作した。
(3) シートベルトを不適切な方法で使用していた。

再発防止策

(1) 仮置場出入口に人員を配置し、シートベルト装着状況のチェックを実施。各車両のハンドル等に注意喚起ステッカーを貼付。車載音声ナビに注意喚起メッセージを追加。
(2) ながら運転禁止の指導。携帯電話固定ホルダーの設置。ハンズフリー片耳イヤホンの利用徹底。
(3) 運転記録証明書で違反歴を確認し指導を実施。各仮置場の出発前チェックリストに、シートベルトの装着状況の点検欄を追加し、下請負事業者及びJVが確認。

公道での事例（輸送車両のスクリーニング未実施）

事例の概要

輸送車両（空荷）のスクリーニング未実施

- 大熊町からの輸送車両（空荷）が、3回転目の輸送のため仮置場へ戻る際、スクリーニング未実施のままゲートを通過した。（2020年3月14日）＜戸田JV＞

発生原因

- 考え事をしていたため、スクリーニング場に向かうことを失念した。
- スクリーニングを促す音声ナビを聞き逃した。
- ゲート通過前に、誘導員及び運転手がスクリーニング未実施に気付いたが、ゲート周辺道路が狭隘であったため、転回せずにゲートを通過した。

再発防止策

- スクリーニングの重要性について再教育を実施する。
- 音声ナビを、単にスクリーニングを促すだけの単調な表現ではなく、運転手に問いかける表現に変更し、繰り返し注意喚起するよう改善する。

公道での事例（輸送ルート逸脱①）

事例の概要

(1) 南相馬市からの輸送車両（空荷）が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、県道12号線の交差点で右折すべきところを、直進した。（2020年3月2日）＜大林JV＞

(2) 川内村からの除去土壌等の輸送車両が、大熊町の町道東101号線の交差点で直進すべきところを、左折した。（2020年3月4日）＜戸田JV＞

(3) 葛尾村からの輸送車両（空荷）が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、国道288号から県道35号線へ右折すべきところを、直進した。（2020年3月6日）＜大林JV＞

(4) 南相馬市からの輸送車両（空荷）が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、双葉町内の県道111号線から町道493号線へ右折すべきところを、直進した。（2020年3月10日）＜鹿島JV＞

(5) 飯舘村からの輸送車両（空荷）が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、県道12号線の交差点で左折すべきところを、直進した。（2020年3月13日）＜前田JV＞

(6) 南相馬市からの輸送車両（空荷）が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、国道6号から市道50号線へ右折すべきところを、直進した。（2020年3月27日）＜鹿島JV＞

(7) 須賀川市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道大熊ICでおりるべきところを、直進した。（2020年3月31日）＜大林JV＞

(8) 西郷村からの除去土壌等の輸送車両が、東北自動車道矢吹ICからあぶくま高原道路へ向かうべきところを、直進した。（2020年4月1日）＜清水JV＞

(9) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、東北自動車道郡山ICで下り線にのるべきところを、上り線にのった。（2020年4月1日）＜大林JV＞

(10) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道大熊ICでおりるべきところを、直進した。（2020年4月3日）＜清水JV＞

(11) 川俣町からの除去土壌等の輸送車両が、国道114号から県道35号線へ右折すべきところを、直進した。（2020年4月14日）＜前田JV＞

公道での事例（輸送ルート逸脱②）

事例の概要

(12) 浪江町からの輸送車両（空荷）が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、町道の交差点で左折すべきところを、直進した。（2020年4月20日）＜戸田JV＞

(13) 浪江町からの輸送車両（空荷）が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、国道114号から県道120号線へ右折すべきところを、直進した。（2020年4月27日）＜前田JV＞

(14) 大熊町からの輸送車両（空荷）が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、町道東17号線を直進すべきところを、左折した。（2020年5月7日）＜清水JV＞

(15) 浪江町からの除去土壌等の輸送車両が、国道114号から町道六福線へ右折すべきところを、直進した。（2020年5月11日）＜前田JV＞

(16) 本宮市からの除去土壌等の輸送車両が、国道4号から東北自動車道本宮ICに右折すべきところを、直進した。（2020年5月11日）＜大成JV＞

(17) 二本松市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道大熊ICでおりるべきところを、直進した。（2020年5月11日）＜鹿島JV＞

(18) 白河市からの除去土壌等の輸送車両が、東北自動車道矢吹ICからあぶくま高原道路へ向かうべきところを、直進した。（2020年5月14日）＜大林JV＞

(19) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、国道4号から国道459号へ左折すべきところを、直進した。（2020年5月19日）＜大成JV＞

(20) 飯舘村からの輸送車両（空荷）が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、常磐自動車道南相馬ICでおりるべきところを、直進した。（2020年5月22日）＜大林JV＞

(21) 西郷村からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道大熊ICでおりるべきところを、直進した。（2020年5月29日）＜清水JV＞

(22) 浪江町からの除去土壌等の輸送車両が、国道288号から双葉町の町道山田・郡山線へ右折すべきところを、直進した。（2020年5月29日）＜前田JV＞

公道での事例（輸送ルート逸脱③）

事例の概要

(23) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道大熊ICでおりるべきところを、直進した。
（2020年5月30日）＜大林JV＞

(24) 二本松市からの除去土壌等の輸送車両が、国道4号から東北自動車道二本松IC方面に左折すべきところを、直進した。
（2020年6月2日）＜鹿島JV＞

(25) 川内村からの輸送車両（空荷）が、3回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、村道貝ノ坂・サゴ岡線から仮置場入口へ右折すべきところを、直進した。
（2020年6月8日）＜戸田JV＞

(26) 二本松市からの除去土壌等の輸送車両が、東北自動車道郡山JCTから磐越自動車道へ向かうべきところを、直進した。
（2020年6月22日）＜鹿島JV＞

(27) 浪江町からの除去土壌等の輸送車両が、国道114号から町道六福線へ右折すべきところを、直進した。
（2020年7月6日）＜前田JV＞

(28) 富岡町からの輸送車両（空荷）が、4回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、国道6号から県道251号線へ左折すべきところを、直進した。
（2020年7月7日）＜清水JV＞

(29) 飯舘村からの除去土壌等の輸送車両が、仮置場を出発し県道62号線を左折すべきところを、右折した。
（2020年7月8日）＜清水JV＞

(30) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道大熊ICでおりるべきところを、直進した。
（2020年7月14日）＜大林JV＞

(31) 飯舘村からの輸送車両（空荷）が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、常磐自動車道南相馬ICでおりるべきところを、直進した。
（2020年7月15日）＜清水JV＞

(32) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道大熊ICでおりるべきところを、直進した。
（2020年7月16日）＜鹿島JV＞

(33) 飯舘村からの輸送車両（空荷）が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、県道31号線を左折すべきところを、直進した。
（2020年7月18日）＜前田JV＞

公道での事例（輸送ルート逸脱④）

事例の概要

(34) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、東北自動車道郡山JCTから磐越自動車道へ向かうべきところを、直進した。（2020年7月30日）＜大林JV＞

輸送ルート逸脱後の対応

- 輸送ルートからの逸脱は、総合管理システムのアラートが鳴ることにより気付く場合が多いが、逸脱後に運転手自らが気付く場合もあった。
- 逸脱後は、安全な場所に待機し、受注者が安全に輸送ルートに復帰する方法を環境省と確認するなどした後、正規ルートに復帰した。

再発防止策

- 運転手に対し、走行ルート、タンデム走行についての再教育を実施。
- 実走訓練、添乗指導の実施。
- 逸脱発生箇所について車載音声ナビに追加又は音声ナビを分かりやすく改善。
- 逸脱発生箇所への注意喚起看板の設置。
- 案内標識での安全呼称実施の徹底。
- 先行車がルート逸脱をした際の後続車の対応の再確認。
- 朝礼や研修等で、ルートを誤りやすい箇所等について、ハザードマップや画像によるテスト等を用いた確認を実施。

公道での事例（輸送車両のエンジントラブル①）

事例の概要

(1) 南相馬市からの除去土壌等の輸送車両が、仮置場を出発し約800m走行したところで液漏れが発生し、安全な場所で停止・待機した。自走で仮置場に戻った。（2020年３月４日）＜鹿島JV＞

(2) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道三春PAで休憩後出発の際、冷却水警告灯が点灯した。修理業者が修理後、輸送を継続した。（2020年３月９日）＜大林JV＞

(3) 飯舘村からの除去土壌等の輸送車両が、南相馬市内の県道12号線を走行中、エンジンオイル警告ランプが点灯したため、安全な場所で停止・待機した。修理業者による応急処置の後、JV職員の先導で仮置場に戻った。待機箇所に少量のオイル漏れがあり、中和剤とオイル吸着マットにより清掃を行った。（2020年３月18日）＜清水JV＞

(4) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、仮置場を出発し約700m走行したところでエンジン警告灯が点灯し安全な場所で停止・待機した。JV職員の先導で仮置場に戻った。（2020年４月１日）＜大成JV＞

(5) 二本松市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道を走行中、エンジン回転数が突如ダウンし、路肩に寄せて停止した。レッカー車で受入・分別施設へ移動した。（2020年４月９日）＜大林JV＞

(6) 飯舘村からの除去土壌等の輸送車両が、同村内の県道12号線を走行中、エンジントラブルが発生し、安全な場所で停止・待機した。JV職員の先導で仮置場に戻った。（2020年４月21日）＜西松JV＞

(7) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、東北自動車道を走行中、エンジンの回転数が上がらず、路側帯に停止・待機した。修理業者が修理後、輸送を継続した。（2020年４月22日）＜大成JV＞

(8) 西郷村からの除去土壌等の輸送車両が、あぶくま高原道路を走行中、エンジントラブルが発生し、安全な場所で停止・待機した。修理業者が修理後、輸送を継続した。（2020年６月29日）＜清水JV＞

公道での事例（輸送車両のエンジントラブル②）

事例の概要

(9) 飯舘村からの除去土壌等の輸送車両が、南相馬市内の県道12号線を走行中、水温警告灯が点灯し、安全な場所で停止・待機した。修理業者の点検後、JV職員の先導で仮置場に戻った。
（2020年７月１日）＜前田JV＞

(10) 本宮市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道を走行中、エンジントラブルが発生し、安全な場所で停止・待機した。修理業者が修理後、輸送を継続した。
（2020年７月３日）＜大成JV＞

(11) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道を走行中、いわきJCT手前付近で、エンジン警告灯とオイル警告灯が点灯し、安全な場所で停止・待機した。修理業者の点検後、輸送を継続した。
（2020年７月８日）＜大成JV＞

(12) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道を走行中、エンジントラブルが発生し、安全な場所で停止・待機した。レッカー移動で仮置場に戻った。
（2020年７月13日）＜大林JV＞

(13) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、川俣町内の国道114号を走行中、エンジントラブルが発生し、安全な場所で停止・待機した。修理業者の点検後、JV職員の先導で仮置場に戻った。
（2020年７月20日）＜大成JV＞

(14) 飯舘村からの除去土壌等の輸送車両が、仮置場を出発し約2km走行したところで、エンジントラブルが発生し、安全な場所で停止・待機した。レッカー移動により仮置場に戻った。
（2020年７月22日）＜前田JV＞

(15) 葛尾村からの除去土壌等の輸送車両が、陳場沢車両待機場に待機後、出発しようとした際、エンジンがかからなくなった。修理業者が修理不可と判断し、代替車両に積み替え、輸送を継続した。
（2020年７月27日）＜前田JV＞

公道での事例（輸送車両のエンジントラブル③）

発生要因

(1) ラジエーターのパッキンの損傷による冷却液漏れ。
(2) ヒーターコア内部腐食による冷却液漏れ。
(3) クランクシャフトのオイルシールの経年劣化によるオイル漏れ。
(4) EGRバルブの固着により、バルブの開閉動作不良が発生。
(5) 燃料ポンプおよびコモンレール本体の故障。
(6) サプライポンプの不具合による燃料無圧送発生。
(7) 整備工場での定期点検の際の整備不良（燃料タンクのリターンパイプとサクションホースの取り付け間違い）。
(8) ターボチャージャー系統エアホース外れによるエンジン出力低下。
(9) ラジエーター内部の錆が詰まったことによるオーバーヒート。
(10)車速センサーの経年劣化による故障。
(11)原因特定できず。
(12)錆等によりラジエーター配管が損傷し、冷却液が漏れたことによるオーバーヒート。
(13)車検時に燃料フィルターを交換した際、空気抜きが不十分で燃料ライン内に空気が混入。
(14)ターボチャージャーの故障。
(15)インジェクションの故障。

再発防止策

- 日常点検、定期点検等の確実な実施の指導。
- 部品の定期交換の実施。
- 発生事例や、日常点検・走行時の異常兆候早期発見の重要性等の周知。
- 整備業者への注意喚起。

公道での事例（輸送車両のタイヤのパンク①）

事例の概要

(1) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道ならはPAで休憩後、出発前点検を行った際、右前輪がパンクしているのを発見した。修理業者によるタイヤ交換後、輸送を継続した。

（2020年３月17日）＜大林JV＞

(2) 二本松市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道差塩PA付近を走行中、左前輪がバーストし、路側帯に停止・待機した。修理業者によるタイヤ交換後、輸送を継続した。

（2020年３月27日）＜前田JV＞

(3) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、仮置場を出発し約500m走行したところで走行に違和感を感じ、安全な場所で停止・待機し、右前輪がパンクしているのを発見した。レッカー移動により仮置場に戻った。

（2020年４月22日）＜大林JV＞

(4) 川内村からの除去土壌等の輸送車両が、富岡町内の県道36号線を走行中、右後輪の後軸内側タイヤがパンクし、安全な場所に停止・待機した。修理業者によるタイヤ交換後、輸送を継続した。

（2020年５月15日）＜戸田JV＞

(5) 須賀川市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道差塩PAで休憩後、出発前点検を行った際、右前輪がパンクしているのを発見した。修理業者によるタイヤ交換後、輸送を継続した。

（2020年５月26日）＜清水JV＞

公道での事例（輸送車両のタイヤのパンク②）

事例の概要

(6) 西郷村からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道いわきJCT付近を走行中、右後輪の後軸外側がパンクし、安全な場所に停止・待機した。タイヤ交換後、輸送を継続した。
（2020年５月30日）＜清水JV＞

(7) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道差塩PA手前付近を走行中、左後輪の後軸内側がバーストし、差塩PAに停止・待機した。修理業者によるタイヤ交換後、輸送を継続した。
（2020年６月１日）＜鹿島JV＞

(8) 西郷村からの除去土壌等の輸送車両が、東北自動車道を走行中、タイヤに異常を感じたため、阿武隈PAに停止して確認したところ、右後輪の後軸外側タイヤのパンクを発見した。修理業者によるタイヤ交換後、輸送を継続した
（2020年６月10日）＜清水JV＞

(9) 本宮市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道いわき三和IC付近を走行中、左後輪の後軸外側がバーストし、安全な場所に停止・待機した。修理業者によるタイヤ交換後、輸送を継続した。
（2020年６月10日）＜大成JV＞

(10) 西郷村からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道差塩PAで休憩時に点検を行った際、右後輪の後軸外側がパンクしているのを発見した。修理業者によるタイヤ交換後、輸送を継続した。
（2020年６月15日）＜清水JV＞

公道での事例（輸送車両のタイヤのパンク③）

事例の概要

(11) 西郷村からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道差塩PAで休憩時に点検を行った際、左後輪の後軸内側がパンクしているのを発見した。修理業者によるタイヤ交換後、輸送を継続した。
（2020年6月29日）＜清水JV＞

(12) 西郷村からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道差塩PAで休憩時に点検を行った際、左後輪の前軸内側がパンクしているのを発見した。修理業者によるタイヤ交換後、輸送を継続した。
（2020年7月14日）＜清水JV＞

発生要因

- 輸送路上又は現場内で釘やネジ等の鋭利な物を踏んだ。
- タイヤの損耗。
- ホイールの損傷。

再発防止策

- 日常点検、出発前点検等の確実な実施の指導。
- 路上等の落下物等に関する注意喚起。
- 発生事例や、日常点検・走行時の異常兆候早期発見の重要性等の周知。

公道での事例（輸送車両のミッション部故障）

事例の概要

- 西郷村からの除去土壌等の輸送車両が、白河市内の国道4号を走行中、ギヤの切り替えができなくなったため、安全な場所で停止・待機した。修理業者による点検後、JV職員の先導で仮置場に戻った。
（2020年7月29日）＜清水JV＞

発生要因

- ギヤ配線の断線。

再発防止策

- 日常点検、定期点検等の確実な実施の指導。
- 発生事例や、日常点検・走行時の異常兆候早期発見の重要性等の周知。
- 車検の点検項目への追加。

公道での事例（輸送車両のブレーキ故障）

事例の概要

(1) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、同市内の国道13号を走行中、圧縮空気の圧力低下が発生し、安全な場所で停止・待機した。修理業者による点検後、JV職員の先導で仮置場に戻った。
（2020年6月23日）＜清水JV＞

(2) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道ならはPAで休憩後、圧縮空気が溜まらず走行不能になった。修理業者による応急処置後、輸送を継続した。
（2020年7月3日）＜大林JV＞

発生要因

(1) エアドライヤーの不具合に起因してブレーキチャンバーが腐食し、エア漏れが発生。
(2) エキゾーストテールパイプが錆で腐食し、漏れた排気ガス熱でエアホースが破損。

再発防止策

- 日常点検、定期点検等の確実な実施の指導。
- 部品の定期交換の実施。
- 発生事例や、日常点検・走行時の異常兆候早期発見の重要性等の周知。

公道での事例（輸送車両のその他故障等）

事例の概要

(1) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道を走行中、バッテリー警告灯が点灯したため、休憩場所である差塩PAで停止・待機した。修理業者による修理後、輸送を継続した。
（2020年３月27日）＜大林JV＞

(2) 飯舘村からの除去土壌等の輸送車両が、南相馬市内の県道12号線を走行し、常磐自動車道南相馬ICに入る際、エンジン警告灯が点灯したため、安全な場所で停止・待機した。修理業者による修理後、輸送を継続した。
（2020年４月16日）＜前田JV＞

(3) 二本松市からの除去土壌等の輸送車両が、大熊IC車両待機場で休憩後、出発する際に、少量の燃料漏れを発見した。修理業者による修理後、輸送を継続した。 漏れた燃料については路面の洗浄を行った。
（2020年７月１日）＜鹿島JV＞

発生要因

(1) 発電機のファンベルトが経年劣化により破断。
(2) Noxセンサーの誤作動で検知が正常にできなくなったことによりエンジン警告灯が点灯。
(3) 前週の車検の際に、燃料エレメントキャップのエア抜きプラグの締め付けが不足していた。

再発防止策

(1) 日常点検の確実な実施の指導。
- 部品の定期交換の実施。

(2) 3ヶ月点検の際にNoxセンサーの動作確認を実施。
(3)日常点検、出発前点検等の確実な実施の指導。
- 整備業者におけるダブルチェックの実施。

作業場での事例（飛来、落下によるけが【労災隠し】）

事例の概要

落下した鉄板に接触して骨折した事故及びその労災隠し　　事故発生：2019年1月27日　14時頃　＜鹿島JV＞

- 受入・分別施設において、ベルトコンベアへの大型土のうの投入口の補強作業を行っていた二次下請負事業者の作業員の左手に、上方から鉄板（重量約5.6kg）が落下して中指を骨折した。鉄板は、上方で片付けを行っていた別の作業員が重ねて置いた残材であった。
- 事故後、被災者は4日以上休業したにもかかわらず、私的理由による骨折として休暇を申請した。二次下請負事業者は、労働基準監督署への報告を行わなかった。
- 2019年9月に受注者が事実を確認。速やかに環境省及び富岡労働基準監督署に報告した。報告を受けた富岡労働基準監督署において調査を実施し、環境省も調査に協力していた。2020年7月、富岡労働基準監督署は、労働者死傷病報告書を遅滞なく提出しなかったとして、二次下請負事業者をいわき区検察庁に書類送検した。

事故の発生要因

- 事故発生時には主要作業が完了しており、また上部作業者から被災者を視認できない箇所であったため、上下作業回避のための確認が不足していた。
- 落下防止板の高さを越えて鉄板を置いていた。

事故の再発防止策

●受注者は事実確認後、速やかに下記の対策を実施した。

- 上下作業の禁止を周知徹底。上部作業者は相番作業者が目視確認できない場合は作業を中断し、声掛け又は無線により位置確認を行って上下作業を回避する。
- 資材は落下防止板の高さを越えないように、かつ落下防止板より十分奥に置く。

労災隠しの再発防止策

● 受注者が実施した対策

- 労災等の発生時には、被災者の保護を第一に考え、速やかに報告することの重要性や、具体的な報告体制・手順等について、全ての下請負事業者及び作業員に繰り返し周知する。

● 環境省から全受注者に指示した対策

- 休業を要する労災が発生した際には労働基準監督署に適正に報告することや、労災発生時の報告体制・手順等について、全ての下請負事業者及び作業員に周知徹底する。
- 下請負事業者が労働基準関係法令を遵守しているか点検する。

作業場での事例（墜落、転落によるけが①）

事例の概要

(1) **トラック荷台からの転落による作業員のけが**　　2020年３月24日　15時30分頃　＜前田JV＞

- 南相馬市の輸送の終了した仮置場の片付けのため、4tトラックに資材（直径50cm、長さ5mの集水管２本）をバックホウで積み込む作業中、資材が荷振れ（跳ね上がり）したため、荷台上で合図していた作業員が荷台から飛び降りて地面に右手を突いた。
- 右鎖骨の骨折と診断。

発生要因

(1) 長さのある資材に対して荷台の作業可能スペースが狭く、足元が不安定な状態で作業を行った。また転落防止策も不十分であった。
- 弾性があり、跳ね上がりの可能性がある資材に近付いて作業を行った。
- 積込み方法の指示が具体的ではなかった。

図　事故の発生状況

再発防止策

(1) 積込み作業について、作業手順や使用機械等を明確にして周知する。
- 荷の大きさや形状に合った運搬車両を使用し、無理な姿勢での作業とならないよう、作業スペースを確保する。
- 弾性のある資材の跳ね上がりが危険要因となることを注意する。
- 荷台上での作業が必要な場合には、親綱を張って転落を防止する。

作業場での事例（墜落、転落によるけが②）

事例の概要

(2) **大型土のうからの転落による作業員のけが**　2020年5月25日　12時10分頃　＜戸田JV＞
- 川内村の仮置場で、玉掛け作業員が大型土のう（高さ約60cm）から降りる際に、バランスを崩して転落し、敷鉄板に右肘を打った。
- 右肘の骨折と診断。

(3) **輸送車両の運転席ステップからの転落による運転手のけが**　2020年6月15日　8時15分頃　＜戸田JV＞
- 国見町の仮置場で、輸送車両の運転手が降車する際、運転席のステップから足を滑らせて転落し、右肩を打った。
- 右上腕部の骨折と診断。

発生要因

(2) 不安定な、含水処理前の可燃物の大型土のうに乗って作業を行っていた。
(3) 片手で手すりをつかんでいたため、ステップで足が滑った際、支えきれず転落した。

再発防止策

(2) 作業手順を改善して周知。不安定な状態に対する体感訓練を実施する。
(3) 運転席への昇降時の危険性を周知し、昇降は三点支持で行うよう徹底する。運転席のドア等に注意喚起シールを貼付する。

作業場での事例（墜落、転落によるけが③）

事例の概要

(4) **輸送車両の荷台からの転落による作業員のけが**　　2020年7月14日　11時20分頃　＜清水JV＞

- 富岡町の仮置場で大型土のうをバックホウで輸送車両に積み込む作業中、作業員が荷台上で玉外しを行った後に足場に退避しようとしたところ、作業員の安全ブロックのワイヤーがバケットに引っ掛かった状態でバックホウが旋回した。作業員はワイヤーに引っ張られ、車両の側方にあった大型土のうの山の上に転落した。
- 胸椎の骨折、腰背部と腹部の打撲と診断。

発生要因

(4)　玉外し者が退避する前に、バックホウのオペレーターが旋回を行った。

- 輸送車両の後方に配置したバックホウで積込み作業を行っており、玉外し者の安全ブロックのワイヤーがバケットに引っ掛かりやすい配置であった。

図　事故の発生状況

再発防止策

(4)　玉外し者（合図者）は足場に退避してから合図をすること、重機のオペレーターは玉外し者が退避して合図してから旋回を行うことを周知徹底する。

- 積込み用のバックホウを、輸送車両の側方（玉外し者が退避する足場の逆側）に配置し、安全ブロックのワイヤーがバケットに引っ掛からないようにする。作業スペース上それが困難な場合には、バックホウのバケットを平爪に変更して引っ掛からないようにする。

作業場での事例（墜落、転落によるけが④）

事例の概要

(5) **大型土のうからの転落による作業員のけが**　　2020年7月16日　11時40分頃　＜大林JV＞

- 大熊町の容器残さ置場において、大型土のうの山に設置していた親綱のたるみを修正しようと、作業員が下から1段目の大型土のうに上って親綱を引っ張った際、親綱のフックを掛けていた3段目の大型土のうの取手がちぎれ、その反動で地面に転落した。
- 左上腕部の骨折と診断。

発生要因

(5) 親綱フックの取付位置が適切でなかった。大型土のうの吊りひもではなく、強度のない取手に取り付けていた。
- 大型土のう上からの転落に対する危険予知ができていなかった。

再発防止策

(5) 親綱フックの取付位置を明確化し、写真で分かりやすく周知する。
- 下から1段目の大型土のうの上で作業する際には、2段目の大型土のうの吊りひもに安全帯を掛けるルールとし、周知する。

作業場での事例（転倒によるけが）

事例の概要

(1) **ラック運搬中の転倒による作業員のけが**　　2020年7月10日　14時55分頃　＜鹿島建設＞

- 双葉町の廃棄物貯蔵施設の建設作業中に、作業員が、足場材の仮置き用のラックを運搬していたところ、バランスを崩して転倒し、右足をひねった。
- 右足関節骨折と診断。

(2) **玉掛け作業中の転倒による作業員のけが**　　2020年7月17日　11時15分頃　＜戸田JV＞

- 富岡町の仮置場で、作業員が、大型土のうの上で玉掛けを行い、退避する際、大型土のうの吊りひもに足を引っ掛けて転倒し、両手を突いた際に右手首をひねった。
- 右手橈骨の骨折と診断。

発生要因

(1) 足場材仮置き用ラックの運搬について作業手順の指示が明確ではなかった。

(2) 足元の確認が不足していた。また、大型土のう上での移動について作業手順の指示が明確ではなかった。

再発防止策

(1) 足場材仮置き用ラックの移動について、人力での移動を禁止するなど、作業手順を明確化して周知する。

(2) 移動時は、指差呼称を実施しながら足元を確認すること、上段の大型土のうに手を添えながら移動することなど、大型土のう上での移動方法を明確化して周知する。

作業場での事例（激突によるけが）

事例の概要

アルゴンボンベ倒れによる作業員のけが　　2020年４月３日　11時20分頃　＜新日鉄JV＞

- 双葉町の仮設灰処理施設で、作業員が、アルゴンボンベ7本の乗ったボンベ台を移動中、バランスが崩れてボンベ台が倒れ、両足に当たった。
- 両足関節の骨折と診断。

発生要因

- ボンベを、運搬用ではないボンベ台に載せて移動させた。
- ボンベの移動方法について作業手順の指示が明確ではなかった。

再発防止策

- ボンベを移動する際には、専用運搬具又は運搬台車を使用し、かつ落下防止対策をとって運搬することを明確化して周知する。

作業場での事例（はさまれ、巻き込まれによるけが）

事例の概要

スリングベルトへのはさまれによる作業員のけが　　2020年４月１日　９時50分頃　＜鹿島JV＞

- 浪江町の仮置場で、バックホウにより大型土のうを移動する作業を行っていた。バックホウのオペレーターが、吊り上げた大型土のうを移動先に下ろした後、玉外し者の合図により、大型土のうの吊りひもに通していたソフトスリングベルトを巻き上げたところ、玉外し者の左手がスリングベルトにはさまれた。
- 左手首の骨折及び脱臼等と診断。

発生要因

- 玉外し者が、スリングベルトの間に手を入れ、その状態のまま退避せずに、バックホウのオペレーターに対して巻き上げの合図を送った。
- バックホウのオペレーターが、玉外し者の退避を確認せずに巻き上げの操作を行った。
- 大型土のうの吊りひもからスリングベルトを抜く手順が不明確だった。
- 大型土のうの吊りひもに絡み付きやすいソフトスリングベルトを使用した。

再発防止策

- 玉掛け・玉外し時における合図のタイミング（退避してから合図すること）、大型土のうの吊りひもからのスリングベルトの抜き方、退避の位置、バックホウの操作のタイミング（玉掛け者・玉外し者が退避して合図が確認できてから操作すること）等について作業手順を明確化し、周知する。
- 現場に玉掛け者・玉外し者の退避位置を明示する。
- 適度な硬さがあって吊りひもに絡み付きにくいタイプのスリングベルトに変更する。

作業場での事例（重機による物損）

事例の概要

重機（地盤改良機）による架空線損傷　　2020年７月９日　15時30分頃　＜大成JV＞

- 双葉町の保管場造成工事で、地盤改良機が場内を移動した際、架空線（電力線）を切断した。

発生要因

- 架空線の手前で駐機して作業終了とする予定であったが、地盤の状況に気を取られていて停止位置を誤り、予定の位置を越えて移動させた。
- オペレーターと監視人との間の連絡用無線の音量を休憩時に下げたまま上げておらず、聞き取りづらい状況であった。
- 架空線注意喚起用ののぼり旗を、架空線の直下にしか設置していなかった。

再発防止策

- 架空線の近傍で重機作業等を行う際は、監視人の合図に従うことを周知徹底する。また、朝礼時及び休憩後に、職長が一人ずつ無線の動作確認を行う。
- 注意喚起用ののぼり旗は、架空線の直下のみではなく、離隔をとった位置に設置する。また、架空線周囲への立入禁止範囲を設定し明示する。

参考資料

中間貯蔵施設環境安全委員会設置要綱

中間貯蔵施設の周辺地域の安全確保等に関する協定書第12条の規定に基づきこの要綱を定める。

第１　目的及び名称

福島県内において生じた除去土壌等の中間貯蔵施設の建設及び管理運営並びに中間貯蔵施設への除去土壌等の収集及び運搬の状況等について報告を受け、監視を行い、中間貯蔵施設の周辺地域の環境の保全その他の安全の確保に関すること等について助言を行うことを目的として、福島県、大熊町、双葉町及び環境省は、中間貯蔵施設環境安全委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

第２　活動

委員会は、次の事項について、環境省等から報告を受け、監視を行い、意見交換及び助言等を行う。

（１）中間貯蔵施設の建設及び管理運営並びに中間貯蔵施設への除去土壌等の収集及び運搬の状況に関すること

（２）中間貯蔵施設の周辺地域の環境の保全その他の安全の確保に関すること

（３）中間貯蔵施設に係る情報の公開その他の国民の理解の促進及び住民との信頼関係の確保に関すること

（４）その他中間貯蔵施設の安全の確保に必要な事項

第３　構成

１．委員会は、次に掲げる区分ごとに、次に掲げる人数の委員をもって構成する。

（１）学識経験者　２人

（２）福島県　２人

（３）大熊町　２人

（４）双葉町　２人

（５）大熊町が指名する住民　４人

（６）双葉町が指名する住民　４人

２．委員の任期は２年とする。ただし再任を妨げない。

３．委員が任期途中で欠けたときは、その後任者の任期は、前任者の残任期

間とする。

４．１の（１）の学識経験者の委員は、福島県、大熊町、双葉町及び環境省が協議して指名するものとする。

５．１の（２）～（６）の委員については、それぞれの議会議員を含めることができるものとする。

６．委員会は、中間貯蔵・環境安全事業株式会社の職員をオブザーバーとして参加させることができる。

第４　委員長

１．委員会に委員長を置く。

２．委員長は、委員の中から委員会において互選する。

３．委員長は、必要な際に委員会を招集し、議事の運営に当たる。

４．委員長に事故があるときは、委員長の指名する委員がその職務を代理する。

５．委員長の任期は２年とする。ただし再任を妨げない。

６．委員長の任期満了後においても、後任者が就任するまでは引き続きその職務を行う。

第５　議事録

委員会は、議事録を作成し、公表するものとする。

第６　その他

１．委員会の事務は、福島県が行う。

２．環境省は、福島県が委員会の事務を行うに当たって必要な協力を行うものとする。

３．この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項及びこの要綱に定めのない事項については、その都度協議の上定めるものとする。

附　則

この要綱は、平成 27 年２月 25 日から実施する。

附　則

この要綱は、平成 27 年 12 月 24 日から実施する。